# 目　　次　（2018～2021年度入学生用）

## 学部基礎科目（1年次配当）


経済数学入門イ……1
経済数学入門ロ……3
経済史入門……5
簿記入門イ……6
簿記入門ロ……7
原価会計論……9
現代企業論……10
経営管理論……11
統計学入門イ……12
統計学入門ロ……14
統計学……16
社会調査法……18
地域調査法……20


## 学部基礎科目（2年次配当）


ミクロ経済学Ⅰイ……21
ミクロ経済学Ⅰロ……23
マクロ経済学Ⅰイ……25
マクロ経済学Ⅰロ……27
ミクロ経済学Ⅱ……29
経営戦略論……31
マーケティング論Ａ……33


## 学部専門科目（1年次配当）


観光学概論……35
グローバル社会概論……36


## 学部専門科目（2年次配当）


政治経済学Ⅰ……38
計量経済学Ⅰ……40
経済政策……42
社会政策Ａ……44
会計学総論……46
金融論Ⅰ……47
リスクと保険……48
財政学Ａ……49
企業倫理……50
経営組織論……52
人的資源管理論Ａ……53
流通システム論Ａ……55
観光産業論……57
地域活性化論……59
まちづくり論……60
アジア経済論……62
アメリカ経済論……63
ヨーロッパ経済論……65


## コース専門科目（経済・政策分析コース：2年次配当）


コース概説科目……67
政治経済学Ⅱ……68
計量経済学Ⅱ……70
金融論Ⅱ……72
財政学Ｂ……74
日本社会経済史……75
（特）比較財政史論……76


## コース専門科目（経済・政策分析コース：3年次配当）


上級ミクロ経済学……78
経済統計……80
公共経済学……82
地域経済学……84
国際経済学Ａ……86
国際経済学Ｂ……88
社会政策Ｂ……90
福祉経済論……91
金融政策Ⅰ……93
金融政策Ⅱ……95

**コース専門科目（会計・ファイナンスコース：2年次配当）**


コース概説科目……97　管理会計論……98
金融論Ⅱ……99　財政学Ｂ……101
調査データ分析Ⅰ……102　（特）比較財政史論……103


**コース専門科目（会計・ファイナンスコース：3年次配当）**


株式会社会計……105　監査論……106
コスト・マネジメント論……107　保険システム論……108
金融政策Ⅰ……110　金融政策Ⅱ……112
社会政策Ｂ……114　中小企業経営論……115
調査データ分析Ⅱ……117　（特）地域経済と地域金融……118


**コース専門科目（経営・イノベーションコース：2年次配当）**


コース概説科目……120　経営学史……121
グローバル経営論……122　イノベーション論……124
マーケティング論Ｂ……126　環境システム論……128
商品システム論……130　調査データ分析Ⅰ……132
管理会計論……133　（特）Plastics, Global Trade, and the Environment……134


**コース専門科目（経営・イノベーションコース：3年次配当）**


経営史……136　人的資源管理論Ｂ……138
中小企業経営論……140　サービス・マーケティング論……142
流通システム論Ｂ……144　調査データ分析Ⅱ……146
商品実験……147


**コース専門科目（観光・地域振興コース：2年次配当）**


コース概説科目……149　観光経済学……150
観光地理学……152　エコツーリズム論……154
マーケティング論Ｂ……155　環境システム論……157
地域研究論……159　地域活性化プロジェクトⅠ……161


**コース専門科目（観光・地域振興コース：3年次配当）**


観光政策論……165　国際観光論……167
サービス・マーケティング論……169　地域経済学……171
公共経済学……173　地域活性化プロジェクトⅡ……175


**コース専門科目（観光・地域振興コース：4年次配当）**


地域活性化プロジェクトⅢ……179

## コース専門科目（グローバル社会経済コース：2年次配当）


コース概説科目……183　文化人類学……184
アジア文化論……185　日本社会経済史……187
グローバル経営論……188　外国語演習Ⅰ（英語）……190
外国語演習Ⅰ（中国語）……191　外国語演習Ⅰ（ドイツ語）……192
外国語演習Ⅰ（フランス語）……193


## コース専門科目（グローバル社会経済コース：3年次配当）


異文化間コミュニケーション論……194　国際社会学……195
アジア社会論……197　ヨーロッパ文化論……198
アメリカ社会文化論……199　国際経済学Ａ……200
国際経済学Ｂ……202　外国語演習Ⅱ（英語）……204
外国語演習Ⅱ（ドイツ語）……205


## 自由科目（2年次配当）


現代経済社会事情……206　(特)ドイツ語会話Ⅰ……207
(特)労働模擬演習……208　(特)税務模擬演習……210
(特)金融模擬演習……211　(特)日経新聞から学ぶCFO入門……213


## 自由科目（3年次配当）


ビジネス英語Ⅰ……215　ビジネス英語Ⅱ……216
インターンシップ……217


## 教職課程科目（教職課程履修者に限り履修可）


商業教育法……219　商業授業研究……221
経済学入門……222　職業指導論（商業）……224
(特)倫理と社会Ⅰ……226　(特)倫理と社会Ⅱ……227


※教職課程履修予定者も履修可

# 学部基礎科目(１年次配当)

| | | | |
|---|---|---|---|
| ナンバリングコード　B1ECN-bcaE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：310121)<br>経済数学入門イ<br>Introduction to Mathematics for Economics | 科目区分 | 時間割<br>後期水1 | 対象年次及び学科<br>1～経済学部 |
| | 水準・分野<br>B1ECN | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>星野　良明 | 関連授業科目　　経済数学，ミクロ経済学I・II，マクロ経済学I・II | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　授業90分　×　15回　＋　自学自習（準備時間15時間＋事後学習45時間）

授業の概要

ミクロ経済学・マクロ経済学およびその関連科目を学習する上で必要となる数学のうち，微分，偏微分，積分に関連する分野について解説します．定理の証明よりも概念の理解と公式の運用を重視した内容です．なお，高校において微分・積分を学習済みであることは前提としません．

授業の目的

経済に関する専門知識を身につけるための基礎的知識として，経済学における記号・数式・グラフの使い方を知り，経済学において応用される微分，偏微分，積分に関わる手法を学習する．

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ・微分，偏微分，積分の意味を説明することができる（DPの「b.知識・理解」に対応）．<br>・経済学で使う基本的な関数について，微分，偏微分，積分の計算ができる（DPの「b.知識・理解」に対応）．<br>・経済学における微分，偏微分，積分の考え方の応用について，簡単な例を使って説明することができる（DPの「b.知識・理解」に対応）．<br>・経済学で応用される基本的な最適化問題を解くことができる（DPの「b.知識・理解」に対応）． | |

成績評価の方法と基準

宿題(30%)と期末試験(70%)の合計により評価します．詳しくは初回授業において説明します．

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】進行状況により若干の変更をする可能性があります．

第1回　ガイダンス，経済学における基本的な関数（１）
第2回　経済学における基本的な関数（２）
第3回　経済学における基本的な関数（３）
第4回　経済学における基本的な関数（４）
第5回　経済学における基本的な関数（５）
第6回　微分・積分とその応用（１）
第7回　微分・積分とその応用（２）
第8回　微分・積分とその応用（３）
第9回　微分・積分とその応用（５）
第10回　偏微分と等高線（１）
第11回　偏微分と等高線（２）
第12回　偏微分と等高線（３）
第13回　偏微分と等高線（４）
第14回　最適化問題（１）
第15回　最適化問題（２）

【授業及び学習の方法】

・授業は講義形式で行います．また理解度を確認するため小問を解く時間を設けます．
・この科目は全回対面授業を行います．

【自学自習に関するアドバイス】

・受講生は復習を重視した自学自習を行ってください．授業内容は連続しているので，授業前には前回の内容を再確認してください（15時間）．授業後には講義中に示す問題や宿題に取り組み，計算や作図を自分の手で行うことで自分の理解を確認してください（40時間）．また理解を深める上で，エクセルなどPCソフトを使って関数グラフを描いてみることも有用です（5時間）．
・各回のキーワードは以下の通りです．
第1章（1回～5回）：1・２・３次関数，指数法則，累乗関数，複利計算，ネイピア数e，逆関数，指数関数，対数関数
第2章（6回～9回）：微分係数，導関数，接線，微分公式，第2次導関数，増減と凹凸，不定積分と定積分
第3章（10回～13回）：偏微分係数，偏導関数，偏微分公式，等高線，全微分と接平面
第4章（14回～15回）：停留点と鞍点，等号制約付き最適化問題

教科書・参考書等
【教科書】教科書は指定しません．授業資料をMoodleから配付します．
【参考書】詳しくは初回授業において紹介します．
・尾山大輔・安田洋祐（2013)『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』改訂版，日本評論社．
・白石俊輔（2014)『経済学で出る数学：ワークブックでじっくり攻める』日本評論社．
・丹野忠晋（2017)『経済数学入門　初歩から一歩ずつ』日本評論社．

オフィスアワー　　火曜日４時限目（予定)，南キャンパス４号館３階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
最初のうちは高校数学の復習が多くなりますが，油断せずに継続して出席することが大切です．

| | | | |
|---|---|---|---|
| ナンバリングコード　B1ECN-bcaE-30-Lb2<br>授業科目名　　(時間割コード：310122)<br>経済数学入門ロ<br>Introduction to Mathematics for Economics | 科目区分 | 時間割<br>後期水1 | 対象年次及び学科<br>1～経済学部 |
| | 水準・分野<br>B1ECN | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lb | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>天谷　研一 | 関連授業科目 | 経済数学、ミクロ経済学Ⅰ、Ⅱ、<br>マクロ経済学Ⅰ、Ⅱ | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

ミクロ経済学・マクロ経済学等、経済学を学習する上で必要となる数学のうち、微分・積分に関連する分野を講義する。

授業の目的

ミクロ経済学・マクロ経済学等の経済学では、「生産量を増やすと費用はどれだけ増えるか」「価格を下げると需要量はどれだけ増えるか」等のように、数量と数量の関係（数学用語を用いれば、変数と変数の関係）を頻繁に議論する。とりわけ、「利潤を最大にするにはどれだけの数量を生産すればよいか」等のように、最適化の問題はとりわけ重要である。このような変数間の関係を議論するために必要な数学的手法が微分・積分である。本講義では、経済学を学習する上で必要となる微分・積分の手法を学習する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ・微分、偏微分、積分の意味を説明できる（DPの「b.知識・理解」に対応)。<br>・基本的な関数の微分、偏微分、積分の計算ができる（DPの「b.知識・理解」に対応)。<br>・経済学において微分、偏微分、積分の手法がどのように使えるのか、簡単な例を用いて説明することができる（DPの「b.知識・理解」に対応)。<br>・経済学における基本的な最適化問題を解くことができる（DPの「b.知識・理解」に対応)。 | |

成績評価の方法と基準

宿題（３０％)、期末試験（７０％）により評価します。詳しくは初回授業時に指示します。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

授業は主に板書およびプロジェクタ投影を使用した講義形式で行います。授業中に適宜問題演習を行います。また宿題として演習問題を課します。

予習は必ずしも必要ではありませんが、毎回復習してわからないことをなくすことと、宿題を解いて理解を深めることが必要となります。

第１回　イントロダクション、微分・積分とは何か

～第１部　微分の基礎～
第２回　微分の基礎的な概念と手法（１）
第３回　微分の基礎的な概念と手法（２）
第４回　２階微分、凸関数・凹関数と最大・最小
第５回　極限に関する厳密な議論

～第２部　積分の基礎～
第６回　不定積分
第７回　定積分と面積の計算
第８回　積分の経済学への応用

～第３部　微分の発展～
第９回　べき乗・指数関数・対数関数と微分（１）
第１０回　べき乗・指数関数・対数関数と微分（２）
第１１回　合成関数の微分
第１２回　２変数関数の微分
第１３回　条件付き最大化問題
第１４回　微分の経済学への応用

第１５回　まとめ

授業計画は、受講生の理解度をみて必要があれば変更する場合があります。

【授業及び学習の方法】
授業は、教室での講義および反転授業を取り混ぜて行う。反転授業の回では、予習用の教材に基づいて問題演習等を行う。

【自学自習のためのアドバイス】
反転授業の回では、事前に指定された教材を視聴する。授業終了後は、参考図書の該当箇所を読み、理解を深める。また、定期的に課される課題に取り組むことにより、学習内容を定着させる。

【授業形態】
この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

教科書・参考書等
下記書籍を購入し参照することを推奨する。ただし、他にも良書はあるので、自分の好みに応じて選んでも良い。

尾山大輔他（編著）『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』2012年、日本評論社、2100円＋税

オフィスアワー　　月曜日４校時。天谷研究室（南7号館3階）。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
1. 授業内容は連続しているので、前回までの内容をしっかり理解していないとついていけなくなります。
2. その他の注意事項は、初回授業時に指示します。

| ナンバリングコード　B1ECN-bceE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：331010)<br>経済史入門<br>Introduction to Economic History | 科目区分 | 時間割<br>前期水1 | 対象年次及び学科<br>1～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B1ECN | DP・提供部局<br>bceE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>水野　敦洋 | 関連授業科目 | 日本社会経済史、経営史 | |
| | 履修推奨科目 | 日本社会経済史、経営史 | |

学習時間　　講義90分×15回＋自主学習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

この授業では、後掲する教科書の内容をベースとし、経済学の基本的な枠組みを用いて、日本と欧米における歴史上の重要な経済事象について解説してゆく。それゆえ、時代を追って出来事を説明してゆくオーソドックスな歴史の授業とは異なり、経済学的な思考から歴史をとらえることに主眼が置かれる。具体的には、まず前半において、経済の歴史的発展に関する多様な見方を紹介する。その上で後半においては、歴史上に存在したさまざまな「制度」と「組織」が経済発展に対してどのような役割を担ってきたのかという点に焦点をあてる。

授業の目的

この授業の目的は、経済学の基本的な枠組みを用いて、歴史上のさまざまな経済現象について理解するための基礎的な能力を身につけることである（「知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識」及び「倫理観・社会的責任／市民としての責任感と倫理観」に対応）。したがって、細かな年号や史実を暗記することは重視しない。また、経済学部のカリキュラムに基づき、本科目は学部1年生を主な受講者として想定しており、上級生向けに開講される「日本社会経済史」や「経営史」などの歴史系科目への導入科目として位置づけられる。よって、これらの科目の履修を計画している者は、知識を段階的・体系的に学ぶためにも本科目を履修しておくことが望ましい。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| 1. 経済学的な思考によって歴史上の経済現象について説明できる。<br>2. 経済の歴史的発展に関する多様な見方を説明できる。 | |

成績評価の方法と基準

毎回の提出物50%、期末テスト50%で評価する。
なお、不定期に実施する授業アンケート時に、優れたコメントを提出した者については更に加点する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】
(1)ガイダンス
(2)経済史を学ぶ意味Ⅰ―歴史の教訓・現在の相対化
(3)経済史を学ぶ意味Ⅱ―実験室としての歴史・歴史的経路依存性
(4)経済成長
(5)経済の歴史的発展に関するさまざまな見方
(6)制度と経済発展
(7)市場経済の発展Ⅰ―地中海商業の比較歴史制度分析
(8)市場経済の発展Ⅱ―近世日本における株仲間の役割
(9)産業革命
(10)生産組織Ⅰ―工場と企業
(11)生産組織Ⅱ―奴隷制
(12)生産組織Ⅲ―地主制
(13)生産組織Ⅳ―問屋制
(14)金融取引と制度
(15)まとめ

【授業及び学習の方法】
　各回の授業計画は上に記したとおりであるが、受講者の理解度や進捗状況によっては変更する場合がある。また、受講者には各回につき自己学習を行うことが求められる。予習として教科書の該当範囲に目を通し、分からない箇所は自分なりに調べた上で授業に臨むこと。また、復習として授業後に再度教科書・授業資料を読み直し、興味を持った箇所については授業中に紹介する文献を読むなどして理解を深めてもらいたい。
※この授業は基本対面で実施するが、オンラインで行う場合もある。

教科書・参考書等

【教科書】岡崎哲二『コア・テキスト経済史（増補版）』新世社、2016年（2,250円＋税）。
【参考書】適宜、授業中に紹介する。

オフィスアワー　　金曜2限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

他の科目で学ぶ経済学に関する知識とも関連させながら、積極的に授業内容の理解に努めてほしい。

| ナンバリングコード　B1BSN-bcxE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：320312)<br>簿記入門イ<br>Introduction to Bookkeeping | 科目区分 | 時間割<br>前期火4 | 対象年次及び学科<br>1～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B1BSN | DP・提供部局<br>bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>井上　善弘 | 関連授業科目 | 原価会計論，会計学総論，株式会社会計，<br>原価計算論，管理会計論，監査論 | |
| | 履修推奨科目 | 会計学総論，株式会社会計，監査論 | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要
本講義は入門レベルの商業簿記を講義する。受講者としては簿記初心者を想定している。簿記とは、企業の経済活動を一定のルールにしたがって帳簿に、記録・計算・整理する技術である。簿記を学ぶことは、会計学を学ぶための基礎となるため、会計学に関心のある学生は、ぜひ受講してもらいたい。

授業の目的
入門レベルの複式簿記の習得を目的とする。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 複式簿記の基本的原理を理解し、習得することができる（知識・理解/問題解決・課題探究能力)。 | |

成績評価の方法と基準
期末試験による。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ
[授業計画]

・講義には必ず電卓を持参すること。
・簿記をマスターするためには、とにかく練習問題を繰り返し解くことが必要である。このため、教科書等を利用した自学自習が極めて重要である。
第1回　簿記の意義・目的・種類
第2回　簿記の要素
第3回　簿記上の取引
第4回　勘定とその記入法
第5回　仕訳と転記
第6回　試算表
第7回　決算（その１）～帳簿決算～
第8回　現金・預金取引
第9回　商品売買取引
第10回　その他の債権・債務取引
第11回　手形取引
第12回　有形固定資産の取引
第13回　貸倒損失と貸倒引当金
第14回　費用・収益の繰延べと見越し
第15回　決算（その２）～決算整理～

[自学自習のためのアドバイス]

第２～１５回

簿記は積み上げ式の学習が必要となる。そのため，前回の講義の復習が欠かせないことに留意する。

教科書・参考書等
井上善弘『複式簿記入門（増補版)』美巧社，2022年，2,400円（税別）（近刊)。生協において販売予定。

オフィスアワー　　授業後随時受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
授業に毎回出席すること。予習・復習を怠らないこと。授業は教科書の内容に沿って進められるため，教科書を必ず購入すること。本講義は対面授業として実施される。但し，状況によっては遠隔授業となることがある。

| ナンバリングコード　B1BSN-bcdE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：320313)<br>簿記入門ロ<br>Introduction to Bookkeeping | 科目区分 | 時間割<br>前期火4 | 対象年次及び学科<br>1～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B1BSN | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>宮脇　秀貴 | 関連授業科目　　原価会計論および会計関連の授業 | | |
| | 履修推奨科目　　原価会計論 | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習　(準備学習 10時間 + 事後学習 50時間)

授業の概要

簿記や会計は、現在も、ビジネスの場面では「共通言語」として使われています。そして、その役割が現代では昔以上に重要になってきています。なぜだと思いますか？その主な要因の1つは、何と言っても世界へ向けて日本の企業が情報を発信しなければならなくなったからです。そこでは、世界の標準にそって物事が進められ、その成果も世界の報告基準にそって公表されます。その報告基準が（国際）会計基準であり、その会計基準にそって企業の活動を記録していく方法が「簿記」なのです。つまり、「簿記」を学習することは、ビジネスの共通言語を理解するためには欠かせない要素なのです。

この講義では、個人商店の簿記・会計処理に焦点を当てて、簿記の基本要素である「仕訳」、「転記」および「帳簿・勘定の締め切り方」を学習していきます。簿記は理論だけではなく、技術的な面が非常に重要なので、授業中の演習や宿題を通して、みなさんには実際に手を動かして技能として覚えてもらう機会が多くなります。なお、いきなり個人商店の簿記・会計処理の全てを学ぶことは難しいので、「基本」となるトピックを中心に学習していくことにします。

以上の学習を通じて、基本的な簿記の能力を身に付けてもらいます。

授業の目的

どのような職業に就いても、自分の会社や部署、担当している仕事の状況は、お金（会計）に関する情報で把握しなければなりません。そのための基本となる、お金（会計）に関する情報がどのように作られるのか、つまりこの授業の目的は、「会計情報の「作り方」である複式簿記の基本的な仕組みと処理を理解し、複式簿記の技能（スキル）を身に付けること」です。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| (1)複式簿記の原理を理解し、仕訳、転記および帳簿の締め切りができる<br>(2)個人商店の商業簿記の基本的な処理を理解し実践できる | |

成績評価の方法と基準

期末テスト

(ただし、60点に満たない場合には、理解度クイズの得点を加算し、60点以上になれば「可」のみを与える。)

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

［授業の方法］　口述筆記、板書、演習、理解度クイズ

※全回対面授業です。

※提出物はレポートＢＯＸへ毎週提出予定です。

［授業計画（予定)］

（第１週）ガイダンス

（第２週）複式簿記の基礎①(簿記とは？、貸借平均の論理、残高)

（第３週）複式簿記の基礎②(資産・負債・純資産(資本)・収益・費用とは？)

（第４週）複式簿記の基礎③(精算表・損益計算書・貸借対照表の作り方)

（第５週）複式簿記の基礎④(仕訳と転記)

（第６週）複式簿記の基礎⑤(振り替えとは？、決算とは？)

（第７～９週）複式簿記の基礎⑥(決算手続きと帳簿の締め切り)

（第１０週）帳簿体系の基礎＋個別取引(現金、現金出納帳、当座預金)

（第１１週）商品取引（分記法と３文法、売掛金元帳・買掛金元帳)

（第１２週）その他の債権･債務①（未収金・未払金、固定資産、売買目的有価証券など)

（第１３週）手形取引と受取手形記入帳・支払手形記入帳

（第１４週）決算整理（減価償却、有価証券の時価評価など)

（第１５週）３分法による決算の処理

［自習学習に関するアドバイス］
＜基本＞（第１～１５週）毎週、理解度クイズを提出してもらいます。これを解くことなどを通して復習して下さい。（１５時間）
※大学に来ることができないなどの状況の際には、提出方法を変更します。
（第１週）この授業を学ぶ意味を、配布資料をもとに考えてみて下さい。（３時間）
（第２～５週）簿記で用いる専門用語、表などへの記入の仕方を復習して下さい。（２０時間）
（第６週）仕訳と転記を考えずにできるまで、繰り返し復習して下さい。（３時間）
（第７週）振り替え手続きと決算の流れを復習して下さい。（３時間）
（第８～９週）決算の手続きと帳簿の締め切り方を復習して下さい。（６時間）
（第１０～１５週）帳簿体系を理解し、基本的な個別取引の処理や帳簿への記入ができるように繰り返し復習して下さい。（１８時間）

教科書・参考書等
［教科書］（予定）宮脇秀貴「商業簿記の基礎」セキ株式会社 2022
［参考書］醍醐　聰「明解簿記 上」一橋出版、新井益太郎・稲垣富士男「新会計（新訂版）」実教出版

オフィスアワー　　毎週水曜日「１５：３０～１７：００」（ただし、会議などでいない場合もある）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
　必ず予習・復習を行うこと。特に復習は欠かせません。簿記は、半分が「理論」で、残り半分が『技能』です。また、積み上げ式なので前回の内容が理解・実践できていないと授業の中盤以降はついてこられなくなります。前回の内容が確実かつスピーディーにできるようになってから次回の授業に臨んで下さい。そうでなければ間違いなく単位を落とします。

| ナンバリングコード　B1BSN-bcdE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：321040)<br>原価会計論<br>Advanced Bookkeeping | 科目区分 | 時間割<br>後期火4 | 対象年次及び学科<br>1～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B1BSN | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>宮脇　秀貴 | 関連授業科目 | 簿記入門および会計学・経営学関連の授業 | |
| | 履修推奨科目 | 簿記入門 | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習　(準備学習 10時間 + 事後学習 50時間)

授業の概要

車や電気製品の原価はどのように決められるのだろう？という疑問を持ったことはありませんか？現代では、製造業だけでなく、サービス業においても、原価をマネジメントすることがたいへん重要となっています。

本講義では、原価の計算の仕方、つまり原価計算の基本的な方法を、複式簿記を用いて説明していきます。なぜなら、通常、原価計算は、複式簿記の原理に基づく工業簿記の中で用いられており、この有機的な関連を学習することは、企業を会計的な側面で観察する時に非常に役立つからです。具体的には、工業簿記・原価計算のしくみの基礎とその記帳処理を学習していきます。

授業の目的

「原価（コスト)」の理解は、日常生活だけでなく経営学やマーケティング、会計学を学んでいく上でも重要となります。なぜなら、全ての活動には「原価（コスト)」が必ず関わってくるからです。したがって、この授業の目的は、「工業簿記と原価計算の基本原理を理解し、実践できる」となります。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| (1)複式簿記の原理を理解し、仕訳、転記および帳簿の締め切りができる。<br>(2)製造企業の中で行われる工業簿記のしくみを理解し実践できる。<br>(3)基本的な原価計算の理論を理解し計算ができる。 | |

成績評価の方法と基準

期末テスト

(ただし、60点に満たない場合には、理解度クイズの得点を加算し、60点以上になれば「可」のみを与える。)

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

［授業の方法］口述筆記、板書、プリント配布、理解度クイズ
※全回対面授業です。
※提出物はレポートＢＯＸへ毎週提出予定です。

［授業計画］
（第１週）ガイダンス
（第２～４週）複式簿記の基礎
（第５～６週）企業活動と工業簿記
（第７～１１週）原価の構成要素と記帳処理
（第１２～１３週）総合原価計算と記帳処理
（第１４・１５週）個別原価計算と記帳処理

［自習学習の］
＜原則＞毎週、理解度クイズの提出があるので、それを解くことなどを通して、しっかり復習を進めて下さい。（１５時間)
※大学に来ることができない状況の際には、提出方法を変更します。
（第１週）この授業の位置づけを理解して下さい。（３時間)
（第２～４週）複式簿記の基礎の復習です。専門用語、表への記入の仕方、仕訳、転記、振り替え、決算手続きなど、複式簿記の総復習です。（９時間)
（第５～６週）工業簿記・原価計算の目的や流れを復習して下さい。（６時間)
（第７～１１週）材料費、労務費および経費の詳しい処理を復習して下さい。（１５時間)
（第１２～１３週）総合原価計算の原理と計算を復習して下さい。（６時間)
（第１４・１５週）個別原価計算の原理と記帳処理を復習して下さい。（６時間)

教科書・参考書等

［教科書］宮脇秀貴「工業簿記の基礎(改訂版)」セキ株式会社, 2022年
［参考書］溝口一雄「例解工業簿記」中央経済社、溝口一雄「最新原価計算講義」中央経済社、岡本　清「原価計算」国元書房

オフィスアワー　　毎週水曜日「１５：３０～１７：００」(ただし、会議などでいない場合もある)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

必ず予習・復習を行うこと。特に、復習は欠かせません。簿記は、半分が「理論」で、残り半分が『技能』です。また、簿記は積み上げ式なので前回の内容が理解・実践できていないと授業の中盤以降はついてこられなくなります。前回の内容が確実かつスピーディーにできるようになってから次回の授業に臨んで下さい。

| ナンバリングコード　B1BSN-bcdE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：322131)<br>現代企業論<br>Contemporary Business | 科目区分 | 時間割<br>後期月2 | 対象年次及び学科<br>1～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B1BSN | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>張　暁紅 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習13時間+事後学習39時間+中間レポート8時間+期末復習10時間）

授業の概要
本講義では、企業はいかなる形態をもつのか、どのように経営活動を行っているのか、現代企業の社会における責任とはなにか、などの問題について学習する。

授業の目的
①「企業」という組織形態に対する認識を高めつつ、企業統治（コーポレート・ガバナンス)、企業と社会との関係の知識を得る。
②日頃企業に関するさまざまな話題に関心を持ち、講義内容とリンクさせて思考する習慣をつけること。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ①現代企業に関わる基礎的知識と理論が習得できる。<br>②新聞やニュースなど、日常的に接する現代企業の話題を講義内容とリンクさせて思考し、分析することができる。 | |

成績評価の方法と基準
期末試験70%、レポート30%で評価を行う。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

※　講義は遠隔で行う予定です。
【授業計画】
１．ガイダンス：現代企業論講義で何を学ぶか？
２．企業の諸形態
３．株式会社①株式と資本金
４．株式会社②所有と経営の分離、所有と支配の分離
５．継続的に財・サービスを提供する機関としての企業①長寿企業
６．継続的に財・サービスを提供する機関としての企業②企業の製品戦略
７．企業と社会①企業の経済的な役割
８．企業と社会②企業の社会的責任
９．日本のトップマネジメント組織と企業統治①日本的企業統治
１０．日本のトップマネジメント組織と企業統治②日本的企業統治の形成要因
１１．欧米諸国のトップマネジメント組織と企業統治
１２．日本の企業統治の変容①ドキュメンタリー鑑賞
１３．日本の企業統治の変容②講義
１４．企業の成長とイノベーション
１５．まとめ
【授業及び学習の方法】
授業は講義中心に進めますが、授業中に課題を課し提出してもらいます（任意提出。詳細はガイダンスにて)。
【自学自習のためのアドバイス】
(1) 第２回目～第１４回目：
①準備学習について（1時間×13回)
事前に配布されたレジュメや教科書に基づいて、事実、基本概念などを自ら調べて把握しておく。
②事後学習について（３時間×13回)
授業内容をしっかり理解したうえ、良質な情報源も活用し、幅広くかつ深く探求することに努める。
(2) 中間レポートに関わる学習と提出について（８時間×１回)
①講義時に紹介した日本経済新聞記事をヒントとし、自らキーワードを選定して調査研究を行う。
②学習・研究した成果をレポートにまとめて提出する。
(3) 期末試験に関わる復習について（１０時間×１回)
期末試験に備えて、授業内容を全面的に振り返り総復習を行う。

教科書・参考書等
教科書：指定なし。レジュメを配布する。
参考書：①佐久間信夫編著『よくわかる企業論』第２版、ミネルヴァ書房、2016年、2700円
②加護野忠雄等編著『取引制度から読みとく現代企業』有斐閣アルマ、2018年、2000円
③加護野忠雄等編著『コーポレート・ガバナンスの経営学』有斐閣、2010年、2400円

オフィスアワー　　火曜日の三時限目。研究室（南キャンパス３号館２階)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
授業に関する教員からのお知らせはMoodleに掲載しています。定期的に確認してください。

| ナンバリングコード　B1BSN-bcxE-20-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：320201)<br>経営管理論<br>Management and Administration<br>経営管理論 | 科目区分 | 時間割<br>前期火5 | 対象年次及び学科<br>1～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B1BSN | DP・提供部局<br>bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>20 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>松岡　久美 | 関連授業科目 | 現代企業論，経営戦略論，経営組織論，人的資源管理論，企業倫理 | |
| | 履修推奨科目 | 現代企業論，経営戦略論，経営組織論，人的資源管理論，企業倫理 | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

本講義は，初めて経営学を学ぶ学生を対象として，企業経営の全体像は何か，経営学の全体像は何か，経営学を学ぶ意義は何か，経営学をどのように勉強すればよいか，などを説明する導入科目である。経営学各分野の諸理論と企業経営の実例を紹介しながら，経営学の概要を分かりやすく講義したい。

授業の目的

経営学と企業経営の全体像を理解してもらうのが本授業の目的である。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 1．企業と経営の仕組みについて自分の言葉で語ることができる（学士課程のDP「b：知識・理解」に対応)。<br>2．企業経営の実際を考察する際に必要な基本的な考え方を身に付け，自身の問題意識と関連づけて考察することができる（学士課程のDP「c.問題解決・課題探求能力」に対応)。 | |

成績評価の方法と基準

期末試験70%，小テスト30%を目安にして，総合的に評価する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

授業は基本的にパワーポイントを使った講義形式で進める。また，ビデオなどの視聴覚教材も適宜使用する。

第1回　イントロダクション
第2回　企業経営の全体像
第3回　経営学の全体像
第4回　企業と会社
第5回　企業とインプット市場との関わり
第6回　企業とアウトプット市場との関わり
第7回　競争戦略のマネジメント①
第8回　競争戦略のマネジメント②
第9回　多角化戦略のマネジメント
第10回　国際化のマネジメント
第11回　マクロ組織のマネジメント
第12回　ミクロ組織のマネジメント
第13回　キャリアデザイン
第14回　経営学の広がり①
第15回　経営学の広がり②

＊対面での授業を基本とする。
＊進捗状況に応じて授業計画を変更する場合がある。

【自学自習に関するアドバイス】
講義前・講義後にはテキストの関連内容について予習・復習をしてください。

教科書・参考書等

加護野忠男・吉村典久(2021)『1からの経営学（第3版)』碩学舎。2,400円＋税。生協で販売。
（教科書は，受講生が各自で入手すること。）

オフィスアワー　　月曜日５限、南キャンパス７号館３階。
上記以外の時間帯については、事前にe-mail等でアポイントメントを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業中の私語と携帯電話の使用を慎むこと。
受講生は日頃から『日本経済新聞』や『日経ビジネス』『週刊ダイヤモンド』などのビジネス雑誌に目を通し，企業の経営動向について観察する習慣を付けてください。

| ナンバリングコード　B1STT-bcxE-30-Lb2<br>授業科目名　　(時間割コード：310141)<br>統計学入門イ<br>Introduction to Statistics | 科目区分 | 時間割<br>前期月2 | 対象年次及び学科<br>1～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B1STT | DP・提供部局<br>bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lb | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>横山　佳充 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目　　統計学 | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

統計学は経済にかかわらず、他の分野でも必要とされる分野です。教科書は経済の例や表計算ソフトであるExcelのソフトウェアを用いて説明を行っています。授業では統計学の考え方を、できるだけ数学を使わず理解できるように解説します。

授業の目的

記述統計と統計的推測の基礎を学習し、データの持つ情報を読み取り判断の拠り所を得るための方法を身につける。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| ・基本統計量を計算し、分布特性を読み取る能力を養う。<br>・度数分布を作成し、分布の中心や広がりを理解できる。<br>・確率分布（基本的に正規分布）が使えるようになる。<br>・サンプリングによる統計的な推定の基礎を理解できるようになる。 | |

成績評価の方法と基準

基本的には期末試験の成績で判断しますが、レポートの提出や小テストの結果なども加味します。詳細は第１回目の講義にて説明しますが、基本的に本試験の得点ウェイト7に対し、それ以外が3程度です。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業及び学習の方法】

プロジェクターによる講義形式、時間に余裕があれば演習時間を確保し理解に努めるようにします。

授業の進行程度に合わせても変わりますが、「ランダムな標本と平均」の部分までは確実に終了する予定です。「母集団の推定」については他授業『統計学』につながる部分であるので、可能な限り解説する予定です。

授業等に必要な配布物は指定の方法でファイル形式で配布します。詳しくは第１回目の授業で説明します。

なお、授業に関しては対面にて行います。(ただし、感染対策状況により半数の学生は、学部の方針に基づき遠隔授業の可能性あり。)

【授業計画】

1　授業の概要
2　データの整理１
3　データの整理２
4　基本統計量１
5　基本統計量２
6　分布の形
7　正規分布１
8　正規分布２
9　正規分布３
10 標本の分布１　(ランダムな標本と平均)
11 標本の分布２　(ランダムな標本と平均)
12 推測統計の基礎
13 母集団の推定１
14 母集団の推定２
15 母集団の推定３

【自学自習のためのアドバイス】
1 授業の概要、データの性質等説明します。理解には演習を解くなどの作業が必要です。(2時間)
2-3 データの整理にはいくつかの概念修得とともに実際データを表やグラフにすることが必要です。(10時間)
4-5 基本統計量の計算は実際に一度手計算で確認することが必要で、演習問題を実際に解いてみます。(8時間)
6 分布の形について学習しますが、その際確率の知識が必要になります。そのための問題演習を行います。(5時間)
7-9分布の中でも最も頻出するこの分布を理解するためには、背景となる一部の数学が必要です。これらについて学習をします。(10時間)
10-11 推定に繋がるこの部分は母集団と標本という概念の理解が不可欠です。実際に計算機で各自どのような対応になっているか確認してもらいます。(10時間)
12 いくつかの実験を行ってもらい母集団と標本の関係を確認します。そのためいくつかの実験結果を整理する必要があります。(5時間)
13-15 母集団の推定を確認するため、実際の演習問題を通して理解を深める必要があります。(10時間)

教科書・参考書等
『教養　統計学』、森棟公夫、新世社、2012年、￥1700＋税

なお、授業にあたって資料等必要とする場合があるので、授業前までに必要な資料を印刷すること。資料の取り出し方に関しては第１回目に説明します。

オフィスアワー　　第1回もの授業の際に示します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
授業中私語を慎むなど、他の学生に迷惑をかけないよう最低限のルールは守ること。また、授業中、許可なくスマホ等の使用は禁止です。

| ナンバリングコード　B1STT-bcxE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：310142)<br>統計学入門ロ<br>Introduction to Statistics<br>統計学の基礎 | 科目区分 | 時間割<br>前期月2 | 対象年次及び学科<br>1～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B1STT | DP・提供部局<br>bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>久松　博之 | 関連授業科目　　統計学 | | |
| | 履修推奨科目　　統計学 | | |

学習時間　　授業90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

統計学の基礎は大きく記述統計と統計的推測に分けられる．このうち「統計学入門」では，データを加工しデータの持つ情報を読み取る記述統計を中心に学習する．また，母集団と標本，確率，確率変数などについて理解し，「統計学」で統計的推測について学習するためのの基礎となる概念を学習する．「統計学入門」と「統計学」の2科目を併せて受講することで，大学学部基礎レベルの統計学を学習する．

授業の目的

全ての判断の根拠を問えばそれは統計学である．実際のデータの持つ情報を読み取り，判断のよりどころを得るための方法を身につける．

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 「統計学入門」ではデータを加工しデータの持つ情報を読み取る記述統計の考え方を理解できるようになる．また，母集団と標本，確率，確率変数などの基本事項について理解し，後期の「統計学」で統計的推測（確率分布，推定，仮説検定）を学習するための基礎的な知識を身につける． | |

成績評価の方法と基準

期末試験（100点満点）による．課題レポートや宿題を課す場合は，それらの得点を期末試験得点に加算した総合得点が60点以上を合格とする．

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業の方法】

講義ノートによる板書講義．テキストはその都度参照する．配布資料を使って説明する場合がある．随時，練習問題を解く.Excelを使って処理する課題レポートを課す場合がある.2変量の関連性まではテキストと配布資料を使い，母集団と標本,確率の基礎と確率変数については配布資料のみで授業を行う.練習問題はホワイトボードに解答させ，答え合わせをする．ノートPCを教室持ち込みでExcel実習の機会を作る等，双方向化を試みる．

この科目は全回対面で授業を行う予定だが，状況によっては授業形態を全て遠隔へ変更する場合がある．

【授業計画】

第１回．統計学とはなにか
第２回．統計データの種類（量的データ，質的データ，時系列データ，多変数データ）
第３回．統計データの尺度（順位尺度，名義尺度，間隔尺度，比率尺度）
第４回．統計表のグラフ表現（度数分布とヒストグラム）
第５回．中心の位置の統計量（最頻値，中央値，平均値）
第６回．中心の位置の統計量（度数分布表の平均，加重平均）
第７回．変化を表す統計量（変化幅，変化率，寄与度，寄与率）
第８回．散らばりの統計量（分散，標準偏差，四分位偏差）
第９回．標準偏差の活用（チェビシェフの不等式，変動係数，標準化）
第１０回．散らばりのグラフ表現（四分位範囲，箱ひげ図）
第１１回．2変量の関連性（散布図と相関係数）
第１２回．確率（確率の定義，条件付き確率，事象の独立性）
第１３回．確率変数と確率の対応関係
第１４回．母集団と標本（標本抽出，全数調査と標本調査）
第１５回．授業の総括
[期末試験]

【自学自習に関するアドバイス】

毎回，テキストと配布するレジュメを使った事前学習を2時間，事後学習はWeb資料でのExcel実習2時間あるいは章によっては宿題（練習問題）を課すので，それを解くのに2時間が基本パターン．

【この授業における欠席に関するルール】
　香川大学単位の授与に関する規程第4条に「開講時数の3分の2以上出席していない者については，その授業科目の単位を与えない。」とある．
（1）欠席する場合，事前の連絡は一切不要．後日，欠席届とそれを証明する書類を添付して提出すること．
（2）公欠にあたる場合（感染症、忌引き等）は，出席扱いにしてその時間配布した資料を与える．
（3）公欠にはあたらないがやむをえない事由だと判断できる場合，欠席扱いにはするが，申し出があれば配布した資料を与える．
（4）自己都合の欠席の場合，欠席した授業で配布した資料は与えない．

＊ 体調不良の場合は欠席した方がいい場合もあるが，出席したりしなかったりを繰り返すと内容が理解できず単位を落としてしまうので，可能な限り出席するよう心がけること．

教科書・参考書等
教科書：『プレステップ 統計学Ⅰ 記述統計学』，稲葉由之著，弘文堂，定価1800円＋税

オフィスアワー　　月曜日3限目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
1．2/3以上出席していない場合，成績は自動的に不可になる．
2．質問がある場合は必ず自筆のノートを持参すること．
3．スマホ・携帯のカメラ機能での板書撮影を原則禁止する．
4．この授業では欠席に関するルールがあるので注意すること．

| ナンバリングコード　B1STT-bcxE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：310151)<br>統計学<br>Statistics | 科目区分 | 時間割<br>後期金5 | 対象年次及び学科<br>1～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B1STT | DP・提供部局<br>bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>横山　佳充 | 関連授業科目　　統計学入門 | | |
| | 履修推奨科目　　統計学入門 | | |

学習時間　　講義90分 × 15回 ＋ 自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

統計学入門を履修済みの学生に対し、推測統計学の考え方の基本を解説することを目的とします。基本的には、統計的仮説検定を中心に、統計学入門では扱わなかった分布についても講義します。また、２変量間の関係を扱う分析方法も説明します。この推測統計学の考え方は、経済学で扱うこれ以外のデータを取り扱う科目の基礎となるばかりではなく、自然科学をはじめとして他の分野とも密接な関係があります。

授業の目的

データの推論的取り扱いや帰納的推論の演習を行うことで、経済学部の勉強に限らず、これからのデーターオリエンテッドな社会に対応できる能力が向上します。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ・正規分布を用いた推定、検定の理解できる<br>・ｔ分布を用いた推定、検定の知識を習得できる<br>・他の分布の存在と利用法の理解<br>・独立性の検定への対応が可能<br>・相関分析を理解することができる<br>・単回帰分析による変数間の関係理解 | |

成績評価の方法と基準

出席、レポートおよび期末試験。得点の比重は出席とレポート合わせて30%に対し、後期試験70%で行います。なお、授業中にも関わらず、許可なくスマホ等を使用した場合、成績評価対象外とすることがあるので、留意しておいてください。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業及び学習の方法】

プロジェクターを用いた投影を含め、板書を用いて授業を行います。

授業中にコンピュータの使用に関しての演習は行わない予定です。ただし、自主的な学習においては自宅等にて表計算ソフトウェアによる演習や復習を促す場合があります。

事前に教材となるレジュメ等をイントラネット上またはmoodle上で配布するので、学生は必要箇所を確認印刷して準備しておくこと。

レポート提出に関しては登録人数により、実際の手書きレポートを提出レポートにするか、それともmoodle上のウェブサイトで提出するか、どちらかの方法で提出してもらいます。
具体的な方法については第１回目の授業で確認します。

小テスト等moodle上で行う可能性があります。

なお、授業に関しては対面にて行います。（ただし、感染対策状況により半数の学生は、学部の方針に基づき遠隔授業の可能性あり。）

【授業計画】

(1)確率分布①
(2)確率分布②
(3)二項分布①
(4)二項分布②
(5)ポアソン分布
(6)連続分布①
(7)連続分布②
(8)正規分布①

(9)正規分布②
(10)無作為抽出と標本分布
(11)推定の実際①
(12)推定の実際②
(13)仮説と検定①
(14)仮説と検定②
(15)相関係数

【自学自習のためのアドバイス】
(1)-(2)確率分布に関する基本を説明し、演習問題を解く必要があります。(8時間)
(3)-(4)二項分布の基本的な概念を用いて、応用問題を解く必要があります。(4時間)
(5)ポアソン分布の使用例を確認し、実際に演習問題を解きます。(4時間)
(6)-(7)連続分布の概念をより定着するために演習を行います。(8時間)
(8)-(9)正規分布を理解するために、表や計算機を用いた演習を行います。(8時間)
(10)母集団と標本の関係を理解するため、演習を行い理解を高めます。(4時間)
小標本による推定について考えてみます。復習には問題等を解いて確認する必要があります。(4時間)
(11)-(12)大標本や小標本における推定について考えます。実際に演習を解いて状況を確認する必要があります。(8時間)
(13)-(14)検定についてその方法論や問題点を確認します。図や表を用いて自分で概念を確認することが必要です。(8時間)
(15)2変量の取り扱いについて学習しますが、実際の理解には演習を行うことが必要です。場合によってはグラフを作成します。(4時間)

教科書・参考書等
基本的には使用しません。こちらで事前に資料を提示するので、授業前までに必要な資料を印刷すること。資料の取り出し方に関しては第１回目に説明します。

なお、以下の本は前期の「統計学入門」で一部使用したので、その関連で参考資料とします。ただし、必要に応じて参考文献は示します。

『教養　統計学』、森棟公夫、新世社、2012年、￥1700＋税

オフィスアワー　　第一回目に説明します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
授業のレジュメ等を用意する場合があるので、各自で印刷してください。具体な方法は第一回目の授業において説明します。なお、授業中、許可なくスマホ等の使用を禁止します。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：332064)<br>社会調査法<br>Social Research Methods | 科目区分 | 時間割<br>前期木4 | 対象年次及び学科<br>1～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B1SCL | DP・提供部局<br>bceE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>L | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>緒方　宏海 | 関連授業科目 | 文化人類学 | |
| | 履修推奨科目 | 文化人類学 | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習(準備学習30時間＋事後学習30時間)

授業の概要

私たち人間は「社会」の中で生きており、社会集団に属し社会現象や人間の価値観に関連する問題にも遭遇します。とりわけ今日、グローバル化する現代社会の中で、私たちが生きる日本社会のみならず、世界の多様な人びとが生きる「社会」を様々な角度からとらえ、研究の題材とすることも不可欠です。しかしそもそも、「社会」とは何でしょうか。それは、どのようにしてとらえることができるのでしょうか。

本講義では、第一線で活躍する研究者が、社会または社会集団内における社会事象を実証的にとらえる方法を解説しながら、フィールドワークの「現場」から捉える基本的な調査方法について学びます。

授業の目的

「社会」を対象とする社会科学の分野では、多種多様な社会調査の方法が開発され、発展してきました。本講義では社会調査がますます重要視される中で、第一線で活躍する研究者が、社会調査の歴史や具体的事例、「社会」にフォーカスするための調査方法を紹介し、調査をする上での倫理・心構えなど、社会調査に関する基礎的事項を講義します。また社会の中の人間・文化を分析するために、不可欠な基本的知識として分類カテゴリーの人種・民族・文化についても学ぶ。

学生が、社会調査の歴史とその研究蓄積・方法を学ぶことで、自ら社会調査を企画・設計できるように、基本的な知識と「社会」をとらえ、日本と世界を見渡す姿勢を身につけることを目的とします。※公務員試験社会学分野社会調査法と対応。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 1. 社会調査の基本的考え方、および社会科学の各分野の基本概念を簡潔に説明できる。<br>2. 社会調査のプロセスを具体的に述べることができ、実際に基礎的な調査を実施することができる。<br>3. 調査倫理の問題を踏まえつつ、社会調査の意義について理解し説明することができる。 | |

成績評価の方法と基準

平常点（出席、リアクション・ペーパー)、授業中に行う小テスト（確認テスト)、
学期末の筆記試験をもとに成績を総合評価する。無断欠席5回で自動的に「不可」となるので注意すること。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

※この講義は基本的に対面で実施します。

第1週　イントロダクション―社会調査の前提となる、「社会」とはそもそも何か？
第2週　社会調査とは何か？
第3週　研究と社会調査―社会調査の源流：人口調査、貧困調査、国勢調査
第4週　社会調査の対象と方法
第5週　社会の中の人間・文化の見方ー基本的分類カテゴリーとしての人種・民族・文化
第6週　質的調査（１）質的調査の種類と考え方―シカゴ学派社会学と民族誌の系譜文化人類学
第7週　質的調査（２）インタビュー調査
第8週　質的調査（３）フィールドワークの方法
第9週　質的調査の方法と実例―風水とはなにか？風水師に「風水宝地」を聞き出す方法
第10週 量的調査法と実例ー香川県の漁師と青森県大間マグロ一本釣り漁師の信仰
第11週 日本の農山漁村における社会調査
第12週 観光振興・地域活性化に関わる調査①（地域活性化編）
第13週 観光振興・地域活性化に関わる調査②（観光振興編）
第14週　社会調査と現代社会　―個人情報保護と調査倫理―
第15週　まとめ

教科書・参考書等

【教科書】
特になし。適宜資料を配布します。

【参考書】
佐藤郁哉『社会調査の考え方（上）（下)』東京大学出版会、2015年、3200円＋税。
長友敦編『グローバル化時代の文化・社会を学ぶー文化人類学／社会学の新しい基礎教養』世界思想社、2017年、1900円＋税。
日本文化人類学会（監修)『フィールドワーカーズハンドブック』世界思想社、2011年、2400円＋税。その他、授業中に紹介します。

オフィスアワー　　水曜日15時から17時　南キャンパス2号館3階緒方宏海研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
※身近な社会現象を社会調査の目でみる姿勢を心がけること。
※進行状況に応じて内容を調整することがあります。
※授業中にリアクション・ペーパーの執筆や小テスト（確認テスト）を課す回がある。
※授業で紹介する参考文献をもとに自主的に研究するよう努めてください。

| ナンバリングコード　B1GE0-bceE-30-Lb2<br>授業科目名　　(時間割コード：332065)<br>地域調査法<br>Regional Research Methods | 科目区分 | 時間割<br>前期金5 | 対象年次及び学科<br>1～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B1GE0 | DP・提供部局<br>bceE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lb | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>山崎　隆之 | 関連授業科目　　社会調査法 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

少子高齢化、人口流出、産業の空洞化など、現在の地域は解決すべき様々な課題を抱えています。しかし、生活者のひとりとして地域で暮らしたり、一時的にその地域を訪れたりするだけで、「何が問題か？」「どうすればいいのか？」について気づくことは難しい…。そうした課題を発見し、詳細に分析し、解決策を検討する取り組みが「地域調査」です。

この授業では、地域調査の様々な手法を解説するとともに、皆さんにも、情報収集→分析・考察→提案という地域調査のプロセスにチャレンジしてもらいます。

授業の目的

これからフィールド（地域）に出て研究・活動をすすめるために、地域調査の基本的な手法とプロセスの理解【b】し、使いこなす【c】ことを目指します。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １．調査対象に関連する社会動向や取り組み事例について適切な情報を収集できる。<br>２．情報を分析し、知見を得ることができる。<br>３．調査結果を報告書（レポート）としてまとめることができる。 | |

成績評価の方法と基準

初回に出題した課題に基づく、①調査結果ミニレポート（30%）と②最終報告書（70%）の総合評価とします。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

(1)ガイダンス・課題説明
(2)地域調査・施策展開の事例解説①
(3)地域調査・施策展開の事例解説②
(4)既存資料の収集から状況を把握する①　インターネット検索
(5)既存資料の収集から状況を把握する②　文献・記事
(6)既存資料の収集から状況を把握する③　行政資料・統計
(7)課題内容の補足・出題
(8)現場に出向き情報を集める①　現地調査・ヒアリング調査
(9)現場に出向き情報を集める②　アンケート調査
(10)情報を整理して知見を得る①　グラフ・表・模式図
(11)情報を整理して知見を得る②　フレームワーク
(12)情報を整理して知見を得る③　報告書
(13)調査結果（調査結果ミニレポート）の共有
(14)新しい調査手法・提案手法の紹介
(15)最終報告書の例示

【授業外の学び（自学自習）】

初回授業で出題された課題のすすめるために、授業時間外での作業が必要となります。インターネットや新聞・雑誌、書籍などで関連する情報を調べ、自分の課題成果をよりよいものにするための努力を惜しまずに取り組んでください。

【授業形態】

この科目は全回対面授業を行う予定ですが、状況によって全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。いずれの場合でも、講義や課題は同じ内容のもので変更ありません。

教科書・参考書等

教科書：特になし。適宜資料を配布します。
参考書：
西村幸夫・野澤康編『まちの見方・調べ方』朝倉書店、2010年
岡田友弘・品田茂著『行け行け！わがまち調査隊』自治体研究社、2009年
永田豊志著『最強フレームワーク100』ソフトバンククリエイティブ、2008年

オフィスアワー　　授業終了後に対応します。　　山崎研究室（南3号館3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・授業計画は進捗状況により、変更になる場合があります。変更については授業内で適宜連絡します。
・授業に参加する意思がない態度や、授業の進行の妨げになる行動をとる学生については退室を指示し、態度が改められない場合は単位の取得を認めない。

# 学部基礎科目(２年次配当)

| ナンバリングコード　B1ECN-bcaE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：312011)<br>ミクロ経済学Ｉイ<br>Microeconomics I | 科目区分 | 時間割<br>前期火2 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B1ECN | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>星野　良明 | 関連授業科目　　ミクロ経済学II | | |
| | 履修推奨科目　　経済数学入門，経済数学 | | |

学習時間　　授業90分　×　15回　＋　自学自習（準備時間15時間＋事後学習45時間）

授業の概要

ミクロ経済学とマクロ経済学は，経済学で様々な問題を分析する際の最も基本的な考え方です．経済学部の様々な科目が，ミクロ経済学とマクロ経済学を土台にしています．マクロ経済学が一国の景気や失業率など経済全体の活動に注目するのに対し，ミクロ経済学は経済を構成する個々の消費者や企業の行動に注目します．これら経済主体の意思決定（最適化）と経済主体間の相互関係（均衡）を考慮して，市場・産業，さらには経済全体を分析します．

ミクロ経済学Iとミクロ経済学IIでミクロ経済学の全分野の基礎をカバーします．前半となるこの講義では，（１）需要と供給，（２）企業行動と供給曲線，（３）消費者行動と需要曲線，（４）市場均衡と資源配分，（５）独占，の各トピックを解説します．

授業の目的

市場経済において，個々の企業や家計がどのように経済活動を行うか，また，企業や家計の経済活動にいかなる相互依存関係があり，それが資源配分にどのような影響をもたらすかを，ミクロ経済学の手法により理解する．経済学に関する専門基礎力として，（１）需要と供給，（２）企業行動と供給曲線，（３）消費者行動と需要曲線，（４）市場均衡と資源配分，（５）独占の理論，を習得する．

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| ・完全競争市場における価格と数量が需要と供給の均衡によって決定されることを，部分均衡の枠組みを用いて説明できる（DPの「b.知識・理解」に対応）．<br>・ミクロ経済学の観点から，企業の生産活動と消費者の需要が市場価格にどのように反応するか説明できる（DPの「b.知識・理解」に対応）．<br>・市場均衡が持つ資源配分のメカニズムを，部分均衡の枠組みを用いて説明できる（DPの「b.知識・理解」に対応）． | |

成績評価の方法と基準

宿題（30%）と期末試験（70%）の合計により評価します．詳細は初回授業において説明します．

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】進行状況により若干の変更をする可能性があります．

第1回　ガイダンス，需要と供給（１）
第2回　需要と供給（２）
第3回　需要と供給（３）
第4回　企業行動と供給曲線（１）
第5回　企業行動と供給曲線（２）
第6回　企業行動と供給曲線（３）
第7回　消費者行動と需要曲線（１）
第8回　消費者行動と需要曲線（２）
第9回　消費者行動と需要曲線（３）
第10回　消費者行動と需要曲線（４）
第11回　市場均衡と資源配分（１）
第12回　市場均衡と資源配分（２）
第13回　市場均衡と資源配分（３）
第14回　独占（１）
第15回　独占（２），まとめ

【授業及び学習の方法】

・授業は講義形式で行います．また理解度を確認するため小問を解く時間を設けます．
・この科目は全回対面授業を行います．

【自学自習に関するアドバイス】
・受講講生は復習を重視した自学自習を行ってください．授業内容は連続しているので，授業前には前回の内容を再確認してください（15時間）．授業後には講義中に示す問題や宿題に取り組み，計算や作図を自分の手で行うことで，自分の理解を確認してください（30時間）．
・経済学的な考え方の習得には，単に授業内容を学習するだけでなく，ニュースや身の回りの経済問題に関心を持ち，授業内容との関連を考える，つまり理論の世界と現実の世界の間で往復思考を行う姿勢が不可欠です（15時間）．
・各回のキーワードは以下の通りです．
第１章（１回～３回）：市場経済，需要曲線，供給曲線，均衡，完全競争，比較静学
第２章（４回～６回）：費用関数，限界費用，利潤最大化，供給関数
第３章（７回～１０回）：効用関数，無差別曲線，限界代替率，予算線，効用最大化，需要関数
第４章（１１回～１３回）：弾力性，市場需要と市場供給，余剰分析，資源配分の効率性
第５章（１４回～１５回）：市場の失敗，限界収入，独占価格，死荷重

教科書・参考書等
【教科書】使用しません．授業資料をMoodleから配付します．
【参考書】自学自習用に参考書は必要です．自分に合うテキストを手元に用意してください．例えば
・芦谷政浩(2009)『ミクロ経済学』有斐閣
・武隈慎一(2016)『新版 ミクロ経済学』新世社
その他は初回授業で紹介します．

オフィスアワー　　火曜日4時限目（予定）　南4号館3階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
　授業は積み上げ式で進みますので，わからない点があったら，そのままにせずに解決していく姿勢が大切になります．

| ナンバリングコード　B1ECN-bcaE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：312012)<br>ミクロ経済学Ｉロ<br>Microeconomics I | 科目区分 | 時間割<br>前期火3 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B1ECN | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>星野　良明 | 関連授業科目　　ミクロ経済学II | | |
| | 履修推奨科目　　経済数学入門，経済数学 | | |

学習時間　　授業90分　×　15回　＋　自学自習（準備時間15時間＋事後学習45時間）

授業の概要

ミクロ経済学とマクロ経済学は，経済学で様々な問題を分析する際の最も基本的な考え方です．経済学部の様々な科目が，ミクロ経済学とマクロ経済学を土台にしています．マクロ経済学が一国の景気や失業率など経済全体の活動に注目するのに対し，ミクロ経済学は経済を構成する個々の消費者や企業の行動に注目します．これら経済主体の意思決定（最適化）と経済主体間の相互関係（均衡）を考慮して，市場・産業，さらには経済全体を分析します．

ミクロ経済学Iとミクロ経済学IIでミクロ経済学の全分野の基礎をカバーします．前半となるこの講義では，（１）需要と供給，（２）企業行動と供給曲線，（３）消費者行動と需要曲線，（４）市場均衡と資源配分，（５）独占，の各トピックを解説します．

授業の目的

市場経済において，個々の企業や家計がどのように経済活動を行うか，また，企業や家計の経済活動にいかなる相互依存関係があり，それが資源配分にどのような影響をもたらすかを，ミクロ経済学の手法により理解する．経済学に関する専門基礎力として，（１）需要と供給，（２）企業行動と供給曲線，（３）消費者行動と需要曲線，（４）市場均衡と資源配分，（５）独占の理論，を習得する．

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| ・完全競争市場における価格と数量が需要と供給の均衡によって決定されることを，部分均衡の枠組みを用いて説明できる（DPの「b.知識・理解」に対応）．<br>・ミクロ経済学の観点から，企業の生産活動と消費者の需要が市場価格にどのように反応するか説明できる（DPの「b.知識・理解」に対応）．<br>・市場均衡が持つ資源配分のメカニズムを，部分均衡の枠組みを用いて説明できる（DPの「b.知識・理解」に対応）． | |

成績評価の方法と基準

宿題（30%）と期末試験（70%）の合計により評価します．詳細は初回授業において説明します．

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】進行状況により若干の変更をする可能性があります．

第1回　ガイダンス，需要と供給（１）
第2回　需要と供給（２）
第3回　需要と供給（３）
第4回　企業行動と供給曲線（１）
第5回　企業行動と供給曲線（２）
第6回　企業行動と供給曲線（３）
第7回　消費者行動と需要曲線（１）
第8回　消費者行動と需要曲線（２）
第9回　消費者行動と需要曲線（３）
第10回　消費者行動と需要曲線（４）
第11回　市場均衡と資源配分（１）
第12回　市場均衡と資源配分（２）
第13回　市場均衡と資源配分（３）
第14回　独占（１）
第15回　独占（２），まとめ

【授業及び学習の方法】

・授業は講義形式で行います．また理解度を確認するため小問を解く時間を設けます．
・この科目は全回対面授業を行います．

【自学自習に関するアドバイス】
・受講講生は復習を重視した自学自習を行ってください．授業内容は連続しているので，授業前には前回の内容を再確認してください（15時間）．授業後には講義中に示す問題や宿題に取り組み，計算や作図を自分の手で行うことで，自分の理解を確認してください（30時間）．
・経済学的な考え方の習得には，単に授業内容を学習するだけでなく，ニュースや身の回りの経済問題に関心を持ち，授業内容との関連を考える，つまり理論の世界と現実の世界の間で往復思考を行う姿勢が不可欠です（15時間）．
・各回のキーワードは以下の通りです．
第１章（１回～３回）：市場経済，需要曲線，供給曲線，均衡，完全競争，比較静学
第２章（４回～６回）：費用関数，限界費用，利潤最大化，供給関数
第３章（７回～１０回）：効用関数，無差別曲線，限界代替率，予算線，効用最大化，需要関数
第４章（１１回～１３回）：弾力性，市場需要と市場供給，余剰分析，資源配分の効率性
第５章（１４回～１５回）：市場の失敗，限界収入，独占価格，死荷重

教科書・参考書等
【教科書】使用しません．授業資料をMoodleから配付します．
【参考書】自学自習用に参考書は必要です．自分に合うテキストを手元に用意してください．例えば
・芦谷政浩(2009)『ミクロ経済学』有斐閣
・武隈愼一(2016)『新版 ミクロ経済学』新世社
その他は初回授業で紹介します．

オフィスアワー　　火曜日4時限目（予定）　南4号館3階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
　授業は積み上げ式で進みますので，わからない点があったら，そのままにせずに解決していく姿勢が大切になります．

| ナンバリングコード　B1ECN-bcaE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：312021)<br>マクロ経済学Ｉイ<br>Macroeconomics Ⅰ | 科目区分 | 時間割<br>前期火3 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B1ECN | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>持田　めぐみ | 関連授業科目 | マクロ経済学Ⅱ、上級マクロ経済学 | |
| | 履修推奨科目 | マクロ経済学Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（予習・復習、提出課題、試験準備等で計60時間）

授業の概要

マクロ経済学は、国民所得（ＧＤＰ）、消費、投資、利子率、物価水準、失業率、輸出・輸入などの動きを通して、経済全体の活動について分析を行う学問です。これらの数値は、新聞やテレビのニュースで取り上げられることも多いため、皆さんの生活にも身近な学問だといえるでしょう。

また、マクロ経済学はミクロ経済学、計量経済学と並んで経済学の基礎科目であり、他の専門科目や現実の経済活動を理解する上でも、この講義で扱う内容をしっかりと身に付けておくことが重要です。

授業の目的

マクロ経済学の基礎理論を学び、理解することを目的としています。また、ニュースで報じられている実際の経済現象についても、経済学的な視点から考えられるようになることを目指しています。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| ・45度線モデルを理解し、数値例を用いて均衡ＧＤＰの値を求めることができる<br>・ＩＳ－ＬＭモデルの基本を理解し、数値例を用いて均衡ＧＤＰと均衡利子率の値を求めることができる<br>・円高、円安といった為替レートの変化や、私たちを取り巻く人口動態の変化がマクロ経済に与える影響について、簡潔に説明することができる<br>※試験では上記以外のことも出題します | |

成績評価の方法と基準

期末試験の他に、複数回の提出課題を課し、「期末試験８０％＋提出課題２０％」の『総合得点』を用いて評価します。

ただし、「期末試験の素点が６０点以上であること」、「出席回数が授業回数の2/3以上であること」を単位取得の条件とします。出席管理は、ムードルのアンケート機能を用いて実施します。忘れずに回答してください。

他に、宿題、小レポート、確認テストなどを行い、成績評価の加点材料（＝未提出でも減点なし）として用いる場合もあります。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

1.　『授業のガイダンス』
2～3.　『マクロ経済学とは何か？』
4～8.　『45度線モデルと前半のまとめ』
9～13.　『ＩＳ－ＬＭモデルと後半のまとめ』
14～15.　『現代トピックスと授業のまとめ』

受講生の理解度等に応じて、上記の計画が変化することもあります。
授業内で複数回のグループワークを実施する可能性があります。

自主学習のアドバイス

1.参考書リストの本などマクロのテキストに目を通し、1冊選んで手元に用意しましょう。(提出課題4時間)
2～3.【予習メイン】テキストの該当部分を各自で予習しておきましょう。(6時間)
4～7.【復習メイン】授業内容の理解に加えて、講義範囲外の知識も各自で身に付けましょう。(6時間＋提出課題8時間)
8～14.【復習メイン】宿題にしっかり取り組み、数値例の問題も正しく解けるようにしておきましょう。(20時間＋提出課題8時間)
15.期末試験に向けて総復習しましょう。(4時間＋提出課題4時間)

この講義では、受講生が毎回、『宿題を含む自主学習により、前回までの授業内容をしっかり復習して理解していること』、『欠席した場合は、その回の授業内容を周囲の友人・知人に聞いて完全にフォローしていること』を前提に進めていきます。

時間の制約があるため、授業ではマクロ理論モデルの“骨組み”に焦点をしぼって説明します。授業で扱う内容やその背景を理解するためには、新聞等で報じられる経済ニュースに関心を払いながら、教科書や参考書を使って授業内容の“肉付け”を各自で行うことが必要となります。講義内容をその場で100%理解する必要はありませんが、授業のスピードが速いと感じる人は、あらかじめ２時間程度の予習をしてから授業に臨んで下さい。

この科目は、基本的には「対面」方式で実施予定です。
ただし、感染状況や大学の方針によっては、「遠隔」で実施する回もあります。

教科書・参考書等
教科書は指定しません。

マクロ経済学のテキストは多数出版されていますので、図書館等で自分にとってわかりやすい説明だと思うものを選んで、適宜使用してください。同じ内容についても、複数のテキストを同時に参照して理解を深めることもおススメです。

オフィスアワー　　初回の授業でお知らせします。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
※静粛な環境を保つため、なるべく両隣を空けて着席して下さい。試験時は、後ろ２列の着席を禁止します。授業中の私語や緊急時以外の出入りなど周囲の受講生の迷惑になる行為は厳禁です。受講マナーが守れない場合は、単位を認定しません。
※キーボードによる周囲への騒音と授業環境への影響から、授業中のＰＣ・スマートフォンの使用は一切認めません。投影したスライドや板書の撮影も禁止です。（個別に対応が必要な場合は、申し出て下さい。）
※授業でわからない点や理解できなかったところは、授業前後やオフィスアワーの時間にぜひ質問しに来て下さい。質問者の疑問が解決するだけでなく、その後の授業内容の改善にも大変役立ちます。
※グループワークを数回実施予定です。
※授業で使用するレジュメ（６０～８０枚程度）はmoodleから各自プリントアウトしてもらう予定です。

| ナンバリングコード　B1ECN-bcaE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：312022)<br>マクロ経済学Ｉロ<br>Macroeconomics Ⅰ | 科目区分 | 時間割<br>前期火2 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B1ECN | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>持田　めぐみ | 関連授業科目　マクロ経済学Ⅱ、上級マクロ経済学 | | |
| | 履修推奨科目　マクロ経済学Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（予習・復習、提出課題、試験準備等で計60時間）

授業の概要

マクロ経済学は、国民所得（ＧＤＰ）、消費、投資、利子率、物価水準、失業率、輸出・輸入などの動きを通して、経済全体の活動について分析を行う学問です。これらの数値は、新聞やテレビのニュースで取り上げられることも多いため、皆さんの生活にも身近な学問だといえるでしょう。

また、マクロ経済学はミクロ経済学、計量経済学と並んで経済学の基礎科目であり、他の専門科目や現実の経済活動を理解する上でも、この講義で扱う内容をしっかりと身に付けておくことが重要です。

授業の目的

マクロ経済学の基礎理論を学び、理解することを目的としています。また、ニュースで報じられている実際の経済現象についても、経済学的な視点から考えられるようになることを目指しています。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| ・45度線モデルを理解し、数値例を用いて均衡ＧＤＰの値を求めることができる<br>・ＩＳ－ＬＭモデルの基本を理解し、数値例を用いて均衡ＧＤＰと均衡利子率の値を求めることができる<br>・円高、円安といった為替レートの変化や、私たちを取り巻く人口動態の変化がマクロ経済に与える影響について、簡潔に説明することができる<br>※試験では上記以外のことも出題します | |

成績評価の方法と基準

期末試験の他に、複数回の提出課題を課し、「期末試験８０％＋提出課題２０％」の『総合得点』を用いて評価します。

ただし、「期末試験の素点が６０点以上であること」、「出席回数が授業回数の2/3以上であること」を単位取得の条件とします。出席管理は、ムードルのアンケート機能を用いて実施します。忘れずに回答してください。

他に、宿題、小レポート、確認テストなどを行い、成績評価の加点材料（＝未提出でも減点なし）として用いる場合もあります。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

1.　『授業のガイダンス』
2～3.　『マクロ経済学とは何か？』
4～8.　『45度線モデルと前半のまとめ』
9～13.　『ＩＳ－ＬＭモデルと後半のまとめ』
14～15.　『現代トピックスと授業のまとめ』

受講生の理解度等に応じて、上記の計画が変化することもあります。
授業内で複数回のグループワークを実施する可能性があります。

自主学習のアドバイス

1.参考書リストの本などマクロのテキストに目を通し、1冊選んで手元に用意しましょう。(提出課題4時間)
2～3.【予習メイン】テキストの該当部分を各自で予習しておきましょう。(6時間)
4～7.【復習メイン】授業内容の理解に加えて、講義範囲外の知識も各自で身に付けましょう。(6時間＋提出課題8時間)
8～14.【復習メイン】宿題にしっかり取り組み、数値例の問題も正しく解けるようにしておきましょう。(20時間＋提出課題8時間)
15.期末試験に向けて総復習しましょう。(4時間＋提出課題4時間)

この講義では、受講生が毎回、『宿題を含む自主学習により、前回までの授業内容をしっかり復習して理解していること』、『欠席した場合は、その回の授業内容を周囲の友人・知人に聞いて完全にフォローしていること』を前提に進めていきます。

時間の制約があるため、授業ではマクロ理論モデルの“骨組み”に焦点をしぼって説明します。授業で扱う内容やその背景を理解するためには、新聞等で報じられる経済ニュースに関心を払いながら、教科書や参考書を使って授業内容の“肉付け”を各自で行うことが必要となります。講義内容をその場で100%理解する必要はありませんが、授業のスピードが速いと感じる人は、あらかじめ２時間程度の予習をしてから授業に臨んで下さい。

この科目は、基本的には「対面」方式で実施予定です。
ただし、感染状況や大学の方針によっては、「遠隔」で実施する回もあります。

教科書・参考書等
教科書は指定しません。

マクロ経済学のテキストは多数出版されていますので、図書館等で自分にとってわかりやすい説明だと思うものを選んで、適宜使用してください。同じ内容についても、複数のテキストを同時に参照して理解を深めることもおススメです。

オフィスアワー　　初回の授業でお知らせします。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
※静粛な環境を保つため、なるべく両隣を空けて着席して下さい。試験時は、後ろ２列の着席を禁止します。授業中の私語や緊急時以外の出入りなど周囲の受講生の迷惑になる行為は厳禁です。受講マナーが守れない場合は、単位を認定しません。
※キーボードによる周囲への騒音と授業環境への影響から、授業中のＰＣ・スマートフォンの使用は一切認めません。投影したスライドや板書の撮影も禁止です。（個別に対応が必要な場合は、申し出て下さい。）
※授業でわからない点や理解できなかったところは、授業前後やオフィスアワーの時間にぜひ質問しに来て下さい。質問者の疑問が解決するだけでなく、その後の授業内容の改善にも大変役立ちます。
※グループワークを数回実施予定です。
※授業で使用するレジュメ（６０～８０枚程度）はmoodleから各自プリントアウトしてもらう予定です。

| ナンバリングコード　B1ECN-bcaE-30-Lb2<br>授業科目名　　(時間割コード：312411)<br>ミクロ経済学Ⅱ<br>Microeconomics Ⅱ | 科目区分 | 時間割<br>後期火3 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B1ECN | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lb | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>天谷　研一 | 関連授業科目 | ミクロ経済学Ⅰ | |
| | 履修推奨科目 | 経済数学入門、経済数学 、ミクロ経済学Ⅰ | |

学習時間　　講義90分 × 15回 ＋ 自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

ミクロ経済学とマクロ経済学は経済学で様々な問題を分析する際の最も基本的な考え方です。経済学部で開講される様々な科目が、ミクロ経済学とマクロ経済学を土台にしています。

ミクロ経済学では、経済を構成する個々の経済主体の行動に焦点をあてた分析を行います。すなわち、個々の家計や企業がどのように経済活動にかんする意思決定を行い、これらの経済主体の間にどのような相互関係があるのかを考察します。とりわけ、この相互関係において「市場（マーケット）」が果たす役割を考えます（これに対しマクロ経済学は景気や失業率など国全体の経済に焦点をあてます）。

ミクロ経済学ⅠとⅡでミクロ経済学の全分野の基礎をカバーします。後半の本講義では、(1)企業の行動、(2)一般均衡分析、(3)ゲーム理論と不完全競争、(4)市場の失敗、の各トピックを扱います。

授業の目的

市場経済において、個々の企業や家計がどのように経済活動を行うか、また、企業や家計の経済活動にいかなる相互依存関係があり、それが資源配分にどのような影響をもたらすかを、ミクロ経済学の手法により理解する。特に、企業の行動、一般均衡分析、ゲーム理論と不完全競争、市場の失敗の各トピックを習得する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ・ミクロ経済学の観点から、企業の生産活動が市場価格にどのように反応するか説明できる（DPの「b.知識・理解」に対応)。<br>・市場均衡が持つ資源配分のメカニズムを、簡単な一般均衡の枠組みを用いて説明できる（DPの「b.知識・理解」に対応)。<br>・戦略的状況とはいかなるもので、そこでプレイヤーがどのような行動をとると考えられるか、ゲーム理論の手法を用いて説明できる（DPの「b.知識・理解」に対応)。<br>・市場の失敗とはいかなるもので、その解決のために経済政策がどのように有効となるか、ミクロ経済学の観点から説明できる（DPの「b.知識・理解」に対応)。 | |

成績評価の方法と基準

宿題（３０％)、期末試験（７０％）により評価します。詳しくは初回授業時に指示します。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

授業は主に板書およびプロジェクタ投影を使用した講義形式で行います。授業中に適宜問題演習を行います。また宿題として演習問題を課します。

予習は必ずしも必要ではありませんが、毎回復習してわからないことをなくすことと、宿題を解いて理解を深めることが必要となります。

第１回　生産者行動の理論（１）
第２回　生産者行動の理論（２）
第３回　生産者行動の理論（３）
第４回　生産者行動の理論（４）
第５回　一般均衡分析（１）
第６回　一般均衡分析（２）
第７回　一般均衡分析（３）
第８回　ゲーム理論と不完全競争（１）
第９回　ゲーム理論と不完全競争（２）
第１０回　ゲーム理論と不完全競争（３）
第１１回　ゲーム理論と不完全競争（４）
第１２回　市場の失敗（１）
第１３回　市場の失敗（２）
第１４回　市場の失敗（３）
第１５回　まとめ

授業計画は、受講生の理解度をみて必要があれば変更する場合があります。

【授業及び学習の方法】
授業は、教室での講義および反転授業を取り混ぜて行う。反転授業の回では、予習用の教材に基づいて問題演習等を行う。

【自学自習のためのアドバイス】
反転授業の回では、事前に指定された教材を視聴する。授業終了後は、参考図書の該当箇所を読み、理解を深める。また、定期的に課される課題に取り組むことにより、学習内容を定着させる。

【授業形態】
この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

教科書・参考書等
特定の教科書は指定しないが、下記の書籍等から自分の好みのものを１冊以上選び、講義と並行して精読すること。
芦谷政浩『ミクロ経済学』、有斐閣、2009年、3100円＋税
神取道宏『ミクロ経済学の力』、日本評論社、2014年、3200円＋税
その他は初回授業時に指示します。

オフィスアワー　　月曜日４校時。天谷研究室（南7号館3階)。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
1. 授業内容は連続しているので、前回までの内容をしっかり理解していないとついていけなくなります。
2. その他の注意事項は、初回授業時に指示します。

| ナンバリングコード　B3BSN-bcaE-30-Lg2<br>授業科目名　　(時間割コード：322199)<br>経営戦略論<br>Management Strategy | 科目区分 | 時間割<br>前期木1 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lg | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>塩谷　剛 | 関連授業科目 | イノベーション論、経営組織論、応用ミクロ経済学 | |
| | 履修推奨科目 | イノベーション論、経営組織論、応用ミクロ経済学 | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習(準備学習30時間＋事後学習30時間)

授業の概要

本講義では、経営戦略論を初めて学ぶ学生を対象として、
①戦略立案に必要な思考方法を紹介する。
②そして、これらの思考方法を用いた問題演習を行う。

授業の目的

本講義の目的は、戦略立案に必要な思考方法を使いこなせるようになることである。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ①企業の将来のあるべき姿を設定できる。<br>②企業を取り巻く現状分析ができる。<br>③現状からあるべき姿にたどり着くためのシナリオを描ける。 | |

成績評価の方法と基準

授業中の演習45点（3点×15回）＋期末試験55点
演習の解答は出席のカウントにも使用するため、
授業終了後に提出すること。
翌週以降の提出も認めるが、その場合は1点とし、出席のカウントはしない。病気・忌引き等で欠席した場合、それらが証明できる書類が確認できればその限りではない。
なお、演習の解答内容を発表した学生には1回につき3点加点する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

この科目は全回対面授業を行う。

第1回：戦略の基本(教科書第2章)
第2回：利益：プロフィット(教科書第3章)
第3回：構造：ストラクチャー(教科書第4章)
第4回：位置：ポジショニング(教科書第5章)
第5回：資源：リソース(教科書第6章)
第6回：相手：ゲーム(教科書第7章)
第7回：洞察：フォーサイト①(教科書第9章第1節)
第8回：洞察：フォーサイト②(教科書第9章第2節～)
第9回：逆転：リバース(教科書第10章)
第10回：類推：アナロジー(教科書第11章)
第11回：全社：コーポレート(教科書第15章)
第12回：相乗：シナジー(教科書第16章)
第13回：範囲：バウンダリー(教科書第17章)
第14回：社会：ソーシャル(教科書第18章)
第15回：分析フレームワークの総復習

＜予習＞
教科書の該当箇所を読み、Let's think/Exerciseの解答の方針を立てておく。分析対象はこちらから指定することがある。

＜講義中＞
①教員によるレクチャー
②問題演習：
Let's think/Exerciseの一部に解答してもらう。なお、Let's thinkは解答例があるため、内容を一部変更する。
希望者による発表を実施する。

＜復習＞
教科書の該当箇所をもう一度読むこと。
講義内容を振り返り、Let's think/Exerciseの解答をブラッシュアップしておくこと。

教科書・参考書等

教科書　井上達彦・中川功一・川瀬真紀(2019)『経営戦略』中央経済社2,640円（税込み）

本講義で紹介する戦略的思考法の基盤となる経営理論について知りたい場合は下記の書籍を参照すること。
参考書　入山章栄(2019)『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社3,190円（税込み）

オフィスアワー　　特に定めない。事前にe-mail等でアポイントメントを取ること。
研究室：南7号館2階2-10

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
第1回目講義開始前までに教科書第1章を読んでおいて下さい。10分もあれば読めます。
本講義で学んだ戦略的思考法を身近な企業に当てはめてみることを心がけて下さい。

| ナンバリングコード　B1BSN-bcdE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：322190)<br>マーケティング論Ａ<br>Marketing A | 科目区分 | 時間割<br>前期金2 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B1BSN | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>趙　命来 | 関連授業科目　　マーケティング論B、流通システム論A,B | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　授業90分 X 15回 ＋ 自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

本講義は、企業のマーケティング活動に焦点を当て、その論理と実際を理解するものである。企業がマーケティング発想を持つとはどういうことなのか、マーケティング活動（たとえば、市場創造、製品開発、ブランド構築、顧客管理など）はどのように行われるのかといった企業のマーケティング・マネジメントを学ぶ。

授業の目的

マーケティング･マネジメントを学ぶことによって､マーケティングが世の中でどのような役目をはたしているのか､われわれの生活とどのようなかかわりを持つのか､また現場でマーケティングをうまく実践するために理論がどのように役にたつのかなどを理解する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １．マーケティングの考え方と最低限の基本理論が理解できる。<br>２．マーケティングがわれわれの生活にどのようなかかわりをもつかが理解できる。<br>３．現場でマーケティングをうまく実践するために理論がどのように役に立つかが理解できる。 | |

成績評価の方法と基準

小テストとグループワーク50%、期末試験50%により評価する。
詳細については第1回目の授業で説明する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】
第１回：ガイダンス/マーケティング発想の経営
第２回：マーケティング論のなりたち
第３回：マーケティング論の基本概念
第４回：戦略的マーケティング
第５回：製品のマネジメント
第６回：価格のマネジメント
第７回：広告のマネジメント
第８回：チャネルのマネジメント
第９回：サプライチェーンのマネジメント
第１０回：営業のマネジメント
第１１回：ビジネスモデルのマネジメント
第１２回：顧客理解のマネジメント
第１３回：ブランド構築のマネジメント
第１４回：ブランド組織のマネジメント
第１５回：企業の社会責任/まとめ

注）基本対面で実施します。

【授業及び学習の方法】
授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜小テストやグループワークを取り入れます。

【自学自習に関するアドバイス】
第1回　自分のよく知っている事業の製品、たとえば、コカ・コーラ、キットかっとなどについて、その製品がはたす機能とその製品を購入する目的を、授業で紹介できるよう準備する。（２時間）
第2回　マーケティング論は､組織をうまく運営していくという意味で経営学とどのような違いがあるのか考察する。（２時間）
第3-4回　なにかひとつの製品市場を想定し、そこがどのような市場セグメントに分けられるのかについて調べ、整理する。(4時間)
第5回　自分の好きな新製品を１つ選び、その製品のコンセプトを、授業で紹介できるよう準備する。（２時間）
第6回　料金体系を変化させることで、消費者による製品・サービスの購買や利用の方法がどのように変化するかについて調べ、整理する。（２時間）
第7回　現在それほど普及していない製品で、製品の理解度を高めれば普及しそうな製品を考えてみよう。（２時間）
第8回　あるメーカーがチャネル洗濯において、卸売業者を排除すれば、どのような影響がでるかについて､「取引数節約の原理」の観点から、整理する。(2時間)
第9回　SCMを取り入れていないメーカーは、どのような問題に直面するかについて、整理する。
第10回　「個人営業」と「組織的営業」の違いについて、整理する。（２時間）
第11回　「１回１回の交換を中心にした取引」と「継続的関係の構築を中心とした取引」の具体例を、授業で紹介できるよう準備する。（２時間）
第12回　顧客理解において、定性調査と定量調査それぞれの有効性について整理する。（２時間）
第13-14回　ブランド機能や効果について整理する。(4時間)
第15回 マーケティングにとって、社会責任活動はなぜ必要な活動なのか考察する。（２時間）

教科書・参考書等
教科書
石井淳蔵・廣田章光・清水信年（編）『１からのマーケティング第4版』、碩学舎、2019年

参考書
石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文（編）『１からのマーケティング・デザイン』、碩学舎、
石井淳蔵『マーケティングを学ぶ』、ちくま新書、2010年。

オフィスアワー　　随時、研究室（南キャンパス３号館３階）にて受け付けます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
成績評価などの履修上注意事項の説明を行うため、第1回目の授業に必ず出席すること。

# 学部専門科目(１年次配当)

| ナンバリングコード　B2GE0-bdeE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：331020)<br>観光学概論<br>Introduction to Tourism | 科目区分 | 時間割<br>後期火5 | 対象年次及び学科<br>1～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B2GE0 | DP・提供部局<br>bdeE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>山崎　隆之 | 関連授業科目　　まちづくり論、地域活性化論、エコツーリズム論、観光地理学、観光産業論、観光政策論 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

誰もが経験したことのある旅行（観光）ですが、では改めて「観光とは何か？」と問われると答えに困るのではないでしょうか。

「観光は地域の総合産業」「観光は地域のまちづくりの総仕上げ」などとも言われるように、観光は単に旅行すること自体に留まらず、地域の色々なものごとに関わりのある人間の行動であり、経済活動です。

この授業では、観光の持つ多様な側面について解説するとともに、現在、全国各地で行われている観光振興のための取り組みについても、できるだけ多くの事例を紹介します。

授業の目的

これから観光について学んでいくための足場固めをするために、幅広い観光の分野についての基本的な理解【b】すると同時に、各地の具体的な事例から地域における観光の現状について理解【e】することを目指します。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １．学んだ概念や用語を使って観光について説明できる。<br>２．様々なタイプの観光の実例について、具体的に説明できる。<br>３．観光の持つ魅力や課題について指摘できる。 | |

成績評価の方法と基準

①授業各回の小レポート（45%）と②期末レポート（55%）の総合評価とします。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

(1) イントロダクション① 欲望の旅、学びの旅
(2) イントロダクション②「どっさり」と「ゆったり」
(3) 用語から見る観光
(4) 歴史から見る観光
(5) データから見る観光
(6) 観光資源と観光ルート
(7) 観光産業の特徴
(8) 観光産業①宿泊業
(9) 観光産業② 旅行業
(10) 観光産業③ 交通運輸業
(11) ニューツーリズム①
(12) ニューツーリズム②
(13) 観光まちづくり①
(14) 観光まちづくり②
(15) 観光政策と観光マーケティング

【授業外での学び（自学自習）】

授業の中で観光に関する様々な事例を多数紹介します。授業内で紹介できるのは、それぞれの取り組みのごく一部でしかないので、興味を持った事例については、インターネットや新聞・雑誌、書籍などで、関連する他の事例などについて調べてみてください。

【授業形態】

この科目は全回対面授業を行う予定ですが､状況によって全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。いずれの場合でも、講義や課題は同じ内容のもので変更ありません。

教科書・参考書等

教科書：特になし。適宜授業内で資料等を配布します。

参考書：

羽田耕治著『地域振興と観光ビジネス』JTB能力開発、2008年

竹内正人・竹内利江・山田浩之編著『入門　観光学』ミネルヴァ書房、2018年

オフィスアワー　　授業終了後に対応します。　　山崎研究室（南3号館3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・授業計画は進捗状況により、変更になる場合があります。変更については授業内で適宜連絡します。

・授業に参加する意思がない態度や、授業の進行の妨げになる行動をとる学生については退室を指示し、態度が改められない場合は単位の取得を認めない。

| ナンバリングコード　B2SCL-bcxE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：332071)<br>グローバル社会概論<br>Globalization and Society<br>グローバリゼーションと社会<br>Globalization and Society | 科目区分 | 時間割<br>後期木4 | 対象年次及び学科<br>1～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B2SCL | DP・提供部局<br>bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>園部　裕子 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

世界の文化と社会についてこれから勉強していくうえで､予備知識として必ず知っておくべき用語や概念について解説する。それらの用語・概念の歴史的・社会的背景についてもあわせて考察する。

なおこの授業は対面で行う。

授業の目的

グローバル社会・経済を学ぶための基礎的・予備的な知識を得る。私たちが生きている世界の現在の状況と、それに至るまでの歴史的な背景を、具体的な事例から理解する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 世界の国・地域について、具体的にイメージすることができる。世界の言語、文化、社会の幅広い領域について深い関心を持つ。国際的なことがらについて問題意識を持ち、自分に関わる問題として考えることができる。講義で扱った基本的な用語や概念について説明できるようになる。 | |

成績評価の方法と基準

平常点（授業への参加度をミニレポートで評価）20%、中間試験および期末試験80%により、総合的に評価する。毎回出席をとるので欠席しないこと。無断欠席5回で自動的に「不可」となるので注意すること。中間試験・期末試験いずれも必ず受けること。

※出席してミニレポート用紙に名前を書くだけでは「平常点」は与えられない。必ず意見・感想・質問などを書いて提出すること。

※中間試験と期末試験どちらか一方でも受けないと単位は与えられない。

※しかるべき理由（病気・怪我、忌引、大会参加等）で欠席する場合は、証明書等を添えて欠席届を提出すること。就職活動で欠席する場合も、会社説明会等に出席していたことを証明するものを添えて欠席届を提出すること。

※なお、適正な収容人数を超えた場合、他学部生の受講制限を行う。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【学習の方法】

授業は必ずノートを取りながら聴く。配布されるプリント等の資料をしっかり読み、解説された用語・概念をよく理解する。

【授業計画】

(1) 世界の国と地域
(2) 世界の国と言語
(3) 言語と文化
(4) 民族概念とその歴史
(5) 世界の宗教
(6) 宗教・社会・経済
(7) 政治体制とその歴史
(8) 中間試験（試験範囲は第1回～第7回）
(9) 国家と国民
(10) 経済のしくみ
(11) 帝国主義と植民地主義
(12) 越境・移動・グローバリゼーション
(13) 南北問題と東西冷戦
(14) ジェンダーとセクシュアリティ
(15) メディアと社会
期末試験（試験範囲は第9回～第15回）

※順番・内容は若干変更される場合がある。

※各回の担当教員については、初回の講義で一覧を示す。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】
・準備学習：2時間×15回＝30時間
・事後学習：2時間×15回＝30時間
※授業時に紹介される参考文献を読むことを考慮すると、相当の時間が必要になります。

教科書・参考書等
各教員が随時指定する。

オフィスアワー　　個別の講義内容については各教員に確認すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
この講義で扱う用語・概念はいずれもごく基本的なものです。そのつどしっかり習得すること。遅刻、途中退出厳禁。

# 学部専門科目(２年次配当)

| ナンバリングコード　B2ECN-bcxE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：312031)<br>政治経済学Ⅰ<br>Political Economy Ⅰ | 科目区分 | 時間割<br>前期水2 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B2ECN | DP・提供部局<br>bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>沖　公祐 | 関連授業科目　政治経済学Ⅱ | | |
| | 履修推奨科目　政治経済学Ⅱ | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)

授業の概要

マルクス経済学の方法に基づき、資本主義の原理についての基礎的な講義を行う。資本主義とは、市場を中心とした経済システムである。このような経済システムは普遍的なものではなく、資本主義以前には、市場は社会の付属物にすぎなかった。資本主義は、歴史上のある時点に成立した特殊な経済システムなのである。たとえば、店頭に並んでいる商品や財布のなかの貨幣は、一見すると、当たり前のありふれたものに見える。しかし、資本主義を特殊歴史的なシステムとして捉えるならば、決して自明のものでないことが分かってくる。この講義では、商品、貨幣、資本などの資本主義の諸要素を当然の前提とするのではなく、「なぜ商品には価格がつくのか」、「市場に貨幣が存在する理由は何か」、「資本はどのようにして利潤をあげることができるのか」といった一見単純だが、決して簡単ではない問題についてじっくりと考えていく。

授業の目的

われわれが目の当たりにする現実の資本主義は、きわめて複雑である。本講義では、マルクス経済学の基礎的知識を習得すると同時に、この複雑さの背後にある資本主義の基本構造を理解するために必要な抽象的思考力の獲得を目指す。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ・資本主義の特徴を述べることができる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。<br>・マルクス経済学の基本的概念を説明することができる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。<br>・剰余価値の発生メカニズムを論理的に説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 | |

成績評価の方法と基準

小テストと期末試験によって評価を行なう。配点は、小テスト20点、期末試験80点とする。
※但し、対面での小テストが行えなくなった場合には成績評価の方法・基準を変更することがありうる。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

1. ガイダンスとイントロダクション（政治経済学とは何か)
2. 政治経済学の対象と方法(1)
3. 政治経済学の対象と方法(2)
4. 政治経済学の対象と方法(3)
5. 商品とは何か
6. 貨幣の機能
7. 資本の形式
8. 第1回小テスト（対面)
9. 労働と生産(1)
10. 労働と生産(2)
11. 価値形成・増殖過程(1)
12. 価値形成・増殖過程(2)
13. 剰余価値の生産
14. 資本主義的生産方法
15. 第2回小テスト（対面)

【授業及び学習の方法】

板書および口述筆記による。

この授業は基本的に対面で行う。なお状況によっては授業形態を遠隔に変更する可能性がある。

【自学自習ためのアドバイス】

各回ごとにwebに掲載の講義概要を用いた予習と授業中に作成した自筆ノートを用いた復習を行うこと。

| |
|---|
| 教科書・参考書等<br>教科書：使用しない<br>参考書：小幡道昭『経済原論』（東京大学出版会）<br>　　沖公祐『「富」なき時代の資本主義――マルクス『資本論』を読み直す』（現代書館） |
| オフィスアワー　　初回時に指定する。 |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ<br>「政治経済学Ⅱ」を併せて受講することを強く推奨する。 |

| ナンバリングコード　B2ECN-bcxE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：312111)<br>計量経済学Ⅰ<br>Econometrics Ⅰ<br>計量経済学入門 | 科目区分 | 時間割<br>前期火4 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B2ECN | DP・提供部局<br>bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>久松　博之 | 関連授業科目 | 統計学入門，統計学，マクロ経済学Ⅰ，ミクロ経済学I | |
| | 履修推奨科目 | 統計学入門，統計学，マクロ経済学Ⅰ，ミクロ経済学I | |

学習時間　　授業90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

計量経済学（Econometrics）の基礎について講義する．経済理論（仮説）が，現実の経済の動きをうまく説明しているかどうか検証するための統計学的な手法を身につける．

授業の目的

計量経済学の基本的な考え方を習得し，実際の経済統計データを使って計量経済分析ができるようになる．

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| ・基本統計量，散布図と相関係数を理解する．<br>・回帰モデルと最小２乗法の考え方を理解する．<br>・Excelを使って回帰分析ができるようになる． | |

成績評価の方法と基準

期末試験（100点満点）で60点以上を合格とする．期末試験得点が60点に満たない場合，その他得点（課題レポートや宿題を課す場合はその得点）を期末試験得点に加算した得点が60点以上であればC（可）とする．

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【講義の方法】

板書講義．配布資料を使って説明する場合がある．テキスト付録のWeb資料でExcel実習を行う場合がある．Excelを使って処理する課題レポートを課す場合がある．ノートPC教室持ち込みで教室でExcel実習を行う，練習問題を解く場合はホワイトボードに解答させ，答え合わせをすることで双方向化を試みる．

この科目は全回対面で授業を行う．なお，状況によっては授業形態を遠隔へ変更する場合がある．

【講義計画】

第１回：計量経済学とは何か，授業ガイダンス
第２回：データの整理（１）：基本統計量：平均，分散ほか
第３回：データの整理（２）：散布図と相関係数
第４回：最小2乗法の考え方：散布図への回帰直線のあてはめ
第５回：回帰モデルのあてはまりの良さ：決定係数
第６回：標準的線形回帰モデルの仮定とデータの生成過程
第７回：最小2乗推定量の導出
第８回：最小2乗推定量の期待値と不偏性
第９回：最小2乗推定量の分散と効率性，一致性
第10回：回帰係数の有意性検定：ｔ－値（t－検定）
第11回：誤差項の系列相関とダービン・ワトソン検定
第12回：Excel分析ツールによる回帰分析：実習
第13回：Excelによる消費関数の推定：課題処理
第14回：単回帰モデルから重回帰モデルへ
第15回：授業の総括と期末試験について
[期末試験]

【自学自習に関するアドバイス】

毎回，テキストと配布するレジュメを使った事前学習を2時間，事後学習はWeb資料でのExcel実習2時間あるいは章によっては宿題（練習問題）を課すので，それを解くのに2時間が基本パターン．

【この授業における欠席に関するルール】
　香川大学単位の授与に関する規程第4条に「開講時数の3分の2以上出席していない者については，その授業科目の単位を与えない。」とある．
（1）欠席する場合，事前の連絡は一切不要．後日，欠席届とそれを証明する書類を添付して提出すること．
（2）公欠にあたる場合（感染症、忌引き等）は，出席扱いにしてその時間配布した資料を与える．
（3）公欠にはあたらないがやむをえない事由だと判断できる場合，欠席扱いにはするが，申し出があれば配布した資料は与える．
（4）自己都合の欠席の場合，欠席した授業で配布した資料は与えない．

＊ 体調不良の場合は欠席した方がいい場合もあるが，出席したりしなかったりを繰り返すと内容が理解できず単位を落としてしまうので，可能な限り出席するよう心がけること．

【統計検定3級及び2級試験の受験を希望する学生へ】
　統計検定3級試験の受験を希望する学生は，2020年6月試験より出題範囲が広がり，これまでは記述統計，確率，母集団と標本までだったが，これに推定，仮説検定，単回帰分析まで含まれるようになるので，計量経済学Iおよび計量経済学IIの履修を勧める．統計検定2級試験の受験を希望する学生は，重回帰モデルの推定と結果の解釈を問う問題が出題されることがあるので計量経済学IIの履修は必須．

教科書・参考書等
教科書：『入門計量経済学』　山本拓・竹内明香著　新世社　定価2500円＋税
参考書：随時指示する．

オフィスアワー　　月曜日3限目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
1．統計学入門，統計学の単位を取得済みであること．
2．2/3以上出席していない場合，成績は自動的に不可になる．
3．欠席に関するルールがあるので注意すること．
4．質問がある場合は必ず自筆のノートを持参すること．
5．スマホ・携帯のカメラ機能での板書撮影を原則禁止する．

| ナンバリングコード　B2ECN-bcdE-30-Lg2<br>授業科目名　　(時間割コード：312125)<br>経済政策<br>Economic Policy | 科目区分 | 時間割<br>前期月3 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B2ECN | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lg | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>岡田　徹太郎 | 関連授業科目 | 政治経済学I | |
| | 履修推奨科目 | 政治経済学I | |

学習時間　　講義90分 × 15回 ＋ 自学自習（準備学修 15時間 ＋ 事後学修 45時間）

授業の概要

経済政策の基本的な枠組みについて解説する。

受講者は、本講義と並行して、政府や国会、日本銀行などで、どのような政策の発動が議論されているか、ニュースに注意を払うことが望ましい。

アクティブ・ラーニング型授業を導入する。授業内容への深い理解に結び付けるためのワーク*を行う。

* 受講希望者が150名未満の場合は対面授業でグループ・ワークを行う。受講希望者が80名以上200人未満の場合は遠隔システムを用いたでグループ・ワークを行う。受講希望者が２００名以上の場合は遠隔遠隔システムを用いた個人ワークを行う。

なお、２００名未満の場合でも、グループ・ワークを苦手とする者は、個人ワークも認めるので、初回の講義前に申し出ること。

授業の目的

経済政策の基礎を理解することを目的とし、さまざまな疑問に対する回答を、自ら導き出せるようにする。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １．経済政策の基礎について説明できる。(b：知識・理解)<br>２．政府の役割や機能について説明できる。(c：問題解決・課題探求能力)<br>３．経済政策の課題について説明できる。(c：問題解決・課題探求能力, d：倫理観・社会的責任) | |

成績評価の方法と基準

ワークへの取り組み20点、講義レポート20点、小テスト10点、期末試験50点の合計100点満点とし、学則にしたがった成績をつける。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

・授業計画

レクチャーによる口述筆記とグループワークによる。

(1) 経済学と経済政策
(2) 経済学とは何か
(3) 経済政策とは何か
(4) 経済政策を理解するためのキーワード(国民経済計算)
(5) 経済政策を理解するためのキーワード(雇用統計)
(6) 政府を概観する
(7) 政府の役割
(8) 市場の失敗
(9) 政府の失敗
(10) 政府の課題
(11) 日本経済をめぐる課題
(12) 長期不況とデフレ経済
(13) 長期不況からの脱出
(14) 経済政策をめぐる諸問題
(15) 新時代の経済政策

・自学自習に関するアドバイス

講義毎に、指定教科書の該当範囲を指定するので、講義前に教科書を熟読し、予習をすること（各回1時間)。

講義後にレポートを課すので、講義内容を振り返り、深く復習し、まとめ・疑問・感想などを取りまとめて提出すること（各回3時間)。

この科目は全回対面授業を予定している。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により、全てまたは一部を遠隔へ変更する可能性がある。

教科書・参考書等
・教科書
『ゼロからはじめる経済入門』有斐閣コンパクト、2019年、2300円。講義室への持参は求めないが、講義内容は教科書に沿って進めるので、事前に熟読し予習に用いること。なお、期末試験問題の素材としても利用する。

・参考書
経済辞典として、金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣　経済辞典』第5版、4200円、を指定する。この科目だけではなく、全ての経済学・経営学の科目に適合する学修用。経済学部生の必携辞書と考えた方が良い。
一般的な参考書として、田代洋一・萩原伸次郎・金沢史男編『現代の経済政策（第4版)』有斐閣ブックス，2011年，2900円、を推薦する。

オフィスアワー　　火曜日IV時限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
アクティブ・ラーニング型授業で学修する。授業への積極的な関わりを期待している。出席は必須。止むを得ず欠席した場合は、必ず自学自修で追いつくことを旨とし、放置しないこと。

| ナンバリングコード　B2ECN-badE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：312131)<br>社会政策Ａ<br>Social Policy A | 科目区分 | 時間割<br>後期木2 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B2ECN | DP・提供部局<br>badE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>加藤　美穂子, 佐藤　忍 | 関連授業科目 | 社会政策B | |
| | 履修推奨科目 | 経済政策、財政学、福祉経済論 | |

学習時間　　講義９０分×１５回＋自学自習（準備学習１０時間＋事後学習２０時間+レポート課題３０時間）

授業の概要

私たちはこれからいろんな試練を乗り越えなければならない。まず最初に、就職という難関が待っている。希望どおりに就職できたとして、今度は厳しい競争社会のなかで生活の糧を稼がなければならない。死ぬまで働き続けるわけにもいかない。老後はどうする？

私たちは生活上の諸問題をいろんな手段で解決しなければならない。自分自身で処理できることもあれば、他者の助けを必要とすることもある。市場経済による処理はそのひとつである。家族、仲間、企業などの内部における相互扶助もある。そして政府も一定の枠組みを提供している。社会政策とは、生活上の諸問題を処理するための社会的な働きかけであり、仕組みである。

この社会政策Aでは、社会政策(Sozialpolitik)という政策概念について、歴史と現状の両面から、講義する。

授業の目的

社会政策とは、「生きる」「働く」「老いる」といった私たちの生活のあり方を根底から規定する諸政策の総称である。この授業は、社会政策の史的展開を踏まえて今日的課題を探求することを目的とする。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １．生活保護の仕組みを説明できる。<br>２．現代の貧困について自分のこととして理解できる。 | |

成績評価の方法と基準

練習問題（宿題)、期末試験等に基づき総合して評価する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を一部または全て遠隔へ変更する可能性があります。

ガイダンス……(1)

Ⅰ　社会政策とは
　（１）社会というもの……(2)
　（２）政策という働きかけ……(3～4)
Ⅱ　社会政策の諸領域
　（１）生きる
　　１．救貧法……(5～6)
　　２．公的扶助……(7～8)
　　３．現代の貧困……(9～10)
　（２）働く・老いる
　　１．工場法……(11)
　　２．最低賃金……(12)
　　３．社会保険……(13～14)

まとめ……(15)

授業の理解度を確認するために毎回、レポート課題もしくは練習問題等の宿題を課す。自学自習のきっかけとしても積極的に活用すること。

【自学自習のためのアドバイス】
授業を予習する。（１×１０時間）
授業を復習する。（２×１０時間）
レポート課題を提出する。（２×１５時間）

教科書・参考書等
使用しない。
小川喜一編『社会政策の歴史』有斐閣、１９７７年。
玉井金五・大森真紀編『新版　社会政策を学ぶ人のために』世界思想社、２００４年。
成瀬龍夫『総説　現代社会政策』桜井書店、２００６年。
久本憲夫『日本の社会政策[改訂版]』ナカニシヤ出版、２０１５年。
駒村康平ほか『社会政策　福祉と労働の経済学』有斐閣、２０１５年。

オフィスアワー　　授業終了時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
現実の身のまわりの生活の中に様々な形で社会政策が滲透していることを､そして同時に様々な問題を抱えていることを実感し、確かめながら、受講してください。

| ナンバリングコード　B2BSN-abcE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：320303)<br>会計学総論<br>Basic Accounting<br>会計について知る | 科目区分 | 時間割<br>前期火1 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B2BSN | DP・提供部局<br>abcE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>朴　恩芝 | 関連授業科目 | 会計学関連科目 | |
| | 履修推奨科目 | 簿記入門 | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習15時間＋事後学習15時間）

授業の概要

本授業では、会計学の基礎的な知識を習得すること、に重点を置きます。
まず、会計とは何か、なぜ会計情報が必要なのかの概要、企業の開示する会計情報の機能、そこから企業活動の大まかな流れを読み取ります。
そのうえで、その根底にある理論的な概念と考え方について学習します。
このように、本授業では、会計学の詳細な「各論」の基礎となる「総論」について学習します。

授業の目的

講義を通じて、会計全般の基礎的な知識を身に着けます。
今後学ぶことになるより専門的な会計授業、つまり「各論」の学習に対応できるよう、基礎的な会計の理解と体力づくりをします。また、企業の会計情報から企業の経済活動の実態を読み取る能力も備えましょう。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 1. 会計の基本的な仕組みを学習することで、企業の財務情報の全体像が理解できます。<br>2. 企業の経済活動をまとめた財務情報が、会計理論と基準、根拠となる考え方によって異なることを知ることができます。<br>3. そのうえで、今の会計情報がどのような考え方に基づいてできているのかを理解することができます。 | |

成績評価の方法と基準

小テスト（複数回実施）と期末試験（40%)による総合的評価が原則だが、状況によって変更もあります。
対面授業かどうかによっても、試験の実施内容および評価が異なります。
なお、受講のマナーを守ってください。守らない場合は単位を認めません。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

まず、会計、主に財務会計の基礎概念を丁寧に説明します。
そのうえで、会計情報をつくる基礎として会計理論と基準、処理方法について理解を深めます。
なお、授業と評価は、授業の進捗状況によって、時期や内容を変更することがあります。

第1回　共通言語としての会計　－会計がなぜ必要なのか、どんな機能を持っているのか
第2回　会計の情報利用者と財務諸表の基礎　－情報を利用するという意味は？
第3回－第４回　会計理論と会計基準　－会計数値の根拠は？
第5回－第7回　利益測定と資産評価の基礎　－企業にとって利益の意味は？会計数値はどう作られていくのか？
第８回－第10回　資産と損益項目　－会計情報の重要項目とその意味
第11回－第12回　負債項目　－会計情報の重要項目とその意味
第13回－第14回　純資産項目　－会計情報の重要項目とその意味
第15回　まとめ
期末試験

注意：対面授業の実施を基本としますが、状況によって柔軟に対応します。

教科書・参考書等

参考書　桜井久勝『財務会計講義（最新版)』中央経済社、4000円程度。購入は必須ではありません。
必要な資料は配付します。
講義では、テキストの必要な部分をかいつまんで説明します。なお、より専門的な会計の勉強を予定している人は購入（最新版）をお勧めします。この科目受講だけの場合でも、流れをとるためにはあった方がいいでしょう。古本を利用してもかまいませんが、５，６年程度のものにしてください。一部大きく変わったところもあります。

オフィスアワー　　木曜日２講目（10：30－12：00）　南キャンパス3号館3階（朴恩研究室）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

受講のマナーを守ってください。守らない場合は単位を認めません。
簿記の知識があると、より授業内容が分かりやすくなります。事前に必要な基礎内容を学習してからの受講が望ましいです。なお、第1回講義には必ず出席してください。注意事項や講義計画、試験などについて説明を行います。

| ナンバリングコード　B2ECN-bcdE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：312151)<br>金融論Ⅰ<br>Monetary Economics Ⅰ | 科目区分 | 時間割<br>前期金4 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B2ECN | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>藤原　敦志 | 関連授業科目 | 金融論Ⅱ | |
| | 履修推奨科目 | 金融論Ⅱ、金融政策Ⅰ・Ⅱ | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習

授業の概要

この授業では、初歩的な教科書に沿って、金融論の基礎的な内容を学んでいく。
具体的には貨幣、金利、金融政策、日本銀行、金融システム、金融仲介機関、銀行以外の金融機関、金融システム安定化のための政策、金融機関の破綻への対応策、金融市場に関する規制、間接金融型の金融商品と直接金融型の金融商品、ファイナンスの基礎理論について学んでいく。

授業の目的

・貨幣と金利を理解する。
・金融政策の基礎を理解する。
・金融機関について理解する。
・金融市場について理解する。
・金融商品について理解する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ・貨幣と金利について説明できる。<br>・金融政策の基礎を説明できる。<br>・金融機関について説明できる。<br>・金融市場について説明できる。<br>・金融商品について説明できる。 | |

成績評価の方法と基準

中間試験100点・期末試験100点の合計200点満点で評価する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

授業形態は基本的に対面とする。

教科書の要点をまとめたものを穴埋め形式のプリントとして配布し､重要語句を自分でプリントに書き込みながら教科書の内容を理解する。

第1回　金融論で何を学ぶか
第2回　貨幣
第3回　金利
第4回　金融政策のためのマクロ経済学
第5回　金融政策の課題と日本銀行
第6回　金融政策の基本手段と新しい展開
第7回　金融システムと金融仲介機関の役割
第8回　中間試験
第9回　銀行以外の金融機関
第10回　金融システム安定化のための政策
第11回　金融機関の破綻への対応策
第12回　金融市場に関する規制
第13回　間接金融型の金融商品
第14回　直接金融型の金融商品
第15回　ファイナンスの基礎理論

【自学自習に関するアドバイス】

第1回～第15回　事前に教科書を読み、予習課題をこなす（各2時間×15＝30時間）
第1回～第15回　授業後にハンドアウトを読み返し、復習課題をこなす（各2時間×15＝30時間）

教科書・参考書等

（教科書）家森信善（著)『金融論（第３版)』中央経済社、2022年、2200円＋税

オフィスアワー　　月～木　9：30～11：30

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

金融論Ⅰは金融論Ⅱや金融政策Ⅰ・Ⅱ、経営財務論などの応用科目のための基礎知識を与えます。

<table>
<tr><td rowspan="3">ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：322245)<br>リスクと保険<br>Introduction to Risk and Insurance</td><td>科目区分</td><td>時間割<br>後期水1</td><td>対象年次及び学科<br>2～経済学部</td></tr>
<tr><td>水準・分野<br>B2BSN</td><td>DP・提供部局<br>bcdE</td><td>対象学生・特定プログラムとの対応<br>30</td></tr>
<tr><td>授業形態<br>L</td><td>単位数<br>2</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">担当教員名<br>安井　敏晃</td><td colspan="3">関連授業科目　　保険システム論等</td></tr>
<tr><td colspan="3">履修推奨科目　　保険システム論</td></tr>
<tr><td colspan="4">学習時間　　授業90分×15回 ＋自学自習（準備時間30時間+事後学習30時間）</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>我々は，様々なリスクに取り囲まれており，それらのリスクに対処する必要があることはいうまでもない。<br>本講義では，保険を中心にリスク処理手段についてごく基礎的な内容を概説する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の目的<br>リスクおよび保険制度のごく初歩的な知識を身につける。</td></tr>
<tr><td colspan="3">到達目標</td><td>学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準)</td></tr>
<tr><td colspan="3">リスクの処理手段に関心をもつことができる。<br>保険制度の初歩的な知識を修得する。</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">成績評価の方法と基準<br>期末試験により評価する（100%)。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ</td></tr>
<tr><td colspan="4">口述筆記，板書等<br>(1)危険について<br>(2)リスクについて<br>(3)ハザードについて<br>(4)リスク及びその類概念<br>(5)リスクマネジメントと保険<br>(6)保険の仕組み(1)<br>(7)保険の仕組み(2)<br>(8)リスク・マネジメントの枠組み<br>(9)リスク・マネジメント・プロセス<br>(10)　リスク・コントロール<br>(11)リスク回避<br>(12)リスク・コントロールの理論<br>(13) リスク・コントロールの限界<br>(14)リスク・ファイナンス<br>(15)　まとめ<br>自学自習について<br>授業中の指示に従い，提示された書籍，新聞記事などを確認すること。<br>必ず復習しておくこと。<br>なお，授業計画を変更することがあるので注意されたい。<br>この科目は基本的に対面講義で行う予定である。<br>もっとも受講生が多く，三密が避けられない等，状況によっては授業の一部または全てを遠隔講義で行う可能性がある</td></tr>
<tr><td colspan="4">教科書・参考書等<br>教科書：使用しない。<br>参考書：適宜指示する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">オフィスアワー　　時間：水曜日の2校時。変更する場合には講義中に指示する。<br>場所：安井研究室</td></tr>
<tr><td colspan="4">履修上の注意・担当教員からのメッセージ<br>シラバスで授業計画を示しているが、教育効果を高めるために，実際の進度状況をみながら授業計画を変更することがある。<br>大学生にあえて注意することではないが，講義中には，私語ならびに本講義と関係のない作業をしてはならない。講義中の途中退室は認めない（体調不良等については初回の講義で説明する)。<br>許可された場合を除き，講義中の写真撮影・録音を禁じる。携帯・スマートホンの電源を切っておくこと（特別な理由から必要な場合には，事前に届けること)。これら禁止事項の違反が度重なる場合には単位を認定しない。ルールを守る自信がない学生は受講しないこと。<br>なお，出席をとる予定である。15分以上遅刻した場合には欠席扱いとなる。<br>やむをえず欠席する場合には，各自で欠席回数を記録しておくこと。欠席回数（出席回数）についての質問には答えられない。<br>遠隔講義の場合であっても，上記の注意事項を守ること。当然，席を指定しないが，ノートテイクできる状態で受講すること。</td></tr>
</table>

| ナンバリングコード　B2ECN-bcdE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：312141)<br>財政学Ａ<br>Public Finance A | 科目区分 | 時間割<br>前期木4 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B2ECN | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>長山　貴之 | 関連授業科目　　財政学Ｂ | | |
| | 履修推奨科目　　ミクロ経済学Ⅰおよびマクロ経済学Ⅰ | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要
財政学は租税論、公債論、予算論、経費論、財政政策、地方財政論などから構成されるが、この講義は主として租税論を取扱う。詳細な理論的分析ではなく広範な制度的解説を行うことを心掛ける。具体的には、我が国の基幹税の仕組みを一通り教える。なお、この講義はミクロ経済学およびマクロ経済学の基礎的知識を前提にする。

授業の目的
租税に関する主要な制度を理解すると共に、それらの制度が抱える課題を探求できるようになる。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| (1)租税に関する主要な制度を説明できる。（ＤＰの「知識・理解」に対応）<br>(2)租税に関する主要な制度が抱える課題を分析できる。（ＤＰの「問題解決・課題探求能力」に対応） | |

成績評価の方法と基準
期末課題によって評価します。評価の観点は、専門知識（60%）、課題探求能力（30%）、倫理観（10%）とします。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

| | |
|---|---|
| 第１回　オリエンテーション：租税とはなにか | |
| 第２回　日本の租税制度 | 第３回　所得税Ⅰ |
| 第４回　所得税Ⅱ | 第５回　所得税Ⅲ |
| 第６回　所得税Ⅳ | 第７回　所得税Ⅴ |
| 第８回　法人税Ⅰ | 第９回　法人税Ⅱ |
| 第10回　消費税Ⅰ | 第11回　消費税Ⅱ |
| 第12回　消費税Ⅲ | 第13回　相続税 |
| 第14回　贈与税 | 第15回　まとめ |

【授業および学習の方法】
資料を配付し、板書で補足する。
授業は原則として対面方式で実施する。
状況によっては授業の実施方式を変更する場合がある。

【準備学習および事後学習のためのアドバイス】
第２～14回　新聞や雑誌の記事を集め、授業内容の理解に役立てる。（１時間×13回）
参考書の該当箇所を読み、授業内容の理解に役立てる。（２時間×13回）
参考書を精読し、日本の租税制度の課題を考察する。(15時間)
日本の租税制度の課題に関するレポートを作成する。（６時間）

教科書・参考書等
【参考書】林宏昭『日本の税制と財政』中央経済社, 2019年, 2750円.

オフィスアワー　　月曜日３時限目。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
出席確認や資料配布はムードルで実施します。

| ナンバリングコード　B3BSN-bcdE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：322142)<br>企業倫理<br>Business Ethics | 科目区分 | 時間割<br>前期月3 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>山口　尚美 | 関連授業科目　　経営学史 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自主学習60時間

授業の概要

この授業では、主として以下の論点を取り上げることから、社会に対して責任ある企業行動を確保するために必要な考えを学びます。
①企業に求められる「責任」とは何か。とりわけ、倫理的責任とは何か。
②どのような出来事が「企業不祥事」として問題になっているのか。
③それらの出来事のいかなる点が倫理的に問われているのか。
④企業行動の倫理性を確保するためには、どのような思考と実践が必要か。

授業の目的

企業倫理と企業統治の基本的な概念と実践上の課題への理解を深め、社会に対して責任ある企業行動を確保するために必要な考えを学びます。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ①企業倫理と企業統治の概念を、他の類似概念と混同せず、しっかりと理解すること。<br>②現実の企業行動を、経済合理性のみならず、倫理性の観点からも、批判的に考察・評価できるようになること。<br>③日本企業の問題行動を防止するためには何が必要か、自分なりの意見を持つこと。<br><br>※DP（ディプロマ・ポリシー）との対応……上記の到達目標のうち、①はDP-b（知識・理解）に、②はDP-d（倫理観・社会的責任）に、②③はDP-c（問題解決・課題探求能力）に対応。 | |

成績評価の方法と基準

レポート40%、学期末試験60%

レポートを提出し、学期末試験を受けることが、単位認定の前提条件となります。
どちらか片方が欠けていたら、単位認定されません。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】
(1) ガイダンス：この授業で何を学ぶのか
(2) 日本企業による問題行為の推移
(3) なぜ倫理について考える必要があるのか
(4) 多国籍企業をめぐる倫理的問題
(5) 功利主義の視点
(6) 義務論の視点
(7) 日本の企業倫理の特徴
(8) 企業形態から見る株式会社
(9) 企業統治の論点
(10) 企業統治の国際比較
(11) 日本の企業統治の特徴
(12) 日本の企業統治の変化
(13) ESG投資
(14) 予備
(15) 総復習とまとめ

※授業の進捗状況に応じて、上記の授業計画を変更する可能性があります。
※授業は基本的に対面で行います。一部の授業回では遠隔（ZOOM）になる可能性があります。

【自学自習の方法】
・配布したプリントを事前に読み、予備学習をすること。(1時間)
・授業終了後、ノートとプリントを読み返しながら、関連書籍を調べること。(3時間)
・企業不祥事に関するニュースを気に掛け、なるべく多くの事例を知っておくこと。

| |
|---|
| 教科書・参考書等<br>教科書は指定しません。<br><br>【参考書】<br>風間信隆編著（2019)『よくわかるコーポレート・ガバナンス』ミネルヴァ書房。 |
| オフィスアワー　　水曜日10:30-11:30<br>必ず事前にメールか口頭でアポイントを取ってください。<br>なお、質問は授業後に教室でも受け付けます。 |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ<br>わからないことがあったら、気兼ねなく質問してください。 |

| ナンバリングコード　B3BSN-bcxE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：322019)<br>経営組織論<br>Organization Theory | 科目区分 | 時間割<br>前期水2 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>松岡　久美 | 関連授業科目 | 経営管理論、経営戦略論、人的資源管理論A/B | |
| | 履修推奨科目 | 経営管理論、経営戦略論、人的資源管理論A/B | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

経営組織のマネジメントにかかわる諸理論を紹介した上で､今日の企業経営におけるマネジメント上の課題と解決法について事例を交えた考察を行う。

授業の目的

この授業では、組織現象に対するさまざまな研究アプローチや基礎理論にかかわる知識を習得するとともに、それらの知識を活かし、企業活動に関わる組織的な課題を整理し、自己の問題意識と関連づけて探求できるようになることを目的とする。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １．組織のマネジメントに関わる基礎的な理論を理解し、分かりやすく説明することができる（学士課程のDP「b：知識・理解」に対応)。<br>２．企業活動に関わる組織的な課題について理論と関連付けて説明を行うことができる（学士課程のDP「b：知識・理解」に対応)。<br>３．企業活動に関わる組織的な課題について、自身の問題意識と関連づけて考察し、解決策を提示することができる（学士課程のDP「c：問題解決・課題探求能力」に対応)) | |

成績評価の方法と基準

ミニレポート（30%)、期末試験（70%）により総合的に評価する。ミニレポートは複数回実施する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

１．イントロダクション（組織論とはどのような学問か)
２．モチベーション①（テキスト1章)
３．モチベーション②（テキスト2章・3章)
４．採用と組織社会化（テキスト4章・5章)
５．キャリア
６．リーダーシップ①（テキスト7章)
７．リーダーシップ②（テキスト8章)
８．グループダイナミクス（テキスト9章)
９．コンフリクトと交渉（テキスト10章)
１０．組織文化（テキスト11章・12章)
１１．組織のデザイン
１２．組織変革
１３．事例検討１
１４．事例検討２
１５．まとめ（テキスト13章)

＊対面での授業を基本とする。
＊進捗状況に合わせ、授業計画を修正する場合がある。

【授業および学習の方法】

経営組織のマネジメントにかかわる諸理論について講義する。理論と現実の接合がはかれるよう、適宜、事例の紹介やエクササイズ、映像教材等を使用する。基本的にテキストに沿って進めるので、事前に予習して内容を把握しておくことが望ましい。授業後には再度内容を振り返り、理解状況を各自でチェックすること。準備学習に1回2時間、事後学習（ミニレポートの作成を含む）に1回2時間程度をあてることが望ましい。

教科書・参考書等

教科書：鈴木竜太・服部泰宏（2019)『組織行動：組織の中の人間行動を探る』有斐閣
　税込み2200円（生協にて販売)
参考書については適宜紹介する。

オフィスアワー　　月曜日５限、南キャンパス７号館３階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

遅刻、私語厳禁。
積極的な質問を歓迎する。
授業関連の補足説明等はmoodleに掲載するので必ず確認すること。
17E以前の学生には経営組織論Aとの読み替え科目となります（経営組織論Aの単位を修得済みの学生は本講義は受講できません)。

| ナンバリングコード　B2BSN-bcxE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：322170)<br>人的資源管理論Ａ<br>Human Resource managament A | 科目区分 | 時間割<br>後期木4 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B2BSN | DP・提供部局<br>bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>青木　宏之 | 関連授業科目　人的資源管理論B | | |
| | 履修推奨科目　経営組織論A | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

人的資源管理論は、報酬管理、業務管理、雇用管理、労使関係管理などの４つの領域からなりたっており、企業内における人材の問題全般と関わる。この人的資源管理論Aの授業では、主要領域のうち、とくに報酬管理と業務管理について検討する。具体的な制度の仕組みと機能、制度間の相互関係などに注目しながら解説を進める。

授業の目的

人的資源管理の主要領域のうち、とくに報酬管理、業務管理に関する制度、運用実態、それらに影響を与える社会・経済的背景を理解することを目的とする。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| この授業の目的は以下の３点である。<br>・日本企業の報酬管理の歴史を説明することができる。(DPコード「知識・理解」に対応)<br>・日本企業の業務管理の特徴について説明することができる。(DPコード「知識・理解」に対応)<br>・日本における1990年代以降の成果主義化に関して、制度的実態およびそれをもたらした社会的背景について説明することができる。(DPコード「問題解決・課題探求能力」に対応) | |

成績評価の方法と基準

期末テストで成績評価を行う。
リアクションペーパー、小テストなどで加点を行うことがある。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】
以下は、授業の進度によって変更することがある。

(1)　人的資源管理論の学び方
(2)　賃金の決め方
(3)　賃金体系史
(4)　賃金の上がり方
(5)　賃金の経済理論
(6)　人事制度
(7)　人事評価
(8)　大卒ホワイトカラーの人的資源管理
(9)　賃金、昇進の人的資源管理：国際比較
(10)　開発技術者の仕事管理：組立産業
(11)　開発技術者の仕事管理：装置産業
(12)　成果主義
(13)　成果主義と業績管理
(14)　業績管理と生産管理
(15)　講義のまとめ

【授業および学習の方法】
この授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜グループワークを行います。

【自学学習のためのアドバイス】
第2～3回　授業中に指定する文献を用いて、事前に、企業の賃金制度改革についての事例を読んでみる。(10時間)
第4～5回　授業中に指定する文献を用いて、事前に、ミクロ経済学の基礎知識を学んでおく。(10時間)
第6～8回　授業中に指定する文献を用いて、ホワイトカラーの人事評価の具体例を読み、授業で学んだ理論的枠組みを用いて分析を行う。(10時間)
第9回　海外の人事制度の特徴について、小レポートを作成する。(10時間)
第10～11回　授業中に指定する文献を用いて、成果主義的人事制度改革に関する事例を分析する。(10時間)
第12～14回　授業中に指定する文献を用いて、事前に、管理会計に関わる基礎知識を学ぶ。(10時間)

教科書・参考書等
【参考書】
佐藤博樹・藤村博之・八代充史著（2011）『新しい人事労務管理第４版』有斐閣アルマ。2000円

オフィスアワー　　月曜日三時間目
必ずメールでアポイントを取ること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
・参考書を購入しなくても授業に出席すれば十分な理解を得ることはできる。
・正規の手続きによらない定期試験の成績調査には応じない。
・パワーポイントのシートは配布しないので、授業中の指示に従ってノートを作成すること。
・人的資源管理論は、経営学、経済学の諸領域と密接に関連しています。詳しくはその都度指摘しますが、多様な関連性を意識して学ぶことが大切です。

<table>
<tr><td rowspan="3">ナンバリングコード　B2BSN-becE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：322260)<br>流通システム論Ａ<br>Distribution System Theory A<br>流通システム論Ａ</td><td>科目区分</td><td>時間割<br>後期月2</td><td>対象年次及び学科<br>2～経済学部</td></tr>
<tr><td>水準・分野<br>B2BSN</td><td>DP・提供部局<br>becE</td><td>対象学生・特定プログラムとの対応<br>30</td></tr>
<tr><td>授業形態<br>Lx</td><td>単位数<br>2</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">担当教員名<br>渡邉　孝一郎</td><td colspan="3">関連授業科目　　流通システム論B、マーケティング論A,B</td></tr>
<tr><td colspan="3">履修推奨科目　　経営学関連科目</td></tr>
<tr><td colspan="4">学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要<br>現代の経済社会において快適な日常生活を送るためには流通は欠かせない。ただ、この快適な生活を支えている流通システムは自然にできあがったものではなく、革新的な商業者が絶え間ない試行錯誤によって生み出してきたものである。<br>そこで本講義では、流通システムの役割・意義・特徴等の理解から始まり、個別業態の具体的な成立過程や内容・特徴・課題点などを社会的・歴史的・理論的背景と連動させながら理解する。特に、この講義では流通システムの革新性の発展過程に注目する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の目的<br>いつ・どこで・誰によって・どのような背景のもと、日本の流通システムが出来上がってきたのか、それを理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="3">到達目標</td><td>学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準)</td></tr>
<tr><td colspan="3">この講義の到達目標は以下の4つである。<br>1.流通に関する基礎的な知識・理論を習得できる<br>2.流通システムが発展してきた革新の過程を社会的・歴史的・理論的背景とともに理解できる<br>3.流通システムに関する抽象的概念と具体的事例を結びつける論理的思考力を身につけられる<br>4.日常の出来事について、流通・流通システムの視点から考えることができる</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">成績評価の方法と基準<br>評価方法は講義への理解度・受講姿勢(37%)、中課題(13%)、最終試験(50%)＋αで判断する予定である（変更可能性あり、詳しくは講義内で説明）</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ</td></tr>
<tr><td colspan="4">【授業計画】<br>(1)はじめに：授業オリエンテーションと、流通に対する関心を引き出します<br>(2)流通システム論の基礎：①流通とは？：流通の役割や特徴など、流通の基礎的な知識を学びます<br>(3)流通システム論の基礎：②売買集中の原理他：商業者の存在意義に関する基礎的理論等を学びます<br>(4)流通システム論の基礎：③日本の流通構造：日本における流通構造の変化・特徴について学びます<br>(5)小売業態の革新：①商店街：流通システムを支えてきた商店街の革新性について学びます<br>(6)小売業態の革新：②呉服系百貨店：流通近代化の先端事例である呉服系百貨店の革新性について学びます<br>(7)小売業態の革新：③電鉄系百貨店：新しい形としての百貨店である電鉄系百貨店の革新性について学びます<br>(8)小売業態の革新：④流通系列化：流通系列化とは何か、なぜ流通系列化という現象が発生したかについて学びます<br>(9)小売業態の革新：⑤総合スーパー：1960年代以降の流通近代化の象徴である総合スーパーの革新性について学びます<br>(10)小売業態の革新：⑥食品スーパー：日常生活に密着した食品スーパーの革新性について学びます<br>(11)小売業態の革新：⑦コンビニエンスストア：現代生活に欠かせなくなったコンビニの革新性について学びます<br>(12)ビデオ学習：実際の現場で起こっている課題から小売業を学びます<br>(13)流通システム論の応用：①延期と投機の理論他：流通システムの効率性を考える上で欠かせない理論等について学びます<br>(14)流通システム論の応用：②商業集積と外部性：商業集積が成立する根拠や商業集積の管理問題等について学びます<br>(15)おわりに：これまでの授業の復習と試験について解説します<br><br>この科目は基本的に対面授業を行う。なお状況によっては受講生をグループに分け授業形態を一部遠隔へ変更する可能性がある。<br>また、講義中にmoodle上にて小課題等の提出を課するため、対面受講者においてもmoodleを使用できるようなPC・スマホ等の機器を必ず準備すること。準備できない場合は事前(初回含む）に渡邉まで相談すること。</td></tr>
</table>

【自学自習に関するアドバイス】
事前学習：身のまわりの流通活動や市場の動きに日頃から関心を持ち、興味を持ったものをメモすること（週に2時間程度）
事後学習：次の講義までに、配布プリント・教科書等の該当箇所をふりかえり、自身の講義ノートを補完すること（週に2時間程度）

教科書・参考書等
教科書：講義中配布のプリントで対応できるが、下記２冊があるとより理解が深まる。なお、この教科書２冊は『流通システム論B』でも同じものを利用するため、どちらも受講予定の場合は購入を勧める。
①石原武政・竹村正明・細井謙一編著(2018)『１からの流通論　第２版』碩学舎(2400円＋税)
②崔相鐵・岸本徹也編著(2018)『１からの流通システム』碩学舎(2400円＋税)

オフィスアワー　　月曜日12:10-13:00　南キャンパス３号館３階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
私語をはじめとする授業の妨げとなる行為、また授業参加への意欲が著しく低下している学生については、教育的指導を行う。
なお、この講義は流通システム論Ｂと関連しており、流通システムをより理解するためにも引き続き流通システム論Ｂを履修することが望ましい。

| ナンバリングコード　B2GE0-bceE-30-Lg2<br>授業科目名　　(時間割コード：331025)<br>観光産業論<br>Tourism Industry<br>観光産業論 | 科目区分 | 時間割<br>後期木4 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B2GE0 | DP・提供部局<br>bceE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lg | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>二ツ山　達朗 | 関連授業科目　観光学概論　国際観光論 | | |
| | 履修推奨科目　国際観光論 | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

本授業では、各産業と観光の関係について多角的に考察する講義を行います。
具体的にはまず観光と観光産業の定義について考察を深めたのち、観光客と観光対象をつなぐ媒体としての、旅客輸送サービス、宿泊サービス、アトラクション・文化サービス、飲食サービス、旅行業・ガイド、メディアなど様々なアクターについて理解を深めます。
前半は、観光とメディアの関係について、SNSや市町村のPRポスターや動画、アニメや映画などのコンテンツツーリズムなどを事例をもとに考察を深めます。
後半は、宗教と観光の関係、スポーツツーリズム、イベントツーリズム、シェアリングエコノミーなどの事例を紹介し今後の観光産業のあり方についても考察を深めてゆきます。ゲストスピーカーを2回から3回ほど呼び理解を深めます（これらの予定は、授業の進捗によって変更する可能性があります）。

授業は原則的に講義形式としますが、品評会・大喜利・ワークショップなどのアクティブラーニングを取り入れる場合があります。

授業の目的

観光産業の諸相について基礎的な事項を幅広く学ぶことで、観光・観光対象・観光現象と各観光産業の関係について多角的な知識を身に付け、理解を深めること目指します。また、これらの知識・理解を用いて、地域の観光産業についての問題解決・課題探求能力を養うことを目的とします。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １、観光産業についての基礎的知識を習得し、観光産業と観光現象の関係について理解を深め、説明できるようになる（ＤＰの「知識・理解」に対応)。<br>２、様々な観光現象を分析する視座を得るとともに、それらを説明できるようになる（ＤＰの「問題解決・課題探求能力」に対応)。<br>３、様々な事例を通して観光産業を多角的に考察し説明することができる（ＤＰの「地域理解」に対応)。 | |

成績評価の方法と基準

リアクションペーパー、期末レポートで評価します。
リアクションペーパーの内容：50%
期末レポート：50%（期末レポートはポンチ絵・観光ポスター・動画作成などに変える可能性もあります。講義中に学生と相談の上決定します）

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

(1)オリエンテーション（講師の紹介、授業の進め方、ルール、成績評価についての説明）／導入として観光を構成する要素について理解を深めます。
(2)観光産業とはなにか・産業の分類：観光産業の定義と規模についてまなびます。また観光と観光産業の規模について理解を深めます。
(3)観光におけるメディアについて①：メディア論や記号論からメディアの性質と観光の関係について理解を深めます。
(4)観光におけるメディアについて②：ワークショップ「コピーライターを超えてゆけコンテスト！」
(5)観光におけるメディアについて③：ワークショップ「地方自治体PR動画の世界」プロモーションビデオとＳＮＳの事例から理解を深めます。
(6)市町村PR動画品評会の振り返り・観光におけるメディア・フィルムツーリズム：観光とメディアの関係について振り返ったのち、フィルムツーリズムを事例に考察を深めます
(7)フィルムツーリズムとアニメ聖地巡礼：アニメ聖地巡礼を事例に観光とメディアの関係について理解を深めます（●ゲストスピーカーの可能性有）
(8)聖地巡礼と疑似イベント・真正性＋特論・ 新型コロナウイルス感染症と観光・オンラインツアーを考える：特論を組みました
(9)産業が観光対象となる事例について：富岡製糸場の事例から（●ゲストスピーカーの可能性有）
(10)「旅客輸送サービス」①：鉄道・バスからみる現代の観光産業と交通運輸について理解を深めます。
(11)「旅客輸送サービス」②：航空会社・クルーズからみる現代の観光産業と交通運輸について理解を深めます。
(12)「宿泊サービス」「アトラクション・文化サービス」：旅館、ホテル、簡易宿泊所、下宿営業からみる宿泊サービスについて、博物館・美術館・テーマパークなどを成り立たせている要素について理解を深めます。
(13)「旅行業・その他の予約サービス」「ツアーとガイド事業者」：旅行代理店やガイド・ガイドブックがどのように観光をつくるのか理解を深めます。

(14)宗教と観光の関係（●ゲストスピーカーの可能性有）
(15)観光産業のこれから：レンタルサービスとシェアリングエコノミー＋まとめ：これまでの振り返りと補足、レポートについて

【自学自習のためのアドバイス】
(1)これまで履修した観光関連科目の内容を復習してくること（4時間）
(2)観光産業にはどのような種類があるのか、できるだけ列挙してくること（4時間）
(3)メディアの定義とその役割について理解を深めてくること（4時間）
(4)入賞できるようなポスターのキャッチコピーについて考えてくること（4時間）
(5)お気に入りの市町村公式プロモーションビデオを探してくること（4時間）
(6)観光とメディアの関係について、考えてくること（3時間）
(7)推しアニメとその聖地巡礼・巡礼経済について調べてくること（3時間）
(8)新型コロナウイル感染症が私たちの社会に与えた影響について考えてくること（5時間）
(9)産業遺産について調べてくること（3時間）
(10)鉄道・バスを利用した際の特徴について考えてくること（4時間）
(11)航空会社の特徴について考えてくること（5時間）
(12)旅館、ホテル、簡易宿泊所、下宿営業などの特徴の違いについて考えてくること（4時間）
(13)旅行代理店の役割と今後の動向について考えてくること（4時間）
(14)宗教と観光の関係について資料を読み考えてくること（5時間）
(15)これまでの修学内容を復習してくること（4時間）

【授業及び学習の方法】
＊この科目は新型コロナウイルス感染症の状況によっては一部遠隔やハイブリッドに変更する可能性があります。
＊外部講師がゲストスピーカーとて講演を行う場合もあります。
＊対面/遠隔の変更、ゲストスピーカー講義やワークショップの実施の可否、受講生からのリクエスト内容、などによって、授業計画並びに授業及び学習の方法は変更する可能性があります。

教科書・参考書等
教科書：指定しません。適宜授業内でプリント等を配布します。
参考書：
『よくわかる観光社会学』、安村克己・遠藤英樹・寺岡伸悟・堀野正人編著、ミネルヴァ書房、2011年、2,600円＋税
『観光学ガイドブック』、大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝著、ナカニシヤ出版、2014年、2800円＋税

オフィスアワー　　授業終了後に応じます。
研究室(南3号館3階)への訪問可能時間は授業時間やSNSを通じて知らせます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
受講生の数や反応等によって、授業計画に若干の変更が生じる場合があります。
授業中の私語、スマホ・ケータイの操作は禁止します。

| ナンバリングコード　B3GE0-ecbE-30-Lf2<br>授業科目名　　(時間割コード：333201)<br>地域活性化論<br>Regional Vitalization Studies | 科目区分 | 時間割<br>前期金1 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3GE0 | DP・提供部局<br>ecbE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lf | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>原　直行 | 関連授業科目　　とくになし | | |
| | 履修推奨科目　　とくになし | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習 + 事後学習60時間）

授業の概要

農山漁村地域・多自然地域での活性化を中心に、地域活性化全般について講義する。先進事例を中心に活性化手法について説明する。また、教員が携わっているフィールド（地域）での取組みとその手法についても解説する。

授業中に受講生の考えを発表する機会を作るので、能動的な姿勢での受講が求められる。単位認定の条件として、受講生は各自でまち歩き、グリーン・ツーリズム、エコツーリズムのツアーに参加すること。(新型コロナ感染症の影響により授業方法やレポート課題が変更になる可能性がある)

授業の目的

地域活性化に必要な知識を習得する。グリーン・ツーリズムなどの観光やアートによる地域活性化等の事例を知ると同時に、地域の課題解決方法についても理解する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ・農山漁村を中心に地域活性化の現状についての知識を習得できる。<br>・グリーン・ツーリズムなどの観光やアートによる地域活性化等の事例についての知識を習得できる。<br>・地域の課題解決方法について理解できる。 | |

成績評価の方法と基準

①受講生各自で参加したまち歩き、グリーン・ツーリズム、エコツーリズムツアーについてのレポート（形式自由。800字程度）40%

②期末テスト　60%

（新型コロナ感染症の影響により、授業方法・成績評価の基準が変更になる可能性がある）

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

第１回　地域活性化とは
第２回　経済的地域活性化
第３回　観光による地域活性化
第４回　観光DMO
第５回　グリーン・ツーリズム①
第６回　グリーン・ツーリズム②
第７回　域学連携事業
第８回　関係人口
第９回　ワーケーション
第10回　地域公共交通
第11回　移住・定住
第12回　地域とDX
第13回　アートと地域活性化
第14回　地域と多文化共生
第15回　ふりかえり

※進捗状況等によって内容や順番が変更することがある。
※この授業は基本的に対面授業を行う。なお、状況によっては授業形態を一部遠隔へ変更する可能性がある。

自学自習について

・各回について、講義内容の復習をしながら、授業で紹介した事例等について各自で調べ、理解を深める。(15回×2時間=30時間)
・レポートの作成をする。(15時間)
・期末試験の準備をする。(15時間)

教科書・参考書等

とくになし。参考文献は講義時に適宜紹介する。

オフィスアワー　　木曜２限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

地域活性化、とくに農山漁村、多自然地域での活性化に興味のある学生の受講を希望する。

| ナンバリングコード　B2GEO-bdeE-30-Lg2<br>授業科目名　　(時間割コード：333191)<br>まちづくり論<br>Town Planning and Design<br>観光振興・景観・デザインの視点からまちづくりを考える | 科目区分 | 時間割<br>前期木2 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B2GEO | DP・提供部局<br>bdeE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lg | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>西成　典久 | 関連授業科目 | 地域活性化プロジェクト、地域をデザインする思考と実践 | |
| | 履修推奨科目 | 観光・地域振興コース関連科目 | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

近年、「まちづくり」という言葉は急速に社会に広まり、一般的な概念として定着してきています。しかし、その概念がカバーする守備範囲は極めて広く、地域経済、環境、政治、福祉、医療、子育て、コミュニティなど、あらゆる分野が「まちづくり」の領域に接合されています。

「まちづくり」という概念はこうした総合性・接続性にこそ大きな特徴があり、ある特定の領域を対象とする既成の学問分野とは一線を画しています。

本講義では、「まちづくり」という概念が有する総合性、あるいは既成の学問知をつなげていく特性を十分に理解したうえで、なぜいま「まちづくり」が求められているのかについて、具体的な事例をもとにしながら講義を進めていきます。

また、本講義では「まちづくり」を一般的概念として総合的に説明するだけでなく、特に「観光」と「景観」という専門的視点から、それぞれに必要とされる知識や考え方について、理解を深めていきます。

授業の目的

①地域の問題から「まちづくり」「観光」を理解する
よりよい地域社会へと導く解決策（道筋）として、「まちづくり」と「観光」に求められている社会的役割を理解します。

②「景観」の価値に対する感性を鍛える
これまで茫漠と見ていた外的環境に対して、美や問題点を発見できる感覚を研ぎ澄ます訓練をします。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ①「まちづくり」と「観光」に求められている社会的役割が説明できる。<br>②「景観」の価値に対する感性を鍛え、景観の価値について他人と議論することができる。 | |

成績評価の方法と基準

レポートおよびテストで成績を評価します。
毎授業でやるリアクションシートで、しっかり書けていれば加点評価していきます。
中間テストを行い、あまりにも成績の悪い学生は単位取得の資格を失います。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

＜序編＞
（1）「まちづくり論」ガイダンス（概要と講義スケジュール）
（2）「日本の地域をめぐる諸問題」
（3）「地域の価値を考える」その１　地域を活性化するとは
（4）「地域の価値を考える」その２　巨大防潮堤から考える地域の価値
＜観光編＞
（5）「観光を知る」その１　まちづくりと観光のつながりを知る
（6）「観光を知る」その２　近代社会と観光の誕生
（7）「観光を知る」その３　オーバーツーリズムと変化する観光
＜景観編＞
（8）「景観を知る」その１　身近な景観整備から考える
（9）「景観を知る」その２　良い景観と悪い景観
(10)「景観を知る」その３　景観問題から地域の正体を探る
(11)「景観を知る」その４　景観の価値と捉え方①
(12)「景観を知る」その５　景観の価値と捉え方②
＜まちづくり編＞
(13)「まちづくりを知る」その１　まちづくり事例ワークショップ
(14)「まちづくりを知る」その２　環境のつながりとコミュニティデザイン
(15)「まちづくりを知る」その３　郊外化の時代から海城町へ

※中間テストを予定しています。

【授業及び学習の方法】
授業は講義形式とグループワーク形式によって進めていきます。
毎回、授業後に講義の感想や気付きについてリアクションペーパーを提出してもらいます。

この科目は基本的に対面授業で実施しますが、一部の授業回では遠隔授業とする可能性があります。
なお状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習に関するアドバイス】
1回～4回　授業で紹介する文献を読む。(16時間)
5回～7回　観光の歴史に関する情報を調べる。(12時間)
8回～12回　景観に関する情報を調べ、文献を読む。(20時間)
13回～15回　授業で紹介する文献を読む。(12時間)

教科書・参考書等
西村幸夫編「まちづくり学」、中村良夫「風景からのまちづくり」、山崎亮「コミュニティデザイン」など。
テーマによって適宜紹介します。

オフィスアワー　　木曜日3時限目　南3号館3階西成研究室にて（その他、随時受け付けます）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
受講希望の学生は必ず「デジカメ」（スマホも可）を用意してください。写真を撮影する課題があります。
また、観光・地域振興コース希望者は2年時に履修することを推奨します。

| ナンバリングコード　B2ECN-bceE-3N-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：332070)<br>アジア経済論<br>Asian Economy | 科目区分 | 時間割<br>前期火1 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B2ECN | DP・提供部局<br>bceE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>3N |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>姚　峰 | 関連授業科目　　アジア社会論、アジア文化論 | | |
| | 履修推奨科目　　海外研修（中国語、アジアの経済・社会） | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習10時間 + 事後学習10時間）

授業の概要

アジア諸国と日本の経済発展の関係などをよりよく理解するため、中国を中心に、台湾・香港・マカオの社会経済発展の歴史と現状および主な課題などを解説する。開発経済学の側面で、最新の経済統計データと新聞記事および研究論文などを活用し、取り上げている東アジアにおける国と地域の社会経済発展について日本と比較しながら解説する。

授業の目的

40年以上持続的な高度成長を経て世界第2位の経済大国となった中国は、国際貿易などに通じて世界経済成長を牽引している。本講義を履修することにより、中国の改革開放政策と実施にあたる課題などを理解し、変貌している中国を正確に再認識する。日本の最大貿易相手国である中国を中心に、香港、台湾とマカオの地域経済発展を深く理解する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| マクロ経済と統計分析の視点でアジア経済発展状況を説明することができる。<br>国際化している東アジア諸国の経済発展状況と抱えている課題などを正確に認識し、具体的に述べることができる。 | |

成績評価の方法と基準

小テストと期末試験などにより総合評価する。
小テスト３０％、期末試験７０％。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

授業形態：対面により実施することを基本とする。状況によって数回Zoomによるオンライン式（適時周知する）。

第１回　ガイダンス
第２～３回　中国概況
第４～５回　中国の改革開放
第６～７回　中国の国民経済
第８～９回　中国の地方経済
第１０～１１回　国際貿易と日中経済交流
第１２回　台湾経済
第１３回　香港経済
第１４回　マカオ経済
第１５回　まとめ

学習方法：
１．中国の地理、社会、文化などに関連する新聞記事を読む。
２．中国経済の改革内容と発展状況おおよび課題を認識する。
３．台湾・香港・マカオの経済と社会発展状況を再認識する。
４．適時に配布する講義資料を参考し、講義ノートを整理する。

教科書・参考書等

「中国情報ハンドブック」（蒼蒼社、2019年版）、「現代中国経済入門」（東京大学出版会、2019）

オフィスアワー　　火曜日４校時、幸町南７号館３階、姚研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義ノートをとること。
携帯電話がマナモットにしておくこと。
私語は周りの迷惑になるので禁止する。

| ナンバリングコード　B2SCL-bceE-30-Lg2<br>授業科目名　　(時間割コード：332069)<br>アメリカ経済論<br>American Economy | 科目区分 | 時間割<br>後期月3 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B2SCL | DP・提供部局<br>bceE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lg | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>岡田　徹太郎 | 関連授業科目 | 経済政策 | |
| | 履修推奨科目 | 経済政策 | |

学習時間　　講義90分 × 15回 ＋ 自学自習（準備学修 15時間 ＋ 事後学修 45時間）

授業の概要

20世紀末に冷戦が終焉してからグローバル化が加速して、アメリカ・モデルのインパクトを受けながら、世界中の国々で経済社会の構造変化が進んでいる。そのインパクトの発信元であるアメリカ自身も、その国内では20世紀型の構造から21世紀型への変化が進行しており、そのことが、世界規模の構造変化を促進している。

本講義では、このアメリカ・モデルの理念とデザインを理解するために、アメリカの経済社会の全体構造とその国際的な経済関係、そして、アメリカ経済の基幹分野である自動車産業、ICT産業などを考察する。

アクティブラーニング型授業を導入する。授業内容への深い理解に結び付けるためのグループワーク（少人数でのダイアログ）を行なう。座席を指定席とする。なお、グループワークを苦手とする者は、単独ワークも認めるので、初回の講義で申し出ること。

授業の目的

アメリカ自由主義は個人の自立的な生活と人生を基盤とするため、個人にとっての「就労機会」の存在が必要不可欠であり、そのためにアメリカ経済の安定と成長が求められる。世界規模でのグローバル化が進展する中で、アメリカの経済社会は脱工業化とサービス化とIT化による構造変化の中で、新たな「就労機会」の創出が求められる。

本講義では、このアメリカ経済社会の本質的な理念とデザインとダイナミズムを考察する。

第1に、国内の経済社会の基本構造を分析した上で、その国際的な経済関係を検討し、アメリカ・モデルの本質と特徴を理解することを目指す(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。

第2に、21世紀のグローバル化という環境変化の中で進行する、アメリカの基軸産業や労使関係の具体像を、グローバルな国際展開も視野に入れて考察し、世界的な構造変化の潮流を論理的・多角的に検討する思考力の育成を目指す(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応)。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| (1)アメリカ自由主義の理念と関連づけて経済社会の基本構造を説明できる。(b：知識・理解，e：地域理解)<br>(2)アメリカ国内の労働編成の変化を説明できる。(c：問題解決・課題探求能力，e：地域理解)<br>(3)アメリカの貿易構造の変化を説明できる。(c：問題解決・課題探求能力，e：地域理解)<br>(4)20世紀の基幹産業である自動車産業の21世紀における再編について説明できる。(c：問題解決・課題探求能力，e：地域理解)<br>(5)21世紀の基幹産業である情報産業の展開について説明できる。(c：問題解決・課題探求能力，e：地域理解) | |

成績評価の方法と基準

グループワークへの取り組み20点、講義レポート20点、小テスト10点、期末試験50点の合計100点満点とし、学則にしたがった成績をつける。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

第1回：ガイダンス
第2回：アメリカ経済社会の基本構造(1)
第3回：アメリカ経済社会の基本構造(2)
第4回：アメリカ経済社会の基本構造(3)
第5回：アメリカの貿易構造の変化(1)
第6回：アメリカの貿易構造の変化(2)
第7回：自動車産業の再編過程(1)
第8回：自動車産業の再編過程(2)
第9回：自動車産業の再編過程(3)
第10回：グローバル化の推進軸としてのICT産業(1)
第11回：グローバル化の推進軸としてのICT産業(2)
第12回：グローバル化の推進軸としてのICT産業(3)
第13回：サービス産業の拡大(1)
第14回：サービス産業の拡大(2)
第15回：アメリカ経済社会の理念

【自学自習について】

講義毎に、指定教科書の該当範囲を指定するので、講義前に教科書を熟読し、予習をすること（各回1時間）。
講義後にレポートを課すので、講義内容を振り返り、深く復習し、まとめ・疑問・感想などを取りまとめて提出すること（各回3時間）。

この科目は全回対面授業を予定している。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により、全てまたは一部を遠隔へ変更する可能性がある。

教科書・参考書等
教科書：
河崎信樹・吉田健三・田村太一『アメリカの経済社会：理念とダイナミクス』東京大学出版会，2018年，2800円。講義室への持参は求めないが、講義内容は教科書に沿って進めるので、事前に熟読し予習に用いること。なお、期末試験問題の素材としても利用する。

・参考書
経済辞典として、金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣　経済辞典』第5版、4200円、を指定する。この科目だけではなく、全ての経済学・経営学の科目に適合する学修用。経済学部生の必携辞書と考えた方が良い。
一般的な参考書として、『入門 アメリカ経済Q&A100』中央経済社，2019年，3000円、を推薦する。

オフィスアワー　　火曜日IV時限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
大教室におけるアクティブラーニング型授業で学修する。授業への積極的な関わりを期待している。出席は必須。止むを得ず欠席した場合は、必ず自学自習で追いつくことを旨とし、放置しないこと。

| ナンバリングコード　B2SCL-bceE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：332029)<br>ヨーロッパ経済論<br>European Economy | 科目区分 | 時間割<br>前期月5 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B2SCL | DP・提供部局<br>bceE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>山ノ内　健太 | 関連授業科目 | ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ、<br>ミクロ経済学Ⅱ、マクロ経済学Ⅱ | |
| | 履修推奨科目 | ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

本講義は欧州連合（EU）を中心とするヨーロッパ経済を扱う。EUはイギリスの脱退後もなおGDPで世界の2割程度を占める巨大な経済圏であり、高度な経済統合を遂げた点でも注目される。本講義ではまず基本的な経済学を学び、それを欧州全体や各国に適用することでヨーロッパ経済を体系的に理解することを目指す。ヨーロッパ経済の知識だけでなく、経済学を用いた経済分析の方法も身につけてほしい。

授業の目的

本講義は経済学を通してヨーロッパ経済を体系的に理解することを目指す。より具体的な目的として、ヨーロッパ経済の歴史と現状について基礎的な知識を身につけること（DPの「知識・理解」に対応）、ヨーロッパ経済に関する制度やデータの入手方法を知ることで専門的な内容を自身で調べられるようになること（DPの「問題解決・課題探求能力」に対応）、基本的な経済学を習得して特定の国や地域の経済状況が経済学の用語で説明できるようになること（DPの「知識・理解」に対応）の3点が挙げられる。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| ・ヨーロッパ経済の歴史と現状について基礎的な知識を身につける。<br>・ヨーロッパ経済に関する専門的な内容を必要に応じて自身で調べられるようになる。<br>・特定の国や地域の経済状況が経済学の用語で説明できるようになる。 | |

成績評価の方法と基準

成績は小テスト（50%）とレポート（50%）で評価する。場合によっては授業態度を加味する可能性もある。小テストは講義内容の定着を確認するために毎回行い、選択問題や計算問題を中心とする。レポートではデータ分析を通して結論を自身で導くことを要求する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業の方法】

授業は配布スライドを用いた講義形式とする。補足説明の際には板書をする場合もある。データの扱い方を説明する場合は、パソコンを用いた演習を行うこともある。なお、この科目は全回対面授業を予定している。ただし、状況によっては一部を遠隔授業に変更する可能性もある。

【授業計画】

第1回：イントロダクション
第2回：ミクロ経済学の復習
第3回：マクロ経済学の復習
第4回：経済統計の分析方法
第5回：世界経済の概観
第6回：欧州単一市場
第7回：EUの共通政策
第8回：ユーロ
第9回：現代ヨーロッパ経済の動き
第10回：フランスとEU経済
第11回：ドイツとEU経済
第12回：イギリスとEU経済
第13回：その他のEU諸国
第14回：中東欧諸国とEU経済
第15回：まとめ

【自学自習に関するアドバイス】

小テストの問題は事前に公開するので、予習の目安として解答を考えてから講義に臨んでほしい。また、講義でデータを扱った場合は、データの入手や加工を自身の手で行って復習することを推奨する。

教科書・参考書等
ヨーロッパ経済に関する内容は、原則として以下の教科書に基づく。部分的には参考書や他の文献をベースにする場合もある。講義ではスライドを配布するため、購入は必須ではない。

【教科書】
田中素香、長部重康、久保広正、岩田健治著『現代ヨーロッパ経済　第5版』、有斐閣、2018年、2,800円＋税。

【参考書】
川野祐司著『ヨーロッパ経済の基礎知識　2022』、文眞堂、2021年、2,750円＋税。

オフィスアワー　　質問等は金曜5校時に南キャンパス3号館3階の山ノ内研究室で受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
本講義では、経済学の考え方を用いながらヨーロッパ経済について説明する。本講義の受講を通し、ヨーロッパ経済の知識だけでなく、経済学による分析の方法も身につけてほしい。

# コース専門科目

（経済・政策分析コース　２年次配当）

| ナンバリングコード　B30TH-bacE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：301000)<br>コース概説科目 | 科目区分 | 時間割<br>前期水1 | 対象年次及び学科<br>2～2経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B30TH | DP・提供部局<br>bacE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>山口　尚美 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習と事後学習で計30時間）

授業の概要

経済学部の教育カリキュラムは、経済学を中心として「経済・政策分析」、「会計・ファイナンス」、「経営・イノベーション」、「観光・地域振興」、「グローバル社会経済」の5つのコースから編成されている。

2年次後期からはこの5つのコースのひとつを各自の興味関心・適性・将来の進路に合わせて選択して、各コースが提供するコース専門科目を中心に学修していきながら、各コースが修学案内に掲げている能力を養成していくことになる。

以上を踏まえて、この授業では、各コースとつながりが深い授業科目やコース専門科目を担当する３名の教員がコースを代表して担当する授業科目の内容やその周辺の学問領域などについて紹介する。

授業の目的

経済学部の教育カリキュラムが提供する5つのコースの特色、及び各コースの学問領域において研究対象となる経済・経営・社会・文化に関わる現象や問題のいくつかについて理解する。(学士課程のDP「知識・理解」に対応)

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 経済学部の教育カリキュラムが提供する5つのコースの特色を説明できるようになる。<br>自分自身の興味関心・適性・将来の進路に合わせて、適切なコースを選択できるようになる。 | |

成績評価の方法と基準

レポート（5回以上）を元に成績評価を行う。
出席回数が考慮される可能性もある。
ただし、単位認定のためには、「15回中10回以上の出席を必要」とする。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

第1回　経済・政策分析コース①
第2回　経済・政策分析コース②
第3回　経済・政策分析コース③
第4回　会計・ファイナンスコース①
第5回　会計・ファイナンスコース②
第6回　会計・ファイナンスコース③
第7回　経営・イノベーションコース①
第8回　経営・イノベーションコース②
第9回　経営・イノベーションコース③
第10回　観光・地域振興コース①
第11回　観光・地域振興コース②
第12回　観光・地域振興コース③
第13回　グローバル社会経済コース①
第14回　グローバル社会経済コース②
第15回　グローバル社会経済コース③

＜2021年度　担当教員　2022年度は未定＞（五十音順、敬称略）
経済・政策分析コース：　福村、持田、姚
会計・ファイナンスコース：　井上、長山、宮脇
経営・イノベーションコース：　塩谷、山口、渡邉
観光・地域振興コース：　西成、二ツ山、山崎
グローバル社会経済コース：　園部、髙橋（明）、水野

教科書・参考書等

必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

| ナンバリングコード　B3ECN-bcxE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：312032)<br>政治経済学Ⅱ<br>Political Economy Ⅱ | 科目区分 | 時間割<br>後期水2 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3ECN | DP・提供部局<br>bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>沖　公祐 | 関連授業科目　政治経済学Ⅰ | | |
| | 履修推奨科目　政治経済学Ⅰ | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)

授業の概要

「政治経済学Ⅰ」を踏まえたうえで、資本主義の原理についての発展的な講義を行う。マルクス経済学の特徴は、資本主義的生産が1回かぎりのものではなく、繰り返しの過程であることを重視するところにある。本講義では、はじめに、資本主義おいて、社会全体がいかにして繰り返し再生産され、さらには、発展していくかを明らかにする。次いで、「政治経済学Ⅰ」では簡単化のために捨象しておいた資本間の競争という要因を導入し、市場を通じて社会的再生産が編成される仕組みを説明する。併せて、資本の競争を補足する諸機構、すなわち、地代､商業資本､信用機構についても解説する。最後に、長期的な動態に目を移し、資本主義経済の発展が、好況→恐慌→不況→好況…というダイナミズムを描くことを示す。

授業の目的

「政治経済学Ⅰ」では、資本主義の基本的な仕組みを把握することに主眼が置かれたが、この講義では、資本主義経済の全体像に一歩一歩近づいていくことになる。「政治経済学Ⅰ」と「政治経済学Ⅱ」を併せて学ぶことで、現実経済を分析するための目が養われることが期待できる。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ・再生産表式を導き出すことができる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。<br>・資本主義的市場における価格決定メカニズムを説明することができる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。<br>・地代、商業資本、信用機構、景気循環の基本的概念を説明することができる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。<br>・資本主義の全体像を提示することができる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 | |

成績評価の方法と基準

小テストと期末試験によって評価を行なう。配点は、小テスト20点、期末試験80点とする。
※但し、対面での小テストが行えなくなった場合には成績評価の方法・基準を変更することがありうる。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】
1.ガイダンスと前期授業の振り返り
2.資本の蓄積
2.再生産表式(1)
3.再生産表式(2)
4.利潤(1)
5.利潤(2)
6.利潤(3)
7.利潤(4)
8.第1回小テスト（対面）
9.地代
10.商業資本
11.信用機構(1)
12.信用機構(2)
13.景気循環(1)
14.景気循環(2)
15.第2回小テスト（対面）

【授業及び学習の方法】
板書および口述筆記による。

この授業は基本的に対面で行う。なお状況によっては授業形態を遠隔に変更する可能性がある。

【自学自習ためのアドバイス】
各回ごとにwebに掲載の講義概要を用いた予習と授業中に作成した自筆ノートを用いた復習を行うこと。

教科書・参考書等
教科書：使用しない
参考書：小幡道昭『経済原論』（東京大学出版会）
沖公祐『「富」なき時代の資本主義――マルクス『資本論』を読み直す』（現代書館）

オフィスアワー　　初回時に指定する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
この講義は「政治経済学Ⅰ」の内容を前提としている。履修希望者は、「政治経済学Ⅰ」を必ず履修しておくこと。

| ナンバリングコード　B3ECN-bcxE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：312112)<br>計量経済学Ⅱ<br>Econometrics Ⅱ<br>計量経済学入門 | 科目区分 | 時間割<br>後期月5 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3ECN | DP・提供部局<br>bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>久松　博之 | 関連授業科目 | 統計学入門，統計学，計量経済学Ⅰ，<br>マクロ経済学Ⅰ，ミクロ経済学I | |
| | 履修推奨科目 | 統計学入門，統計学，計量経済学Ⅰ，<br>マクロ経済学Ⅰ，ミクロ経済学I | |

学習時間　　授業90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

計量経済学（Econometrics）の理論とデータを用いた実証分析の方法について講義する．計量経済学Ⅰで学習した単回帰分析の理論を基礎にして，重回帰分析の理論とその応用を中心に説明する．

授業の目的

計量経済学の考え方を身につけ，実際の経済データを使って計量経済分析が出来るようになる．

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ・重回帰モデルと最小２乗法の考え方を理解する．多重共線性，関数型と推定式，ダミー変数とその応用，分布ラグモデルの考え方を理解する．<br>・実際のデータを使って重回帰分析ができるようになる． | |

成績評価の方法と基準

期末試験（100点満点）で60点以上を合格とする．期末試験得点が60点に満たない場合，その他得点（課題レポートや宿題を課す場合はその得点）を期末試験得点に加算した得点が60点以上であればC（可）とする．

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【講義の方法】

基本的には講義ノートによる板書講義．必要に応じてテキストを参照する場合がある．テキストの説明では不十分だと思われる箇所は，配布資料を使って説明する．データを用いた分析を身に付けるために，Excelによる実習を行い実習課題を課す場合がある．ノートPC教室持ち込みで教室でExcel実習を行う，ホワイトボードで練習問題を解かせるなど双方向化を試みる．

この科目は全回対面で授業を行う．なお，状況によっては授業形態を遠隔へ変更する場合がある．

【講義計画】

第１回：１．授業ガイダンス，単回帰モデルから重回帰モデルへ
第２回：２．重回帰モデルの推定と検定
第３回：２．１最小２乗推定量の導出
第４回：２．２最小２乗推定量の推定量特性
第５回：２．３ 多重共線性
　　：２．４ 重回帰分析の各種指標
第６回：３．関数形と推定式
　　３．１関数形の種類
第７回：３．２実証分析の手順：対数線形モデルの実際のデータへの応用
第８回：４．ダミー変数
　　４．１ 定数項ダミー
第９回：４．２ 季節ダミー
　　４．３係数ダミー
第10回：５．構造変化の検定
　　５．１ ゼロ制約のＦ-検定
　　５．２ 構造変化のF-検定
第11回：６．ラグ変数
　　６．１ 分布ラグモデル
　　６．２ 幾何級数型分布ラグモデル： コイック・ラグ
第12回：６．３ 部分調整モデル
　　６．４ 適合的期待モデル
　　６．５ コクラン・オーカット法
第13回：７．同時方程式モデル
　　７．１ 同時方程式モデルとは何か
　　７．２ 同時方程式バイアス
第14回：７．３ ２段階最小２乗法（２ＳＬＳ）
第15回：７．４ 同時方程式モデルを使った内挿と外挿
　　７．５ 実際のマクロ計量モデル

期末試験
＊テキスト出版社のWebサイトからExcelデータと処理方法を説明したpdfをダウンロードしてExcelによる計量経済分析の実習を行う関係で，テキストでは扱われていないトピック（部分調整モデル，適合的期待モデル，同時方程式モデル）を省略する場合がある．

【自学自習に関するアドバイス】
毎回，テキストと配布するレジュメを使った事前学習を2時間，事後学習はWeb資料でのExcel実習2時間あるいは章によっては宿題（練習問題）を課すので，それを解くのに2時間が基本パターン．

【この授業における欠席に関するルール】
香川大学単位の授与に関する規程第4条に「開講時数の3分の2以上出席していない者については，その授業科目の単位を与えない。」とある．
（1）欠席する場合，事前の連絡は一切不要．後日，欠席届とそれを証明する書類を添付して提出すること．
（2）公欠にあたる場合（感染症、忌引き等）は，出席扱いにしてその時間配布した資料を与える．
（3）公欠にはあたらないがやむをえない事由だと判断できる場合，欠席扱いにはするが，申し出があれば配布した資料は与える．
（4）自己都合の欠席の場合，欠席した授業で配布した資料は与えない．

＊ 体調不良の場合は欠席した方がいい場合もあるが，出席したりしなかったりを繰り返すと内容が理解できず単位を落としてしまうので，可能な限り出席するよう心がけること．

【統計検定3級及び2級試験の受験を希望する学生へ】
統計検定3級試験の受験を希望する学生は，2020年6月試験より出題範囲が広がり，これまで記述統計，確率，母集団と標本までだったが，これに推定，仮説検定，単回帰分析まで含まれるようになるので，計量経済学Iおよび計量経済学IIの履修を勧める．統計検定2級試験の受験を希望する学生は，重回帰モデルの推定と結果の解釈を問う問題が出題されることがあるので計量経済学IIの履修は必須．

教科書・参考書等
教科書：『入門計量経済学』　山本拓・竹内明香著　新世社　定価2500円＋税
参考書：随時指示する．

オフィスアワー　　月曜日3限目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
1．計量経済学Ｉを履修済みであること．単位を取得している方が望ましい．
2．統計学入門，統計学の単位を取得していること．（必須）
3．2/3以上出席していない場合，成績は自動的に不可になる．
4．欠席に関するルールがあるので注意すること．
5．質問がある場合は自筆のノートを持参すること．
6．スマホ・携帯のカメラ機能での板書撮影を原則禁止する．

| ナンバリングコード　B3ECN-bcdE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：312152)<br>金融論Ⅱ<br>Monetary Economics Ⅱ | 科目区分 | 時間割<br>後期金1 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3ECN | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>藤原　敦志 | 関連授業科目 | 金融論Ⅱ | |
| | 履修推奨科目 | 金融論Ⅱ、金融政策Ⅰ・Ⅱ | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習

授業の概要

この授業では、金融論Ⅰで学んだ基礎的な内容をより高度なレベルで学んでいく。前半は、貨幣と金融取引、取引費用に対処する金融の仕組み、金融機関について学ぶ。具体的には、貨幣と決済、金融とその機能、取引費用とリスク、情報の非対称性と返済のリスク、流動化・証券設計・情報生産や担保・保証や分散化などの金融の仕組み、銀行などの金融仲介機関について学ぶ。後半は、金融機関と金融市場、金融のマクロ的側面について学ぶ。具体的には、様々な金融市場、金融仲介機関以外の金融機関、資金循環と金融システム、金融政策、金融システムの問題と金融危機、金融制度と公的介入・プルーデンス政策などについて学ぶ。

授業の目的

・貨幣と決済について理解する。
・金融とその機能について理解する。
・取引費用に対処する金融の仕組みについて理解する。
・金融仲介機関について理解する。
・金融機関と金融市場を理解する。
・金融のマクロ的側面を理解する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ・貨幣と決済について説明できる。<br>・金融とその機能について説明できる。<br>・取引費用に対処する金融の仕組みについて説明できる。<br>・金融仲介機関について説明できる。<br>・金融機関と金融市場について説明できる。<br>・金融のマクロ的側面について説明できる。 | |

成績評価の方法と基準

中間試験100点・期末試験100点の合計200点満点で評価する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

授業形態は基本的に対面とする。

参考書の要点をまとめたものを穴埋め形式のプリントとして配布し、重要語句を自分でプリントに書き込みながら教科書の内容を理解する。

第1回　ガイダンス
第2回　貨幣と決済
第3回　金融とその機能
第4回　取引費用とリスク
第5回　情報の非対称性と返済のリスク
第6回　金融の仕組み
第7回　金融機関（1）
第8回　中間試験
第9回　金融市場
第10回　金融機関（2）金融仲介機関以外の金融機関
第11回　資金循環と金融システム
第12回　金融政策と経済の実物面・金融面
第13回　金融システムの問題と金融危機
第14回　金融制度と公的介入・プルーデンス政策
第15回　まとめ

【自学自習に関するアドバイス】

第1回～第15回　事前に教科書を読み、予習課題をこなす（各2時間×15＝30時間）
第1回～第15回　授業後にハンドアウトを読み返し、復習課題をこなす（各2時間×15＝30時間）

教科書・参考書等
（教科書）使用しない
（参考書）内田浩史（2016）『金融』有斐閣、3400円（税別）。

オフィスアワー　　月～木　9：30～11：30

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
授業で配布したプリントを必ず見返しておくこと。

| ナンバリングコード　B3ECN-bcdE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：312142)<br>財政学Ｂ<br>Public Finance B | 科目区分 | 時間割<br>後期木3 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3ECN | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>長山　貴之 | 関連授業科目　　財政学Ａ | | |
| | 履修推奨科目　　ミクロ経済学Ⅰおよびマクロ経済学Ⅰ | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

財政学は租税論、公債論、予算論、経費論、財政政策、地方財政論などから構成されるが、この講義は主として地方財政論を取扱う。詳細な理論的分析ではなく広範な制度的解説を行うことを心掛ける。具体的には、我が国の地方公共団体の歳入および歳出の仕組みを一通り教える。なお、この講義はミクロ経済学およびマクロ経済学の基礎的知識を前提にする。

授業の目的

地方財政に関する主要な制度を理解すると共に、それらの制度が抱える課題を探究できるようになる。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| (1)地方財政に関する主要な制度を説明できる。（ＤＰの「知識・理解」に対応）<br>(2)地方財政に関する主要な制度が抱える課題を分析できる。（ＤＰの「問題解決・課題探求能力」に対応） | |

成績評価の方法と基準

期末課題によって評価します。評価の観点は、専門知識（60%）、課題探求能力（30%）、倫理観（10%）とします。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

第１回　オリエンテーション：地方財政とはなにか
第２回　日本の地方財政制度
第３回　地方税Ⅰ
第４回　地方税Ⅱ
第５回　地方税Ⅲ
第６回　地方税Ⅳ
第７回　地方税Ⅴ
第８回　地方譲与税
第９回　地方交付税Ⅰ
第10回　地方交付税Ⅱ
第11回　国庫支出金
第12回　地方債
第13回　地方歳出Ⅰ
第14回　地方歳出Ⅱ
第15回　まとめ

【授業および学習の方法】

資料を配付し、板書で補足する。
授業は原則として対面方式で実施する。
状況によっては授業の実施方式を変更する場合がある。

【準備学習および事後学習のためのアドバイス】

第２～14回　新聞や雑誌の記事を集め、授業内容の理解に役立てる。（１時間×13回）
参考書の該当箇所を読み、授業内容の理解に役立てる。（２時間×13回）
参考書を精読し、日本の地方財政制度の課題を考察する。(15時間)
日本の地方財政制度の課題に関するレポートを作成する。（６時間）

教科書・参考書等

【参考書】川村毅『自治体職員研修講座 地方自治制度・地方公務員制度・地方財政制度』第2次改訂版, 学陽書房, 2015年, 2860円.

オフィスアワー　　月曜日３時限目。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

出席確認や資料配布はムードルで実施します。

| ナンバリングコード　B3SCL-bceE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：332230)<br>日本社会経済史<br>Economic History of Japanese Society | 科目区分 | 時間割<br>後期火1 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3SCL | DP・提供部局<br>bceE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>水野　敦洋 | 関連授業科目　　経済史入門、経営史 | | |
| | 履修推奨科目　　経済史入門、経営史 | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自主学習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

この授業では、「近世経済」の成立期から第二次世界大戦期に至るまでの日本経済の歴史を、全15回にわたって概説する。まず、はじめに、世界経済のあゆみの中における日本の位置を明らかにする。つぎに、日本経済の発展の様相を長期的視点から観察する。その上で、各時代における重要な日本経済史のトピックをとりあげて解説してゆく。

授業の目的

この授業の目的は、これまでの日本経済の発展過程とそのメカニズムについて、歴史上の事実にもとづいて理解することである（「知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。それを通じて、長期的な時間軸の中で現在を相対化する視点を養うとともに、今日の社会・経済における諸問題を考える際の歴史的な分析視角を身につける（「問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 1. 日本経済の発展過程とそのメカニズムについて、歴史上の事実にもとづいて説明できる。<br>2. 歴史的な分析視角から、今日の社会・経済における諸問題を考察することができる。 | |

成績評価の方法と基準

期末テスト100%で評価する。

なお、不定期に実施する授業アンケート時に、優れたコメントを提出した者については更に加点する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

(1)ガイダンス
(2)日本経済の長期的概観
(3)「近世経済」の成立と展開
(4)幕末開港と明治維新
(5)殖産興業政策の展開
(6)近代経済成長
(7)日本の産業革命Ⅰ
(8)日本の産業革命Ⅱ
(9)日清・日露戦後経営
(10)第一次世界大戦と日本経済
(11)1920年代の日本経済
(12)金解禁問題と昭和恐慌
(13)1930年代の日本経済
(14)戦時経済
(15)まとめ・戦後の展望

【授業及び学習の方法】

各回の授業計画は次のとおりであるが、受講者の理解度や進捗状況によっては変更する場合がある。また、受講者には各回につき自己学習（予習・復習）を行うことが求められる。とりわけ、授業後には復習をし、興味を持った箇所については授業中に紹介する文献を読むなどして理解を深めてもらいたい。

※この授業は原則対面形式で行う。

教科書・参考書等

特に指定しない。

オフィスアワー　　金曜2限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1.「経済史入門」を履修していることが望ましいが必須ではない。
2. 夜間の「日本社会経済史」との重複履修は認めない。
3. 他の科目で学ぶ経済学に関する知識とも関連させながら、積極的に授業内容の理解に努めてほしい。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：313654)<br>（特）比較財政史論<br>Special Lecture | 科目区分 | 時間割<br>前期集中 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>bdeE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>岡田　徹太郎，掛貝　祐太 | 関連授業科目 | 経済政策、福祉経済論、財政学 | |
| | 履修推奨科目 | 経済政策、福祉経済論、財政学 | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

財政、と聞くと、自分達の生活とはかけ離れたイメージを持つ人が多いかもしれない。しかし、財政制度は、人々の価値観や、経済・社会状況と密接にかかわりながら展開してきた。その意味で、財政は自己責任、家族、労働、連帯などをめぐる、社会の価値観をうつす鏡ともいえる。

そして、社会は常に多くの問題を抱えている。もちろん、人によって興味関心は違うので、意識する問題は異なるだろう。格差問題に関心を寄せる人もいれば、ジェンダーにまつわる問題を強く意識している人もいるだろうし、環境問題に関心がある人もいるだろう。(もしくは、現代社会に「問題」なんてあるの？という人もいるかもしれない。)

いずれせよ、こうした社会問題の解決手段の一つが、政策である。しかし、政策をうつのにもお金がかかるし、お金をかけずに実効性のある政策をうつのは、非常に難しい。だからこそ、国や自治体のお金の使われ方、すなわち財政が重要なのである。

本講義では、比較的身近な話題や題材についての、様々な社会問題・社会現象(コロナ・教育・少子高齢化・ジェンダー・地域社会における課題、文化政策、スポーツ政策etc.)を取りあげる。そして、主に財政の国際比較、事例研究における比較の視点を通じて、なぜその解決が難しいのか、あるいは、なぜそうした問題が起こってしまったのか、について考える。

授業の目的

財政や社会科学に関する知識を養い(b)、他国の事例や日本国内の自治体の事例の分析を行い（e)、財政における民主主義の望ましいあり方について考察できるようになる(d)。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ●　財政や社会科学における国際比較や地方での事例を説明できる。(b：知識・理解，e：地域理解)<br>●　政治・社会・経済をめぐる社会問題について説明できる。(b：知識・理解，d：倫理観・社会的責任)<br>●　一見”常識”に思える意見を相対化する視点で考察することができる。(d：倫理観・社会的責任) | |

成績評価の方法と基準

毎コマに課す小レポート100％

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

第１回　イントロダクションとガイダンス（計数感覚をもって社会問題をながめる：結局、その「問題」はどれくらいお金が使われているんでしょう？／意外と日本は小さな政府？/コロナ禍で財政はどう変わった？）
第２回 総論①：世界の中の日本財政／普遍主義と選別主義　（そもそも税金に関して本当に“ムダ”は多いのでしょうか？なぜ“ムダ”が多いと皆感じているのでしょうか？日本は、他者に不寛容な“不信社会”？等）
第３回 総論②：自己責任・勤労国家(日本の財政を形づくっている社会の価値観のあり方とは？）
第４回　教育政策、大学と財政　（いかに日本では大学生にお金が使われていないか／そもそも日本学生支援機構奨学金は”奨学金”か？）
第５回　申請主義と社会保障教育　（そもそも､なぜ社会保障や財政は､こんなに分かりにくい制度なのでしょうか？一方では、離婚・失業した時にどうするかを中学校から教える国もある・・・？等）
第６回　国際比較（北欧諸国における普遍主義）
第７回　移民と財政　（アメリカや欧州での社会問題に、いま財政はどう向き合っているのか？）
第８回　ジェンダーと財政　（ジェンダーや家族をめぐる”べき論”にも、財政が影響？）
第９回　国際比較（スイスにおける直接民主主義と財政：社会保障も税も国民投票、住民投票で決める国？）
第１０回　国際比較　（スイスにおける多様性と財政：４分の１が移民、公用語４つ、国際都市から”ハイジの村”まで...利害の異なる他者とどう共存？）
第１１回　事例研究（芸術と文化と財政：ツタヤ図書館、あいちトリエンナーレ問題etc.／そもそも何故国家は文化にお金を使うのかetc.）
第１２回　事例研究（夕張とニセコ：財政破綻とバブル、何が明暗を分けたか？）
第１３回　事例研究　（スポーツ政策と財政：五輪をめぐる競技場建設、茨城県内の競技場建設をめぐる住民投票）
第１４回　民主主義理論と財政　（多数決だけが民主主義ではない？／より民主主義的な財政の決め方は可能か？）
第１５回　まとめ

【授業及び学習の方法】
授業は講義中心に進めます。また、各回でリアクションペーパーを課し(10分程度)、講義で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理を促します。

【自学自習のためのアドバイス】
第１～３回　財政をめぐる基礎知識について大きな流れをつかむ。計数感覚をつかむための数値を覚える。
第４～６回　これまでの教育や大学における身近な疑問点と、財政の問題を結び付けて考える。
第７～１０回　海外と事例との比較の中から、どのような課題が日本において浮かび上がるか考える。
第１０～１３回　国内の地方における事例と比較し、身近な自治体での課題と結び付けて考える。
第１４，１５回　これまでの議論から、いかに民主主義的な財政のあり方が可能かについて考える。
※授業外学習について：授業内で取り扱った文献、概念、資料、映画、サイト、論文、ニュースなどの中で、自分の関心があるものについて、ぜひ積極的かつ自主的に触れてみてください。こまごました知識の暗記よりは、自分自身の意見や考えを深めるような学習を強く推奨いたします。そのように自主的に調べたことが、次のリアクションペーパーに反映されているなどすれば、なお好ましいです。

この科目は基本的に対面授業を行います。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては授業形態の一部または全部を遠隔へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等
教科書は使用しない。

オフィスアワー　　休憩時間に教室で質問を受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
質問などあれば、 y.kakegai@outlook.jp までご連絡ください。

# コース専門科目

（経済・政策分析コース　３年次配当）

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：312421)<br>上級ミクロ経済学<br>Advanced Microeconomics | 科目区分 | 時間割<br>前期金1 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lb | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>天谷　研一 | 関連授業科目 | ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ | |
| | 履修推奨科目 | ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ | |

学習時間　　講義90分 × 15回 ＋ 自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

ゲーム理論の基礎を講義します。

社会は多様な人々によって構成され、人々の間には利害関係があり、個々人の行動はお互いに影響を及ぼしあっています。このような社会では、人々は自分の行動が他人にどう影響するか考えたり、他人がどのような行動をするか予想したりしながら意思決定をする必要があります。このような「戦略的な意思決定」、すなわち「駆け引き」を分析することによって社会への理解を深めようとするのがゲーム理論という学問です。

駆け引きを行うのは個人だけではありません。ビジネスの場では企業同士、政治の場では政党同士、国家同士が駆け引きを行っています。現代の社会や経済を理解するにはゲーム理論的な視点が不可欠といっても過言ではないでしょう。

この講義では、経済問題の分析などの応用例も取り入れながら、ゲーム理論の基本的な考え方を紹介していきます。

授業の目的

経済主体が相互依存関係下でいかなる意思決定を行うか、ミクロ経済学とゲーム理論の観点から理解する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ・ 戦略形ゲーム・ナッシュ均衡・展開形ゲーム・部分ゲーム完全均衡・不完全情報などのゲーム理論の基礎概念がどのようなものであり、どのような経済問題の分析に用いることができるのか説明できる（DPの「b：知識・理解」に対応)。 | |

成績評価の方法と基準

宿題（３０%)、期末試験（７０%）により評価します。詳しくは初回授業時に指示します。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

授業は主に板書およびプロジェクタ投影を使用した講義形式で行います。授業中に適宜、仮想取引などの体験実習や問題演習を行います。また宿題として演習問題を課します。

予習は必ずしも必要ではありませんが、毎回復習してわからないことをなくすことと、宿題を解いて理解を深めることが必要となります。

第１回　ゲーム理論とはどんな学問か
第２回　戦略形ゲーム・ナッシュ均衡とその応用（１）
第３回　戦略形ゲーム・ナッシュ均衡とその応用（２）
第４回　戦略形ゲーム・ナッシュ均衡とその応用（３）
第５回　時間を通じたゲーム（１）
第６回　時間を通じたゲーム（２）
第７回　時間を通じたゲーム（３）
第８回　長期的関係と協調（１）
第９回　長期的関係と協調（２）
第１０回　不完備情報のゲームとオークション（１）
第１１回　不完備情報のゲームとオークション（２）
第１２回　不完備情報のゲームとオークション（３）
第１３回　時間を通じた情報伝達（１）
第１４回　時間を通じた情報伝達（２）
第１５回　まとめ

授業計画は、受講生の理解度をみて必要があれば変更する場合があります。

【授業及び学習の方法】

授業は、教室での講義および反転授業を取り混ぜて行う。反転授業の回では、予習用の教材に基づいて問題演習等を行う。

【自学自習のためのアドバイス】
反転授業の回では、事前に指定された教材を視聴する。授業終了後は、参考図書の該当箇所を読み、理解を深める。また、定期的に課される課題に取り組むことにより、学習内容を定着させる。

【授業形態】
この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

教科書・参考書等
天谷研一（著）『図解で学ぶゲーム理論入門』、2011年、日本能率協会マネジメントセンター、1500円＋税
岡田章（著）『ゲーム理論・入門（新版）』、2014年、有斐閣、1900円＋税

オフィスアワー　　月曜日４校時。天谷研究室（南7号館3階）。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
1. 基礎的なミクロ経済学の知識（効用関数、需要と供給など、ミクロ経済学Ｉで学習した程度）があることが望ましいですが、まだ学習していない場合でも、必要に応じて多少自習する意欲があれば、履修可能です。
2. 授業内容は連続しているので、前回までの内容をしっかり理解していないとついていけなくなります。
3. その他の注意事項は、初回授業時に指示します。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：313123)<br>経済統計<br>Statistics for Economics | 科目区分 | 時間割<br>前期木3 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>abcE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lb | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>横山　佳充 | 関連授業科目　　統計学　経済学入門 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

経済のニュースなどを見ると様々な形で経済データの変化が伝えられています。本講義においては実際に経済において使用されている経済指標について講義することで、現実の経済の動向について判断する能力を養成することを目的とします。特に理論的な側面から経済指標について取り扱い、日々の経済データの背景にある考え方について学びます。

授業の目的

経済データなどの指標には、経済学的、統計学的そして制度的な背景があります。このことは、単純に漫然とニュースを見ているだけではつかめないものもあります。本講義では理論的な背景を含め経済を学ぶ学生として必要な知識を習得することを目的とします。この結果、経済データに関する数量的な取り扱いに関する事柄に対してスキルアップするはずです。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| ・経済データの理論的背景について理解を高めることができる<br>・数量データの取り扱いについてより習熟する | |

成績評価の方法と基準

出席、レポートおよび期末試験。得点の比重は出席とレポート合わせて30%に対し、後期試験70%で行います。なお、授業中にも関わらず、許可なくスマホ等を使用した場合、成績評価対象外とすることがあるので、留意しておいてください。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業及び学習の方法】

プロジェクターを用いた投影を含め、板書を用いて授業を行います。

レポートは表計算ソフトウェアによるレポートを要求する場合があります。ただし、授業中にコンピュータの使用に関しての演習は行わない予定です。事前に教材となるレジュメ等をイントラネット上またはmoodle上で配布するので学生は必要箇所を確認印刷して準備しておくこと。

レポート提出に関しては3回程度を予定しています。またmoodleを用いた小テストも行う場合があります。

具体的な方法については第１回目の授業で確認します。
なお、授業形態は基本対面です。

【授業計画】

(1)　イントロダクション
(2)　センサス・データ
(3)　標本調査:サンプリングの基本
(4)　標本調査:より実質的なサンプリング
(5)　時系列データ:時系列データの実際と理論的側面
(6)　時系列データ:時系列データの分解
(7)　指数:指数とは
(8)　指数:経済データにおける指数の実際
(9)　賃金と労働市場:賃金データの実際
(10) 賃金と労働市場:労働市場におけるデータの実際
(11) 家計:家計分析のためのデータについて
(12) 家計:家計の消費データによる分析
(13) 景気変動:景気の状態はどうやって判断するか
(14) 国民経済計算:GDPとは何か
(15) 国民経済計算:各国GDPの比較

【自学自習のためのアドバイス】
(2)各種データに関するサーベイ等を含め各種統計調査について調べます。(8時間)
(3)-(4) 標本調査 各種サンプリング方法について調べ理解します。場合によってはインターネットで調べることを行います。(8時間)
(5)-(6)時系列のデータを用いてグラフ作成とともに、季節調整方法を用いて、データから季節変動等を取り除きます。(10時間)
(7)-(8)各種総合指標などを学びます。疑似的なデータ実際のデータを用いて総合指標を作成します。(10時間)
(9)-(10)賃金市場のデータを用い分析方法をを紹介します。また、場合によっては各国の所得を比較します。(8時間)
(11)-(12)家計のデータを用いて消費の分析を行います。分析方法としては回帰分析を用います。実際のデータ分析が必要です。(8時間)
(13)景気指標による景気変動の分析を行います。各種指標について調べます。(8時間)
(14)-(15)GDP等各種経済指標を用いて、各国の経済を比較します。GDPの構成がどのようになっているかの資料を参照します。(10時間)

教科書・参考書等
基本的には使用しません。説明に関しては配布物等を用意する予定です。

以下は参考書です。
『経済統計入門』、中村・新家・美添・豊田、東京大学出版会
『統計データの理論と実際』、総務省統計研究研究所、日本統計協会
『経済統計』、廣松、高木、佐藤、木村、新世社
『テキストブック・経済統計』、中島・北村・木村・新保、東洋経済新報社
『統計学（第２版)』、森棟公夫、新世社
その他、必要に応じて授業中に紹介します。

オフィスアワー　　1回目の授業にてに周知します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
授業のレジュメ等を用意する場合があるので、各自で印刷してください。具体な方法は第一回目の授業において説明します。なお、授業中、許可なくスマホ等の使用を禁止します。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：313173)<br>公共経済学<br>Public Economics | 科目区分 | 時間割<br>前期火2 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>福村　晃一 | 関連授業科目 | 経済政策、財政学 | |
| | 履修推奨科目 | ミクロ経済学I,II、マクロ経済学I,II | |

学習時間　　講義90分×15回+自学自習(準備学習15時間＋事後学習45時間)

授業の概要

ミクロ経済学の応用分野である、公共経済学における様々な理論上の概念について主に講義する。それにより、ミクロ経済学で学習した手法を応用して、現実の社会における様々な経済現象を解釈するために必要な能力を養成する。

授業の目的

現実の社会における様々な経済現象やそれに対応した政策を､経済学の立場から分析するために必要な理論上の概念について学ぶ。
そして、官庁・企業などで政策や業務計画などの企画・立案・推進・評価などを行うために必要な、公共経済学に関する基礎的な知識や考え方を習得する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 1. 公共経済学で用いられている概念を理解し､現実の経済現象に当てはめて説明できる｡(DPの知識・理解（21世紀型市民及び学士（経済学）として)、言語運用能力と対応)<br><br>2. 公共経済学で用いられている概念を活用し、現実の経済活動から生じる様々な問題を、経済学を用いて解決する方策を考えられる。<br>(DPの問題解決・課題探求能力、言語運用能力と対応) | |

成績評価の方法と基準

期末試験、宿題、授業中提出物を組み合わせて評価する。
ただし、次のAの割合による評価とBの割合による評価を比較し、高い方で評価する。
A: 期末試験50%、宿題40%、授業中提出物10%
B: 期末試験70%、宿題20%、授業中提出物10%

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

以下の授業計画に基づいて板書とスライドを基本とした講義を行う。適宜練習問題をスライドなどで示すので、式展開や結果の解釈、専門用語の定義などを独力で説明できるようにすること。その際、宿題を不定期に課すので、自分の理解を過不足なく言語化して解答を作成すること。なお、実際の授業の進捗状況によっては以下の計画が変更される場合があるが、その際は周知する。
この科目は原則全回対面授業を行います。

【授業計画】
1. 講義の概要説明、公共経済学のイントロダクション
2. ミクロ経済学の基礎の復習
3. 厚生経済学の基本定理・パレート最適
4. 課税の分析1:基礎
5. 課税の分析2:応用
6. 寡占・独占
7. 外部性
8. 公共財1:基礎
9. 公共財2:応用
10. 費用便益分析
11. 地方分権
12. 公共選択
13. 所得再分配と社会厚生
14. 財政運営と世代
15. まとめ

【自学・自習へのアドバイス】
自学・自習の時間は、4時間×15回程度をかけることを想定している。各回の前後とも、それまでの講義の内容について、専門用語・式展開などの説明、計算結果の解釈を行い、そのうえで、報道・書籍などで紹介されている、さまざまな現実の経済現象との関連について考えることを想定している。

教科書・参考書等
講義資料をもとに講義を行うため、教科書は購入する必要はない。ただし、講義内容は「公共経済学」、林正義・小川光・別所俊一郎、有斐閣アルマ、有斐閣、2010年、2,300円+税、をもとにしているので、必要であれば購入すること。
また、以下の参考文献も適宜参照して、概念の理解に努めること。
「公共経済学」、小川光・西森晃、中央経済社、2015年、2,300円+税、
「公共経済学」、小塩隆士、東洋経済新報社、2016年、2,800円＋税、
「公共経済学15講」、佐藤主光、新世社、2017年、2,400円＋税、
「入門公共経済学(第二版)」、土居丈朗、日本評論社、2018年、2,900円＋税、
Intermediate Public Economics, 2nd ed. Hindriks and Myles 2013 MIT Pressなど
また、回によっては次のような財政学の本も参考になる。
「財政のエッセンス」、西村幸浩・宮﨑智視、有斐閣、2015年、1,900円＋税
「実践財政学」、赤井伸朗編、有斐閣、2017年、2,700円＋税、など

オフィスアワー　　毎週火曜日4時限目に、南3号館2階の研究室で対応します。それ以外は事前にメールで予約を取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
経済学やそれを応用した科目は、練習問題・試験問題が解ければ、理解したといえるような科目ではありません。理解のためには、数式の背後にある仮定・概念・理屈、そしてそこから導き出される結論を教科書・講義とは別の自分なりの言い方で説明することが重要です。面倒がらずに、言語化する練習をしましょう。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：313195)<br>地域経済学<br>Regional Economics | 科目区分 | 時間割<br>前期金4 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>福村　晃一 | 関連授業科目 | 経済政策、財政学、公共経済学 | |
| | 履修推奨科目 | ミクロ経済学I,II、マクロ経済学I,II | |

学習時間　　講義90分×15回+自学自習(準備学習15時間＋事後学習45時間)

授業の概要

経済学の応用分野である、地域経済学における様々な理論上の概念について主に講義する。具体的には、主にミクロ経済学で学習した手法を応用して、現実の社会における様々な経済現象を解釈するために必要な能力を養成する。とりわけ、空間的な要素に着目したものを中心として扱う。

授業の目的

現実の社会における様々な経済現象やそれに対応した政策を、経済学の立場から分析するために必要な理論上の概念やデータの取り扱い方法について学ぶ。
この講義を受講することにより、地方自治体などの官庁・企業などで政策や業務計画などの企画・立案・推進・評価などを行うために必要な、地域経済学に関する基礎的な知識や考え方を習得する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 1. 地域経済学で用いられている概念を理解し、現実の経済現象に当てはめて説明できる。(DPの知識・理解（21世紀型市民及び学士（経済学）として)、言語運用能力と対応)<br><br>2. 地域経済学で用いられている概念を活用し、現実の経済活動から生じる様々な問題を、経済学を用いて解決する方策を考えられる。<br>(DPの問題解決・課題探求能力、言語運用能力と対応)<br><br>3. 地域経済学で用いられる様々なデータを、正確に解釈・運用できる。<br>(DPの問題解決・課題探求能力、言語運用能力と対応) | |

成績評価の方法と基準

期末試験、宿題、授業中提出物を組み合わせて評価する。
ただし、次のAの割合による評価とBの割合による評価を比較して、高い方で評価する。
A: 期末試験50%、宿題40%、授業中提出物10%
B: 期末試験70%、宿題20%、授業中提出物10%

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

以下の授業計画に基づいて板書とスライドを基本とした講義を行う。適宜練習問題をスライドなどで示すので、式展開や結果の解釈、専門用語の定義などを独力で説明できるようにすること。なお、実際の授業の進捗状況によっては以下の計画が変更される場合があるが、その際は周知する。
この科目は原則全回対面授業を行います。

【授業計画】
1.講義の概要説明、地域経済学のイントロダクション
2.ミクロ・マクロ経済学・数学の復習
3.日本の地域と都市のデータの概観
4.地域の産業構造
5.地域間人口移動
6.集積の経済と都市化
7.住宅市場
8.都市内土地利用の分析
9.都市システムモデルと最適人口規模
10.地域間交易
11.企業立地
12.空間経済学
13.交通サービス
14.地方政府の役割
15.まとめ

【自学・自習へのアドバイス】
自学・自習の時間は、4時間×15回程度をかけることを想定している。各回の前後とも、それまでの講義の内容について、専門用語・式展開などの説明、計算結果の解釈を行い、そのうえで、報道・書籍などで紹介されている、さまざまな現実の経済現象との関連について考えることを想定している。

教科書・参考書等
講義資料をもとに講義を行うため、教科書は購入する必要はない。ただし、講義内容は「都市・地域経済学への招待状」、佐藤泰裕、有斐閣ストゥディア、有斐閣、2014年、1,800円+税、や以下の参考書をもとにしているので、必要であれば購入・参照して、概念の理解に努めること。
「地域政策の経済学」林宜嗣・山鹿久木・林亮輔・林勇気著、日本評論社、2018年、2700円＋税
「都市経済学(第2版)」、金本良嗣・藤原徹著、東洋経済新報社、2016年、3200円+税
「都市と地域の経済学[新版]」、黒田達朗・田渕隆俊・中村良平著、有斐閣ブックス、2008年、2500円＋税
「都市経済学」、高橋孝明著、有斐閣ブックス、2012年、2500円＋税
Modern Urban and Regional Economics, 2nd ed. Philip McCann, Oxford University Press., 2013.

オフィスアワー　　毎週火曜日4時限目に、南3号館2階の研究室で対応します。それ以外は事前にメールで予約を取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
経済学やそれを応用した科目は、練習問題・試験問題が解ければ、理解したといえるような科目ではありません。理解のためには、数式の背後にある仮定・概念・理屈、そしてそこから導き出される結論を教科書・講義とは別の自分なりの言い方で説明することが重要です。面倒がらずに、言語化する練習をしましょう。ミクロ経済学・マクロ経済学のIとIIを両方の受講をおすすめします。

| ナンバリングコード　B3ECN-bcaE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：313191)<br>国際経済学Ａ<br>International Economics Ａ | 科目区分 | 時間割<br>後期金4～5 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3ECN | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>持田　めぐみ，斉藤　宗之 | 関連授業科目 | ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、上級ミクロ経済学、経済数学入門、国際経済学、公共経済学 | |
| | 履修推奨科目 | ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、上級ミクロ経済学、経済数学入門、国際経済学 | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習　(準備学習30時間＋事後学習30時間)

授業の概要

国際経済学は、大きく分けて、モノ・サービスの国境を越えた取引を扱う「国際貿易論」とカネの国境を越えた取引を扱う「国際金融論」に分けられます。本講義では、国際貿易理論の初歩を講義し、初学者でもモノ・サービスの国際取引に関するさまざまな諸問題について、事例を踏まえながら経済学的見地から考察していくことができるように講義を行います。

授業の目的

国際貿易に関わる諸問題について、経済学的に考察していくことを目的としています。そのために、経済学の理論に関わる概念やそれに関連する知識についても学びます。この講義を受講することで、国際経済問題に関する広範な知識を習得すると同時に、抽象と具体を行き来する思考力を獲得することができます。(DPの知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識に対応)

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 1) 国際貿易理論の基礎を習得し、実際の経済現象を説明できる。<br>2) 現実の国際経済問題について、経済学的にどのように解釈できるのかを自発的に考えられ、論理的に自分の意見を述べることができる。 | |

成績評価の方法と基準

宿題10%、小テスト20%，期末テスト70%により評価します。
より詳細には、初回授業において指示します。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

授業は、スライドと板書による講義形式で行います。なお、授業についての学生の理解、授業の進捗状況によっては、計画が変更される場合があります。また、授業中に適宜問題演習・小テストを行います。

次回の講義該当部分を予習するようにしてください。講義内容でわからない点や、復習しているときに疑問点が生じた場合は、質問してわからないことをなくすようにすることや、宿題を解いて講義内容の理解を深めるように努めてください。

第１回：イントロダクション
第２回：ミクロ経済学の復習
第３回：自由貿易について
第４回：貿易制限の経済効果(1)－小国のケース
第５回：貿易制限の経済効果(2)－大国のケース
第６回：戦略的貿易政策
第７回：ダンピングとセーフガード
第８回：貿易政策の政治経済学
第９回： 地域貿易協定(1)－世界貿易体制における地域貿易協定
第１０回： 地域貿易協定(2)－地域貿易協定の経済効果
第１１回： 貿易と環境(1)－貿易による環境への効果
第１２回： 貿易と環境(2)－貿易政策と環境政策の効果
第１３回： リカード・モデルと自由貿易の利益
第１４回： 生産要素供給と貿易パターン
第１５回：まとめ

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等
『国際経済学をつかむ　第２版』、石川城太他、有斐閣、2013年、2200円＋税、を教科書として使用します。また、講義資料を配布します。また、講義の参考となる文献としては、以下の文献になります。
『自由貿易はなぜ必要なのか』、椋寛著、有斐閣、2020年、2300円＋税
『国際貿易-グローバル化と政策の経済分析-』、ジョン・マクラレン著、柳瀬明彦訳、文眞堂、2020年、3000円+税
『国際経済学』、秋葉弘哉編、ミネルヴァ書房、2010年、3800円＋税
『国際経済学』、阿部顕三・遠藤正寛、有斐閣、2012年、2400円＋税
『国際経済学　国際貿易編』、中西訓嗣、ミネルヴァ書房、2013年、3500円＋税

オフィスアワー　　講義終了後

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
履修上の注意事項は初回授業で説明します。

| ナンバリングコード　B3ECN-bcxE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：313192)<br>国際経済学Ｂ<br>International Economics Ｂ | 科目区分 | 時間割<br>後期月1 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3ECN | DP・提供部局<br>bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>山ノ内　健太 | 関連授業科目<br>A | マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、統計学入門、国際経済学 | |
| | 履修推奨科目<br>A | マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、統計学入門、国際経済学 | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

世界全体でも日本でもグローバル化は急速に進んでおり、外国を身近に感じる機会は少なくない。それでは、このグローバル化の進展は、我々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。本講義では国際経済学を学び、グローバル化が経済に及ぼす影響を体系的に理解することを目指す。国際経済学は国境を越えた取引を分析する学問であり、財・サービスの取引を扱う「貿易論」とカネの取引を扱う「国際金融論」に分けられる。この「国際経済学B」では「国際金融論」を中心に扱い、理論と実証の両面から国際金融と我々の生活の関係について考えていく。

授業の目的

本講義では標準的な国際金融論を体系的に習得することを目指す。具体的には、国際金融の実態と関係する制度・政策の把握（DPの「知識・理解」に対応）、国際金融の基礎的な理論の理解（DPの「知識・理解」に対応）、関連するデータ処理能力の獲得（DPの「問題解決・課題探求能力」に対応）の3点を重視し、最終的には理論とデータからグローバル化に関して自身の見解を養うことを目標とする。国際金融論はマクロ経済学の応用であり、基礎的なマクロ経済学の理解は前提とされるが、逆に国際金融論を学ぶことでマクロ経済学の知識が肉付けされる場合もある。同様に為替レートや国際収支統計などの処理を通して統計学の知識も深めてほしい。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| ・世界経済や日本経済において国際金融が果たす役割を知り、関連する制度や政策を把握する。<br>・国際金融の基礎的な理論を理解し、グローバル化が経済に与える影響を理論的に考察できるようになる。<br>・国際金融に関するデータを自身の手で適切に処理できるようになり、分析を通してグローバル化に関して自身の考えを持つ。 | |

成績評価の方法と基準

成績は小テスト（50%）とレポート（50%）で評価する。場合によっては授業態度を加味する可能性もある。小テストは講義内容の定着を確認するために毎回行い、選択問題と計算問題を中心とする。レポートではデータ分析を通して結論を自らの手で導くことを要求する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業の方法】

授業は配布スライドを用いた講義形式とする。補足説明の際には板書をする場合もある。また、2回程度のデータ処理演習を予定しており、パソコン室を利用して関連するデータの扱い方を説明する。なお、この科目は全回対面授業を予定している。ただし、状況によっては一部を遠隔授業に変更する可能性もある。

【授業計画】

第1回：イントロダクション
第2回：国民所得計算と国際収支
第3回：為替レートと外国為替市場
第4回：貨幣・金利・為替レート
第5回：物価水準と長期的な為替レート
第6回：短期的な産出と為替レート
第7回：為替レートに関する理論の復習と補足
第8回：固定為替レートと外国為替介入
第9回：国際通貨システム
第10回：国際金融に関わるデータの入手方法
第11回：金融のグローバル化
第12回：最適通貨圏
第13回：発展途上国
第14回：国際金融に関わるデータの分析方法
第15回：まとめ

【自学自習に関するアドバイス】
小テストの問題は事前に公開するので、予習の目安として解答を考えてから講義に臨んでほしい。また、講義でデータを扱った場合は、データの入手や加工を自身の手で行って復習することを推奨する。

教科書・参考書等
【教科書】
講義は原則としてMoodleで配布するスライドに基づいて行う。ただし、内容と構成は以下の教科書に従う。小テストの問題もこの教科書の内容をベースとするため、必須ではないが購入を推奨する。

P.R.クルーグマン・M.オブストフェルド・M.J.メリッツ著、山形浩生・守岡桜訳『クルーグマン国際経済学 理論と政策〔原書第10版〕下：金融編』、丸善出版、2017年、5,000円＋税。

【参考書】
飯島寛之、五百旗頭真吾、佐藤秀樹、菅原歩著『身近に感じる国際金融』、有斐閣ストゥディア、2017年、1,800円＋税。

オフィスアワー　　質問等は金曜5校時に南キャンパス3号館3階の山ノ内研究室で受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
国際金融論はマクロ経済学の重要な応用であり、本講義は広い視野と長期的な視点で経済全体を俯瞰する良い機会になると思われる。また、国際金融データの処理を通して得られた分析能力は、卒業論文の執筆や就職後の実務でも大いに役立つと期待される。意欲のある学生に履修してほしい。

| ナンバリングコード　B3ECN-badE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：312132)<br>社会政策Ｂ<br>Social Policy B | 科目区分 | 時間割<br>前期水1 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3ECN | DP・提供部局<br>badE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>加藤　美穂子,佐藤　忍 | 関連授業科目 | 社会政策A | |
| | 履修推奨科目 | 経済政策、財政学、福祉経済論 | |

学習時間　　講義９０分×１５回＋自学自習（準備学習１０時間＋事後学習２０時間+レポート課題３０時間）

授業の概要

この講義は､社会保険の基本的な仕組みを概説する｡とりわけ保険事故と保険給付との対応関係を重点的に解説する。そうすることで社会保険を身近なものに感じてもらうことが狙いである｡そして年金についてもその理解を深めるために、年金額の計算に習熟してもらうつもりである。

授業の目的

社会政策とは､「生きる」「働く」「老いる」といった私たちの生活のあり方を根底から規定する諸政策の総称である。この授業は、社会保険の基本構造、とりわけ年金制度の仕組みに習熟することを目的とする。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １．社会保険の基本を理解し、身近なものとして実感できるようになる。<br>２．年金額の計算をつうじて年金制度への正しい理解を獲得する。 | |

成績評価の方法と基準

宿題（練習問題)、期末試験に基づき総合的に評価する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

この科目は基本的に対面授業を行います｡なお状況によっては授業形態を一部または全て遠隔へ変更する可能性があります。

ガイダンス……(1)

Ⅰ　社会保険の概要
　１．狭義の社会保険……(2～4)
　２．労働保険……(5～8)

Ⅱ　年金
　１．老齢基礎年金……(9～10)
　２．老齢厚生年金……(11～12)
　３．遺族年金……(13～14)

まとめ……(15)

授業の理解度を確認するために毎回、レポート課題もしくは練習問題等の宿題を課す。自学自習のきっかけとしても積極的に活用すること。

【自学自習のためのアドバイス】
授業を予習する。（１×１０時間）
授業を復習する。（２×１０時間）
レポート課題を提出する。（２×１５時間）

教科書・参考書等

使用しない。
椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障[第3版]』有斐閣、２００５年。
『図解　わかる年金』新星出版社、最新年。
音川敏枝『年金計算トレーニングBook』ビジネス教育出版社、２０１７年。
その他、適宜、指示する。

オフィスアワー　　授業終了時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

年金計算には電卓が必須である。各自、用意しておくこと。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：313271)<br>福祉経済論<br>Welfare Economics | 科目区分 | 時間割<br>前期木2 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>加藤　美穂子 | 関連授業科目 | 社会政策、経済政策、財政学 | |
| | 履修推奨科目 | 社会政策、経済政策、財政学 | |

学習時間　　講義90分×15回　＋　自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

日本は第2次世界大戦後、豊富な若年者人口と高い経済成長率といった好条件の下で、社会保障制度などを中心に福祉国家システムを構築・拡充してきました。しかし21世紀の現在、少子高齢化や人口減少、グローバルな国際競争の激化による経済成長の低迷など、日本の経済社会を取り巻く環境は大きく変化しており、20世紀後半の好条件の下で構築されてきたシステムの再編が避けがたくなっています。

特に、年金や医療の社会保険制度においてその持続可能性が危ぶまれる状況であり、それらを21世紀の条件下で持続可能な制度へと改変していくことが重要な課題となっています。

この授業では、上記のような日本経済の構造変化と福祉国家システムの財政的課題を踏まえながら、日本の福祉国家システムの基本構造と特徴について学びます。特に、社会保障制度の中軸をなす皆保険・皆年金の社会保険の諸制度に焦点をあて、その枠組みと現在直面している課題について検討します。

授業の目的

公的年金や公的医療保障は、日本の社会保障システムの中心をなすものであり、今や人々の生活に不可欠なものとなっています。しかし、今後さらなる高齢社会の深化が予測される中で、これらの社会保険制度は持続可能性を危ぶまれる状況にあり、21世紀の日本の経済社会環境に適したシステムへの改変が模索されています。

この授業では、第1に、資本主義と民主主義をベースとする経済社会において福祉国家が果たす役割と、日本の社会保障システムの理念とデザインを理解することを目指します(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応)。第2に、日本の社会保障システムについて、年金・医療等の社会保険を中心に基本構造と課題を理解し、今後のありかたを多角的に検討するために必要不可欠な知識の習得と論理的思考力を育むことを目的とします(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| (1)日本の社会保障システムの理念と体系について説明できる。<br>(2)日本の皆年金システムの基本構造を説明できる。<br>(3)日本の公的年金システムの財政方式を説明できる。<br>(4)日本の皆保険システムの基本構造を説明できる。<br>(5)日本の公的医療保障システムの財政調整メカニズムを説明できる。<br>(6)高齢社会の深化が各種社会保険制度にもたらす影響を説明できる。 | |

成績評価の方法と基準

小課題・宿題(40%)＋期末試験(60%)によって評価します。
課題は、Moodleを通じて提出してもらいます。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【講義及び学習の方法】

・授業はテキストに沿って進めます。授業時にテキストの図表や本文を参照しながら説明しますので、必ず手元で確認できるようにしてください。また、課題をテキストから出題することもあります。
・授業では、毎回、理解を深めるための小課題を出題します。必ず期限までに提出してください。それらの課題に取り組んでいることを前提にして、以降の授業を進めます。
・授業に関する連絡や課題の提出は、Moodleを通じて行います(授業時間内に解答する小課題も、Moodleで行います)。詳細は、ドリームキャンパスもしくは授業内に指示します。
・この科目は、遠隔方式で行います。

【授業計画】

第1回：ガイダンス（遠隔）
第2回：日本の社会保障システムの理念(1)（遠隔）
第3回：日本の社会保障システムの理念(2)（遠隔）
第4回：社会保障システムの全体像(1)（遠隔）
第5回：社会保障システムの全体像(2)（遠隔）
第6回：社会保険と民間保険（遠隔）
第7回：年金システム(1)　意義と役割、日本における公的年金の形成史①（遠隔）
第8回：年金システム(2)　日本における公的年金の形成史②（遠隔）
第9回：年金システム(3)　日本の年金システムの仕組み（遠隔）

第10回：年金システム(4)　公的年金システムの課題（遠隔）
第11回：医療保障システム(1)　経済成長と皆保険システム（遠隔）
第12回：医療保障システム(2)　分立的な制度設計と財政調整①（遠隔）
第13回：医療保障システム(3)　分立的な制度設計と財政調整②（遠隔）
第14回：医療保障システム(4)　日本の公的医療保障システムの課題（遠隔）
第15回：授業のまとめ（遠隔）

【自学自習について】
・毎回、予習としてテキストを熟読し、授業後には授業内容を整理して、テキストを再度熟読する。(30時間)
・第2・3回　福祉国家の役割と日本の社会保障システムの理念を説明できるようにする。(4時間)
・第4・5回　日本の社会保障システムの全体構造について、統計表を読み取りながら特徴を検討し、要点をまとめる。(6時間)
・第6回　社会保険の特徴を説明できるようにする。(3時間)
・第7～10回　日本の公的年金システムの構造と財政方式、課題を説明できるようにする。(6時間)
・第11回　高齢社会の深化がもたらす国民医療費への影響について検討し、説明できるようにする。(3時間)
・第12・13回　日本の公的医療保険システムの構造と財政調整の仕組みを説明できるようにする。(5時間)
・第14回　公的医療保険の持続可能性や無保障者問題について検討し、要点をまとめる。(3時間)

教科書・参考書等
教科書：
木下武徳ほか編（2017)『日本の社会保障システム-理念とデザイン』、東京大学出版会、2750円

参考書：
渋谷博史著、『改訂版　福祉国家と地域と高齢化』、2014年、ISBN978-4-7620-2466-5 C3333
その他、授業内に適宜紹介します。

オフィスアワー　　木曜日　12:00-13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
・授業で学ぶ内容への理解を深めるために、普段より、新聞やニュースに関心を持ち、見聞きしておくことを推奨します。
・重要な講義連絡を、ドリームキャンパスを通じて行うことがあります。ドリームキャンパスからの連絡をすみやかに確認できるようにしておいてください。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：313250)<br>金融政策Ⅰ<br>Monetary Policy Ⅰ<br>バブル崩壊後の日本経済と伝統的金融政策 | 科目区分 | 時間割<br>前期水2 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>海野　晋悟 | 関連授業科目 | 経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、金融論、計量経済学 | |
| | 履修推奨科目 | 経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、金融論Ⅰ・Ⅱ、計量経済学 | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

皆さんは、現在、どのような金融政策が行われているか知っていますか？金融政策は、どこの組織が実施しているか知っていますか？金融政策の影響は、我々の生活にどのような影響を与えるか、与えそうか知っていますか？現在、金融政策の実施主体は、ある目標を達成すべく、本当にいろんなプログラムを実行しています。しかし、目標は達成できていません。少し金融政策に興味をもってもらえたでしょうか。

金融政策Iは、金融政策が効果をもって経済に影響を与えるメカニズム（理論）と実際に行われた金融政策とそれがもたらした効果（現実）を学びます。さらに、金融政策の具体的な実施方法について学習します。金融政策Iでは、伝統的金融政策を学び、金融政策IIでは、非伝統的金融政策という概念を学びます。何が伝統で、何が非伝統かの学習を通して、金融政策の大胆さと繊細さを実感してもえます。金融政策IIまで履修すると「金融政策」という講義自体は、コンプリートです。金融政策Iの受講前後に、経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、金融論、計量経済学を受講すると金融政策で得られた知識・考え方が役に立つはずです。

授業の目的

日々の金融政策の動向や金融政策の関係者の発言は、メディアで大きく注目されます。金融政策の実施内容を理解し、背後の経済的メカニズムを理解できれば、これから経済がどう変わっていくかを見通せるようになります。日本経済が抱える課題に対して関心を持ち、金融政策を含めた処方箋を学生のみなさんが考え抜けるように講義と議論を展開します。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| （1）金融政策の意義、実施方法が説明できる<br>（2）金融政策の理論・効果を説明できる<br>（3）IS-LMモデルを用いて、過去・現在の金融政策の分析を行うことができる | |

成績評価の方法と基準

中間試験(20%)
期末試験(20%)
課題提出(50%)　←毎回出席して、講義内容の「丁寧な」メモをとっていれば解決できます
講義参画度(10%)　←講義参画度とは、講義中の発言(チャットでの発言)を促す場面を作ります、その時に積極的に発言した者を評価することです

で評価します。ただし、受講状況や人数に応じて変える可能性があります。詳細は初回の講義の時に説明します。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。】

講義では、ハンドアウトの配布と板書を行います。ハンドアウトは、Moodle上にアップロードする予定です。

【授業計画】(進行状況により変更する可能性があります)

金融政策と経済の関係
(1)　イントロ
(2)　経済データで見る日本経済（１）　高度成長、バブル経済
(3)　経済データで見る日本経済（２）　バブル経済崩壊、失われた２０年、アベノミクス

金融政策の実施主体・日本銀行
(4)　日本銀行の組織と業務
(5)　金融政策の目的と手段
(6)　金融政策の波及経路（１）　金利チャネル、バランスシート・チャネル
(7)　金融政策の波及経路（２）　為替チャネル、リスクテイキング・チャネル

==========
(8) まとめ＋中間試験
==========
（伝統的）金融政策の理論：IS-LMモデル
(9) IS-LM 導入
(10) IS-LM （伝統的）金融政策（１）
(11) IS-LM （伝統的）金融政策（２）と特殊なケース（２）
(12) IS-LM 特殊なケース（２）
（伝統的）金融政策の効果
(13) バブル経済までの金融政策の効果
(14) バブル崩壊後99年までの金融政策の効果
伝統的金融政策の限界：非伝統的金融政策へ
(15) 先進各国に10年早く非伝統的金融政策の世界へ

【自学自習に関するアドバイス】
投影資料の中の情報は、講義の内容の一部です。教員の話す内容をメモに残すことがが非常に重要になってきます。効果的な復習をするためには、教員の講義を自分で再現してみてください。投影資料と教員の口頭の説明を書き込んだメモなどをノートとして清書することで効果が高まります。
また講義中、何度も金融政策や日本経済に関連する日本経済新聞の記事を紹介・配布します。必ず、講義後には丁寧に読みきるようにしてください。試験範囲に含まれます。また自ら進んで紙媒体の新聞を読むようにしましょう。

教科書・参考書等
特定の教科書は指定しません。
小林 照義 『金融政策』 中央経済社 2015
酒井・榊原・鹿野 『金融政策』 有斐閣アルマ 2004
白川 『現代の金融政策』 日本経済新聞社 2008
翁 『日本銀行』 ちくま新書 2013
日本銀行ホームページ 「日本銀行を知る・楽しむ」

オフィスアワー 基本的にオンライン・オフィスアワーを設けています。https://shingo-umino.youcanbook.me から予約をとってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
講義内容の理解・修得には、毎回出席することが重要です。継続が非常に重要です。また、不明な点をそのままにせず、疑問・質問を解消することも非常に大切です。少しの勇気で、担当教員・海野に喋りかければ、それらは間違いなく解消されます。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：313251)<br>金融政策Ⅱ<br>Monetary Policy Ⅱ<br>長期停滞と非伝統的金融政策 | 科目区分 | 時間割<br>後期水2 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>海野　晋悟 | 関連授業科目　　金融政策I、ミクロ経済学I、ミクロ経済学II、マクロ経済学I、マクロ経済学II、金融論I、金融論II | | |
| | 履修推奨科目　　金融政策I、ミクロ経済学I、ミクロ経済学II、マクロ経済学I、マクロ経済学II、、金融論I、金融論II | | |

学習時間　　講義90分 × 15回 ＋ 自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

【金融政策IIの講義は、金融政策Iの知識を前提にしています。受講は、金融政策Iの単位取得を条件にします】

皆さんは、現在、どのような金融政策が行われているか知っていますか？金融政策は、どこの組織が実施しているか知っていますか？金融政策の影響は､我々の生活にどのような影響を与えるか､与えそうか知っていますか？現在、金融政策の実施主体は、ある目標を達成すべく、本当にいろんなプログラムを実行しています。しかし、目標は達成できていません。少し金融政策に興味をもってもらえたでしょうか。

金融政策Iは、金融政策が効果をもって経済に影響を与えるメカニズム（理論）と実際に行われた金融政策とそれがもたらした効果（現実）を学びます。さらに、金融政策の具体的な実施方法について学習します。金融政策Iでは、伝統的金融政策を学び、金融政策IIでは、非伝統的金融政策という概念を学びます。何が伝統で、何が非伝統かの学習を通して、金融政策の大胆さと繊細さを実感してもえます。金融政策IIまで履修すると「金融政策」という講義自体は、コンプリートです。金融政策Iの受講前後に、経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、金融論、計量経済学を受講すると金融政策で得られた知識・考え方が役に立つはずです。

授業の目的

日々の金融政策の動向や金融政策の関係者の発言は、メディアで大きく注目されます。金融政策の実施内容を理解し、背後の経済的メカニズムを理解できれば、これから経済がどう変わっていくかを見通せるようになります。日本経済が抱える課題に対して関心を持ち､金融政策を含めた処方箋を学生のみなさんが考え抜けるように講義と議論を展開します。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| （１）金融政策の意義、実施方法が説明できる<br>（２）金融政策の理論・効果を説明できる<br>（３）適当な理論モデルを用いて、過去・現在の金融政策の分析を行うことができる | |

成績評価の方法と基準

課題試験(60%) 30%×２回　インターネットで検索しても回答のない課題を２回課します

期末試験(40%)

講義参画度(10%)　←講義参画度とは、講義中の発言を促す場面を作ります、その時に積極的に発言した者を評価することです

で評価します。ただし、受講状況や人数に応じて変える可能性があります。詳細は初回の講義の時に説明します。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。】

講義では、投影資料の解説で行います。投影資料は、後日、Moodle上にアップロードする予定です。

【授業計画】(進行状況により変更する可能性があります)

(1)　イントロ　まず日本が非伝統的金融政策の世界へ&知識確認テスト

先進国も導入した非伝統的金融政策

(2)　先進国の非伝統的金融政策導入（１）　リーマンショック、欧州債務危機

(3)　先進国の非伝統的金融政策導入（２）　FRB、ECBの非伝統的金融政策

(4)　先進国の非伝統的金融政策導入（３）　日本より先に卒業

(5)　非伝統的金融政策のイノベーション

==========

(6)　１回目　課題解説

==========

非伝統的金融政策の効果を説明する理論的なメカニズム
(7) IS-LMモデルが示す非伝統的金融政策の効果（１）
(8) IS-LMモデルが示す非伝統的金融政策の効果（２）
(9) 政策反応関数が示すゼロ金利コミットメントの効果
(10) クルーグマンモデルが示す「日本経済のわな」
なぜ「２％の物価安定目標」なのか？
(11) インフレ目標政策の経緯
(12) 日本が「デフレ均衡」にいた可能性
(13) ２％の物価安定目標は適当か？
（１４） 人々のインフレ期待とは？（１）
（１５） 人々のインフレ期待とは？（２）

【自学自習に関するアドバイス】
投影資料の中の情報は、講義の内容の一部です。教員の話す内容をメモに残すことがが非常に重要になってきます。効果的な復習をするためには、教員の講義を自分で再現してみてください。投影資料と教員の口頭の説明を書き込んだメモなどをノートとして清書することで効果が高まります。
また講義中、何度も金融政策や日本経済に関連する日本経済新聞の記事を紹介・配布します。必ず、講義後には丁寧に読みきるようにしてください。試験範囲に含まれます。また自ら進んで紙媒体の新聞を読むようにしましょう。

教科書・参考書等
特定の教科書は指定しません。
小林 照義 『金融政策』 中央経済社 2015
酒井・榊原・鹿野 『金融政策』 有斐閣アルマ 2004
白川 『現代の金融政策』 日本経済新聞社 2008
翁 『日本銀行』 ちくま新書 2013
日本銀行ホームページ 「日本銀行を知る・楽しむ」

オフィスアワー 基本的にオンライン・オフィスアワーを設けています。https://shingo-umino.youcanbook.me から予約をとってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
【金融政策IIの講義は、金融政策Iの知識を前提にしています。受講は、金融政策Iの単位取得を条件にします】
講義内容の理解・修得には、毎回出席することが重要です。継続が非常に重要です。また、不明な点をそのままにせず、疑問・質問を解消することも非常に大切です。少しの勇気で、担当教員・海野に喋りかければ、それらは間違いなく解消されます。

# コース専門科目

（会計・ファイナンスコース　２年次配当）

| ナンバリングコード　B30TH-bacE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：301000)<br>コース概説科目 | 科目区分 | 時間割<br>前期水1 | 対象年次及び学科<br>2～2経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B30TH | DP・提供部局<br>bacE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>山口　尚美 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習と事後学習で計30時間）

授業の概要

経済学部の教育カリキュラムは、経済学を中心として「経済・政策分析」、「会計・ファイナンス」、「経営・イノベーション」、「観光・地域振興」、「グローバル社会経済」の5つのコースから編成されている。

2年次後期からはこの5つのコースのひとつを各自の興味関心・適性・将来の進路に合わせて選択して、各コースが提供するコース専門科目を中心に学修していきながら、各コースが修学案内に掲げている能力を養成していくことになる。

以上を踏まえて、この授業では、各コースとつながりが深い授業科目やコース専門科目を担当する３名の教員がコースを代表して担当する授業科目の内容やその周辺の学問領域などについて紹介する。

授業の目的

経済学部の教育カリキュラムが提供する5つのコースの特色、及び各コースの学問領域において研究対象となる経済・経営・社会・文化に関わる現象や問題のいくつかについて理解する。(学士課程のDP「知識・理解」に対応)

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 経済学部の教育カリキュラムが提供する5つのコースの特色を説明できるようになる。<br>自分自身の興味関心・適性・将来の進路に合わせて、適切なコースを選択できるようになる。 | |

成績評価の方法と基準

レポート（5回以上）を元に成績評価を行う。
出席回数が考慮される可能性もある。
ただし、単位認定のためには、「15回中10回以上の出席を必要」とする。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

第1回　経済・政策分析コース①
第2回　経済・政策分析コース②
第3回　経済・政策分析コース③
第4回　会計・ファイナンスコース①
第5回　会計・ファイナンスコース②
第6回　会計・ファイナンスコース③
第7回　経営・イノベーションコース①
第8回　経営・イノベーションコース②
第9回　経営・イノベーションコース③
第10回　観光・地域振興コース①
第11回　観光・地域振興コース②
第12回　観光・地域振興コース③
第13回　グローバル社会経済コース①
第14回　グローバル社会経済コース②
第15回　グローバル社会経済コース③

＜2021年度　担当教員　2022年度は未定＞（五十音順、敬称略）
経済・政策分析コース：　福村、持田、姚
会計・ファイナンスコース：　井上、長山、宮脇
経営・イノベーションコース：　塩谷、山口、渡邉
観光・地域振興コース：　西成、二ツ山、山崎
グローバル社会経済コース：　園部、髙橋（明）、水野

教科書・参考書等

必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

| ナンバリングコード　B3BSN-bcaE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：322165)<br>管理会計論<br>Management Accounting | 科目区分 | 時間割<br>後期木2 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>朴　鏡杓 | 関連授業科目 | 会計・経営学関連科目 | |
| | 履修推奨科目 | 簿記・会計関連科目 | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要
マネジメントのための会計である管理会計を初めて学ぶ学生のための授業です。本授業では、管理会計の基本的な概念、技法、考え方などを学習し、さらに経営管理にどのように実践されているかについて考えていきます。

授業の目的
経営管理に役立つ管理会計の基礎知識を身につけること(DPの「知識・理解」に対応)を目指します。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 1.利益管理と原価管理に役立つ原価概念、諸技法を説明できる。<br>2.意思決定と業績評価のための管理会計技法を習得できる。<br>3.経営管理プロセスで管理会計情報がどのように役立つのかついて説明できる。 | |

成績評価の方法と基準
小テスト（20～0%）、レポート（20～0%）、期末テスト（60～100%）の合計点数をもって成績評価を行います。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】
第1回　イントロダクション【授業の概要と進め方】
第2回　管理会計のフレームワーク
第3回　原価の概念
第4回　標準原価管理①
第5回　標準原価管理②
第6回　利益計画①
第7回　利益計画②
第8回　予算管理
第9回　事業部制会計①
第10回　事業部制会計②
第11回　設備投資の経済計算①
第12回　設備投資の経済計算②
第13回　ABC/ABM
第14回　原価企画
第15回　品質原価計算
第16回　期末テスト

【授業及び学習の方法】
授業はプリント、Power Point資料などを活用しながら講義中心に進めます。
また、講義内容の理解を助けるため練習問題を取り入れます。

この科目は基本的に対面授業を行いますが、状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習に関するアドバイス】
・ テキストを事前に読んでおくこと（毎回２時間程度の予習が必要です）
・ 授業中に取り上げた例題や練習問題を復習すること（毎回２時間程度の復習が必要です）

教科書・参考書等
【教科書】
高梠 真一編著『管理会計入門ゼミナール』創成社、2012年（生協の書籍部にて購入、2,420円）
【参考書】
講義において適宜紹介します。

オフィスアワー　　木曜日1時限目、南キャンパス2号館2階 朴研究室において随時、質問・相談などに応じます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
授業計画並びに授業の方法は、授業の開始時点での予定であり，開始後の状況により変更する場合があります。

| ナンバリングコード　B3ECN-bcdE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：312152)<br>金融論Ⅱ<br>Monetary Economics Ⅱ | 科目区分 | 時間割<br>後期金1 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3ECN | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>藤原　敦志 | 関連授業科目 | 金融論Ⅱ | |
| | 履修推奨科目 | 金融論Ⅱ、金融政策Ⅰ・Ⅱ | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習

授業の概要

この授業では、金融論Ⅰで学んだ基礎的な内容をより高度なレベルで学んでいく。前半は、貨幣と金融取引、取引費用に対処する金融の仕組み、金融機関について学ぶ。具体的には、貨幣と決済、金融とその機能、取引費用とリスク、情報の非対称性と返済のリスク、流動化・証券設計・情報生産や担保・保証や分散化などの金融の仕組み、銀行などの金融仲介機関について学ぶ。後半は、金融機関と金融市場、金融のマクロ的側面について学ぶ。具体的には、様々な金融市場、金融仲介機関以外の金融機関、資金循環と金融システム、金融政策、金融システムの問題と金融危機、金融制度と公的介入・プルーデンス政策などについて学ぶ。

授業の目的

・貨幣と決済について理解する。
・金融とその機能について理解する。
・取引費用に対処する金融の仕組みについて理解する。
・金融仲介機関について理解する。
・金融機関と金融市場を理解する。
・金融のマクロ的側面を理解する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ・貨幣と決済について説明できる。<br>・金融とその機能について説明できる。<br>・取引費用に対処する金融の仕組みについて説明できる。<br>・金融仲介機関について説明できる。<br>・金融機関と金融市場について説明できる。<br>・金融のマクロ的側面について説明できる。 | |

成績評価の方法と基準

中間試験100点・期末試験100点の合計200点満点で評価する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

授業形態は基本的に対面とする。

参考書の要点をまとめたものを穴埋め形式のプリントとして配布し、重要語句を自分でプリントに書き込みながら教科書の内容を理解する。

第1回　ガイダンス
第2回　貨幣と決済
第3回　金融とその機能
第4回　取引費用とリスク
第5回　情報の非対称性と返済のリスク
第6回　金融の仕組み
第7回　金融機関（1）
第8回　中間試験
第9回　金融市場
第10回　金融機関（2）金融仲介機関以外の金融機関
第11回　資金循環と金融システム
第12回　金融政策と経済の実物面・金融面
第13回　金融システムの問題と金融危機
第14回　金融制度と公的介入・プルーデンス政策
第15回　まとめ

【自学自習に関するアドバイス】

第1回～第15回　事前に教科書を読み、予習課題をこなす（各2時間×15＝30時間）
第1回～第15回　授業後にハンドアウトを読み返し、復習課題をこなす（各2時間×15＝30時間）

教科書・参考書等
（教科書）使用しない
（参考書）内田浩史（2016）『金融』有斐閣、3400円（税別）。

オフィスアワー　　月～木　9：30～11：30

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
授業で配布したプリントを必ず見返しておくこと。

| ナンバリングコード　B3ECN-bcdE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：312142)<br>財政学Ｂ<br>Public Finance B | 科目区分 | 時間割<br>後期木3 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3ECN | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>長山　貴之 | 関連授業科目　　財政学Ａ | | |
| | 履修推奨科目　　ミクロ経済学Ⅰおよびマクロ経済学Ⅰ | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

財政学は租税論、公債論、予算論、経費論、財政政策、地方財政論などから構成されるが、この講義は主として地方財政論を取扱う。詳細な理論的分析ではなく広範な制度的解説を行うことを心掛ける。具体的には、我が国の地方公共団体の歳入および歳出の仕組みを一通り教える。なお、この講義はミクロ経済学およびマクロ経済学の基礎的知識を前提にする。

授業の目的

地方財政に関する主要な制度を理解すると共に、それらの制度が抱える課題を探究できるようになる。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| (1)地方財政に関する主要な制度を説明できる。（ＤＰの「知識・理解」に対応）<br>(2)地方財政に関する主要な制度が抱える課題を分析できる。（ＤＰの「問題解決・課題探求能力」に対応） | |

成績評価の方法と基準

期末課題によって評価します。評価の観点は、専門知識（60%）、課題探求能力（30%）、倫理観（10%）とします。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

第１回　オリエンテーション：地方財政とはなにか
第２回　日本の地方財政制度
第３回　地方税Ⅰ
第４回　地方税Ⅱ
第５回　地方税Ⅲ
第６回　地方税Ⅳ
第７回　地方税Ⅴ
第８回　地方譲与税
第９回　地方交付税Ⅰ
第10回　地方交付税Ⅱ
第11回　国庫支出金
第12回　地方債
第13回　地方歳出Ⅰ
第14回　地方歳出Ⅱ
第15回　まとめ

【授業および学習の方法】

資料を配付し、板書で補足する。
授業は原則として対面方式で実施する。
状況によっては授業の実施方式を変更する場合がある。

【準備学習および事後学習のためのアドバイス】

第２～14回　新聞や雑誌の記事を集め、授業内容の理解に役立てる。（１時間×13回）
参考書の該当箇所を読み、授業内容の理解に役立てる。（２時間×13回）
参考書を精読し、日本の地方財政制度の課題を考察する。(15時間)
日本の地方財政制度の課題に関するレポートを作成する。（６時間）

教科書・参考書等

【参考書】川村毅『自治体職員研修講座 地方自治制度・地方公務員制度・地方財政制度』第2次改訂版, 学陽書房, 2015年, 2860円.

オフィスアワー　　月曜日３時限目。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

出席確認や資料配布はムードルで実施します。

| ナンバリングコード　B3BSN-bceE-30-Lg2<br>授業科目名　　(時間割コード：320126)<br>調査データ分析Ⅰ<br>Analysis of Survey Data Ⅰ | 科目区分 | 時間割<br>後期月5 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bceE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lg | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>森貞　誠 | 関連授業科目　　統計学、経営学に関する基礎科目 | | |
| | 履修推奨科目　　統計学、経営学に関する基礎科目 | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習　(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)

授業の概要

近年、データ分析の重要性が、ビジネスの世界で高まっています。世の中には様々なデータが存在しますが、本講義では主に調査データを取り上げます。講義の中では、経営学やマーケティングへの応用を考えながら、アンケートの作成手法や統計分析手法について学習していきます。なお、本講義ではエクセルを用いる演習の時間を多く取る予定です。

授業の目的

アンケートの作成手法やデータの整理・分析手法を理解することを目的とします。この講義を受講することで、社会科学で必要な調査データ分析の基礎知識を習得できます。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ・調査データを用いて可能な分析手法について、理解すること(DPの知識・理解, 問題解決・課題探求能力に対応)<br>・基礎的な統計分析手法を理解し、統計ソフトを用いて分析できるようになること(DPの知識・理解, 問題解決・課題探求能力に対応) | |

成績評価の方法と基準

講義中課題、期末レポートで評価します。
講義中課題：50%
期末レポート：50%

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】
第1回　イントロダクション
第2回　データ分析の基礎①
第3回　データ分析の基礎②
第4回　仮説の重要性とデータの集め方
第5回　アンケートの作成手法①
第6回　アンケートの作成手法②
第7回　データの集計①
第8回　データの集計②
第9回　相関分析
第10回　χ二乗検定
第11回　t検定
第12回　分散分析
第13回　回帰分析①
第14回　回帰分析②
第15回　まとめ

【講義及び学習の方法】
授業は原則、講義形式で進めますが、エクセルを用いた演習も取り入れます。
また、講義ごとの小レポート・課題を出題し、講義内容の理解を促します。
【自学自習のアドバイス】
講義ごとに、該当する統計学・経営学の内容を復習する。(15時間)
講義ごとに、統計ソフトの使い方を理解する。(15時間)
レポートに備え、実務でのデータ分析事例を調べる。(5時間)
小レポートの作成。(10時間)
期末レポートの作成。(15時間)

教科書・参考書等

【教科書】
特に指定しません。講義資料に基づいて講義を進めていきます。
【参考書】
講義時に指示します。

オフィスアワー　　初回講義時に指示します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・講義中の私語は厳禁です。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：313654)<br>（特）比較財政史論<br>Special Lecture | 科目区分 | 時間割<br>前期集中 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>bdeE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>岡田　徹太郎，掛貝　祐太 | 関連授業科目 | 経済政策、福祉経済論、財政学 | |
| | 履修推奨科目 | 経済政策、福祉経済論、財政学 | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

財政、と聞くと、自分達の生活とはかけ離れたイメージを持つ人が多いかもしれない。しかし、財政制度は、人々の価値観や、経済・社会状況と密接にかかわりながら展開してきた。その意味で、財政は自己責任、家族、労働、連帯などをめぐる、社会の価値観をうつす鏡ともいえる。

そして、社会は常に多くの問題を抱えている。もちろん、人によって興味関心は違うので、意識する問題は異なるだろう。格差問題に関心を寄せる人もいれば、ジェンダーにまつわる問題を強く意識している人もいるだろうし、環境問題に関心がある人もいるだろう。(もしくは、現代社会に「問題」なんてあるの？という人もいるかもしれない。)

いずれせよ、こうした社会問題の解決手段の一つが、政策である。しかし、政策をうつのにもお金がかかるし、お金をかけずに実効性のある政策をうつのは、非常に難しい。だからこそ、国や自治体のお金の使われ方、すなわち財政が重要なのである。

本講義では、比較的身近な話題や題材についての、様々な社会問題・社会現象(コロナ・教育・少子高齢化・ジェンダー・地域社会における課題、文化政策、スポーツ政策etc.)を取りあげる。そして、主に財政の国際比較、事例研究における比較の視点を通じて、なぜその解決が難しいのか、あるいは、なぜそうした問題が起こってしまったのか、について考える。

授業の目的

財政や社会科学に関する知識を養い(b)、他国の事例や日本国内の自治体の事例の分析を行い（e)、財政における民主主義の望ましいあり方について考察できるようになる(d)。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ●　財政や社会科学における国際比較や地方での事例を説明できる。(b：知識・理解，e：地域理解)<br>●　政治・社会・経済をめぐる社会問題について説明できる。(b：知識・理解，d：倫理観・社会的責任)<br>●　一見”常識”に思える意見を相対化する視点で考察することができる。(d：倫理観・社会的責任) | |

成績評価の方法と基準

毎コマに課す小レポート100％

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

第１回　イントロダクションとガイダンス（計数感覚をもって社会問題をながめる：結局、その「問題」はどれくらいお金が使われているんでしょう？／意外と日本は小さな政府？/コロナ禍で財政はどう変わった？）
第２回 総論①：世界の中の日本財政／普遍主義と選別主義　（そもそも税金に関して本当に“ムダ”は多いのでしょうか？なぜ“ムダ”が多いと皆感じているのでしょうか？日本は、他者に不寛容な“不信社会”？等）
第３回 総論②：自己責任・勤労国家(日本の財政を形づくっている社会の価値観のあり方とは？）
第４回　教育政策、大学と財政　（いかに日本では大学生にお金が使われていないか／そもそも日本学生支援機構奨学金は”奨学金”か？）
第５回　申請主義と社会保障教育　（そもそも､なぜ社会保障や財政は､こんなに分かりにくい制度なのでしょうか？一方では、離婚・失業した時にどうするかを中学校から教える国もある・・・？等）
第６回　国際比較（北欧諸国における普遍主義）
第７回　移民と財政　（アメリカや欧州での社会問題に、いま財政はどう向き合っているのか？）
第８回　ジェンダーと財政　（ジェンダーや家族をめぐる”べき論”にも、財政が影響？）
第９回　国際比較（スイスにおける直接民主主義と財政：社会保障も税も国民投票、住民投票で決める国？）
第１０回　国際比較　（スイスにおける多様性と財政：４分の１が移民、公用語４つ、国際都市から”ハイジの村”まで...利害の異なる他者とどう共存？）
第１１回　事例研究（芸術と文化と財政：ツタヤ図書館、あいちトリエンナーレ問題etc.／そもそも何故国家は文化にお金を使うのかetc.）
第１２回　事例研究（夕張とニセコ：財政破綻とバブル、何が明暗を分けたか？）
第１３回　事例研究　（スポーツ政策と財政：五輪をめぐる競技場建設、茨城県内の競技場建設をめぐる住民投票）
第１４回　民主主義理論と財政　（多数決だけが民主主義ではない？／より民主主義的な財政の決め方は可能か？）
第１５回　まとめ

【授業及び学習の方法】
授業は講義中心に進めます。また、各回でリアクションペーパーを課し(10分程度)、講義で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理を促します。

【自学自習のためのアドバイス】
第１～３回　財政をめぐる基礎知識について大きな流れをつかむ。計数感覚をつかむための数値を覚える。
第４～６回　これまでの教育や大学における身近な疑問点と、財政の問題を結び付けて考える。
第７～１０回　海外と事例との比較の中から、どのような課題が日本において浮かび上がるか考える。
第１０～１３回　国内の地方における事例と比較し、身近な自治体での課題と結び付けて考える。
第１４，１５回　これまでの議論から、いかに民主主義的な財政のあり方が可能かについて考える。
※授業外学習について：授業内で取り扱った文献、概念、資料、映画、サイト、論文、ニュースなどの中で、自分の関心があるものについて、ぜひ積極的かつ自主的に触れてみてください。こまごました知識の暗記よりは、自分自身の意見や考えを深めるような学習を強く推奨いたします。そのように自主的に調べたことが、次のリアクションペーパーに反映されているなどすれば、なお好ましいです。

この科目は基本的に対面授業を行います。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては授業形態の一部または全部を遠隔へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等
教科書は使用しない。

オフィスアワー　　休憩時間に教室で質問を受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
質問などあれば、 y.kakegai@outlook.jp までご連絡ください。

# コース専門科目

（会計・ファイナンスコース　３年次配当）

| ナンバリングコード　B3BSN-abcE-30-Lg2<br>授業科目名　　(時間割コード：323490)<br>株式会社会計<br>Corporate Accounting<br>企業情報を読む | 科目区分 | 時間割<br>前期木1 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>abcE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lg | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>朴　恩芝 | 関連授業科目 | 会計関連科目 | |
| | 履修推奨科目 | 簿記入門、会計学総論、財務会計 | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

この授業では企業の経済活動をまとめた財務諸表を分析する方法について学習します。
企業の経済状況を把握するために、利害関係者、とりわけ資金提供者である投資家は会計情報を利用します。企業の財務諸表を分析することによって、投資に有用な情報を得て意思決定を行います。ここでは、企業の財務諸表を、株主の立場、債権者の立場、その他多様な視点での分析を行います。

授業の目的

授業で会計の基本仕組みを学習することで、企業の財務情報の全体像を理解します。さらに目的によって、企業の財務情報を多様な視点から分析することができます。例えば、(1) 利益獲得能力などについては「収益性分析」、(2) 企業の資金調達・運用の「安全性分析」、(3)不確実性にかかわる「リスク分析」を通して、企業の状況を把握することができ、企業の全体とそれを構成する個別状況を把握することができます。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 授業では次のような目標を設定してみました。目標達成に向けてともに頑張りましょう。<br>1.　会計情報のもつ意味を理解することができます。<br>2.　企業活動が財務諸表にどのように表れ、分析をとおしてどう読み取るのかその方法を身に着けることができます。<br>3.　同じ企業の情報でも、どんな立場、視点をもつかによって、異なる意思決定をする理由がわかります。 | |

成績評価の方法と基準

グループワーク評価（複数回実施：60%）と期末評価(40%)による総合的評価。
グループワークができない場合は、個別の課題または中間テストを実施します。全体の評価の割合にも変更があります。
受講のマナーを守ってください。守らない場合は単位を認めません。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

授業では企業の財務諸表の分析に重点を置いています。理論についての講義とともに、実際の企業のデータや練習問題をとおして、分析能力を身につけさせます。なお、授業の進捗状況によって、授業内容が変更することがあります。

１．会計学の基礎I（復習）－財務諸表の役割と企業活動との関連について
２．会計学の基礎II（復習）－連結財務諸表の構造全般について
３．グループワーク　貸借対照表分析－安全性 －企業の健全な財務状態について把握する
４．グループワーク　損益計算書分析－収益性 －企業の儲けについて把握する
５．グループワーク　相互関係比分析－収益性
　－企業の安全性と収益性を時系列かつクロスセクション分析をとおして産業全般の動向を把握する。
６．グループワーク　効率性分析 －企業業績の良否を把握する
７．グループワーク　キャッシュ・フロー計算書分析 －企業の経営手腕を把握する
８-９．グループワーク 総分析
10．グループワーク　損益分岐点分析 －企業の採算を把握する
11．グループワーク　成長性分析 －企業の将来性を予測する
12．グループワーク　付加価値分析 －経営資源である労働力や設備投資に対する付加価値を把握する
13-14．グループワーク 総分析
15．総まとめ

注意：対面授業の実施を基本としますが、状況によって柔軟に対応します。

教科書・参考書等

参考書　乙政正太『財務諸表分析（最新版)』同文館出版
　　桜井久勝『財務諸表分析（最新版)』中央経済社
購入の必要はありません。
必要に応じて、資料を配付します。

オフィスアワー　　木曜日２講目（10：30－12：00）　南キャンパス3号館3階（朴恩研究室）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

簿記や会計の基礎知識があると、より授業内容が分かりやすくなります。事前に必要な基礎内容を学習してからの受講が望ましいです。授業では、メインとしてグループワークが予定しています。グループでの成果を発表するなどのプロセスに積極的に参加してください。電卓を必ず持参してください（授業と試験時)。携帯の計算機は使えません。
なお、第1回授業には必ず出席してください。注意事項や講義計画、試験などに関する説明を行います。

| ナンバリングコード　B3BSN-bcdE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：323163)<br>監査論<br>Auditing | 科目区分 | 時間割<br>後期火3 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>井上　善弘 | 関連授業科目 | 簿記入門　会計学総論　株式会社会計<br>財務会計論A　財務会計論B | |
| | 履修推奨科目 | 簿記入門　会計学総論　株式会社会計<br>財務会計論A　財務会計論B | |

学習時間　　講義９０分×１５回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要
財務諸表監査の基本的な概念と方法論について学ぶ。併せて，財務諸表監査が経済社会において果たす役割について理解する。

授業の目的
財務諸表監査の基本的な概念と方法論について学ぶ。併せて，財務諸表監査が経済社会において果たす役割について理解する。(知識・理解，問題解決・課題探究能力，倫理観・社会的責任)

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 財務諸表監査の基本的な概念と方法論，財務諸表監査が経済社会において果たす役割について理解することができる。(知識・理解，問題解決・課題探究能力，倫理観・社会的責任) | |

成績評価の方法と基準
期末試験による

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

[授業計画]

第１回　　監査の目的
第２回～第４回　　監査意見
第５回～第７回　　監査証拠
第７回～第９回　　重要性
第１０回～第１２回　　監査における専門的判断
第１３回～第１５回　　監査報告

授業の進捗度合により上記計画を変更する場合がある。なお，毎回補助プリントを配布する。

[自学自習のためのアドバイス]

第２～１５回

授業内容に連続性が高いため，次回の授業までに授業の内容をしっかり復習しておくことが重要である。

教科書・参考書等
初回の授業までに指示する。

オフィスアワー　　授業終了後随時受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
毎回授業に出席すること。なお，本講義は対面授業として行う。

| ナンバリングコード　B3BSN-bcaE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：323200)<br>コスト･マネジメント論<br>Cost Management | 科目区分 | 時間割<br>前期木3 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>朴　鏡杓 | 関連授業科目　　原価会計論 | | |
| | 履修推奨科目　　管理会計論 | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

コストマネジメントの目的は､利益業績を改善することにあります｡本講義ではコストマネジメントの基本的な概念、考え方などを学習し、なぜ、利益業績の改善にコストに着目するのかについて考えていきます。さらに経営の様々な目的のために実践される原価計算技法について学び､問題の演習や事例の分析を通して原価計算やコストマネジメントに関する知識の習得を目指します。

授業の目的

コストマネジメントの基礎をなす諸概念と技法を正確に理解し、習得する(DPの「知識・理解」に対応)とともに、コストの視点から問題の諸側面を考察し、その解決策を提示できるようになる(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応）。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １．原価計算及びコストマネジメントにおける原価の諸概念を説明できる。<br>２．財務諸表作成のための原価計算手法を理解し、製品原価の計算ができる。<br>３．コストマネジメントのための原価計算手法及びコスト情報を活用できる。 | |

成績評価の方法と基準

小テスト（20～0%)、レポート（20～0%)、期末テスト（60～100%）の合計点数をもって成績評価を行います。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

第1回　イントロダクション（授業の概要と進め方）
第2回　原価計算の意義
第3回　材料費の計算
第4回　労務費の計算
第5回　経費の計算
第6回　製造間接費の計算
第7回　部門別計算
第8回　個別原価計算
第9回　総合原価計算①
第10回　総合原価計算②
第11回　標準原価計算①
第12回　標準原価計算②
第13回　直接原価計算
第14回　意思決定のための原価計算
第15回　全体まとめ
第16回　期末テスト

【授業及び学習の方法】

授業はテキスト内容を中心に講義形式で進めます。また、講義内容の理解を助けるため練習問題を取り入れます。

この科目は基本的に対面授業を行いますが、状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習に関するアドバイス】

・ テキストを事前に読んでおくこと（毎回２時間程度の予習が必要です）
・ テキストの例題と授業中に配布した練習問題を復習すること（毎回２時間程度の復習が必要です）

教科書・参考書等

建部宏明・山浦裕幸・長屋信義『基本原価計算（第５版)』同文館出版、2018年（生協書籍部にて購入3,080円）

オフィスアワー　　木曜日15時～16時の間、南キャンパス2号館2階 朴研究室において随時、質問・相談などに応じます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業計画並びに授業の方法は、授業の開始時点での予定であり，開始後の状況により変更する場合があります。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：320504)<br>保険システム論<br>Introduction to Insurance System | 科目区分 | 時間割<br>前期水1 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>L | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>安井　敏晃 | 関連授業科目 | リスクと保険 | |
| | 履修推奨科目 | リスクと保険 | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備時間30時間+事後学習30時間）

授業の概要

リスクと保険において保険制度のごく入門的な知識を習得した学生を対象に、保険制度の基礎を解説する。代表的な損害保険種目および生命保険種目の特徴についても説明する。

「リスクと保険」の履修者を対象にしているので，まず「リスクと保険」を履修してから受講すること。

授業の目的

保険を理解し，基礎的な知識を身につけることができる。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| 1.保険制度に強い関心をもつことができる。<br>2.主要な保険種目について理解することができる。<br>3.保険の歴史について理解することができる。 | |

成績評価の方法と基準

期末試験により評価する（100%）。

詳しくは初回の講義において説明するので，納得した上で受講すること。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

口述筆記，板書等

(1)　保険の役割
(2)　保険の仕組み
(3) ～(4)保険の類似制度

(5)　保険の便宜的分類
(6)　保険の理論的分類
(7)　保険契約の当事者と関係者
(8)　損害保険契約
(9)　保険の歴史
(10)　損害保険各論（海上保険）
(12)　損害保険各論（火災保険）
(13)　損害保険各論（自動車保険）
(14)生命保険論
(15)　まとめ

＊自学自習について

授業中の指示に従い，提示された書籍，新聞記事などを確認すること。

予習・復習を欠かさないこと。

＊授業の効果を高めるために授業計画を変更することがあるので注意されたい。

この科目は基本的に対面講義で行う予定である。

もっとも受講生が多く，三密が避けられない等，状況によっては授業の一部または全てを遠隔講義で行う可能性がある。

教科書・参考書等

教科書　李洪茂（2021)『保険論』博英社

オフィスアワー　　時間：火曜日の4時限目。変更する場合には講義中に指示する。
場所：安井研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

「リスクと保険」の履修者を対象にしているので，まず「リスクと保険」を履修してから受講すること。履修していない場合には受講を勧めない。なお、シラバスで授業計画を示しているが、教育効果を高めるために，実際の進度状況をみながら授業計画を変更することがある。

大学生にあえて注意することではないが，講義中には，私語ならびに本講義と関係のない作業をしてはならない。講義中の途中退室は認めない（体調不良等については初回の講義で説明する)。

許可された場合を除き，講義中の写真撮影・録音を禁じる。携帯・スマートホンの電源を切っておくこと（特別な理由から必要な場合には，事前に届けること)。これら禁止事項の違反が度重なる場合には単位を認定しない。ルールを守る自信がない学生は受講しないこと。

なお，出席をとる。使用する教室によっては座席を指定することを予定しているので，必ず指定された座席に座ること（第一回の講義で指定する)。15分以上遅刻した場合には欠席扱いとなる。やむをえず欠席する場合には，各自で欠席回数を記録しておくこと。欠席回数（出席回数）についての質問には答えられない。

遠隔講義の場合であっても，上記の注意事項を守ること。当然，席を指定しないが，ノートテイクできる状態で受講すること。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：313250)<br>金融政策Ⅰ<br>Monetary Policy Ⅰ<br>バブル崩壊後の日本経済と伝統的金融政策 | 科目区分 | 時間割<br>前期水2 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>海野　晋悟 | 関連授業科目 | 経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、金融論、計量経済学 | |
| | 履修推奨科目 | 経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、金融論Ⅰ・Ⅱ、計量経済学 | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

皆さんは、現在、どのような金融政策が行われているか知っていますか？金融政策は、どこの組織が実施しているか知っていますか？金融政策の影響は、我々の生活にどのような影響を与えるか、与えそうか知っていますか？現在、金融政策の実施主体は、ある目標を達成すべく、本当にいろんなプログラムを実行しています。しかし、目標は達成できていません。少し金融政策に興味をもってもらえたでしょうか。

金融政策Iは、金融政策が効果をもって経済に影響を与えるメカニズム（理論）と実際に行われた金融政策とそれがもたらした効果（現実）を学びます。さらに、金融政策の具体的な実施方法について学習します。金融政策Iでは、伝統的金融政策を学び、金融政策IIでは、非伝統的金融政策という概念を学びます。何が伝統で、何が非伝統かの学習を通して、金融政策の大胆さと繊細さを実感してもえます。金融政策IIまで履修すると「金融政策」という講義自体は、コンプリートです。金融政策Iの受講前後に、経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、金融論、計量経済学を受講すると金融政策で得られた知識・考え方が役に立つはずです。

授業の目的

日々の金融政策の動向や金融政策の関係者の発言は、メディアで大きく注目されます。金融政策の実施内容を理解し、背後の経済的メカニズムを理解できれば、これから経済がどう変わっていくかを見通せるようになります。日本経済が抱える課題に対して関心を持ち、金融政策を含めた処方箋を学生のみなさんが考え抜けるように講義と議論を展開します。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| （1）金融政策の意義、実施方法が説明できる<br>（2）金融政策の理論・効果を説明できる<br>（3）IS-LMモデルを用いて、過去・現在の金融政策の分析を行うことができる | |

成績評価の方法と基準

中間試験(20%)
期末試験(20%)
課題提出(50%)　←毎回出席して、講義内容の「丁寧な」メモをとっていれば解決できます
講義参画度(10%)　←講義参画度とは、講義中の発言(チャットでの発言)を促す場面を作ります、その時に積極的に発言した者を評価することです

で評価します。ただし、受講状況や人数に応じて変える可能性があります。詳細は初回の講義の時に説明します。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。】

講義では、ハンドアウトの配布と板書を行います。ハンドアウトは、Moodle上にアップロードする予定です。

【授業計画】(進行状況により変更する可能性があります)

金融政策と経済の関係
(1)　イントロ
(2)　経済データで見る日本経済（１）　高度成長、バブル経済
(3)　経済データで見る日本経済（２）　バブル経済崩壊、失われた２０年、アベノミクス
金融政策の実施主体・日本銀行
(4)　日本銀行の組織と業務
(5)　金融政策の目的と手段
(6)　金融政策の波及経路（１）　金利チャネル、バランスシート・チャネル
(7)　金融政策の波及経路（２）　為替チャネル、リスクテイキング・チャネル

==========
(8) まとめ＋中間試験
==========
（伝統的）金融政策の理論：IS-LMモデル
(9) IS-LM 導入
(10) IS-LM （伝統的）金融政策（１）
(11) IS-LM （伝統的）金融政策（２）と特殊なケース（２）
(12) IS-LM 特殊なケース（２）
（伝統的）金融政策の効果
(13) バブル経済までの金融政策の効果
(14) バブル崩壊後99年までの金融政策の効果
伝統的金融政策の限界：非伝統的金融政策へ
(15) 先進各国に10年早く非伝統的金融政策の世界へ

【自学自習に関するアドバイス】
投影資料の中の情報は、講義の内容の一部です。教員の話す内容をメモに残すことがが非常に重要になってきます。効果的な復習をするためには、教員の講義を自分で再現してみてください。投影資料と教員の口頭の説明を書き込んだメモなどをノートとして清書することで効果が高まります。
また講義中、何度も金融政策や日本経済に関連する日本経済新聞の記事を紹介・配布します。必ず、講義後には丁寧に読みきるようにしてください。試験範囲に含まれます。また自ら進んで紙媒体の新聞を読むようにしましょう。

教科書・参考書等
特定の教科書は指定しません。
小林 照義 『金融政策』 中央経済社 2015
酒井・榊原・鹿野 『金融政策』 有斐閣アルマ 2004
白川 『現代の金融政策』 日本経済新聞社 2008
翁 『日本銀行』 ちくま新書 2013
日本銀行ホームページ 「日本銀行を知る・楽しむ」

オフィスアワー 基本的にオンライン・オフィスアワーを設けています。https://shingo-umino.youcanbook.me から予約をとってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
講義内容の理解・修得には、毎回出席することが重要です。継続が非常に重要です。また、不明な点をそのままにせず、疑問・質問を解消することも非常に大切です。少しの勇気で、担当教員・海野に喋りかければ、それらは間違いなく解消されます。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：313251)<br>金融政策Ⅱ<br>Monetary Policy Ⅱ<br>長期停滞と非伝統的金融政策 | 科目区分 | 時間割<br>後期水2 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>海野　晋悟 | 関連授業科目　　金融政策I、ミクロ経済学I、ミクロ経済学II、マクロ経済学I、マクロ経済学II、金融論I、金融論II | | |
| | 履修推奨科目　　金融政策I、ミクロ経済学I、ミクロ経済学II、マクロ経済学I、マクロ経済学II、、金融論I、金融論II | | |

学習時間　　講義90分 × 15回 ＋ 自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

【金融政策IIの講義は、金融政策Iの知識を前提にしています。受講は、金融政策Iの単位取得を条件にします】

皆さんは、現在、どのような金融政策が行われているか知っていますか？金融政策は、どこの組織が実施しているか知っていますか？金融政策の影響は､我々の生活にどのような影響を与えるか､与えそうか知っていますか？現在、金融政策の実施主体は、ある目標を達成すべく、本当にいろんなプログラムを実行しています。しかし、目標は達成できていません。少し金融政策に興味をもってもらえたでしょうか。

金融政策Iは、金融政策が効果をもって経済に影響を与えるメカニズム（理論）と実際に行われた金融政策とそれがもたらした効果（現実）を学びます。さらに、金融政策の具体的な実施方法について学習します。金融政策Iでは、伝統的金融政策を学び、金融政策IIでは、非伝統的金融政策という概念を学びます。何が伝統で、何が非伝統かの学習を通して、金融政策の大胆さと繊細さを実感してもえます。金融政策IIまで履修すると「金融政策」という講義自体は、コンプリートです。金融政策Iの受講前後に、経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、金融論、計量経済学を受講すると金融政策で得られた知識・考え方が役に立つはずです。

授業の目的

日々の金融政策の動向や金融政策の関係者の発言は、メディアで大きく注目されます。金融政策の実施内容を理解し、背後の経済的メカニズムを理解できれば、これから経済がどう変わっていくかを見通せるようになります。日本経済が抱える課題に対して関心を持ち､金融政策を含めた処方箋を学生のみなさんが考え抜けるように講義と議論を展開します。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| （１）金融政策の意義、実施方法が説明できる<br>（２）金融政策の理論・効果を説明できる<br>（３）適当な理論モデルを用いて、過去・現在の金融政策の分析を行うことができる | |

成績評価の方法と基準

課題試験(60%) 30%×２回　インターネットで検索しても回答のない課題を２回課します

期末試験(40%)

講義参画度(10%)　←講義参画度とは、講義中の発言を促す場面を作ります、その時に積極的に発言した者を評価することです

で評価します。ただし、受講状況や人数に応じて変える可能性があります。詳細は初回の講義の時に説明します。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。】

講義では、投影資料の解説で行います。投影資料は、後日、Moodle上にアップロードする予定です。

【授業計画】(進行状況により変更する可能性があります)

(1)　イントロ　まず日本が非伝統的金融政策の世界へ&知識確認テスト

先進国も導入した非伝統的金融政策

(2)　先進国の非伝統的金融政策導入（１）　リーマンショック、欧州債務危機

(3)　先進国の非伝統的金融政策導入（２）　FRB、ECBの非伝統的金融政策

(4)　先進国の非伝統的金融政策導入（３）　日本より先に卒業

(5)　非伝統的金融政策のイノベーション

==========

(6)　１回目　課題解説

==========

非伝統的金融政策の効果を説明する理論的なメカニズム
(7) IS-LMモデルが示す非伝統的金融政策の効果（１）
(8) IS-LMモデルが示す非伝統的金融政策の効果（２）
(9) 政策反応関数が示すゼロ金利コミットメントの効果
(10) クルーグマンモデルが示す「日本経済のわな」
なぜ「２％の物価安定目標」なのか？
(11) インフレ目標政策の経緯
(12) 日本が「デフレ均衡」にいた可能性
(13) ２％の物価安定目標は適当か？
（１４） 人々のインフレ期待とは？（１）
（１５） 人々のインフレ期待とは？（２）

【自学自習に関するアドバイス】
投影資料の中の情報は、講義の内容の一部です。教員の話す内容をメモに残すことがが非常に重要になってきます。効果的な復習をするためには、教員の講義を自分で再現してみてください。投影資料と教員の口頭の説明を書き込んだメモなどをノートとして清書することで効果が高まります。
また講義中、何度も金融政策や日本経済に関連する日本経済新聞の記事を紹介・配布します。必ず、講義後には丁寧に読みきるようにしてください。試験範囲に含まれます。また自ら進んで紙媒体の新聞を読むようにしましょう。

教科書・参考書等
特定の教科書は指定しません。
小林 照義 『金融政策』 中央経済社 2015
酒井・榊原・鹿野 『金融政策』 有斐閣アルマ 2004
白川 『現代の金融政策』 日本経済新聞社 2008
翁 『日本銀行』 ちくま新書 2013
日本銀行ホームページ 「日本銀行を知る・楽しむ」

オフィスアワー 基本的にオンライン・オフィスアワーを設けています。https://shingo-umino.youcanbook.me から予約をとってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
【金融政策IIの講義は、金融政策Iの知識を前提にしています。受講は、金融政策Iの単位取得を条件にします】
講義内容の理解・修得には、毎回出席することが重要です。継続が非常に重要です。また、不明な点をそのままにせず、疑問・質問を解消することも非常に大切です。少しの勇気で、担当教員・海野に喋りかければ、それらは間違いなく解消されます。

| ナンバリングコード　B3ECN-badE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：312132)<br>社会政策Ｂ<br>Social Policy B | 科目区分 | 時間割<br>前期水1 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3ECN | DP・提供部局<br>badE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>加藤　美穂子,佐藤　忍 | 関連授業科目 | 社会政策A | |
| | 履修推奨科目 | 経済政策、財政学、福祉経済論 | |

学習時間　　講義９０分×１５回＋自学自習（準備学習１０時間＋事後学習２０時間+レポート課題３０時間）

授業の概要

この講義は､社会保険の基本的な仕組みを概説する｡とりわけ保険事故と保険給付との対応関係を重点的に解説する。そうすることで社会保険を身近なものに感じてもらうことが狙いである｡そして年金についてもその理解を深めるために、年金額の計算に習熟してもらうつもりである。

授業の目的

社会政策とは､「生きる」「働く」「老いる」といった私たちの生活のあり方を根底から規定する諸政策の総称である。この授業は、社会保険の基本構造、とりわけ年金制度の仕組みに習熟することを目的とする。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １．社会保険の基本を理解し、身近なものとして実感できるようになる。<br>２．年金額の計算をつうじて年金制度への正しい理解を獲得する。 | |

成績評価の方法と基準

宿題（練習問題)、期末試験に基づき総合的に評価する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

この科目は基本的に対面授業を行います｡なお状況によっては授業形態を一部または全て遠隔へ変更する可能性があります。

ガイダンス……(1)

Ⅰ　社会保険の概要
　１．狭義の社会保険……(2～4)
　２．労働保険……(5～8)

Ⅱ　年金
　１．老齢基礎年金……(9～10)
　２．老齢厚生年金……(11～12)
　３．遺族年金……(13～14)

まとめ……(15)

授業の理解度を確認するために毎回、レポート課題もしくは練習問題等の宿題を課す。自学自習のきっかけとしても積極的に活用すること。

【自学自習のためのアドバイス】
授業を予習する。（１×１０時間）
授業を復習する。（２×１０時間）
レポート課題を提出する。（２×１５時間）

教科書・参考書等

使用しない。
椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障[第3版]』有斐閣、２００５年。
『図解　わかる年金』新星出版社、最新年。
音川敏枝『年金計算トレーニングBook』ビジネス教育出版社、２０１７年。
その他、適宜、指示する。

オフィスアワー　　授業終了時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

年金計算には電卓が必須である。各自、用意しておくこと。

| ナンバリングコード　B3BSN-bceE-30-Lg2<br>授業科目名　　(時間割コード：323110)<br>中小企業経営論<br>Small Business Management | 科目区分 | 時間割<br>後期金3 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bceE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lg | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>大杉　奉代 | 関連授業科目 | 経営管理論，経営組織論，経営戦略論 | |
| | 履修推奨科目 | 経営管理論，経営戦略論，経営組織論 | |

学習時間　　プレゼン・ディスカッション15分　＋　講義75分　×　15回　＋　自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

本講義では，「中小企業とは」「中小企業の環境適応マネジメント」「中小企業の資源統合マネジメント」の3つに焦点をあてる。それぞれの理論について説明した上で，実際の戦略展開について考察する。

授業の目的

中小企業の実態や事例調査などに基づき，理論と実践的な視点で検討を行っていくことの必要性について学ぶ。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 中小企業経営に関する理論を踏まえた上で，中小企業に関する各種データ，ケーススタディ等により中小企業を分析するための知識を身につける。<br><br>１．中小企業経営に関わる基礎的な理論を理解し，説明することができる（学士課程のDP「b：知識・理解」に対応)。<br>２．中小企業の活動に関わる課題について説明を行うことができる（学士課程のDP「b：知識・理解」に対応)。<br>３．中小企業の課題について理論と問題意識をもとに考察し，解決策等を提示することができる（学士課程のDP「c：問題解決・課題探求能力」に対応)） | |

成績評価の方法と基準

小テスト・課題の提出：30%，プレゼン・ディスカッション10%，期末試験：60%

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業の方法】

講義最初の15分は,受講者による中小企業についてのプレゼンテーションと受講者によるディスカッションを行うことで，中小企業に対する関心と理解の向上を図る。

【授業計画】

第1回：ガイダンス

第1部　中小企業とは
　第2回：中小企業の特性
　第3回：中小企業の歴史
　第4回：海外の中小企業
　第5回：中小企業問題と中小企業政策
　第6回：第１部まとめ

第2部　中小企業の環境適応マネジメント
　第7回：環境変容と戦略マネジメント
　第8回：分業構造の変容と下請マネジメント
　第9回：企業間関係の変容とネットワーク・マネジメント
　第10回：産業構造の変容と地域産業マネジメント
　第11回：第２部まとめ

第3部　中小企業の資源統合のマネジメント
　第12回：人材難と組織・人材マネジメント
　第13回：後継者難と事業承継マネジメント
　第14回：既存事業の衰退と事業開発マネジメント
　第15回：第３部のまとめと講義のまとめ

【自学自習に関するアドバイス】
＜予習＞
講義最初の15分は,受講者による中小企業についてのプレゼンテーションと受講者によるディスカッションを行うので，日頃から新聞やインターネットなどを活用し，中小企業の経営活動や経営学に関心をもっておくこと。教科書の該当箇所を読んでおくこと。
＜復習＞
定期的に課題レポートを課すので，それに向けた講義内容の理解を深めておくこと。

＊この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等
教科書：
井上善海・木村弘・瀬戸正則編著『中小企業経営入門』中央経済社，2300円＋税。

参考書：
１．高田亮爾・上野紘・村社隆・前田啓一編著『現代中小企業論』同友館，2940円。
２．小川英次著『現代経営論～中小企業経営の視点を探る～』中央経済社，3150円。

オフィスアワー　　特に定めない。事前にe-mailでアポイントをとること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
進行状況に応じて授業計画を変更することがある。他の受講者の迷惑になるような行為は慎むこと。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：320127)<br>調査データ分析Ⅱ<br>Analysis of Survey Data Ⅱ | 科目区分 | 時間割<br>前期月2 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lg | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>森貞　誠 | 関連授業科目 | 調査データ分析Ⅰ、経営学に関する基礎科目 | |
| | 履修推奨科目 | 調査データ分析Ⅰ、経営学に関する基礎科目 | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習　(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)

授業の概要

調査データ分析Ⅰでは、データの集め方や基本的なデータ集計の仕方について、学習してきました。本講義では、より高度な分析手法について学習し、経営学におけるデータ分析手法の理解に繋げます。講義では、エクセルに加え、Rというフリーの統計ソフトを用いる予定です。

なお、受講人数によっては、グループワークなどを通して、受講生間でデータ収集・分析に取り組んでもらうかもしれません。

授業の目的

本講義は、実際に調査データの作成・分析をおこなうことで、理論的な理解はもちろん、実践的な知識を得ることを目的としています。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ・様々な分析手法を理解したうえで、調査データの設計・分析ができるようになること(DPの知識・理解，問題解決・課題探求能力に対応)<br>・得られた分析結果から、経営政策を考えられるようになること(DPの知識・理解，問題解決・課題探求能力に対応) | |

成績評価の方法と基準

グループワーク、講義中課題、期末レポートで評価します。

・グループワーク:30%　　・ 講義中課題：30%　　・ 期末レポート：40%

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

第1回　イントロダクション
第2回　調査データ分析Ⅰの復習①
第3回　調査データ分析Ⅰの復習②
第4回　調査データ分析Ⅰの復習③
第5回　定量調査と定性調査
第6回　データの加工①
第7回　データの加工②
第8回　演習
第9回　演習
第10回　演習
第11回　回帰分析①
第12回　回帰分析②
第13回　主成分分析・因子分析
第14回　応用的なトピック
第15回　まとめ

【講義及び学習の方法】

授業は原則、講義形式で進めますが、統計ソフトを用いた演習も取り入れます。
また、受講人数によっては、グループワークも取り入れ、調査データの設計・分析をおこなってもらいます。

【自学自習のアドバイス】

講義ごとに、該当する統計学の内容を復習する。(10時間)
講義ごとに、統計ソフトの使い方を理解し、コードを書けるように復習する。(15時間)
レポートに備え、実務でのデータ分析事例を調べる。(5時間)
グループワークの準備(10時間)
小レポートの作成。(5時間)
期末レポートの作成。(15時間)

教科書・参考書等

【教科書】

特に指定しません。講義資料に基づいて講義を進めていきます。

【参考書】

講義時に指示します。

オフィスアワー　　初回講義時に指示します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義中の私語は厳禁です。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：323696)<br>（特）地域経済と地域金融<br>Special Lecture<br>コンサルティングの初歩の実践 | 科目区分 | 時間割<br>後期火2 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>cbdE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Ef | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>海野　晋悟 | 関連授業科目　　金融論I，金融論II，金融政策I，金融政策II，地域経済学，地域活性化論，ミクロ経済学、マーケティング、競争戦略 | | |
| | 履修推奨科目　　金融論I，金融論II，金融政策I，金融政策II，地域経済学，地域活性化論，ミクロ経済学、マーケティング、競争戦略 | | |

学習時間　　講義90分＋15回＋自学自習（準備学習15時間＋事後学習45時間）

授業の概要

この講義は、香川県の民間の間接金融機関（銀行、信金、信組）のご協力で開講されます。この講義では、地域経済での地域金融機関の役割に焦点を当て、金融機関の理論的な資金融通の仕組みと種類、規制に関して修学します。さらに、実際の地域経済で企業や住民に対して仕事、特にコンサルティング業務について職員の方々から実践事例を学びます。地域経済に関わっていくために必要な視点や知識を修得し、それらを活用した実際の活動例から、これからの地域経済での分析・活動に必要な素養を養います。

授業の目的

銀行・信用金庫・信用組合の職員の方々の仕事は何ですか？と聞かれて、みなさんはどう応えますか。実際に職員は、「コンサルティング」という業務を行っていることを知っていますか。コンサルティングという仕事に、みなさんがよく知る「融資」という業務は直接結びつきません。

この講義を通して、現在の地域経済の抱える課題は何か、地域金融機関がどのような方法（コンサルティング）で地域経済に関わっているか、なぜ地域金融機関が地域の課題に関われるのか、などに関して自分の考えを持ってもらうことに大きな目的があります。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| 1.金融機関（銀行・信金・信組）について説明できる<br>2.地域経済の課題について説明できる<br>3.地域経済と金融機関の関係について説明できる | |

成績評価の方法と基準

中間試験　　30%
期末レポート　30%
課題　　30%
貢献度　　10%

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。】

【外部講師の状況によっては、計画が変更になる可能性があります。】
・授業計画

第1部
1.　　オリエンテーション
2.　　間接金融①　＋　コンサルティング課題
3.　　間接金融②
4.　　直接金融①　＋　コンサルティング課題
5.　　直接金融②
6.　　金融規制①　＋　コンサルティング課題
7.　　金融規制②

8.　　RESASの使いかた　＋　コンサルティング課題
9.　　RESASの実践

中間試験　知識定着を確認する試験

第2部
10.　　地域金融機関の担当講義（１）
11.　　地域金融機関の担当講義（２）
12.　　地域金融機関の担当講義（３）
13.　　地域金融機関の担当講義（４）
14.　　地域金融機関の担当講義（５）
15.　　地域金融機関の担当講義（６）

・自学自習に関するアドバイス

講義毎に、資料を配布するので熟読し、復習をすること（各回1時間)。
講義後にレポートを課すので、講義内容を振り返り追加で調査するなどを行い、まとめ・疑問を取りまとめて提出すること（各回3時間）

教科書・参考書等
講義内で必要に応じて指示する。

オフィスアワー　　随時、オンライン・オフィスアワーを設けます
【https://shingo-umino.youcanbook.me】から予約をとってください

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
特になし

# コース専門科目

(経営・イノベーションコース　２年次配当)

| ナンバリングコード　B30TH-bacE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：301000)<br>コース概説科目 | 科目区分 | 時間割<br>前期水1 | 対象年次及び学科<br>2～2経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B30TH | DP・提供部局<br>bacE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>山口　尚美 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習と事後学習で計30時間）

授業の概要

経済学部の教育カリキュラムは、経済学を中心として「経済・政策分析」、「会計・ファイナンス」、「経営・イノベーション」、「観光・地域振興」、「グローバル社会経済」の5つのコースから編成されている。

2年次後期からはこの5つのコースのひとつを各自の興味関心・適性・将来の進路に合わせて選択して、各コースが提供するコース専門科目を中心に学修していきながら、各コースが修学案内に掲げている能力を養成していくことになる。

以上を踏まえて、この授業では、各コースとつながりが深い授業科目やコース専門科目を担当する３名の教員がコースを代表して担当する授業科目の内容やその周辺の学問領域などについて紹介する。

授業の目的

経済学部の教育カリキュラムが提供する5つのコースの特色、及び各コースの学問領域において研究対象となる経済・経営・社会・文化に関わる現象や問題のいくつかについて理解する。(学士課程のDP「知識・理解」に対応)

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 経済学部の教育カリキュラムが提供する5つのコースの特色を説明できるようになる。<br>自分自身の興味関心・適性・将来の進路に合わせて、適切なコースを選択できるようになる。 | |

成績評価の方法と基準

レポート（5回以上）を元に成績評価を行う。
出席回数が考慮される可能性もある。
ただし、単位認定のためには、「15回中10回以上の出席を必要」とする。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

第1回　経済・政策分析コース①
第2回　経済・政策分析コース②
第3回　経済・政策分析コース③
第4回　会計・ファイナンスコース①
第5回　会計・ファイナンスコース②
第6回　会計・ファイナンスコース③
第7回　経営・イノベーションコース①
第8回　経営・イノベーションコース②
第9回　経営・イノベーションコース③
第10回　観光・地域振興コース①
第11回　観光・地域振興コース②
第12回　観光・地域振興コース③
第13回　グローバル社会経済コース①
第14回　グローバル社会経済コース②
第15回　グローバル社会経済コース③

＜2021年度　担当教員　2022年度は未定＞（五十音順、敬称略）
経済・政策分析コース：　福村、持田、姚
会計・ファイナンスコース：　井上、長山、宮脇
経営・イノベーションコース：　塩谷、山口、渡邉
観光・地域振興コース：　西成、二ツ山、山崎
グローバル社会経済コース：　園部、髙橋（明）、水野

教科書・参考書等

必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

| ナンバリングコード　B3BSN-bcaE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：320103)<br>経営学史<br>History of Business Administration | 科目区分 | 時間割<br>後期金2 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>山口　尚美 | 関連授業科目　　企業倫理 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習60時間

授業の概要
この授業では、ドイツ経営学とアメリカ経営学の流れを追うことから、経営学の歴史を学びます。前半でドイツ経営学の学説史を、後半でアメリカ経営学の学説史を学び、最後にドイツとアメリカの経営学が日本の経営学にどのように影響しているか、また日本独自の経営理論がいかなるものかを学びます。

授業の目的
ドイツ経営学とアメリカ経営学の流れを追うことから、経営学の歴史を学びます。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ①ドイツとアメリカの経営学史の特徴をそれぞれ説明できるようになること。<br>②それぞれの学説について、方法論的基礎やその背後にある問題意識まで深く理解すること。<br>③現代の企業実践や社会的課題と照らし合わせ、それぞれの学説の意義と限界を考察できること。<br><br>※DP（ディプロマ・ポリシー）との対応……上記の到達目標のうち、①はDP-a（言語運用能力）に、①②はDP-b（知識・理解）に、③はDP-c（問題解決・課題探求能力）に対応。 | |

成績評価の方法と基準
レポート40%、学期末試験60%

レポートを提出し、学期末試験を受けることが、単位認定の前提条件となります。
どちらか片方が欠けていたら、単位認定されません。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】
(1) ガイダンス：この授業で何を学ぶのか
(2) ドイツ経営学の誕生：商科大学の設立と私経済学論争の展開
(3) 経営経済学の発展：シュマーレンバッハとニックリッシュ
(4) 第二次世界大戦後の経営経済学の展開：グーテンベルク・パラダイム
(5) 社会的市場経済の政策と企業体制論の展開
(6) 経営経済学における規範主義の方向：価値自由と科学的基礎づけの課題
(7) アメリカ経営学の誕生：テイラーの科学的管理法
(8) フォード・システム
(9) メイヨーらのホーソン実験と人間関係論
(10) ウェーバーの官僚制論
(11) バーナードの組織論
(12) サイモンの意思決定論
(13) 経営戦略論の展開
(14) 日本の経営学
(15) 総復習とまとめ

※授業の進捗状況に応じて、上記の授業計画を変更する可能性があります。
※授業は基本的に対面で行います。一部の授業回では遠隔（ZOOM）になる可能性もあります。

【自学自習の方法】
・配布したプリントを事前に読み、予備学習をすること。(1時間)
・授業終了後、図書館で各研究者に関する文献を調べること。(3時間)

教科書・参考書等
教科書は指定しません。
【参考書】
アメリカ経営学については、井原久光（2008)『テキスト経営学：第3版』ミネルヴァ書房。

オフィスアワー　　水曜日10:30-11:30
必ず事前にメールか口頭でアポイントを取ってください。
なお、質問は授業後に教室でも受け付けます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
わからないことがあったら、気兼ねなく質問してください。

| ナンバリングコード　B3BSN-bcdE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：323100)<br>グローバル経営論<br>Global Management<br>Global Management | 科目区分 | 時間割<br>後期金4 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>向　渝 | 関連授業科目 | 経営戦略論、経営組織論、マーケティング論、人的資源管理論 | |
| | 履修推奨科目 | 経営戦略論、経営組織論、マーケティング論、人的資源管理論 | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習15時間＋事後学習15時間）

授業の概要

国籍や業種を問わず､企業が国境を越えてまたは国境を跨いで生産･販売などの活動を行うのはもはや一般的である。このような国際化している企業（多国籍企業）の諸活動を研究対象とした学問は国際経営論である。本講義では、多国籍企業の諸活動について、理論と実態の両方から体系的に説明し、国際経営論の基礎を学んでもらう。

授業の目的

本講義の目的は、経営戦略論と経営組織論をベースとして、グローバル化する経営の諸問題を理解するための考え方を学ぶことである。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ①国際経営とは何かを理解すること（学士課程のDP「知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。<br>②国際経営に関する理論体系を理解すること（学士課程のDP「知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)<br>③ベーシックな戦略論や組織論の理論を用いて、国際経営に関する諸問題を分析し、その分析結果をアウトプットとして発表できること（学士課程のDP「問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。<br>④将来、国際ビジネスで活躍する時に必要な基礎知識と発想力を身に付けること（学士課程のDP「倫理観・社会的責任／市民としての責任感と倫理観」に対応)。 | |

成績評価の方法と基準

小テスト（40%）および期末試験（60%）により評価する。なお、記述・論述問題の場合、内容はもちろんのこと、誤字・脱字がなく、読みやすい文章を高く評価する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

授業は基本的にパワーポイントを使った講義形式で進める。また、ビデオなどの視聴覚教材も適宜使用する。
受講生は日頃から『日本経済新聞』や『日経ビジネス』『週刊ダイヤモンド』などのビジネス雑誌に目を通し、企業の経営動向について観察する習慣を付けてください。

第1回：　イントロダクション－国際経営の基礎知識
第2回：　多国籍企業の歴史
第3回：　海外直接投資論
第4回：　プロダクト・サイクル仮説と優位性の移転
第5回：　多国籍企業の組織デザイン
第6回：　トランスナショナル型組織
第7回：　国際的な活動の配置と調整
第8回：　海外子会社論
第9回：　グローバル・イノベーション論
第10回：　国際パートナシップ
第11回：　国際マーケティング
第12回：　国際生産
第13回：　国際研究開発
第14回：　国際的なサプライチェーン・マネジメント：調達と製販統合
第15回：　国際人的資源管理

＊この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を一部または全て遠隔へ変更する可能性があります。

＊進捗状況などに応じて、授業計画を変更する場合があります。

【自学自習に関するアドバイス】
講義前・講義後には、テキストの関連内容について各1時間程度予習・復習をしてください。

教科書・参考書等
教科書：
・大木清弘（2018)『コア・テキスト　国際経営』新世社。2,750円（教科書は、受講生が各自で入手すること。）

参考書：
・中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015)『はじめての国際経営』有斐閣。1,980円
・浅川和宏（2003)『グローバル経営入門』日本経済新聞社。3,080円
・江夏健一・桑名義晴編（2018)『理論とケースで学ぶ国際ビジネス（第4版)』同文館出版。3,300円
・吉原英樹（2021)『国際経営（第5版）』有斐閣。2,200円
・吉原英樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏編（2013)『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣。3,080円

オフィスアワー　　木曜日3時限目、事前にe-mail等でアポイントメントを取ること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
授業中の私語と携帯電話の使用を慎むこと。

| ナンバリングコード　B3BSN-bceE-30-Lg2<br>授業科目名　　(時間割コード：320200)<br>イノベーション論<br>Innovation Management | 科目区分 | 時間割<br>後期木1 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bceE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lg | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>塩谷　剛 | 関連授業科目 | 経営管理論、経営戦略論、経営組織論 | |
| | 履修推奨科目 | 経営管理論、経営戦略論、経営組織論 | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習(準備学習30時間＋事後学習30時間)

授業の概要

ビジネスの課題や顧客ニーズが多様化する中で、企業が継続的に成長・発展していくためには「イノベーション」の遂行が不可欠である。本講義では、事例を交えながら技術、製品開発などイノベーション・マネジメントの諸問題について解説していく。さらに、組織学習論、社会ネットワーク理論の視点からイノベーションを促進させる要因について検討していく。

授業の目的

本講義の目的は、経営戦略論、経営組織論などを基礎に、イノベーション・マネジメントに関する諸問題について議論・分析するために必要な考え方を学ぶことである。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ①イノベーション・マネジメントに関する諸問題について企業の戦略・組織などの視点から説明できる。<br>②イノベーション促進のために必要な行動や組織デザインを提案できる。 | |

成績評価の方法と基準

授業中の演習45点（3点×15回）＋期末試験55点
演習の解答は出席のカウントにも使用するため、
授業終了後に提出すること。
翌週以降の提出も認めるが、その場合は1点とし、出席のカウントはしない。病気・忌引き等で欠席した場合、それらが証明できる書類が確認できればその限りではない。
なお、演習の解答内容を発表した学生には1回につき3点加点する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

この科目は全回対面授業を行う。

第1回：イノベーションの類型(教科書①第6章)
第2回：技術と経営(教科書①第1・2章)
第3回：競争優位と競争戦略(教科書①第3章)
第4回：経営戦略と技術(教科書①第4章)
第5回：技術と制度(教科書①第5章)
第6回：製品開発プロセス(教科書①第7章)
第7回：製品開発とマーケティング(教科書①第8章)
第8回：製品開発の組織(教科書①第9章)
第9回：技術と組織間関係(教科書①第10章)
第10回：大量生産システム(教科書①第11章)
第11回：カーネギーモデル(教科書②第13回)
第12回：イノベーションと組織学習①：知の探索・深化理論(教科書②第14回)
第13回：イノベーションと組織学習②：組織の記憶の理論(教科書②第15・18回)
第14回：イノベーションと組織学習③：知の移転・創造理論(教科書②第16回・17回)
第15回：イノベーションと社会ネットワーク理論(教科書②第27・28回)

＜予習＞
教科書の該当箇所を読み、Working,Discussionの解答の方針を立てておく。分析対象はこちらから指定することがある。

＜講義中＞
①教員によるレクチャー
②演習：Working,Discussionの解答をまとめる。
　希望者による発表を実施する。

＜復習＞
教科書の該当箇所をもう一度読むこと。
講義内容を振り返り、Working,Discussionの解答をブラッシュアップしておくこと。

教科書・参考書等
教科書①原拓志・宮尾学編(2017)『技術経営』中央経済社(第1回～第10回)2,640円（税込み）
教科書②入山章栄「世界標準の経営理論」第13回、第14回、第15回、第16回、第17回、第18回、第27回、第28回『ハーバード・ビジネスレビュー』2015年10月号、2015年11月号、2015年12月号、
2016年2月号、2016年12月号、2017年1月号、ダイヤモンド社(第11回～第15回)
※①は購入すること。②については別途指示する。

参考書　入山章栄（2019)『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社3,190円(税込み)
※教科書②の書籍版

オフィスアワー　　特に定めない。事前にe-mail等でアポイントメントを取ること。
研究室：南7号館2階2-10

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
必ず教科書を読んで講義内容の予習をしておくこと。
本講義で学んだ考え方を身近な企業に当てはめてみることを心がけて下さい。
イノベーション論は、経営戦略論、経営組織論、マーケティング論等の知識を総動員した、いわば経営学の総合格闘技とも言えます。本講義の履修前、あるいは並行して関連科目を履修することによって、より一層イノベーション論の理解が深まります。

| ナンバリングコード　B3BSN-bcdE-30-Lb2<br>授業科目名　　(時間割コード：322200)<br>マーケティング論Ｂ<br>Marketing B | 科目区分 | 時間割<br>後期月3 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lb | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>藤村　和宏 | 関連授業科目　観光および経営関連科目 | | |
| | 履修推奨科目　マーケティング論A | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

マーケティングとは、同一の消費者ニーズをターゲットとする競争組織や地域に対抗すると同時に、様々な利害関係者の利益も考慮しながら、組織（営利あるいは非営利）が消費者との間で両者が満足できるような長期的な交換（取引）関係を形成・維持するための市場活動である。このことから、マーケティングの展開においては、消費者（顧客）の満足向上だけでなく、様々な利害関係者の満足向上も図りながら、競争優位を形成・維持することが求められる。なお、顧客満足の向上および競争優位の形成においては顧客価値が重要な役割を果たすことから、価値づくりを中心に４Ｐｓ（Product, Price, Promotion, Place）について、学生が主体的に行うケース発表および討議によって考察を行なう。

また、従来のマーケティングの対象は有形財（モノ）であったが、経済のサービス化とともに、営利および非営利サービスが経済において重要な役割を経たすようになっており、且つ競争も激化していることから、サービスもマーケティングの重要な対象となっている。そこで本講義では、有形財（モノ）との比較で、サービス・マーケティングの特質についても考察を行なう予定である。なお、観光もサービスであることから、マーケティングの視点から観光地の顧客満足戦略や競争戦略の構築についても考察を行う、

授業の目的

モノやサービス（観光）のマーケティングの具体的戦略（マーケティング・ミックス）に関する専門的知識を習得するとともに、マーケティングに関する問題を自ら発見し解決できる能力を身につけるための基礎を養う。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １．新聞や専門誌のマーケティング戦略に関する記事を理解できる。<br>２．市場で展開されているマーケティングに関心を持ち、具体的な活動から企業の意図や目標を解釈・説明できる。 | |

成績評価の方法と基準

ケース発表とケース・レポート作成、期末試験、e-ラーニング、および講義への参加度などにより評価し（100点＋α）、60点以上を合格とする。なお、単位認定方法としてはＡタイプとＢタイプを設定しているので、どちらかを選択することになる。

Ａタイプはケース発表を行い、それをケース・レポートとして作成するものであり（期末試験なし）、Ｂタイプはケース発表等は行わず、期末試験を受けるものである。

e-ラーニングは自習学習を促すために設けており、３科目を受講を課している（10点×3科目）

講義への参加度とは、学生が行うケース発表に対する質問とケース発表に対する評価への参加の程度である。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

学生によるケース発表と質疑応答を中心に、パワーポイント、ビデオ、プリントを使用しながら口述筆記で行なう。講義資料については、必要に応じて各自で藤村研究室のホームページからダウンロードしてして下さい。なお、ダウンロードに必要なパスワード等は第1回目の講義で提示します。

第１回　　マーケティングの基礎概念
第２回～５回　　製品戦略
第６回～９回　　価格戦略　＋　ケース発表と討議
第10回～13回　プロモーション戦略　＋　ケース発表と討議
第14回～15回　流通戦略　＋　ケース発表と討議

【授業及び学習の方法】

この科目は、全回対面方式で講義を行います。ただし、状況によっては、遠隔方式に変更する可能性もあります。その場合、ケース発表を行う学生の方には教室に集まってもらって発表を行ってもらい、その他の学生の方には遠隔方式で質疑に参加してもらうことになります。

【自学自習についてのアドバイス】
第２回～１５回　　４つの戦略に関する配布資料を読む。(それぞれ3時間時間)
第６回～第15回　発表ケースに関する資料を収集し、討議内容を考える。(それぞれ1時間)
３つの戦略（製品戦略・価格戦略・プロモーション戦略）に関するe-ラーニングを自習学習として行う。(8時間)

教科書・参考書等
教科書は使用せず、講義用資料を配布する。なお、資料は藤村研究室のHPから各自でダウンロードして下さい。

【参考】
青木幸弘編、『ケースで学ぶマーケティング』、有斐閣、2015年。
青木幸弘・恩蔵直人編、『製品・ブランド戦略』、有斐閣、2004年。
藤村和宏著、『「便益遅延性」が顧客満足・顧客参加に及ぼす影響 –医療サービスにおける消費とマーケティングのあり方を考える』、千倉書房、2020年。
藤村和宏著、『医療サービスと顧客満足』、医療文化社、2009年。

オフィスアワー　　月曜日の10時～12時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
講義中および講義後の質問を歓迎します。もし対面での質問が嫌な場合は、用紙に記入し、講義後に提出して下さい。口頭あるいは用紙で出された重要な質問については、次の講義時間の最初に回答します。
１０分以上遅れた場合、講義の妨げになるので、入室を禁止します。
また、講義中の会話や携帯電話は禁止します。注意を３度受けた学生は成績評価の対象から除外します。

| ナンバリングコード　B3BSN-bdcE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：320124)<br>環境システム論<br>Introduction to Environmental Problem | 科目区分 | 時間割<br>後期木3 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bdcE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>古川　尚幸 | 関連授業科目　　商品システム論、商品実験 | | |
| | 履修推奨科目　　資源エネルギー論 | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

現代社会の大きな流れのひとつとして、地球環境に負荷を与えない、循環型社会システムの構築が模索されています。産業構造に目を転じてみても、このような環境への関心の高まりや、それに伴う社会的ニーズを背景として、環境ビジネスという産業が生まれ、その市場は大きく成長しようとしています。この授業では、これからの循環型社会システムを理解するために必要な基礎知識の修得を目的とし、様々な地球環境問題、廃棄物問題、リサイクル問題について、その基礎から最新のトピックスまでを解説する予定です。

授業の目的

企業経営や市民生活と環境問題の関わりについて、基礎的な知識を習得することを目的とします。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ①企業経営と環境問題の関わりについて説明できる。<br>②市民生活と環境問題の関わりについて説明できる。<br>③習得した基礎知識をもとに、刻々と変化する環境問題について、内容を判断し、自分の意見を構築できる。<br><br>１つの目安として、資源エネルギー論とあわせて履修することで、環境社会検定試験（東京商工会議所主催）に合格する程度の基礎知識の修得を目標とします。 | |

成績評価の方法と基準

以下の２つのうち、いずれか各受講生の希望により、成績評価の方法を選択できます。
（1）期末テスト（100点）により認定します。
（2）期末テスト（50点）および環境社会検定試験（50点）により認定します。

すでに環境社会検定試験に合格している者、または2022年度後期までに合格した者に50点を与えます。

なお、確認テストは出席状況の把握や授業内容の理解度を確認するために行うので、その結果は単位認定に影響しません。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】
(1)イントロダクション
(2)地球温暖化の現状
(3)地球温暖化に対する取り組み　1
(4)地球温暖化に対する取り組み　2
(5)オゾン層破壊
(6)その他の環境問題　1
(7)その他の環境問題　2
(8)廃棄物問題の現状
(9)リサイクルの現状
(10)リサイクル法　1
(11)リサイクル法　2
(12)環境問題に対する消費者の取り組み
(13)環境問題に対する企業の取り組み
(14)ゲストスピーカーによる講演
(15)まとめ
(16)期末試験

【授業方法】
対面で授業を行いますが、新型コロナウイルスの状況により、変更する場合もあります。

プリントを配付し、それらを中心に授業を行います。授業ごとに穴埋め形式の確認テストを行います。この確認テストは前回の授業内容から重要なキーワードについて出題します。

【自学自習のためのアドバイス】
(2)地球温暖化について、参考書の関連箇所を読む。 (4時間)
(3)地球温暖化について、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。 (5時間)
(4)地球温暖化について、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。 (6時間)
(5)オゾン層破壊について、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。 (5時間)
(6)その他の環境問題について、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。(5時間)
(7)その他の環境問題について、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。(6時間)
(8)廃棄物問題について、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。 (5時間)
(9)リサイクルについて、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。 (5時間)
(10)リサイクル法について、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。 (5時間)
(11)リサイクル法について、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。 (6時間)
(12)環境問題に対する消費者の取り組みについて、確認テストの復習。HPなどで情報を集める。 (4時間)
(13)環境問題に対する企業の取り組みについて、確認テストの復習。HPなどで情報を集める。 (4時間)

＊新聞やテレビ等を積極的に利用し、普段から環境問題やエネルギー問題に興味を持つよう心掛けてください。

教科書・参考書等
教科書：
使用しません

参考書：自学自習のために使います。定期試験の出題範囲に含みます。
村上芽・渡辺珠子『SDGs入門』(日本経済新聞出版社、2019年、900円＋税)
三橋規宏『環境経済入門』(日本経済新聞出版社、2013年、1000円＋税)
足達英一郎『環境経営入門』(日本経済新聞出版社、2009年、860円＋税)

オフィスアワー　　金曜日3時限目
経済学部2号館2F古川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
特にありません。環境社会検定試験の詳細については、東京商工会議所HPを参照してください。

| ナンバリングコード　B3BSN-dbcE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：323470)<br>商品システム論<br>Commodity Science | 科目区分 | 時間割<br>後期水2 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>dbcE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>古川　尚幸 | 関連授業科目 | 環境システム論、資源エネルギー論 | |
| | 履修推奨科目 | 商品実験 | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

現在の豊かさは，多くの商品の生産と消費、それにともなう廃棄を前提として成立しています。その商品は私たちのライフスタイルの変化と共に移り変わり，逆に、商品の変化は私たちのライフスタイルの移り変わりをもたらします。したがって，商品の移り変わりを予測するためには、私たちのライフスタイルの変化，技術の変化，経済社会環境の変化を理解することが必要です。この授業では、商品概念や商品の品質など商品の基礎知識を理解したうえで、商品にかかわる諸問題である消費者問題、廃棄物問題、地域活性化の問題などを通して、豊かな社会における商品はどうあるべきかを考えます。

授業の目的

変化する社会環境と身の回りの商品との関わりについて、基礎的な知識を習得することを目的とします。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ①商品学の基礎知識を修得し、それらを説明できる。<br>②社会環境と商品の関わりについて、基礎的な知識を習得し、それらを説明できる。<br>③習得した基礎知識をもとに、社会環境や商品について、内容を判断し、自分の意見を構築できる。 | |

成績評価の方法と基準

以下の３つのうち、いずれか各受講生の希望により、成績評価の方法を選択できます。
（1）期末テスト（100点）により認定します。
（2）期末テスト（75点）および販売士3級検定試験（25点）により認定します。
（3）期末テスト（50点）および販売士2級検定試験（50点）により認定します。

すでに販売士3級検定試験または販売士2級検定試験に合格している者、または2022年度後期までに合格した者に、それぞれ25点または50点を与えます。

なお、確認テストは出席状況の把握や授業内容の理解度を確認するために行うので、その結果は単位認定に影響しません。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】
(1)イントロダクション
(2)商品概念・分類・品質１
(3)商品概念・分類・品質２
(4)商品を取り巻く環境の変化
(5)サービス経済化の進展
(6)サービス特性・品質
(7)商品コンセプト・商品開発
(8)商品学総論のまとめ
(9)商品と消費者
(10)商品とデザイン
(11)商品と環境
(12)商品とエネルギー
(13)商品と地域
(14)商品学各論のまとめ
(15)ゲストスピーカーによる講演
(16)期末試験

【授業方法】
対面で授業を行いますが、新型コロナウイルスの状況により、変更する場合もあります。

プリントを配付し、それらを中心に授業を行います。授業ごとに穴埋め形式の確認テストを行います。この確認テストは前回の授業内容から重要なキーワードについて出題します。

【自学自習のためのアドバイス】
(2)商品の分類について、参考書の関連箇所を読む。 (2.5時間)
(3)商品の品質について、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。 (6.5時間)
(4)社会環境の変化について、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。(6.5時間)
(5)サービスについて、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。 (6.5時間)
(6)サービスについて、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。 (6.5時間)
(7)商品コンセプトについて、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。(6.5時間)
(9)商品と消費者について、確認テストの復習。HPなどで情報を集める。 (5時間)
(10)商品とデザインについて、確認テストの復習。HPなどで情報を集める。 (5時間)
(11)商品と環境について、確認テストの復習。HPなどで情報を集める。 (5時間)
(12)商品とエネルギーについて、確認テストの復習。HPなどで情報を集める。 (5時間)
(13)商品と地域について、確認テストの復習。HPなどで情報を集める。 (5時間)

＊新聞やテレビ等を積極的に利用し、普段から身の回りの商品に興味を持つよう心掛けてください。

教科書・参考書等
教科書：
使用しません

参考書：自学自習のために使います。定期試験の出題範囲に含みます。
村上芽・渡辺珠子『SDGs入門』(日本経済新聞出版社、2019年、900円＋税)
田島義博『マーチャンダイジングの知識』(日本経済新聞出版社、2010年、830円＋税)
延岡健太郎『製品開発の知識』(日本経済新聞出版社、2012年、860円＋税)

オフィスアワー　　金曜日3時限目
経済学部2号館2F古川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
特にありません。販売士検定試験の詳細については、日本商工会議所HPを参照してください。

| ナンバリングコード　B3BSN-bceE-30-Lg2<br>授業科目名　　(時間割コード：320126)<br>調査データ分析Ⅰ<br>Analysis of Survey Data Ⅰ | 科目区分 | 時間割<br>後期月5 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bceE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lg | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>森貞　誠 | 関連授業科目　　統計学、経営学に関する基礎科目 | | |
| | 履修推奨科目　　統計学、経営学に関する基礎科目 | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習　(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)

授業の概要

近年、データ分析の重要性が、ビジネスの世界で高まっています。世の中には様々なデータが存在しますが、本講義では主に調査データを取り上げます。講義の中では、経営学やマーケティングへの応用を考えながら、アンケートの作成手法や統計分析手法について学習していきます。なお、本講義ではエクセルを用いる演習の時間を多く取る予定です。

授業の目的

アンケートの作成手法やデータの整理・分析手法を理解することを目的とします。この講義を受講することで、社会科学で必要な調査データ分析の基礎知識を習得できます。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ・調査データを用いて可能な分析手法について、理解すること(DPの知識・理解, 問題解決・課題探求能力に対応)<br>・基礎的な統計分析手法を理解し、統計ソフトを用いて分析できるようになること(DPの知識・理解, 問題解決・課題探求能力に対応) | |

成績評価の方法と基準

講義中課題、期末レポートで評価します。
講義中課題：50%
期末レポート：50%

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】
第1回　イントロダクション
第2回　データ分析の基礎①
第3回　データ分析の基礎②
第4回　仮説の重要性とデータの集め方
第5回　アンケートの作成手法①
第6回　アンケートの作成手法②
第7回　データの集計①
第8回　データの集計②
第9回　相関分析
第10回　χ二乗検定
第11回　t検定
第12回　分散分析
第13回　回帰分析①
第14回　回帰分析②
第15回　まとめ

【講義及び学習の方法】
授業は原則、講義形式で進めますが、エクセルを用いた演習も取り入れます。
また、講義ごとの小レポート・課題を出題し、講義内容の理解を促します。
【自学自習のアドバイス】
講義ごとに、該当する統計学・経営学の内容を復習する。(15時間)
講義ごとに、統計ソフトの使い方を理解する。(15時間)
レポートに備え、実務でのデータ分析事例を調べる。(5時間)
小レポートの作成。(10時間)
期末レポートの作成。(15時間)

教科書・参考書等

【教科書】
特に指定しません。講義資料に基づいて講義を進めていきます。
【参考書】
講義時に指示します。

オフィスアワー　　初回講義時に指示します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・講義中の私語は厳禁です。

| ナンバリングコード　B3BSN-bcaE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：322165)<br>管理会計論<br>Management Accounting | 科目区分 | 時間割<br>後期木2 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>朴　鏡杓 | 関連授業科目 | 会計・経営学関連科目 | |
| | 履修推奨科目 | 簿記・会計関連科目 | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要
マネジメントのための会計である管理会計を初めて学ぶ学生のための授業です。本授業では、管理会計の基本的な概念、技法、考え方などを学習し、さらに経営管理にどのように実践されているかについて考えていきます。

授業の目的
経営管理に役立つ管理会計の基礎知識を身につけること(DPの「知識・理解」に対応)を目指します。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 1.利益管理と原価管理に役立つ原価概念、諸技法を説明できる。<br>2.意思決定と業績評価のための管理会計技法を習得できる。<br>3.経営管理プロセスで管理会計情報がどのように役立つのかついて説明できる。 | |

成績評価の方法と基準
小テスト（20～0%）、レポート（20～0%）、期末テスト（60～100%）の合計点数をもって成績評価を行います。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】
第1回　イントロダクション【授業の概要と進め方】
第2回　管理会計のフレームワーク
第3回　原価の概念
第4回　標準原価管理①
第5回　標準原価管理②
第6回　利益計画①
第7回　利益計画②
第8回　予算管理
第9回　事業部制会計①
第10回　事業部制会計②
第11回　設備投資の経済計算①
第12回　設備投資の経済計算②
第13回　ABC/ABM
第14回　原価企画
第15回　品質原価計算
第16回　期末テスト

【授業及び学習の方法】
授業はプリント、Power Point資料などを活用しながら講義中心に進めます。
また、講義内容の理解を助けるため練習問題を取り入れます。

この科目は基本的に対面授業を行いますが、状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習に関するアドバイス】
・ テキストを事前に読んでおくこと（毎回２時間程度の予習が必要です）
・ 授業中に取り上げた例題や練習問題を復習すること（毎回２時間程度の復習が必要です）

教科書・参考書等
【教科書】
高梠 真一編著『管理会計入門ゼミナール』創成社、2012年（生協の書籍部にて購入、2,420円）
【参考書】
講義において適宜紹介します。

オフィスアワー　　木曜日1時限目、南キャンパス2号館2階 朴研究室において随時、質問・相談などに応じます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
授業計画並びに授業の方法は、授業の開始時点での予定であり，開始後の状況により変更する場合があります。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：323702)<br>　(特) Plastics, Global Trade, and the Environment<br>　Special Lecture<br>　Plastics, Global Trade, and the Environment | 科目区分 | 時間割<br>前期木3 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Ef | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>　ロン　リム, 高水　徹 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分 × 15回 ＋ 自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

This course revolves around the world of plastics, starting from its creation, to trade on the global arena, to the impact on the environment and on human lives. Topics are clustered accordingly into three segments. In the first segment, we look at how plastics came into being, how it was invented and how it is manufactured. We examine the merits of plastic as a raw material followed by the role plastics play in our daily lives, and the benefits it brings. In the second segment, we probe into the world of trade in plastic goods and plastic wastes. The third segment leads us to investigate the adverse sides of plastics in the environment and in the health of animals and human beings resulting from plastic-based garbage. Through the framework of Circular Economy, we explore ways to minimize the harmful effects of plastic-based garbage.

授業の目的

The purpose of this course is to equip students with the fundamental knowledge on how to respond to the deteriorating environment that has resulted from the makings of mankind. Armed with this knowledge, the course aims to induce students to be inquisitive about the natural environment that we live in, and to the importance of getting involved with protecting and conserving the ecosystem for the good of mankind. Looking from another perspective, this course aims to sensitize students to the various Sustainable Development Goals expounded by United Nations. Among the appropriate goals are: Good health and well-being (#3), Industry, innovation, and infrastructure (#9), Sustainable cities and communities (#11), Responsible consumption and production (#12),

Climate action (#13), Life below water (#14), and Life on land (#15).

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| After the course, the student is expected to be able to know and understand:<br><br>1. How plastics came into being and how it is manufactured<br><br>2. The global trade on plastics and plastic waste<br><br>3. The scope of damage plastics has on the environment and human life<br><br>Armed with the above knowledge, the student is expected to be able to make informed decisions with regards to consumption behavior and protection of the environment. | |

成績評価の方法と基準

Students are graded according to the following:

1. Class preparation and participation 20%

2. Fieldwork participation 20%

3. Presentation 30%

4. Final report 30%

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

1. Introduction on the class (learning goals, expectations, etc.), and ice break

2. Sustainable Development Goals: why and what

3. (Segment 1) Plastics: its discovery, development, and manufacturing

4. Plastics: merits and demerits

5. Plastics in our daily lives

6. Field work on environmental cleanup activity (details pending)

7. Mid-term presentations by all teams

8. (Segment 2) Plastics in global trade

9. Plastics and the Circular Economy

10. (Segment 3) Plastics in the environment

11. Micro plastics and the impact on the environment

12. Field work on environmental cleanup activity (details pending)

13. Plastics and human health

14. Plastics garbage: how to tackle the issue

15. Final presentations by all teams

The style adopted shall be that of ‘seminar’ style as opposed to that of ‘lecture’ style. Classes shall be conducted in ‘hybrid’ form. Specifically, pending COVID-19 circumstances, face-to-face classes shall be held at Kagawa

University and shall be conveyed to students attending from overseas via Zoom. Groupwork among students shall be conducted via ‘rooms’ within Zoom, or other medium that is convenient to all parties concerned.

教科書・参考書等

Plastics, the Circular Economy and Global Trade, published by World Economic Forum
https://jp.weforum.org/whitepapers/plastics-the-circular-economy-and-global-trade

Other class materials shall be introduced during the class. These materials are sourced from United Nations Conference on Trade and Development (UNCTAD), World Economic Forum (WEF), World Trade Organization (WTO), among other international organizations.

オフィスアワー　Day & time: Every Tuesday, 13:00-14:00

Location: International Office (Saiwai South Campus, 2nd Building, 1st Floor)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

Students are required to prepare themselves by reading the assigned materials prior to attending class.

# コース専門科目

(経営・イノベーションコース　３年次配当)

| ナンバリングコード　B3BSN-bcdE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：320104)<br>経営史<br>Business History | 科目区分 | 時間割<br>前期月3 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>張　暁紅 | 関連授業科目　　経済史入門、現代企業論 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習13時間+事後学習39時間+中間レポート作成8時間+期末復習10時間）

授業の概要

経営史では企業の歴史、とりわけ大企業の生成と発展の歴史を学ぶ。
本講義では、前半は近代におけるイギリスとアメリカの経営史を講義し、後半は日本経営の歴史を中心に学ぶ。講義内容は以下の４点が主要な柱となる。
①英に対し、米・日などを含めた後進国の企業経営の歴史はそれを取り巻く経済環境とどのように関係しているのか？
②企業は直面した経営上の課題にどのように対応してきたのか？
③現代の大企業はどのような歴史背景のもとで形成・成長してきたのか？
④近現代日本企業の経営的な特徴と近年におけるその変容をどう理解すべきか？

授業の目的

企業経営およびそれを取り巻く経済環境の歴史を理解し､現在の経営現象を歴史的な視点を用いて説明できるようになること。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １．企業はそれを取り巻く経済環境の中で形成･成長してきたことを、歴史事例を持って説明できる。<br>２．現在の経営現象を歴史的な視点を用いて説明できる。 | |

成績評価の方法と基準

期末試験70%、レポート30%で評価を行う。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

※講義は遠隔で行う予定です。

【授業計画】
(1)ガイダンス：経営史はどういう学問か？
(2)産業革命と近代企業の成立①経営者の課題と対応
(3)産業革命と近代企業の成立②経営管理を中心に
(4)アメリカ的巨大経営①大量生産体制および資本・管理の大規模化
(5)アメリカ的巨大経営②アメリカ的大企業の発生
(6)独占的企業の展開と限界
(7)ビッグ・ビジネスと現代管理組織の成立①管理組織の変化
(8)ビッグ・ビジネスと現代管理組織の成立②工場管理の変化
(9)発展途上国の工業化と企業経営
(10)日本における近代企業の成立
(11)日本企業の大規模化
(12)戦後の企業経営ー財閥解体から企業集団の形成までー
(13)日本型企業システムの光と影①講義
(14)日本型企業システムの光と影②ドキュメンタリー鑑賞
(15)まとめ
【授業及び学習の方法】
授業は講義中心に進めますが、授業中に課題を課し提出してもらいます（任意提出。詳細はガイダンスにて)。
【自学自習のためのアドバイス】
(1) 第２回目～第１４回目：
①準備学習について（1時間×13回)
事前に配布されたレジュメに基づいて、歴史事実、基本概念などを自ら調べて把握しておく。
②事後学習について（３時間×13回)
授業内容をしっかり理解したうえ、良質な情報源も活用し、幅広くかつ深く探求することに努める。
(2) 中間レポートに関わる学習と提出について（８時間×１回)
①講義時に紹介した日本経済新聞記事をヒントとし、自らキーワードを選定して調査研究を行う。
②学習・研究した成果をレポートにまとめて提出する。
(3) 期末試験に関わる復習について（１０時間×１回)
期末試験に備えて、授業内容を全面的に振り返り総復習を行う。

教科書・参考書等
教科書は使用しない。
参考書：大河内暁男『経営史講義（第2版)』東京大学出版会、2001年。宮本又郎等『日本経営史』有斐閣、2007年。

オフィスアワー　　火曜日の三時限目、研究室（南キャンパス３号館２階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
１．レジュメなどの資料は事前にMoodleにupします。ダウンロードして使用してください。
紙媒体の資料が必要な方は、教員宛に連絡してください。
２．授業に関する教員からのお知らせはMoodleに掲載します。定期的に確認してください。

| ナンバリングコード　B3BSN-bcxE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：323410)<br>人的資源管理論Ｂ<br>Human Resource Management B | 科目区分 | 時間割<br>前期火3 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>青木　宏之 | 関連授業科目　人的資源管理論A | | |
| | 履修推奨科目　社会政策A | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

人的資源管理論は、報酬管理、業務管理、雇用管理、労使関係管理などの４つの領域からなりたっており、企業内における人材の問題全般と関わる。この授業では、人的資源管理論のうちとくに雇用管理と労使関係管理について扱います。現在、日本の雇用制度が大きく変わろうとしていますが、それを制度的、理論的に理解することがこの授業の目的です。

授業の目的

この授業の主な目的は下記のとおりである。
・日本の雇用制度改革の方向性について理解すること。
・日本企業の雇用管理について理解すること。
・日本の労使関係について理解すること。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| この授業の到達目標は下記のとおりである。<br><br>・日本企業の雇用管理について説明することができる。(DPコード「知識・理解」に対応)<br>・日本の労使関係について説明することができる。(DPコード「知識・理解」に対応)<br>・日本の雇用制度改革についての自分の考えや意見を持つ。(DPコード「問題解決・課題探求能力」に対応) | |

成績評価の方法と基準

期末レポート70点、小テスト30点の100点満点で評価する（小テストの回数によって配分を変更することがある）。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】
以下の計画は授業の進捗によって変更することがある。

(1)　　イントロダクション：現代日本の雇用システム改革
(2)　　採用管理
(3)　　労働時間管理
(4)　　失業と雇用調整
(5)　　出向と転籍
(6)　　高齢者雇用問題
(7)　　若者雇用問題
(8)　　女性の労働
(9)　　雇用ポートフォリオと雇用の多様化
(10)　派遣労働者のキャリア
(11)　労使関係論
(12)　労働組合の新しい役割
(13)　キャリア管理
(14)　人材育成
(15)　技術者のキャリア

【授業および学習の方法】
この授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜グループワークを行います。

【自学学習のためのアドバイス】
第2回　授業中に指定する文献を用いて、事前に、企業の採用管理に関する研究、また関心のある企業や団体のHPの採用ページを読んでくる。(10時間)
第3～5回　授業中に指定する文献を用いて、事前に、労働政策に関する基礎知識を学んでおく。(10時間)
第6～8回　授業中に指定する文献を用いて、ホワイトカラーの人事評価の具体例を読み、授業で学んだ理論的枠組みを用いて分析を行う。(10時間)
第9～10回　企業の非正規労働者の活用について、小レポートを作成する。(10時間)
第11～12回　授業中に指定する文献を用いて、労使交渉に関する事例を分析する。(10時間)
第13～15回　授業中に指定する文献を用いて、事前に、人材育成に関わる理論を学ぶ。(10時間)

| |
|---|
| 教科書・参考書等<br>授業中に適宜指示する。 |
| オフィスアワー　　月曜日三時間目。<br>メールで予約を取ること。 |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ<br>・正規の手続きによらない定期試験の成績調査には応じない。<br>・パワーポイントのシートは配布しないので、授業中の指示に従ってノートを作成すること。 |

| ナンバリングコード　B3BSN-bceE-30-Lg2<br>授業科目名　　(時間割コード：323110)<br>中小企業経営論<br>Small Business Management | 科目区分 | 時間割<br>後期金3 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bceE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lg | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>大杉　奉代 | 関連授業科目 | 経営管理論，経営組織論，経営戦略論 | |
| | 履修推奨科目 | 経営管理論，経営戦略論，経営組織論 | |

学習時間　　プレゼン・ディスカッション15分　＋　講義75分　×　15回　＋　自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

本講義では，「中小企業とは」「中小企業の環境適応マネジメント」「中小企業の資源統合マネジメント」の3つに焦点をあてる。それぞれの理論について説明した上で，実際の戦略展開について考察する。

授業の目的

中小企業の実態や事例調査などに基づき，理論と実践的な視点で検討を行っていくことの必要性について学ぶ。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 中小企業経営に関する理論を踏まえた上で，中小企業に関する各種データ，ケーススタディ等により中小企業を分析するための知識を身につける。<br><br>１．中小企業経営に関わる基礎的な理論を理解し，説明することができる（学士課程のDP「b：知識・理解」に対応)。<br>２．中小企業の活動に関わる課題について説明を行うことができる（学士課程のDP「b：知識・理解」に対応)。<br>３．中小企業の課題について理論と問題意識をもとに考察し，解決策等を提示することができる（学士課程のDP「c：問題解決・課題探求能力」に対応)) | |

成績評価の方法と基準

小テスト・課題の提出：30%，プレゼン・ディスカッション10%，期末試験：60%

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業の方法】

講義最初の15分は,受講者による中小企業についてのプレゼンテーションと受講者によるディスカッションを行うことで，中小企業に対する関心と理解の向上を図る。

【授業計画】

第1回：ガイダンス

第1部　中小企業とは
　第2回：中小企業の特性
　第3回：中小企業の歴史
　第4回：海外の中小企業
　第5回：中小企業問題と中小企業政策
　第6回：第１部まとめ

第2部　中小企業の環境適応マネジメント
　第7回：環境変容と戦略マネジメント
　第8回：分業構造の変容と下請マネジメント
　第9回：企業間関係の変容とネットワーク・マネジメント
　第10回：産業構造の変容と地域産業マネジメント
　第11回：第２部まとめ

第3部　中小企業の資源統合のマネジメント
　第12回：人材難と組織・人材マネジメント
　第13回：後継者難と事業承継マネジメント
　第14回：既存事業の衰退と事業開発マネジメント
　第15回：第３部のまとめと講義のまとめ

【自学自習に関するアドバイス】
＜予習＞
講義最初の15分は,受講者による中小企業についてのプレゼンテーションと受講者によるディスカッションを行うので，日頃から新聞やインターネットなどを活用し，中小企業の経営活動や経営学に関心をもっておくこと。教科書の該当箇所を読んでおくこと。
＜復習＞
定期的に課題レポートを課すので，それに向けた講義内容の理解を深めておくこと。

＊この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等
教科書：
井上善海・木村弘・瀬戸正則編著『中小企業経営入門』中央経済社，2300円＋税。

参考書：
１．高田亮爾・上野紘・村社隆・前田啓一編著『現代中小企業論』同友館，2940円。
２．小川英次著『現代経営論～中小企業経営の視点を探る～』中央経済社，3150円。

オフィスアワー　　特に定めない。事前にe-mailでアポイントをとること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
進行状況に応じて授業計画を変更することがある。他の受講者の迷惑になるような行為は慎むこと。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：323531)<br>サービス・マーケティング論<br>Service Marketing | 科目区分 | 時間割<br>後期金1 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>L | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>趙　命来 | 関連授業科目　　マーケティング論A,B | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　授業90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

サービス・マーケティングは、サービス産業の発展とともに、1970年代に登場した、比較的新しい学問である。近年、サービス・マーケティングの発想は製造企業にも適応されるほど独自の学問体系を確立している。サービス・マーケティングはサービスをどのようにお客さまに販売し、満足していただくか、サービス販売に適した仕組みをどのように準備するか、といった課題を扱う学問である。本講義は、サービス・マーケティングを初めて学ぼうとする人たちに対して基礎的な内容を解説する。

授業の目的

サービス概念に焦点を当て、サービスよって成り立っている企業の事例を取り上げながら、サービスがどのような価値を生み出しているのかを理解する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| 1. サービス・マーケティングの発想や基礎概念が理解できる。<br>2. サービス・マーケティングがわれわれの生活とどのような関わりをもつのかが理解できる。<br>3. 現場でサービス・マーケティングをうまく実践するための理論が理解できる。 | |

成績評価の方法と基準

小テストとグループワーク50%、期末試験50%により評価する。
詳細は初回の授業で説明する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

第1回　ガイダンス/サービス経営のマネジメント
第2回　サービス創造のマネジメント
第3回　サービス経験のマネジメント
第4回　サービス人材のマネジメント
第5回　サービス品質のマネジメント
第6回　おもてなしのマネジメント
第7回　顧客ロイヤルティのマネジメント
第8回　サービスによる価値創造
第9回　モバイル技術による価値創造
第10回　ITによる価値創造
第11回　モノとメンテナンスによる価値創造
第12回　ヒトとモノによる価値創造
第13回　受給調整による価値創造
第14回　標準化による価値創造
第15回　サービスのグロバール戦略/まとめ

【授業及び学習の方法】

授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜小テストやグループワークと取り入れます。

【自学自習に関するアドバイス】
第1回　同じ目的や機能を果たすようなモノとサービスを具体的に調べる（２時間）
第2回　複数の製品・サービスを組み合わせて提供している企業やお店を調べて、授業で紹介できるように準備する。（2時間）
第3回　従来のサービス業を経験消費に変容させるためには、どんな工夫が必要をレポートにまとめる。(2時間)
第４回　サービス業において、従業員を満足させるためにはどのような工夫が必要かを、グループワークで議論できるように準備する。(2時間)
第5回　利用サービス以外のサービスで工業化を成功させるには、どのような工夫が必要かをレポートにまとめる。（2時間）
第6回　ファストフード業界のサービスの特徴と温泉旅館のおもてなしサービスとを比較し、どこに相違点があるのかをまとめる。(2時間)
第7回　企業、お店、ブランドなどの特定のファンになるきっかけとして、何があったかを、グループワークで紹介できるように準備する。(2時間)
第8回　モノを製造している企業がサービスを行っている事例を調べてまとめる。(2時間)
第9回　身近にあるモバイル・マーケティングの例から、成功している点、いない点と、その理由を調べ、授業で紹介できるように準備する。(2時間)
第10回 インターネットなどのITによる新しいサービスを提供している企業を調査して、その仕組みの特徴についてレポートにまとめる。(2時間)
第11回　身の回りに、メンテナンス・サービスを有償化できそうな商品があるのかを、グループワークで紹介できるように準備する。(2時間)
第12回　綜合警備保障社の安全保障サービスの特徴を調べセコムと比較し、どこに相違点があるのかを調べてまとめる。(2時間)
第13回　日頃利用しているレストランや美容室などの企業が、どのように需要と供給をバランスしているかを調べ、グループワークに紹介できるように準備する。(2時間)
第14回　ある特定の時間に顧客が集中しないように、そして、施設の稼働率が少ない時間に来店顧客数を高めるために、フィットネス業界はどのような対策を取ったのかをレポートにまとめる。(2時間)
第15回　サービスの特性が国際化にどのような影響を与えるのかを考察する。(2時間)

教科書・参考書等
教科書
伊藤宗彦・高室裕史（編）『1からのサービス経営』碩学舎、2010年。

参考書
黒岩 健一郎・浦野寛子『サービス・マーケティング -コンサル会社のプロジェクト・ファイルから学ぶ』有斐閣 2021年

オフィスアワー　　随時、研究室(南キャンパス3号館３階）にて受け付けます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
成績評価などの履修上注意事項の説明を行うため、第1回目の授業に必ず出席すること。

| ナンバリングコード　B3BSN-becE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：323140)<br>流通システム論Ｂ<br>Distribution System Theory B<br>流通システム論Ｂ | 科目区分 | 時間割<br>前期火1 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>becE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>渡邉　孝一郎 | 関連授業科目 | 流通システム論A、マーケティング論A,B | |
| | 履修推奨科目 | 経営学関連科目 | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

現代の経済社会において快適な日常生活を送るためには流通は欠かせない。ただ、この快適な生活を支えている流通システムは革新的な商業者が絶え間ない試行錯誤によって生み出してきたものである。そこで本講義では、近年の流通を支える新業態の革新性の理解から始まり、流通システムと大きく連動している政治的・社会的背景等に焦点を当てていく。

授業の目的

近年の新業態の革新性・意義・特徴等の理解から始まり、流通システムを取り巻く社会的・歴史的・理論的背景を理解することで流通システムのダイナミクス性をより深く理解していく。そして最終的にはこれからの流通システムの在り方について共に考える。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| この講義の到達目標は以下の4つである。<br>1.流通システムに関する基礎的な知識・理論を習得できる<br>2.近年の流通システムの革新性を理解できるとともに流通システムの現状把握や問題点を理解できる<br>3.流通システムに関する抽象的概念と具体的事例を結びつける論理的思考力を身につけられる<br>4.日常の出来事について、流通・流通システムの視点から考えることができる | |

成績評価の方法と基準

評価方法は講義への理解度・受講姿勢(37%)、中課題(13%)、最終試験(50%)＋αで判断する予定である（変更可能性あり、詳しくは初回時に説明）

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

(1)はじめに：講義オリエンテーションと、流通システムに対する関心を引き出します
(2)流通システムの理論的理解①：流通システムに関する理論について学びます
(3)流通システムの理論的理解②：流通システムに関する理論について学びます
(4)小売業態の革新：①家電量販店：「ヤマダ電機」を例に家電量販店の革新性について学びます
(5)小売業態の革新：②均一価格店：「ダイソー」を例に均一価格店の革新性について学びます
(6)小売業態の革新：③綜合ディスカウントストア：「ドン・キホーテ」を例に総合ＤＳの革新性について学びます
(7)小売業態の革新：④衣料専門店：「ユニクロ」を例に衣料専門店の革新性について学びます
(8)小売業態の革新：⑤家具専門店：「ニトリ」を例に家具専門店の革新性について学びます
(9)小売業態の革新：⑥ドラッグストア：「マツモトキヨシ」を例にＤｇＳの革新性について学びます
(10)小売業態の革新：⑦オンラインモール：「楽天市場」を例にネット通販の革新性について学びます
(11)流通システムの発展：ロジスティクス：物流の新しい形であるロジスティクスについて学びます
(12)流通システムの背景①：流通政策との関係：競争政策が流通システムにどのような影響を与えてきたか学びます
(13)流通システムの背景②：流通政策との関係：振興政策が流通システムにどのような影響を与えてきたか学びます
(14)流通システムの背景③：流通政策との関係：調整政策が流通システムにどのような影響を与えてきたか学びます
(15)おわりに

この科目は基本的に対面授業を行う。なお状況によっては受講生をグループに分け授業形態を一部遠隔へ変更する可能性がある。
また、講義中にmoodle上にて小課題等の提出を課するため、対面受講者においてもmoodleを使用できるようなPC・スマホ等の機器を必ず準備すること。準備できない場合は事前（初回含む）に渡邉まで相談すること。

【自学自習に関するアドバイス】

事前学習：身のまわりの流通活動や市場の動きに日頃から関心を持ち、興味を持ったものをメモすること（週に2時間程度）
事後学習：次の講義までに学んだことを復習するとともに、課題があればそれをきちんとこなしてくること（週に2時間程度）

教科書・参考書等
教科書：講義中配布のプリントで対応できるが、下記２冊があるとより理解が深まる。なお、この教科書２冊は『流通システム論A』でも同じものを利用するため、どちらも受講予定の場合は購入を勧める。
①石原武政・竹村正明・細井謙一編著(2018)『１からの流通論　第２版』碩学舎(2400円＋税)
②崔相鐵・岸本徹也編著(2018)『１からの流通システム』碩学舎(2400円＋税)

オフィスアワー　　月曜日12:10-13:00　南キャンパス３号館３階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
私語をはじめとする授業の妨げとなる行為、また授業参加への意欲が著しく低下している学生については、教育的指導を行う。
なお、この講義は流通システム論Ａと関連しており、流通システムをより理解するためにも前後で流通システム論Ａを履修することが望ましい。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：320127)<br>調査データ分析Ⅱ<br>Analysis of Survey Data Ⅱ | 科目区分 | 時間割<br>前期月2 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lg | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>森貞　誠 | 関連授業科目 | 調査データ分析Ⅰ、経営学に関する基礎科目 | |
| | 履修推奨科目 | 調査データ分析Ⅰ、経営学に関する基礎科目 | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習　(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)

授業の概要

調査データ分析Ⅰでは、データの集め方や基本的なデータ集計の仕方について、学習してきました。本講義では、より高度な分析手法について学習し、経営学におけるデータ分析手法の理解に繋げます。講義では、エクセルに加え、Rというフリーの統計ソフトを用いる予定です。

なお、受講人数によっては、グループワークなどを通して、受講生間でデータ収集・分析に取り組んでもらうかもしれません。

授業の目的

本講義は、実際に調査データの作成・分析をおこなうことで、理論的な理解はもちろん、実践的な知識を得ることを目的としています。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ・様々な分析手法を理解したうえで、調査データの設計・分析ができるようになること(DPの知識・理解，問題解決・課題探求能力に対応)<br>・得られた分析結果から、経営政策を考えられるようになること(DPの知識・理解，問題解決・課題探求能力に対応) | |

成績評価の方法と基準

グループワーク、講義中課題、期末レポートで評価します。

・グループワーク:30%　　・ 講義中課題：30%　　・ 期末レポート：40%

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

第1回　イントロダクション
第2回　調査データ分析Ⅰの復習①
第3回　調査データ分析Ⅰの復習②
第4回　調査データ分析Ⅰの復習③
第5回　定量調査と定性調査
第6回　データの加工①
第7回　データの加工②
第8回　演習
第9回　演習
第10回　演習
第11回　回帰分析①
第12回　回帰分析②
第13回　主成分分析・因子分析
第14回　応用的なトピック
第15回　まとめ

【講義及び学習の方法】

授業は原則、講義形式で進めますが、統計ソフトを用いた演習も取り入れます。
また、受講人数によっては、グループワークも取り入れ、調査データの設計・分析をおこなってもらいます。

【自学自習のアドバイス】

講義ごとに、該当する統計学の内容を復習する。(10時間)
講義ごとに、統計ソフトの使い方を理解し、コードを書けるように復習する。(15時間)
レポートに備え、実務でのデータ分析事例を調べる。(5時間)
グループワークの準備(10時間)
小レポートの作成。(5時間)
期末レポートの作成。(15時間)

教科書・参考書等

【教科書】

特に指定しません。講義資料に基づいて講義を進めていきます。

【参考書】

講義時に指示します。

オフィスアワー　　初回講義時に指示します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義中の私語は厳禁です。

| ナンバリングコード　B3BSN-bdcE-30-Pg2<br>授業科目名　　(時間割コード：320507)<br>商品実験<br>Experiments of Commodities | 科目区分 | 時間割<br>後期火2～3 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bdcE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Pg | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>古川　尚幸 | 関連授業科目 | 環境システム論、資源エネルギー論 | |
| | 履修推奨科目 | 商品システム論 | |

学習時間　　講義180分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要
商品が持つ基本的品質について理解を深めるために、実際に様々な商品を用いて実験を行います。

授業の目的
実験を通じて、身の回りの商品に興味・関心をもつことを目的とします。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ①商品に興味・関心を持つことができる。<br>②商品が持つ基本的品質について理解できる。<br>③商品について、内容を判断し、自分の意見を構築できる。 | |

成績評価の方法と基準
出席状況とレポートの内容で評価します。期末試験は行いません。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】
(1)イントロダクション
(2)食料品の商品実験１
(3)食料品の商品実験２
(4)食料品の商品実験３
(5)食料品の商品実験４
(6)食料品の商品実験５
(7)食料品の商品実験６
(8)商品の原理を考える商品実験１
(9)商品の原理を考える商品実験２
(10)商品の原理を考える商品実験３
(11)商品の原理を考える商品実験４
(12)環境を考える商品実験１
(13)環境を考える商品実験２
(14)環境を考える商品実験３
(15)まとめ

なお、実験内容はサンプルや薬品の入手事情により変更することがあります。

【授業方法】
対面で授業を行いますが、新型コロナウイルスの状況により、変更する場合もあります。

身の回りの商品をサンプルとして実験を行います。

【自学自習のためのアドバイス】
(2)テキストを熟読し、実験内容の理解と実験の手順を確認する。実験後は関連する内容を調べレポートを作成する。（5時間）
(3)テキストを熟読し、実験内容の理解と実験の手順を確認する。実験後は関連する内容を調べレポートを作成する。（5時間）
(4)テキストを熟読し、実験内容の理解と実験の手順を確認する。実験後は関連する内容を調べレポートを作成する。（5時間）
(5)テキストを熟読し、実験内容の理解と実験の手順を確認する。実験後は関連する内容を調べレポートを作成する。（5時間）
(6)テキストを熟読し、実験内容の理解と実験の手順を確認する。実験後は関連する内容を調べレポートを作成する。（5時間）
(7)テキストを熟読し、実験内容の理解と実験の手順を確認する。実験後は関連する内容を調べレポートを作成する。（5時間）
(8)テキストを熟読し、実験内容の理解と実験の手順を確認する。実験後は関連する内容を調べレポートを作成する。（5時間）
(9)テキストを熟読し、実験内容の理解と実験の手順を確認する。実験後は関連する内容を調べレポートを作成する。（5時間）
(10)テキストを熟読し､実験内容の理解と実験の手順を確認する｡実験後は関連する内容を調べレポートを作成する。（5時間）
(11)テキストを熟読し､実験内容の理解と実験の手順を確認する｡実験後は関連する内容を調べレポートを作成する。（5時間）
(12)テキストを熟読し､実験内容の理解と実験の手順を確認する｡実験後は関連する内容を調べレポートを作成する。（5時間）
(13)テキストを熟読し､実験内容の理解と実験の手順を確認する｡実験後は関連する内容を調べレポートを作成する。（5時間）

＊普段から身の回りの商品に興味を持つよう心掛けてください。

教科書・参考書等
教科書は使用しません。
参考書は随時指定します。

オフィスアワー　　金曜日4時限目
経済学部2号館2F古川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
設備等の都合で受講者数を制限します。詳細については、掲示をご覧ください。

# コース専門科目

(観光・地域振興コース　２年次配当)

| ナンバリングコード　B30TH-bacE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：301000)<br>コース概説科目 | 科目区分 | 時間割<br>前期水1 | 対象年次及び学科<br>2～2経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B30TH | DP・提供部局<br>bacE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>山口　尚美 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習と事後学習で計30時間）

授業の概要

経済学部の教育カリキュラムは、経済学を中心として「経済・政策分析」、「会計・ファイナンス」、「経営・イノベーション」、「観光・地域振興」、「グローバル社会経済」の5つのコースから編成されている。

2年次後期からはこの5つのコースのひとつを各自の興味関心・適性・将来の進路に合わせて選択して、各コースが提供するコース専門科目を中心に学修していきながら、各コースが修学案内に掲げている能力を養成していくことになる。

以上を踏まえて、この授業では、各コースとつながりが深い授業科目やコース専門科目を担当する３名の教員がコースを代表して担当する授業科目の内容やその周辺の学問領域などについて紹介する。

授業の目的

経済学部の教育カリキュラムが提供する5つのコースの特色、及び各コースの学問領域において研究対象となる経済・経営・社会・文化に関わる現象や問題のいくつかについて理解する。(学士課程のDP「知識・理解」に対応)

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 経済学部の教育カリキュラムが提供する5つのコースの特色を説明できるようになる。<br>自分自身の興味関心・適性・将来の進路に合わせて、適切なコースを選択できるようになる。 | |

成績評価の方法と基準

レポート（5回以上）を元に成績評価を行う。
出席回数が考慮される可能性もある。
ただし、単位認定のためには、「15回中10回以上の出席を必要」とする。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

第1回　経済・政策分析コース①
第2回　経済・政策分析コース②
第3回　経済・政策分析コース③
第4回　会計・ファイナンスコース①
第5回　会計・ファイナンスコース②
第6回　会計・ファイナンスコース③
第7回　経営・イノベーションコース①
第8回　経営・イノベーションコース②
第9回　経営・イノベーションコース③
第10回　観光・地域振興コース①
第11回　観光・地域振興コース②
第12回　観光・地域振興コース③
第13回　グローバル社会経済コース①
第14回　グローバル社会経済コース②
第15回　グローバル社会経済コース③

＜2021年度　担当教員　2022年度は未定＞（五十音順、敬称略）
経済・政策分析コース：　福村、持田、姚
会計・ファイナンスコース：　井上、長山、宮脇
経営・イノベーションコース：　塩谷、山口、渡邉
観光・地域振興コース：　西成、二ツ山、山崎
グローバル社会経済コース：　園部、髙橋（明）、水野

教科書・参考書等

必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

| ナンバリングコード　B3GE0-bcaE-30-Lg2<br>授業科目名　　(時間割コード：331065)<br>観光経済学<br>Tourism Economics<br>観光の経済学 | 科目区分 | 時間割<br>後期金3 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3GE0 | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lg | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>持田　めぐみ | 関連授業科目 | マクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅰなど | |
| | 履修推奨科目 | マクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅰなど | |

学習時間　　講義・演習90分×15回+自学自習（準備学習、事後学習、提出課題、試験準備等合計して 60時間）

※授業内で実施するグループワークに加え、自学自習についてもグループワークでの課題を含む可能性があります。（感染状況次第）

授業の概要

本授業では、「観光」というテーマを経済学的視点からとらえた場合、どのように理解、解釈することができるのかについて、観光白書、学術ジャーナル等を題材に経済学の立場から読み解いていきます。

授業の目的

『社会科学の女王』と称される「経済学」は、私たちの暮らしを取り巻く様々な現象を分析対象としています。本学部を代表するキーワードの一つ、「観光」もまた例外ではありません。

この授業では、「経済学」がどのような視点で「観光」を捉え、経済学の枠組みではどのように分析を行うことが可能であるか、一緒に考えてみましょう。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ・「観光」をどのような経済活動として捉えることができるか、経済学の専門用語を用いて、正しく説明することができる。<br>・「観光」、「教育」や「労働」など、私たちの身近な生活に関係する事象を経済学の枠組みではどのように捉えて分析しているのか、経済用語を使って説明することができる。 | |

成績評価の方法と基準

「日常点（授業への取り組み、提出課題等）30%＋試験70%」の『総合得点』で評価します。

ただし、試験の点数が50点未満の場合は、この授業内容の理解が不十分ですので、原則、単位は「不可」となります。

他に、宿題、小レポートなどを行い、成績評価の加点材料（＝未提出でも減点なし）として用いる場合もあります。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

第１週　授業のガイダンス
第２～５週　「需要と供給」など経済理論を用いたアプローチ
第６～９週　データや学術雑誌を参照したアプローチ
第１０～１３週　観光による「教育」効果を含めたマクロ経済学的アプローチ
第１４～１５週　授業のまとめ

※受講生の理解度や履修人数によって、上記の計画が変更となる場合もあります。

【授業及び学習の方法】

パワーポイントを用いて講義を行い、適宜グループワークや報告の機会を取り入れます。グループごとに授業時間外に集まって、報告準備と練習を進めてもらう可能性もあります。（グループは、名簿を元に教員が指定します。）

周囲への影響を考慮し、授業内での電子機器の使用は、禁止しています。
ノート・レジュメへの書き込みは手書きでしてください。

この科目は、基本的には「対面」方式で実施予定です。
ただし、感染状況や大学の方針によっては、「遠隔」で実施する回もあります。

教科書・参考書等

指定なし。参考図書は、授業中にお知らせします。

| |
|---|
| オフィスアワー　　初回の授業で周知します |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ<br>※単位取得のためには、全授業の2/3以上の出席が必要です。出席は、毎回ムードルへのアンケート回答で把握する予定です。忘れずに回答してください。<br><br>※授業内で、受講生全員の学籍番号+氏名の一覧表を回覧する可能性があります。（写真撮影は禁止）<br><br>※静粛な環境を保つため、授業中の私語、緊急時以外の出入りなど周囲の受講生の迷惑になる行為は禁止します。同様の理由から、公欠理由以外での遅刻入室は認めません。遅刻して入室したい場合は、次週の授業時に公欠届を提出して下さい。受講マナーが守れない場合は、単位を認定しません。<br><br>※キーボードによる周囲への騒音と授業環境への影響から､授業中のＰＣ･スマートフォンなど電子機器類の使用は、一切認めません。投影したスライドや板書の撮影も禁止します。（個別に対応が必要な場合は、大学を通して申し出て下さい。） |

| ナンバリングコード　B3GE0-bceE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：331040)<br>観光地理学<br>Geography of Tourism | 科目区分 | 時間割<br>前期火4 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3GE0 | DP・提供部局<br>bceE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>西成　典久，矢ヶ﨑　大洋 | 関連授業科目　地域研究論 | | |
| | 履修推奨科目　観光・地域振興関連科目 | | |

学習時間　　講義９０分×１５回+自学自習（準備学習１５時間+事後学習４５時間）

授業の概要

観光地理学は地域における観光現象や観光産業を対象とする分野である。観光は観光客が地域から観光資源を見出すことで発生する現象であり、その観光客を受け入れることで観光地域は成立する。つまり、観光を論じる上で観光地域と観光客との関係性を理解することが重要な視点である。本授業では、観光の基礎論（１～５回)、観光地域（６～１１回)、様々なツーリズム（１０～１４回）の３津のトピックについて学ぶ。観光の基礎論のトピックでは、観光地域の発展モデルや観光のまなざしなど基本的な諸理論を学ぶ。観光地域のトピックでは、観光産業の成立によって発展した地域の事例から、その仕組みと影響を学ぶ。様々なツーリズムのトピックでは、観光客が地域から観光資源を見出し消費する事例から、その仕組みと影響を学ぶ。これらのトピックを通じて、観光地理学の視点や事象を理解する。

授業の目的

観光は現代では比較的新しい現象や産業であるとともに、人間社会の文化や流行に左右される不安定な現象でもある。本授業を通して、観光現象の特徴、観光地理学の視点、観光地域や産業の課題を紐解く力を身に着けることを目標とする。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １．観光地理学の概念や関係する理論を説明できる。<br>２．観光に関係する人間社会の活動や産業を説明できる。<br>３．観光地や観光産業が抱える課題の背景を見抜く力を身に着ける。 | |

成績評価の方法と基準

平常点（授業内小テスト）３０％

中間・期末レポート７０％

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

本授業は原則としてオンライン形式で実施する。

１．ガイダンス：授業の進め方と評価の説明
２．観光とツーリズムの定義と理論：観光とツーリズムの違いや理論について学ぶ。
３．観光の発展と成立の歴史：現代の新しい産業である観光産業の発展史を学ぶ。
４．観光客の移動と行動：人々の他地域への認知や移動について学ぶ。
５．観光公害とオーバーツーリズム：観光地域における負の事象や保全活動について学ぶ。
６．観光地域の開発の政策：観光地域の開発や発展の方向を決める計画について学ぶ。
７．温泉観光地域：温泉資源を活用する観光地域の事例を学ぶ。
８．農村観光地域：農村における農作物や景観の資源を活用する観光地域の事例を学ぶ。
９．山岳・高原観光地域：冷涼な高原や氷雪の資源を活用する観光地域の事例を学ぶ。
１０．海岸観光地域：海水浴や保養地などの資源を活用する観光地域の事例を学ぶ。
１１．都市観光地域：都市の文化や歴史の資源を活用する観光地域の事例を学ぶ。
１２．コンテンツツーリズム：アニメや映画などコンテンツを題材にしたツーリズムを学ぶ。
１３．ダークツーリズム：負の事象を題材にしたツーリズムについて学ぶ。
１４．災害ツーリズム：災害の記憶や防災の知識を学ぶツーリズムについて学ぶ。
１５．授業の総括：授業を総括し、最終レポートを提示する。

【自学自習について】

本事業はオンラインで実施するため、中間レポートや期末レポートをより重視する。そのため、自学自習に積極的に取り組むこと。

＜準備学習＞

各回の準備学習は、シラバスに掲載された語句について調べ、自分なりに知識を学ぶことを基本とする。特に、一度訪れたことのある場所の事例を参照すると良い。(事前学習１時間×１５回＝１５時間)

＜事後学習＞

各回の事後学習については、授業で扱った概念や知識を復習するとともに、同じ枠組みで理解することのできる事例を探すと良い。また、中間レポートや期末レポートを課した際に、インターネットだけでなく、図書館を利用して情報を収集すること。(事後学習１時間×１５回+レポート課題１０時間×３回＝４５時間)

教科書・参考書等　　なし

| |
|---|
| オフィスアワー　　非常勤講師のためメールでの対応のみ。taiyo.yagasaki@gmail.com |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ<br>本授業はオンラインで実施されるため、良好な回線と室内環境を確保すること。また、オンライン授業といえ、しっかりとした態度で受講すること。 |

| ナンバリングコード　B3GE0-ecbE-30-Lf2<br>授業科目名　　(時間割コード：331076)<br>エコツーリズム論<br>Eco-Tourism | 科目区分 | 時間割<br>後期水2 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3GE0 | DP・提供部局<br>ecbE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lf | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>原　直行 | 関連授業科目 | 地域活性化論 | |
| | 履修推奨科目 | 地域活性化論 | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習22時間 + 事後学習38時間）

授業の概要
エコツーリズムやエコツアー（インタープリテーション）について、教室での学修とフィールドで実践的に学ぶ講義である。授業では特に瀬戸内海に注目して講義を行う。

授業の目的
エコツーリズム、インタープリテーションについての知識を習得する。
観光資源としての瀬戸内海についての知識を習得する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| エコツーリズム、インタープリテーションについての知識を習得できる。<br>観光資源としての瀬戸内海についての知識を習得できる。 | |

成績評価の方法と基準
①講義への参加、出席課題、フィールドワークへの参加
②レポートの提出（作成に20時間はかかると思ってほしい）
③期末テスト
（新型コロナ感染症の影響により変更になる可能性がある）

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

第１回　エコツーリズムとは
第２回　インタープリテーション
第３回　里海と瀬戸内海①
第４回　フィールドワーク
第５回　里海と瀬戸内海②
第６回　里海と瀬戸内海③
第７回　フィールドワーク
第８回　里海と瀬戸内海④
第９回　里海と瀬戸内海⑤
第10回　瀬戸内海と讃岐ジオパーク構想
第11回　瀬戸内海の環境問題（OceansX）
第12回　グリーンツーリズムと農泊
第13回　レポート講評、SDGsと観光
第14回　ゲストスピーカーによる講演予定
第15回　グリーンツーリズムの淵源
※この授業は対面とオンデマンドで行う。なお、状況によっては授業形態を一部遠隔へ変更する可能性がある。
※フィールドワークは実地で行う予定である。
※講義の順番や内容は進捗状況やコロナの影響等で変更の可能性がある。

自学自習は授業の前後に適宜指示する。
第１回～第15回の授業の復習（30時間）
レポート作成（20時間）
期末試験の準備（10時間）※復習を毎回しっかり行っておけば期末試験の勉強は10時間程度で問題ない。

教科書・参考書等
とくになし。参考文献は講義時に適宜紹介する。

オフィスアワー　　水曜１限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
エコツアー、自然、瀬戸内海、観光ガイドなどに興味のある受講生を希望する。

| ナンバリングコード　B3BSN-bcdE-30-Lb2<br>授業科目名　　(時間割コード：322200)<br>マーケティング論Ｂ<br>Marketing B | 科目区分 | 時間割<br>後期月3 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lb | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>藤村　和宏 | 関連授業科目　観光および経営関連科目 | | |
| | 履修推奨科目　マーケティング論A | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

マーケティングとは、同一の消費者ニーズをターゲットとする競争組織や地域に対抗すると同時に、様々な利害関係者の利益も考慮しながら、組織（営利あるいは非営利）が消費者との間で両者が満足できるような長期的な交換（取引）関係を形成・維持するための市場活動である。このことから、マーケティングの展開においては、消費者（顧客）の満足向上だけでなく、様々な利害関係者の満足向上も図りながら、競争優位を形成・維持することが求められる。なお、顧客満足の向上および競争優位の形成においては顧客価値が重要な役割を果たすことから、価値づくりを中心に４Ｐｓ（Product, Price, Promotion, Place）について、学生が主体的に行うケース発表および討議によって考察を行なう。

また、従来のマーケティングの対象は有形財（モノ）であったが、経済のサービス化とともに、営利および非営利サービスが経済において重要な役割を経たすようになっており、且つ競争も激化していることから、サービスもマーケティングの重要な対象となっている。そこで本講義では、有形財（モノ）との比較で、サービス・マーケティングの特質についても考察を行なう予定である。なお、観光もサービスであることから、マーケティングの視点から観光地の顧客満足戦略や競争戦略の構築についても考察を行う、

授業の目的

モノやサービス（観光）のマーケティングの具体的戦略（マーケティング・ミックス）に関する専門的知識を習得するとともに、マーケティングに関する問題を自ら発見し解決できる能力を身につけるための基礎を養う。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １．新聞や専門誌のマーケティング戦略に関する記事を理解できる。<br>２．市場で展開されているマーケティングに関心を持ち、具体的な活動から企業の意図や目標を解釈・説明できる。 | |

成績評価の方法と基準

ケース発表とケース・レポート作成、期末試験、e-ラーニング、および講義への参加度などにより評価し（100点＋α）、60点以上を合格とする。なお、単位認定方法としてはＡタイプとＢタイプを設定しているので、どちらかを選択することになる。

Ａタイプはケース発表を行い、それをケース・レポートとして作成するものであり（期末試験なし）、Ｂタイプはケース発表等は行わず、期末試験を受けるものである。

e-ラーニングは自習学習を促すために設けており、３科目を受講を課している（10点×3科目）

講義への参加度とは、学生が行うケース発表に対する質問とケース発表に対する評価への参加の程度である。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

学生によるケース発表と質疑応答を中心に、パワーポイント、ビデオ、プリントを使用しながら口述筆記で行なう。講義資料については、必要に応じて各自で藤村研究室のホームページからダウンロードしてして下さい。なお、ダウンロードに必要なパスワード等は第1回目の講義で提示します。

第１回　　マーケティングの基礎概念
第２回～５回　　製品戦略
第６回～９回　　価格戦略　＋　ケース発表と討議
第10回～13回　プロモーション戦略　＋　ケース発表と討議
第14回～15回　流通戦略　＋　ケース発表と討議

【授業及び学習の方法】

この科目は、全回対面方式で講義を行います。ただし、状況によっては、遠隔方式に変更する可能性もあります。その場合、ケース発表を行う学生の方には教室に集まってもらって発表を行ってもらい、その他の学生の方には遠隔方式で質疑に参加してもらうことになります。

【自学自習についてのアドバイス】
第２回～１５回　　４つの戦略に関する配布資料を読む。(それぞれ3時間時間)
第６回～第15回　発表ケースに関する資料を収集し、討議内容を考える。(それぞれ1時間)
３つの戦略（製品戦略・価格戦略・プロモーション戦略）に関するe-ラーニングを自習学習として行う。(8時間)

教科書・参考書等
教科書は使用せず、講義用資料を配布する。なお、資料は藤村研究室のHPから各自でダウンロードして下さい。

【参考】
青木幸弘編、『ケースで学ぶマーケティング』、有斐閣、2015年。
青木幸弘・恩蔵直人編、『製品・ブランド戦略』、有斐閣、2004年。
藤村和宏著、『「便益遅延性」が顧客満足・顧客参加に及ぼす影響 –医療サービスにおける消費とマーケティングのあり方を考える』、千倉書房、2020年。
藤村和宏著、『医療サービスと顧客満足』、医療文化社、2009年。

オフィスアワー　　月曜日の10時～12時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
講義中および講義後の質問を歓迎します。もし対面での質問が嫌な場合は、用紙に記入し、講義後に提出して下さい。口頭あるいは用紙で出された重要な質問については、次の講義時間の最初に回答します。
１０分以上遅れた場合、講義の妨げになるので、入室を禁止します。
また、講義中の会話や携帯電話は禁止します。注意を３度受けた学生は成績評価の対象から除外します。

| ナンバリングコード　B3BSN-bdcE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：320124)<br>環境システム論<br>Introduction to Environmental Problem | 科目区分 | 時間割<br>後期木3 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bdcE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>古川　尚幸 | 関連授業科目　　商品システム論、商品実験 | | |
| | 履修推奨科目　　資源エネルギー論 | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

現代社会の大きな流れのひとつとして、地球環境に負荷を与えない、循環型社会システムの構築が模索されています。産業構造に目を転じてみても、このような環境への関心の高まりや、それに伴う社会的ニーズを背景として、環境ビジネスという産業が生まれ、その市場は大きく成長しようとしています。この授業では、これからの循環型社会システムを理解するために必要な基礎知識の修得を目的とし、様々な地球環境問題、廃棄物問題、リサイクル問題について、その基礎から最新のトピックスまでを解説する予定です。

授業の目的

企業経営や市民生活と環境問題の関わりについて、基礎的な知識を習得することを目的とします。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ①企業経営と環境問題の関わりについて説明できる。<br>②市民生活と環境問題の関わりについて説明できる。<br>③習得した基礎知識をもとに、刻々と変化する環境問題について、内容を判断し、自分の意見を構築できる。<br><br>１つの目安として、資源エネルギー論とあわせて履修することで、環境社会検定試験（東京商工会議所主催）に合格する程度の基礎知識の修得を目標とします。 | |

成績評価の方法と基準

以下の２つのうち、いずれか各受講生の希望により、成績評価の方法を選択できます。
（1）期末テスト（100点）により認定します。
（2）期末テスト（50点）および環境社会検定試験（50点）により認定します。

すでに環境社会検定試験に合格している者、または2022年度後期までに合格した者に50点を与えます。

なお、確認テストは出席状況の把握や授業内容の理解度を確認するために行うので、その結果は単位認定に影響しません。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】
(1)イントロダクション
(2)地球温暖化の現状
(3)地球温暖化に対する取り組み　1
(4)地球温暖化に対する取り組み　2
(5)オゾン層破壊
(6)その他の環境問題　1
(7)その他の環境問題　2
(8)廃棄物問題の現状
(9)リサイクルの現状
(10)リサイクル法　1
(11)リサイクル法　2
(12)環境問題に対する消費者の取り組み
(13)環境問題に対する企業の取り組み
(14)ゲストスピーカーによる講演
(15)まとめ
(16)期末試験

【授業方法】
対面で授業を行いますが、新型コロナウイルスの状況により、変更する場合もあります。

プリントを配付し、それらを中心に授業を行います。授業ごとに穴埋め形式の確認テストを行います。この確認テストは前回の授業内容から重要なキーワードについて出題します。

【自学自習のためのアドバイス】
(2)地球温暖化について、参考書の関連箇所を読む。 (4時間)
(3)地球温暖化について、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。 (5時間)
(4)地球温暖化について、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。 (6時間)
(5)オゾン層破壊について、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。 (5時間)
(6)その他の環境問題について、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。(5時間)
(7)その他の環境問題について、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。(6時間)
(8)廃棄物問題について、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。 (5時間)
(9)リサイクルについて、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。 (5時間)
(10)リサイクル法について、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。 (5時間)
(11)リサイクル法について、確認テストの復習。参考書の関連箇所を読む。HPなどで情報を集める。 (6時間)
(12)環境問題に対する消費者の取り組みについて、確認テストの復習。HPなどで情報を集める。 (4時間)
(13)環境問題に対する企業の取り組みについて、確認テストの復習。HPなどで情報を集める。 (4時間)

＊新聞やテレビ等を積極的に利用し、普段から環境問題やエネルギー問題に興味を持つよう心掛けてください。

教科書・参考書等
教科書：
使用しません

参考書：自学自習のために使います。定期試験の出題範囲に含みます。
村上芽・渡辺珠子『SDGs入門』（日本経済新聞出版社、2019年、900円＋税）
三橋規宏『環境経済入門』（日本経済新聞出版社、2013年、1000円＋税）
足達英一郎『環境経営入門』（日本経済新聞出版社、2009年、860円＋税）

オフィスアワー　　金曜日3時限目
経済学部2号館2F古川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
特にありません。環境社会検定試験の詳細については、東京商工会議所HPを参照してください。

| ナンバリングコード　B3GE0-ecbE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：332170)<br>地域研究論<br>Research Strategies in Human Geography | 科目区分 | 時間割<br>後期火1 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3GE0 | DP・提供部局<br>ecbE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>西成　典久，髙橋　昂輝 | 関連授業科目 | 観光地理学，地理学（全学共通） | |
| | 履修推奨科目 | 観光地理学，地理学（全学共通） | |

学習時間　　講義90分×15回 ＋ 自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

本授業では，地域に関する研究を遂行するにあたり，必要となる様々な概念，方法論などについて，主に人文地理学の枠組みに基づいて講義する。授業計画の前半部において，学史，地域概念，理論などについての基礎的な内容を解説する。後半部では，都市地域と島嶼地域を対象に，複数のテーマを設定し，事例とともに分析やアプローチの方法を紹介する。

授業の目的

本授業の目的は，地域を対象とした研究をおこなうにあたり，必要不可欠な基礎知識を修得し，そのうえで，対象の地域やテーマに対応した適切な分析・アプローチの方法を理解することである（DP：地域理解，知識・理解に対応）。また，授業の最終的なゴールは，地域を対象とした研究の計画を受講者自らが設計できるようになることである（DP：問題解決・課題探求能力に対応）。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| １．地域に関する学問の歴史や系譜を理解し，説明できる。<br>２．地域に関する諸概念を理解し，説明できる。<br>３．地域に関する様々な分析・アプローチの方法を理解し，説明できる。<br>４．地域に関する研究計画を適切に設計できる。 | |

成績評価の方法と基準

平常点：20%，課題：30%，期末レポート（4,000字以上）：50%

※ 但し，全授業実施回数の２/３以上の出席を単位取得の要件とする。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

▷ はじめに
- 第１回　導入
- 第２回　地域を対象とした研究の手順
- 第３回　地図・スケール・地域概念

▷ 基本の理論と分析ツール
- 第４回　環境決定論と環境可能論
- 第５回　農業立地論と工業立地論
- 第６回　中心地理論と都市構造モデル
- 第７回　時間地理学
- 第８回　メンタルマップ

▷ 都市地域へのアプローチ
- 第９回　都市計画の基本制度
- 第10回　都市開発と社会運動
- 第11回　都市の街区政策と移民街

▷ 島嶼地域へのアプローチ
- 第12回　米軍基地を巡る政治と文化
- 第13回　風土病の流行と集落の存廃
- 第14回　限界集落論とIターン移住者

▷ おわりに
- 第15回　総括

※ この授業は，全回遠隔形式で実施される。

※ 授業の内容と順番は，一部変更される場合がある。

【授業内の学習方法】

・授業には地図帳（中学・高校で使用したもので可）を持参し，説明にあがる国・地域・都市，河川・山脈などの位置をその都度確認する。

・板書やスライドの内容のみならず，口頭で説明される内容にも注意を払い，ノートをとる。

【自学自習】

・文献を読み，その内容をまとめる（Moodleを通じ，毎週文献課題を出す）。

・新聞・テレビ・インターネット等で，国内外のニュースを読むまたは見る。

教科書・参考書等
■ 教科書
地図帳（中学校・高校で使用したもので可）を使用する。
適宜プリントを配布する。
■ 参考書
野間春雄ほか編著（2017）『ジオ・パルNEO ―地理学・地域調査便利帖―（第２版）』海青社．2,700円（税込）．
村山祐司編著（2003）『シリーズ人文地理学２：地域研究』朝倉書店．3,800円＋税．
矢ケ﨑典隆ほか編著（2020）『地誌学概論（第２版）』朝倉書店．3,400円＋税．

オフィスアワー　　毎回，授業後に質問を受け付けます。
必要に応じて，EメールまたはZoomでも対応します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
この授業では多くの課題が出される。この点を十分に理解したうえ，受講すること。

| ナンバリングコード　B4GE0-ceaE-30-Lf2<br>授業科目名　　(時間割コード：333220)<br>地域活性化プロジェクトⅠ（原）<br>Project on Regional VitalizationⅠ<br>Project on Regional Vitalization Ⅰ | 科目区分 | 時間割<br>後期土2 | 対象年次及び学科<br>2～2経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B4GE0 | DP・提供部局<br>ceaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lf | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>原　直行 | 関連授業科目 | 瀬戸内地域活性化プロジェクト | |
| | 履修推奨科目 | 瀬戸内地域活性化プロジェクト | |

学習時間　　授業90分×5回程度＋フィールドワーク（30時間以上）＋自学自習（準備学習32時間 + 事後学習28時間）

授業の概要

自治体・企業等と連携し、各地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。

授業の目的

授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち自信をもって社会に出ることができる。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| 1.地域の課題解決に参画し、実際に地域に貢献できる。<br>2.地域の課題解決に参画することにより、課題探求・解決力が身につく。<br>3.地域の課題解決に参画することにより、能動的な学習をもたらす主体的な学びができる。 | |

成績評価の方法と基準

授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度（積極性など）・参加内容（取組内容）、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

本授業は登録は後期であるが、年間を通して活動する。
したがって、以下の１５回分の構成は目安程度として考えてもらいたい。
１．プロジェクト対象地域についての学修①
２．プロジェクト対象地域についての学修②
３．フィールドワーク①
４．フィールドワーク②
５．フィールドワーク③
６．フィールドワーク④
７．フィールドワーク⑤
８．進捗状況の報告
９．フィールドワーク⑥
１０．フィールドワーク⑦
１１．フィールドワーク⑧
１２．フィールドワーク⑨
１３．フィールドワーク⑩
１４．活動報告会のための学修
１５．活動報告会
※この授業は基本的に対面で行う。なお、状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。

自学自習について
１～２回　地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。(8時間)
３～７回　フィールド地域の事前学習と調査後の資料整理を行う。(20時間)
８回　　発表の準備を行う。(4時間)
９～13回　フィールド地域の事前学習と調査後の資料整理を行う。(20時間)
14～15回　発表の準備を行う。(8時間)

教科書・参考書等

とくになし

オフィスアワー　　木曜２限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

原則として瀬戸内地域活性化プロジェクトや、担当教員と１年次から地域活動を行ってきた学生のみ受講できる。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　（時間割コード：3332201）<br>地域活性化プロジェクトⅠ（古川）<br>Project on Regional VitalizationⅠ | 科目区分 | 時間割<br>後期土2 | 対象年次及び学科<br>2～2経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>cadE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lf | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>古川　尚幸 | 関連授業科目 | 地域活性化プロジェクトⅡ、<br>地域活性化プロジェクトⅢ | |
| | 履修推奨科目 | 地域活性化プロジェクトⅡ、<br>地域活性化プロジェクトⅢ | |

学習時間　　授業90分×5回程度＋フィールドワーク（45時間以上）＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

この授業では、地域活性化に取り組む現場に実際に出向き、地元住民との交流を通じて、その地域に適した地域活性化のあり方について考えていきます。
受講者は、既存の学生プロジェクトまたは新規の学生プロジェクト（自分または自分たちで新たに立ち上げる）に属するものとし、地域でのプロジェクト活動を通じて、その地域の活性化について考えます。

授業の目的

①フィールドワークを通じて、積極性と協調性を身につける。
②フィールドワークを通じて、コミュニケーション能力を身につける。
③フィールドワークを通じて、プレゼンテーション能力を身につける。
④フィールドワークを通じて、問題の発見と分析、および解決のプロセスを身につける。
⑤フィールドワークを通じて、地域活性化の現状と課題について、自分の考えをまとめる。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| ①仲間と協力して積極的に活動できる。<br>②地域の人たちや仲間と円滑にコミュニケーションできる。<br>③地域の人たちや仲間の前でプレゼンテーションできる。<br>④自ら問題を発見し、その解決方法を考えることができる。<br>⑤地域活性化の現状と課題についてについて、自分の考えを述べることができる。 | |

成績評価の方法と基準

期末テストおよび小テストは行いません。活動に対する取り組み姿勢（積極性）や出席状況により、総合的に単位を認定します。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

本授業は、プロジェクト型の授業であり、登録は後期であるが、1年間を通して地域で活動する。
したがって、以下の15回分の構成は、半期の目安程度として考えてもらいたい。

【授業計画】
第01回：授業のガイダンスおよびグループ分け
第02回：フィールドについて事前調査および報告
第03～04回：第1回フィールドでの活動（於：担当するプロジェクト）
第05回：第1回フィールドでの活動報告
第06～07回：第2回フィールドでの活動（於：担当するプロジェクト）
第08回：第2回フィールドでの活動報告
第09～10回：第3回フィールドでの活動（於：担当するプロジェクト）
第11回：第3回フィールドでの活動報告
第12～13回：第4回フィールドでの活動（於：担当するプロジェクト）
第14回：第4回フィールドでの活動報告
第15回：まとめ

【授業方法】

対面で授業を行いますが、新型コロナウイルスの状況により、変更する場合もあります。
フィールドワークを行います。フィールドワークを行うたびに、大学内で活動報告を行います。

【自学自習のためのアドバイス】

(1)次回の活動に向けて、地域の情報収集と整理。 (3.5時間)
(2)次回の活動に向けて、地域の情報収集と整理。 (3.5時間)
(3)フィールドでの活動とその結果の報告。 (4時間)
(4)フィールドでの活動とその結果の報告。 (4時間)
(5)次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。 (5時間)
(6)フィールドでの活動とその結果の報告。 (4時間)
(7)フィールドでの活動とその結果の報告。 (4時間)
(8)次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。 (5時間)
(9)フィールドでの活動とその結果の報告。 (4時間)
(10)フィールドでの活動とその結果の報告。 (4時間)
(11)次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。 (5時間)
(12)フィールドでの活動とその結果の報告。 (4時間)
(13)フィールドでの活動とその結果の報告。 (4時間)
(14)これまでのフィールドでの活動結果をもとに報告資料の作成 (6時間)
(15)これまでのフィールドでの活動結果をもとに報告資料の作成 (6時間)

＊普段から地域の情報やニュースに興味を持つよう心掛けてください。

教科書・参考書等
特にありません。

オフィスアワー　　金曜日3時間目
経済学部2号館2F古川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
積極的な授業態度を求めます。
この科目を履修する場合は、事前に古川まで連絡してください。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　（時間割コード：3332202）<br>地域活性化プロジェクトⅠ（西成）<br>Project on Regional VitalizationⅠ<br>Project on Regional Vitalization Ⅰ | 科目区分 | 時間割<br>後期土2 | 対象年次及び学科<br>2～2経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>ceaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Ep | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>西成　典久 | 関連授業科目 | まちづくり論、地域をデザインする思考と実践 | |
| | 履修推奨科目 | 観光・地域振興コース関連科目 | |

学習時間　　フィールドワーク（45時間以上）＋自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

自治体や地域等と連携し、各地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の講義です。
教員から指導を受けて受動的に取り組むのではなく、教員を含めた他者との対話を通じて、自分自身が主体的に取り組めるプロジェクト活動となることが最も重要だと考えています。
既存のプロジェクトのみならず、新規に取り組みたいプロジェクトも歓迎します。

授業の目的

講義等によるインプットのみではなく、活動を通じた社会へのアウトプットが必要であり、実践を通じたアウトプットとインプットの往復が、真に使える能力を高め、地域や社会に価値を生み出せる人財になれると考えています。
本講義では、以下の到達目標の達成を通じて、地域の課題解決に貢献できるマインドと実践力を身につけた人財となることが目的です。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| 1. いま地域で何が求められているか、地域の現状を把握し課題を発見することができる<br>2. 地域の課題解決に向けて、原因を分析し、解決策に向けた提案をすることができる<br>3. 能動的な調査活動を通じて、他者と協力する社会的スキルを磨くことができる | |

成績評価の方法と基準

プロジェクト活動への参加態度（積極性など）・参加内容（取り組み内容）により総合的に判断します。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

本講義の履修登録は後期であるが、年間を通して活動します。
したがって、以下の１５回分の構成は目安程度として考えてください。
１．プロジェクトガイダンス
２．フィールドワーク①
３．フィールドワーク②
４．フィールドワーク③
５．フィールドワーク④
６．活動報告&全体シェア
７．フィールドワーク⑤
８．フィールドワーク⑥
９．フィールドワーク⑦
１０．フィールドワーク⑧
１１．活動報告&全体シェア
１２．フィールドワーク⑨
１３．フィールドワーク⑩
１４．活動報告&全体シェア
１５．活動内容のまとめと振り返り

この科目は基本的に対面講義を想定してます。
状況によっては授業形態を一部遠隔に変更する可能性があります。

自学自習について
期間中、地域活性化やまちづくりに関する資料収集や事例研究を自主的に取り組んでください。
また、プロジェクト活動を通じたチーム運営上の課題点について、解決に向けた取り組みを各自もしくはチーム全体で自主的に取り組んでください。
（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

教科書・参考書等　適宜紹介する

オフィスアワー　　木曜日3時限目　南3号館3階西成研究室にて（その他、随時受け付けます）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

プロジェクト活動は2年生前期から着手予定です。
関心ある学生は学部専門科目「まちづくり論」を受講することを推奨します。
また、新たに自分で立ち上げたいプロジェクトなどがある場合には相談にのります。
詳しくは担当教員（西成）まで問合せください。
※他学部学生の履修についても事前に担当教員まで連絡をお願いします。

# コース専門科目

(観光・地域振興コース　３年次配当)

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：331061)<br>観光政策論<br>Tourism Policy | 科目区分 | 時間割<br>前期金2 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>山崎　隆之 | 関連授業科目 | 観光産業論、国際観光論、まちづくり論、地域活性化論 | |
| | 履修推奨科目 | 観光学概論 | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

観光は、観光客が訪れる地域の個性や魅力を動機として実施され、民間事業者などが観光客を受け入れる様々な業務を推進している。そして、その背後には国や地方自治体が観光の推進するための政策が存在し、それが地域における方針や事業となって観光の発展を牽引したり、制限したりしている。
この講義では、こうした観光の土台となる「観光政策」について、「観光立国」を掲げて「観光政策」を重要政策と位置づける日本政府の「観光政策」を中心に、個別の具体的施策のほか、その方針、政策策定の背景や経緯などについても解説する。

また、講義で取り上げた施策について論じるレポート課題を課す。講義内ではこのような「自らの考えを論じるレポート」の書き方をアドバイスする回を設け、既存の知識をなぞるだけにとどまらない『より深い理解』を促す。

授業の目的

国というマクロな視点から観光の現状や発展の方向性を理解【b】するとともに、観光政策が観光地や観光業にどのように影響を与えているかを理解【c】する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １．わが国の現在の観光政策や制度、具体的な施策について説明できる。<br>２．行政の公表する情報にアクセスし、政策を理解できる。<br>３．国や地方自治体の観光政策・施策に対する自らの意見を論じることができる。 | |

成績評価の方法と基準

4回のレポート課題（各25%）の総合評価とする。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【注意】この授業は「観光学概論」を履修済みであることを前提にすすめる。「観光学概論」未履修の学生は、まず「観光学概論」を履修後に「観光政策論」を履修することを推奨する。

(1) 政策とは何か
(2)「明日の日本を支える観光ビジョン」視点1：観光資源①
(3)「明日の日本を支える観光ビジョン」視点1：観光資源②
(4)「明日の日本を支える観光ビジョン」視点1：観光資源③
(5) 自らの考えを論じるレポートの書き方①
(6)「明日の日本を支える観光ビジョン」視点2：観光産業①
(7)「明日の日本を支える観光ビジョン」視点2：観光産業②
(8)「明日の日本を支える観光ビジョン」視点2：観光産業③
(9) 自らの考えを論じるレポートの書き方②
(10)「明日の日本を支える観光ビジョン」視点3：滞在環境①
(11)「明日の日本を支える観光ビジョン」視点3：滞在環境②
(12)「明日の日本を支える観光ビジョン」視点3：滞在環境③
(13) 自らの考えを論じるレポートの書き方③
(14) わが国の観光政策にみられる特徴の整理
(15) これからの観光政策の方向性

【授業外での学び（自学自習）】
授業の中で観光に関する様々な政策・事業などを紹介します。興味を持ったものについて、インターネットや新聞・雑誌、書籍などで、事業の事例や政策に対する意見・評価などについて調べてみてください。

【授業形態】
この科目は全回対面授業を行う予定ですが、状況によって全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。いずれの場合でも、講義や課題は同じ内容のもので変更ありません。

教科書・参考書等
教科書：特になし。適宜授業内で資料等を配布します。
参考書：
寺前秀一編著『観光政策論』原書房、2009年。
盛山正仁著『観光政策と観光立国推進基本法 第3版』ぎょうせい、2012年

オフィスアワー　　授業終了後に対応します。
山崎研究室（南3号館3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
・授業計画は進捗状況により、変更になる場合があります。変更については授業内で適宜連絡します。
・授業に参加する意思がない態度や、授業の進行の妨げになる行動をとる学生については退室を指示し、態度が改められない場合は単位の取得を認めない。

| ナンバリングコード　B3GEO-bceE-30-Lg2<br>授業科目名　　(時間割コード：331140)<br>国際観光論<br>International Tourism<br>国際観光論 | 科目区分 | 時間割<br>前期金3 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3GEO | DP・提供部局<br>bceE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lg | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>二ツ山　達朗 | 関連授業科目 | 観光学概論　観光産業論 | |
| | 履修推奨科目 | 観光産業論 | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

本授業では、国際観光の諸相とその課題について考え、様々なバックグラウンドを持つ訪日観光客についての理解を深化させることを目指します。
具体的には、近年の日本におけるインバウンド増加とその背景・課題について、観光社会学や観光人類学の理論を参照して考察するとともに、その課題を克服するためにどのような方策があるかを考えていきます。

昨年度は「授業計画並びに授業及び学習の方法」に記載の通り、新型コロナウイルス影響下における観光の課題、オンラインツアーの現状と課題、オリンピックや大阪万国博覧会での課題、オリエンタリズムと「まなざし」についての問題、ゲストとホストの関係についての問題、宗教的な背景を有する観光者の問題、観光と言語の問題、観光におけるトイレ問題、K-POPと国際観光、プレミアリーグのスポーツツーリズムなどを事例としました。今年度もそれらを考えていますがどのような事例を通して国際観光についての理解を深めるかは、受講生との対話によります。

授業は原則的に講義形式としますが、受講人数によってはワークショップなどのアクティブラーニングを取り入れ、異文化理解の体験的理解を行う場合があります。

授業の目的

観光産業の諸相について基礎的な事項を幅広く学ぶことで､各産業と観光現象の関係について多角的な知識を身に付け、理解を深めること目指します（DPの「知識・理解」に対応)。
これらの知識・理解を用いて、地域の観光産業についての問題解決・課題探求能力を養うことを目的とします（DPの「地域理解」に対応)。
国際観光の課題と、それを克服するための異文化理解について、考察を深化させることを授業の目的とします（DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １、国際観光の進展が及ぼす国や地域社会への影響を理解し説明することができる。<br>２、国際観光における課題を理解し、その解決に向けた考察を行い、説明することができる。<br>３、国際観光における諸所の事例を多角的に考察し説明することができる。 | |

成績評価の方法と基準

リアクションペーパー、期末レポートで評価します。
リアクションペーパーの内容：50%
期末レポート：50%（期末レポートはポンチ絵や動画作成などに変える可能性もあります。講義中に学生と相談の上決定します)

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

(1)オリエンテーション（講師の紹介、授業の進め方、ルール、成績評価についての説明）／国際観光の現状について概観します。
(2)わが国の国際観光動向と訪日外国人旅行者の実態について理解を深めます。
(3)訪日外国人旅行者の満足度調査の結果から、その特徴と課題について理解を深めます。
(4)食文化のハイブリッド性とフードツーリズムについて理解を深めます。
(5)「まなざし」によってつくられた地域性と伝統について理解を深めます。
(6)「まなざし」がつくるオリエンタリズムとポストコロニアリズムについて理解を深めます。
(7)宗教禁忌・食の禁忌とツーリズムについてムスリムを事例に理解を深めます。
(8)ワークショップを通じた異文化体験（対面が可能であれば)
(9)ワークショップの振り返り／恋愛から考えるツーリズムについて理解を深めます。
(10)観光における言語の問題とMICEによる誘致合戦について理解を深めます。
(11)国際観光におけるトイレをめぐる問題について理解を深めます。
(12)K-POPを事例に、ライブイベントとツーリズムについて理解を深めます。
(13)新型コロナウイルスの影響下におけるインバウンドの現状とその課題､オンラインツアーについて理解を深めます。
(14)ホストとゲスト：観光における相互関係の認識について理解を深めます。
(15)まとめ：これまでの振り返りと補足、レポートについて

【自学自習のためのアドバイス】
(1) これまで履修した観光関連科目の内容を復習してくること（4時間）
(2) 授業中のクイズに備えインバウンドについての概要を調べてくること（4時間）
(3) 訪日外国人旅行者満足度調査の結果を読み解き、その課題について考察してくること（4時間）
(4) フードツーリズムについて参考図書を読み考察してくること　(4時間)
(5) 授業中に指定されたテキストを読んでくること（4時間）
(6) エスニックツーリズムとオリエンタリズムについての指定されたテキストを読んでくること（4時間）
(7) ハラール食品について授業中で提示された課題をもとに各自でフィールドワークを行ってくること（4時間）
(8) 異文化理解について考察してくること（4時間）
(9) 恋愛と観光の定義について考えてくること（4時間）
(10)各都道府県のMICE戦略について調べてくること（4時間）
(11)トイレについて授業中で提示された課題をもとに各自でフィールドワークを行ってくること（6時間）
(12) 自身の推しにの経済効果と観光現象について考えてくること（6時間）
(13) オンラインツアーの動向について調べてくること（4時間）
(14) ゲスト―ホスト関係について述べられた指定テキストを読んでくること（4時間）
(15) これまでの修学内容を復習してくること　(4時間)

【授業及び学習の方法】
＊この科目は新型コロナウイルス感染症の状況によっては一部遠隔やハイブリッドに変更する可能性があります。
＊外部講師がゲストスピーカーとて講演を行う場合もあります。
＊対面/遠隔の変更、ゲストスピーカー講義やワークショップの実施の可否、受講生からのリクエスト内容、などによって、授業計画並びに授業及び学習の方法は変更する可能性があります。

教科書・参考書等
教科書：指定しません。適宜授業内でプリント等を配布します。
参考書：『よくわかる観光社会学』、安村克己・遠藤英樹・寺岡伸悟・堀野正人編著、ミネルヴァ書房、2011年、2,600円＋税
『観光学ガイドブック』、大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝著、ナカニシヤ出版、2014年、2800円＋税

オフィスアワー　　授業終了後に応じます。
研究室(南3号館3階)への訪問可能時間は授業時間やSNSを通じて知らせます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
受講生の反応等によって、授業計画に変更が生じる場合があります。
授業中の私語、スマホ・ケータイの操作は禁止します。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：323531)<br>サービス・マーケティング論<br>Service Marketing | 科目区分 | 時間割<br>後期金1 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>L | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>趙　命来 | 関連授業科目　　マーケティング論A,B | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　授業90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

サービス・マーケティングは、サービス産業の発展とともに、1970年代に登場した、比較的新しい学問である。近年、サービス・マーケティングの発想は製造企業にも適応されるほど独自の学問体系を確立している。サービス・マーケティングはサービスをどのようにお客さまに販売し、満足していただくか、サービス販売に適した仕組みをどのように準備するか、といった課題を扱う学問である。本講義は、サービス・マーケティングを初めて学ぼうとする人たちに対して基礎的な内容を解説する。

授業の目的

サービス概念に焦点を当て、サービスよって成り立っている企業の事例を取り上げながら、サービスがどのような価値を生み出しているのかを理解する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| 1. サービス・マーケティングの発想や基礎概念が理解できる。<br>2. サービス・マーケティングがわれわれの生活とどのような関わりをもつのかが理解できる。<br>3. 現場でサービス・マーケティングをうまく実践するための理論が理解できる。 | |

成績評価の方法と基準

小テストとグループワーク50%、期末試験50%により評価する。
詳細は初回の授業で説明する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

第1回　ガイダンス/サービス経営のマネジメント
第2回　サービス創造のマネジメント
第3回　サービス経験のマネジメント
第4回　サービス人材のマネジメント
第5回　サービス品質のマネジメント
第6回　おもてなしのマネジメント
第7回　顧客ロイヤルティのマネジメント
第8回　サービスによる価値創造
第9回　モバイル技術による価値創造
第10回　ITによる価値創造
第11回　モノとメンテナンスによる価値創造
第12回　ヒトとモノによる価値創造
第13回　受給調整による価値創造
第14回　標準化による価値創造
第15回　サービスのグロバール戦略/まとめ

【授業及び学習の方法】

授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜小テストやグループワークと取り入れます。

【自学自習に関するアドバイス】
第1回　同じ目的や機能を果たすようなモノとサービスを具体的に調べる（２時間）
第2回　複数の製品・サービスを組み合わせて提供している企業やお店を調べて、授業で紹介できるように準備する。（2時間）
第3回　従来のサービス業を経験消費に変容させるためには、どんな工夫が必要をレポートにまとめる。(2時間)
第４回　サービス業において、従業員を満足させるためにはどのような工夫が必要かを、グループワークで議論できるように準備する。(2時間)
第5回　利用サービス以外のサービスで工業化を成功させるには、どのような工夫が必要かをレポートにまとめる。（2時間）
第6回　ファストフード業界のサービスの特徴と温泉旅館のおもてなしサービスとを比較し、どこに相違点があるのかをまとめる。(2時間)
第7回　企業、お店、ブランドなどの特定のファンになるきっかけとして、何があったかを、グループワークで紹介できるように準備する。(2時間)
第8回　モノを製造している企業がサービスを行っている事例を調べてまとめる。(2時間)
第9回　身近にあるモバイル・マーケティングの例から、成功している点、いない点と、その理由を調べ、授業で紹介できるように準備する。(2時間)
第10回 インターネットなどのITによる新しいサービスを提供している企業を調査して、その仕組みの特徴についてレポートにまとめる。(2時間)
第11回　身の回りに、メンテナンス・サービスを有償化できそうな商品があるのかを、グループワークで紹介できるように準備する。(2時間)
第12回　綜合警備保障社の安全保障サービスの特徴を調べセコムと比較し、どこに相違点があるのかを調べてまとめる。(2時間)
第13回　日頃利用しているレストランや美容室などの企業が、どのように需要と供給をバランスしているかを調べ、グループワークに紹介できるように準備する。(2時間)
第14回　ある特定の時間に顧客が集中しないように、そして、施設の稼働率が少ない時間に来店顧客数を高めるために、フィットネス業界はどのような対策を取ったのかをレポートにまとめる。(2時間)
第15回　サービスの特性が国際化にどのような影響を与えるのかを考察する。(2時間)

教科書・参考書等
教科書
伊藤宗彦・高室裕史（編）『1からのサービス経営』碩学舎、2010年。

参考書
黒岩 健一郎・浦野寛子『サービス・マーケティング -コンサル会社のプロジェクト・ファイルから学ぶ』有斐閣 2021年

オフィスアワー　　随時、研究室(南キャンパス3号館３階）にて受け付けます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
成績評価などの履修上注意事項の説明を行うため、第1回目の授業に必ず出席すること。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：313195)<br>地域経済学<br>Regional Economics | 科目区分 | 時間割<br>前期金4 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>福村　晃一 | 関連授業科目 | 経済政策、財政学、公共経済学 | |
| | 履修推奨科目 | ミクロ経済学I,II、マクロ経済学I,II | |

学習時間　　講義90分×15回+自学自習(準備学習15時間＋事後学習45時間)

授業の概要

経済学の応用分野である、地域経済学における様々な理論上の概念について主に講義する。具体的には、主にミクロ経済学で学習した手法を応用して、現実の社会における様々な経済現象を解釈するために必要な能力を養成する。とりわけ、空間的な要素に着目したものを中心として扱う。

授業の目的

現実の社会における様々な経済現象やそれに対応した政策を、経済学の立場から分析するために必要な理論上の概念やデータの取り扱い方法について学ぶ。
この講義を受講することにより、地方自治体などの官庁・企業などで政策や業務計画などの企画・立案・推進・評価などを行うために必要な、地域経済学に関する基礎的な知識や考え方を習得する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 1. 地域経済学で用いられている概念を理解し、現実の経済現象に当てはめて説明できる。(DPの知識・理解（21世紀型市民及び学士（経済学）として)、言語運用能力と対応)<br><br>2. 地域経済学で用いられている概念を活用し、現実の経済活動から生じる様々な問題を、経済学を用いて解決する方策を考えられる。<br>(DPの問題解決・課題探求能力、言語運用能力と対応)<br><br>3. 地域経済学で用いられる様々なデータを、正確に解釈・運用できる。<br>(DPの問題解決・課題探求能力、言語運用能力と対応) | |

成績評価の方法と基準

期末試験、宿題、授業中提出物を組み合わせて評価する。
ただし、次のAの割合による評価とBの割合による評価を比較して、高い方で評価する。
A: 期末試験50%、宿題40%、授業中提出物10%
B: 期末試験70%、宿題20%、授業中提出物10%

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

以下の授業計画に基づいて板書とスライドを基本とした講義を行う。適宜練習問題をスライドなどで示すので、式展開や結果の解釈、専門用語の定義などを独力で説明できるようにすること。なお、実際の授業の進捗状況によっては以下の計画が変更される場合があるが、その際は周知する。
この科目は原則全回対面授業を行います。

【授業計画】
1.講義の概要説明、地域経済学のイントロダクション
2.ミクロ・マクロ経済学・数学の復習
3.日本の地域と都市のデータの概観
4.地域の産業構造
5.地域間人口移動
6.集積の経済と都市化
7.住宅市場
8.都市内土地利用の分析
9.都市システムモデルと最適人口規模
10.地域間交易
11.企業立地
12.空間経済学
13.交通サービス
14.地方政府の役割
15.まとめ

【自学・自習へのアドバイス】
自学・自習の時間は、4時間×15回程度をかけることを想定している。各回の前後とも、それまでの講義の内容について、専門用語・式展開などの説明、計算結果の解釈を行い、そのうえで、報道・書籍などで紹介されている、さまざまな現実の経済現象との関連について考えることを想定している。

教科書・参考書等
講義資料をもとに講義を行うため、教科書は購入する必要はない。ただし、講義内容は「都市・地域経済学への招待状」、佐藤泰裕、有斐閣ストゥディア、有斐閣、2014年、1,800円+税、や以下の参考書をもとにしているので、必要であれば購入・参照して、概念の理解に努めること。
「地域政策の経済学」林宜嗣・山鹿久木・林亮輔・林勇気著、日本評論社、2018年、2700円＋税
「都市経済学(第2版)」、金本良嗣・藤原徹著、東洋経済新報社、2016年、3200円+税
「都市と地域の経済学[新版]」、黒田達朗・田渕隆俊・中村良平著、有斐閣ブックス、2008年、2500円＋税
「都市経済学」、高橋孝明著、有斐閣ブックス、2012年、2500円＋税
Modern Urban and Regional Economics, 2nd ed. Philip McCann, Oxford University Press., 2013.

オフィスアワー　　毎週火曜日4時限目に、南3号館2階の研究室で対応します。それ以外は事前にメールで予約を取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
経済学やそれを応用した科目は、練習問題・試験問題が解ければ、理解したといえるような科目ではありません。理解のためには、数式の背後にある仮定・概念・理屈、そしてそこから導き出される結論を教科書・講義とは別の自分なりの言い方で説明することが重要です。面倒がらずに、言語化する練習をしましょう。ミクロ経済学・マクロ経済学のIとIIを両方の受講をおすすめします。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：313173)<br>公共経済学<br>Public Economics | 科目区分 | 時間割<br>前期火2 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>福村　晃一 | 関連授業科目 | 経済政策、財政学 | |
| | 履修推奨科目 | ミクロ経済学I,II、マクロ経済学I,II | |

学習時間　　講義90分×15回+自学自習(準備学習15時間＋事後学習45時間)

授業の概要
ミクロ経済学の応用分野である、公共経済学における様々な理論上の概念について主に講義する。それにより、ミクロ経済学で学習した手法を応用して、現実の社会における様々な経済現象を解釈するために必要な能力を養成する。

授業の目的
現実の社会における様々な経済現象やそれに対応した政策を､経済学の立場から分析するために必要な理論上の概念について学ぶ。
そして、官庁・企業などで政策や業務計画などの企画・立案・推進・評価などを行うために必要な、公共経済学に関する基礎的な知識や考え方を習得する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 1. 公共経済学で用いられている概念を理解し､現実の経済現象に当てはめて説明できる｡(DPの知識・理解（21世紀型市民及び学士（経済学）として)、言語運用能力と対応)<br><br>2. 公共経済学で用いられている概念を活用し、現実の経済活動から生じる様々な問題を、経済学を用いて解決する方策を考えられる。<br>(DPの問題解決・課題探求能力、言語運用能力と対応) | |

成績評価の方法と基準
期末試験、宿題、授業中提出物を組み合わせて評価する。
ただし、次のAの割合による評価とBの割合による評価を比較し、高い方で評価する。
A: 期末試験50%、宿題40%、授業中提出物10%
B: 期末試験70%、宿題20%、授業中提出物10%

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ
以下の授業計画に基づいて板書とスライドを基本とした講義を行う。適宜練習問題をスライドなどで示すので、式展開や結果の解釈、専門用語の定義などを独力で説明できるようにすること。その際、宿題を不定期に課すので、自分の理解を過不足なく言語化して解答を作成すること。なお、実際の授業の進捗状況によっては以下の計画が変更される場合があるが、その際は周知する。
この科目は原則全回対面授業を行います。

【授業計画】
1. 講義の概要説明、公共経済学のイントロダクション
2. ミクロ経済学の基礎の復習
3. 厚生経済学の基本定理・パレート最適
4. 課税の分析1:基礎
5. 課税の分析2:応用
6. 寡占・独占
7. 外部性
8. 公共財1:基礎
9. 公共財2:応用
10. 費用便益分析
11. 地方分権
12. 公共選択
13. 所得再分配と社会厚生
14. 財政運営と世代
15. まとめ

【自学・自習へのアドバイス】
自学・自習の時間は、4時間×15回程度をかけることを想定している。各回の前後とも、それまでの講義の内容について、専門用語・式展開などの説明、計算結果の解釈を行い、そのうえで、報道・書籍などで紹介されている、さまざまな現実の経済現象との関連について考えることを想定している。

教科書・参考書等
講義資料をもとに講義を行うため、教科書は購入する必要はない。ただし、講義内容は「公共経済学」、林正義・小川光・別所俊一郎、有斐閣アルマ、有斐閣、2010年、2,300円+税、をもとにしているので、必要であれば購入すること。
また、以下の参考文献も適宜参照して、概念の理解に努めること。
「公共経済学」、小川光・西森晃、中央経済社、2015年、2,300円+税、
「公共経済学」、小塩隆士、東洋経済新報社、2016年、2,800円＋税、
「公共経済学15講」、佐藤主光、新世社、2017年、2,400円＋税、
「入門公共経済学(第二版)」、土居丈朗、日本評論社、2018年、2,900円＋税、
Intermediate Public Economics, 2nd ed. Hindriks and Myles 2013 MIT Pressなど
また、回によっては次のような財政学の本も参考になる。
「財政のエッセンス」、西村幸浩・宮﨑智視、有斐閣、2015年、1,900円＋税
「実践財政学」、赤井伸朗編、有斐閣、2017年、2,700円＋税、など

オフィスアワー　　毎週火曜日4時限目に、南3号館2階の研究室で対応します。それ以外は事前にメールで予約を取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
経済学やそれを応用した科目は、練習問題・試験問題が解ければ、理解したといえるような科目ではありません。理解のためには、数式の背後にある仮定・概念・理屈、そしてそこから導き出される結論を教科書・講義とは別の自分なりの言い方で説明することが重要です。面倒がらずに、言語化する練習をしましょう。

| ナンバリングコード　B4GE0-ceaE-30-Lf2<br>授業科目名　　(時間割コード：333221)<br>地域活性化プロジェクトⅡ（原）<br>Project on Regional VitalizationⅡ<br>Project on Regional Vitalization Ⅱ | 科目区分 | 時間割<br>後期土3 | 対象年次及び学科<br>3～3経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B4GE0 | DP・提供部局<br>ceaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lf | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>原　直行 | 関連授業科目 | 地域活性化プロジェクトⅠ | |
| | 履修推奨科目 | 地域活性化プロジェクトⅠ | |

学習時間　　授業90分×5回程度＋フィールドワーク（30時間以上）＋自学自習（準備学習32時間 + 事後学習28時間）

授業の概要

自治体・企業等と連携し、各地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。

授業の目的

授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち自信をもって社会に出ることができる。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| 1.地域の課題解決に参画し、実際に地域に貢献できる。<br>2.地域の課題解決に参画することにより、課題探求・解決力が身につく。<br>3.地域の課題解決に参画することにより、能動的な学習をもたらす主体的な学びができる。 | |

成績評価の方法と基準

授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度（積極性など）・参加内容（取組内容）、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

本授業は登録は後期であるが、年間を通して活動する。
したがって、以下の１５回分の構成は目安程度として考えてもらいたい。
１．プロジェクト対象地域についての学修①
２．プロジェクト対象地域についての学修②
３．フィールドワーク①
４．フィールドワーク②
５．フィールドワーク③
６．フィールドワーク④
７．フィールドワーク⑤
８．進捗状況の報告
９．フィールドワーク⑥
１０．フィールドワーク⑦
１１．フィールドワーク⑧
１２．フィールドワーク⑨
１３．フィールドワーク⑩
１４．活動報告会のための学修
１５．活動報告会
※この授業は基本的に対面で行う。なお、状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。

自学自習について
１～２回　地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。(8時間)
３～７回　フィールド地域の事前学習と調査後の資料整理を行う。(20時間)
８回　　発表の準備を行う。(4時間)
９～13回　フィールド地域の事前学習と調査後の資料整理を行う。(20時間)
14～15回　発表の準備を行う。(8時間)

教科書・参考書等

とくになし

オフィスアワー　　木曜２限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

原則として瀬戸内地域活性化プロジェクトや､担当教員と１年次または２年次から地域活動を行ってきた学生のみ受講できる。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　（時間割コード：3332211）<br>地域活性化プロジェクトⅡ（古川）<br>Project on Regional VitalizationⅡ | 科目区分 | 時間割<br>後期土3 | 対象年次及び学科<br>3～3経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>cadE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lf | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>古川　尚幸 | 関連授業科目 | 地域活性化プロジェクトⅠ、<br>地域活性化プロジェクトⅢ | |
| | 履修推奨科目 | 地域活性化プロジェクトⅠ、<br>地域活性化プロジェクトⅢ | |

学習時間　　授業90分×5回程度＋フィールドワーク（45時間以上）＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

この授業では、地域活性化に取り組む現場に実際に出向き、地元住民との交流を通じて、その地域に適した地域活性化のあり方について考えていきます。
受講者は、既存の学生プロジェクトまたは新規の学生プロジェクト（自分または自分たちで新たに立ち上げる）に属するものとし、地域でのプロジェクト活動を通じて、その地域の活性化について考えます。

授業の目的

①フィールドワークを通じて、積極性と協調性を身につける。
②フィールドワークを通じて、コミュニケーション能力を身につける。
③フィールドワークを通じて、プレゼンテーション能力を身につける。
④フィールドワークを通じて、問題の発見と分析、および解決のプロセスを身につける。
⑤フィールドワークを通じて、地域活性化の現状と課題について、自分の考えをまとめる。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| ①仲間と協力して積極的に活動できる。<br>②地域の人たちや仲間と円滑にコミュニケーションできる。<br>③地域の人たちや仲間の前でプレゼンテーションできる。<br>④自ら問題を発見し、その解決方法を考えることができる。<br>⑤地域活性化の現状と課題についてについて、自分の考えを述べることができる。 | |

成績評価の方法と基準

期末テストおよび小テストは行いません。活動に対する取り組み姿勢（積極性）や出席状況により、総合的に単位を認定します。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

本授業は、プロジェクト型の授業であり、登録は後期であるが、1年間を通して地域で活動する。
したがって、以下の15回分の構成は、半期の目安程度として考えてもらいたい。

【授業計画】
第01回：授業のガイダンスおよびグループ分け
第02回：フィールドについて事前調査および報告
第03～04回：第1回フィールドでの活動（於：担当するプロジェクト）
第05回：第1回フィールドでの活動報告
第06～07回：第2回フィールドでの活動（於：担当するプロジェクト）
第08回：第2回フィールドでの活動報告
第09～10回：第3回フィールドでの活動（於：担当するプロジェクト）
第11回：第3回フィールドでの活動報告
第12～13回：第4回フィールドでの活動（於：担当するプロジェクト）
第14回：第4回フィールドでの活動報告
第15回：まとめ

【授業方法】
対面で授業を行いますが、新型コロナウイルスの状況により、変更する場合もあります。
フィールドワークを行います。フィールドワークを行うたびに、大学内で活動報告を行います。

【自学自習のためのアドバイス】

| | |
|---|---|
| (1)次回の活動に向けて、地域の情報収集と整理。 | (3.5時間) |
| (2)次回の活動に向けて、地域の情報収集と整理。 | (3.5時間) |
| (3)フィールドでの活動とその結果の報告。 | (4時間) |
| (4)フィールドでの活動とその結果の報告。 | (4時間) |
| (5)次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。 | (5時間) |
| (6)フィールドでの活動とその結果の報告。 | (4時間) |
| (7)フィールドでの活動とその結果の報告。 | (4時間) |
| (8)次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。 | (5時間) |
| (9)フィールドでの活動とその結果の報告。 | (4時間) |
| (10)フィールドでの活動とその結果の報告。 | (4時間) |
| (11)次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。 | (5時間) |
| (12)フィールドでの活動とその結果の報告。 | (4時間) |
| (13)フィールドでの活動とその結果の報告。 | (4時間) |
| (14)これまでのフィールドでの活動結果をもとに報告資料の作成 | (6時間) |
| (15)これまでのフィールドでの活動結果をもとに報告資料の作成 | (6時間) |

＊普段から地域の情報やニュースに興味を持つよう心掛けてください。

教科書・参考書等
特にありません。

オフィスアワー　　金曜日3時間目
経済学部2号館2F古川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
積極的な授業態度を求めます。
この科目を履修する場合は、事前に古川まで連絡してください。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　（時間割コード：3332212）<br>地域活性化プロジェクトⅡ（西成）<br>Project on Regional VitalizationⅡ<br>Project on Regional Vitalization Ⅱ | 科目区分 | 時間割<br>後期土3 | 対象年次及び学科<br>3～3経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>ceaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Ep | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>西成　典久 | 関連授業科目 | まちづくり論、地域をデザインする思考と実践 | |
| | 履修推奨科目 | 観光・地域振興コース関連科目 | |

学習時間　　フィールドワーク（45時間以上）＋自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

自治体や地域等と連携し、各地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の講義です。
教員から指導を受けて受動的に取り組むのではなく、教員を含めた他者との対話を通じて、自分自身が主体的に取り組めるプロジェクト活動となることが最も重要だと考えています。
既存のプロジェクトのみならず、新規に取り組みたいプロジェクトも歓迎します。

授業の目的

講義等によるインプットのみではなく、活動を通じた社会へのアウトプットが必要であり、実践を通じたアウトプットとインプットの往復が、真に使える能力を高め、地域や社会に価値を生み出せる人財になれると考えています。
本講義では、以下の到達目標の達成を通じて、地域の課題解決に貢献できるマインドと実践力を身につけた人財となることが目的です。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| 1. いま地域で何が求められているか、地域の現状を把握し課題を発見することができる<br>2. 地域の課題解決に向けて、原因を分析し、解決策に向けた提案をすることができる<br>3. 能動的な調査活動を通じて、他者と協力する社会的スキルを磨くことができる | |

成績評価の方法と基準

プロジェクト活動への参加態度（積極性など）・参加内容（取り組み内容）により総合的に判断します。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

本講義の履修登録は後期であるが、年間を通して活動します。
したがって、以下の１５回分の構成は目安程度として考えてください。
１．プロジェクトガイダンス
２．フィールドワーク①
３．フィールドワーク②
４．フィールドワーク③
５．フィールドワーク④
６．活動報告&全体シェア
７．フィールドワーク⑤
８．フィールドワーク⑥
９．フィールドワーク⑦
１０．フィールドワーク⑧
１１．活動報告&全体シェア
１２．フィールドワーク⑨
１３．フィールドワーク⑩
１４．活動報告&全体シェア
１５．活動内容のまとめと振り返り

この科目は基本的に対面講義を想定してます。
状況によっては授業形態を一部遠隔に変更する可能性があります。

自学自習について
期間中、地域活性化やまちづくりに関する資料収集や事例研究を自主的に取り組んでください。
また、プロジェクト活動を通じたチーム運営上の課題点について、解決に向けた取り組みを各自もしくはチーム全体で自主的に取り組んでください。
（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

教科書・参考書等

適宜紹介する

オフィスアワー　　木曜日3時限目　南3号館3階西成研究室にて（その他、随時受け付けます）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

プロジェクト活動は2年生前期から着手予定です。
関心ある学生は学部専門科目「まちづくり論」を受講することを推奨します。
また、新たに自分で立ち上げたいプロジェクトなどがある場合には相談にのります。
詳しくは担当教員（西成）まで問合せください。

# コース専門科目

(観光・地域振興コース　４年次配当)

| | | | |
|---|---|---|---|
| ナンバリングコード　B4GE0-ceaE-30-Lf2<br>授業科目名　　(時間割コード：333222)<br>地域活性化プロジェクトⅢ（原）<br>Project on Regional VitalizationⅢ<br>Project on Regional Vitalization Ⅲ | 科目区分 | 時間割<br>後期土4 | 対象年次及び学科<br>4～4経済学部 |
| | 水準・分野<br>B4GE0 | DP・提供部局<br>ceaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lf | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>原　直行 | 関連授業科目 | 地域活性化プロジェクトⅠ、<br>地域活性化プロジェクトⅡ | |
| | 履修推奨科目 | 地域活性化プロジェクトⅠ、<br>地域活性化プロジェクトⅡ | |

学習時間　　授業90分×5回程度＋フィールドワーク（30時間以上）＋自学自習（準備学習32時間 + 事後学習28時間）

授業の概要
自治体・企業等と連携し、各地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。

授業の目的
授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち自信をもって社会に出ることができる。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| 1.地域の課題解決に参画し、実際に地域に貢献できる。<br>2.地域の課題解決に参画することにより、課題探求・解決力が身につく。<br>3.地域の課題解決に参画することにより、能動的な学習をもたらす主体的な学びができる。 | |

成績評価の方法と基準
授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度（積極性など）・参加内容（取り組み内容）、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ
本授業は登録は後期であるが、年間を通して活動する。
したがって、以下の１５回分の構成は目安程度として考えてもらいたい。
１．プロジェクト対象地域についての学修①
２．プロジェクト対象地域についての学修②
３．フィールドワーク①
４．フィールドワーク②
５．フィールドワーク③
６．フィールドワーク④
７．フィールドワーク⑤
８．進捗状況の報告
９．フィールドワーク⑥
１０．フィールドワーク⑦
１１．フィールドワーク⑧
１２．フィールドワーク⑨
１３．フィールドワーク⑩
１４．活動報告会のための学修
１５．活動報告会
※この授業は基本的に対面で行う。なお、状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。

自学自習について
１～２回　地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。(8時間)
３～７回　フィールド地域の事前学習と調査後の資料整理を行う。(20時間)
８回　　発表の準備を行う。(4時間)
９～13回　フィールド地域の事前学習と調査後の資料整理を行う。(20時間)
14～15回　発表の準備を行う。(8時間)

教科書・参考書等
とくになし

オフィスアワー　　木曜２限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
原則として瀬戸内地域活性化プロジェクトや、担当教員と１年次（または２年次・３年次）から地域活動を行ってきた学生のみ受講できる。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　(時間割コード：3332221)<br>地域活性化プロジェクトⅢ（古川）<br>Project on Regional VitalizationⅢ | 科目区分 | 時間割<br>後期土4 | 対象年次及び学科<br>4～4経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>cadE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lf | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>古川　尚幸 | 関連授業科目 | 地域活性化プロジェクトⅠ、<br>地域活性化プロジェクトⅡ | |
| | 履修推奨科目 | 地域活性化プロジェクトⅠ、<br>地域活性化プロジェクトⅡ | |

学習時間　　授業90分×5回程度＋フィールドワーク（45時間以上）＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

この授業では、地域活性化に取り組む現場に実際に出向き、地元住民との交流を通じて、その地域に適した地域活性化のあり方について考えていきます。
受講者は、既存の学生プロジェクトまたは新規の学生プロジェクト（自分または自分たちで新たに立ち上げる）に属するものとし、地域でのプロジェクト活動を通じて、その地域の活性化について考えます。

授業の目的

①フィールドワークを通じて、積極性と協調性を身につける。
②フィールドワークを通じて、コミュニケーション能力を身につける。
③フィールドワークを通じて、プレゼンテーション能力を身につける。
④フィールドワークを通じて、問題の発見と分析、および解決のプロセスを身につける。
⑤フィールドワークを通じて、地域活性化の現状と課題について、自分の考えをまとめる。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| ①仲間と協力して積極的に活動できる。<br>②地域の人たちや仲間と円滑にコミュニケーションできる。<br>③地域の人たちや仲間の前でプレゼンテーションできる。<br>④自ら問題を発見し、その解決方法を考えることができる。<br>⑤地域活性化の現状と課題についてについて、自分の考えを述べることができる。 | |

成績評価の方法と基準

期末テストおよび小テストは行いません。活動に対する取り組み姿勢（積極性）や出席状況により、総合的に単位を認定します。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

本授業は、プロジェクト型の授業であり、登録は後期であるが、1年間を通して地域で活動する。
したがって、以下の15回分の構成は、半期の目安程度として考えてもらいたい。

【授業計画】
第01回：授業のガイダンスおよびグループ分け
第02回：フィールドについて事前調査および報告
第03～04回：第1回フィールドでの活動（於：担当するプロジェクト）
第05回：第1回フィールドでの活動報告
第06～07回：第2回フィールドでの活動（於：担当するプロジェクト）
第08回：第2回フィールドでの活動報告
第09～10回：第3回フィールドでの活動（於：担当するプロジェクト）
第11回：第3回フィールドでの活動報告
第12～13回：第4回フィールドでの活動（於：担当するプロジェクト）
第14回：第4回フィールドでの活動報告
第15回：まとめ

【授業方法】
対面で授業を行いますが、新型コロナウイルスの状況により、変更する場合もあります。
フィールドワークを行います。フィールドワークを行うたびに、大学内で活動報告を行います。

【自学自習のためのアドバイス】

(1)次回の活動に向けて、地域の情報収集と整理。 (3.5時間)
(2)次回の活動に向けて、地域の情報収集と整理。 (3.5時間)
(3)フィールドでの活動とその結果の報告。 (4時間)
(4)フィールドでの活動とその結果の報告。 (4時間)
(5)次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。 (5時間)
(6)フィールドでの活動とその結果の報告。 (4時間)
(7)フィールドでの活動とその結果の報告。 (4時間)
(8)次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。 (5時間)
(9)フィールドでの活動とその結果の報告。 (4時間)
(10)フィールドでの活動とその結果の報告。 (4時間)
(11)次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。 (5時間)
(12)フィールドでの活動とその結果の報告。 (4時間)
(13)フィールドでの活動とその結果の報告。 (4時間)
(14)これまでのフィールドでの活動結果をもとに報告資料の作成 (6時間)
(15)これまでのフィールドでの活動結果をもとに報告資料の作成 (6時間)

＊普段から地域の情報やニュースに興味を持つよう心掛けてください。

教科書・参考書等

特にありません。

オフィスアワー　　金曜日3時間目

経済学部2号館2F古川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

積極的な授業態度を求めます。

この科目を履修する場合は、事前に古川まで連絡してください。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　（時間割コード：3332222）<br>地域活性化プロジェクトⅢ（西成）<br>Project on Regional VitalizationⅢ<br>Project on Regional Vitalization Ⅲ | 科目区分 | 時間割<br>後期土4 | 対象年次及び学科<br>4～4経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>ceaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Ep | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>西成　典久 | 関連授業科目 | まちづくり論、地域をデザインする思考と実践 | |
| | 履修推奨科目 | 観光・地域振興コース関連科目 | |

学習時間　　フィールドワーク（45時間以上）＋自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

自治体や地域等と連携し、各地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の講義です。
教員から指導を受けて受動的に取り組むのではなく、教員を含めた他者との対話を通じて、自分自身が主体的に取り組めるプロジェクト活動となることが最も重要だと考えています。
既存のプロジェクトのみならず、新規に取り組みたいプロジェクトも歓迎します。

授業の目的

講義等によるインプットのみではなく、活動を通じた社会へのアウトプットが必要であり、実践を通じたアウトプットとインプットの往復が、真に使える能力を高め、地域や社会に価値を生み出せる人財になれると考えています。
本講義では、以下の到達目標の達成を通じて、地域の課題解決に貢献できるマインドと実践力を身につけた人財となることが目的です。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| 1. いま地域で何が求められているか、地域の現状を把握し課題を発見することができる<br>2. 地域の課題解決に向けて、原因を分析し、解決策に向けた提案をすることができる<br>3. 能動的な調査活動を通じて、他者と協力する社会的スキルを磨くことができる | |

成績評価の方法と基準

プロジェクト活動への参加態度（積極性など）・参加内容（取り組み内容）により総合的に判断します。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

本講義の履修登録は後期であるが、年間を通して活動します。
したがって、以下の１５回分の構成は目安程度として考えてください。
１．プロジェクトガイダンス
２．フィールドワーク①
３．フィールドワーク②
４．フィールドワーク③
５．フィールドワーク④
６．活動報告&全体シェア
７．フィールドワーク⑤
８．フィールドワーク⑥
９．フィールドワーク⑦
１０．フィールドワーク⑧
１１．活動報告&全体シェア
１２．フィールドワーク⑨
１３．フィールドワーク⑩
１４．活動報告&全体シェア
１５．活動内容のまとめと振り返り

この科目は基本的に対面講義を想定してます。
状況によっては授業形態を一部遠隔に変更する可能性があります。

自学自習について
期間中、地域活性化やまちづくりに関する資料収集や事例研究を自主的に取り組んでください。
また、プロジェクト活動を通じたチーム運営上の課題点について、解決に向けた取り組みを各自もしくはチーム全体で自主的に取り組んでください。
（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

教科書・参考書等

適宜紹介する

オフィスアワー　　木曜日3時限目　南3号館3階西成研究室にて（その他、随時受け付けます）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

プロジェクト活動は2年生前期から着手予定です。
関心ある学生は学部専門科目「まちづくり論」を受講することを推奨します。
また、新たに自分で立ち上げたいプロジェクトなどがある場合には相談にのります。
詳しくは担当教員（西成）まで問合せください。

# コース専門科目

(グローバル社会経済コース　２年次配当)

| ナンバリングコード　B30TH-bacE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：301000)<br>コース概説科目 | 科目区分 | 時間割<br>前期水1 | 対象年次及び学科<br>2～2経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B30TH | DP・提供部局<br>bacE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>山口　尚美 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習と事後学習で計30時間）

授業の概要

経済学部の教育カリキュラムは、経済学を中心として「経済・政策分析」、「会計・ファイナンス」、「経営・イノベーション」、「観光・地域振興」、「グローバル社会経済」の5つのコースから編成されている。

2年次後期からはこの5つのコースのひとつを各自の興味関心・適性・将来の進路に合わせて選択して、各コースが提供するコース専門科目を中心に学修していきながら、各コースが修学案内に掲げている能力を養成していくことになる。

以上を踏まえて、この授業では、各コースとつながりが深い授業科目やコース専門科目を担当する３名の教員がコースを代表して担当する授業科目の内容やその周辺の学問領域などについて紹介する。

授業の目的

経済学部の教育カリキュラムが提供する5つのコースの特色、及び各コースの学問領域において研究対象となる経済・経営・社会・文化に関わる現象や問題のいくつかについて理解する。(学士課程のDP「知識・理解」に対応)

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 経済学部の教育カリキュラムが提供する5つのコースの特色を説明できるようになる。<br>自分自身の興味関心・適性・将来の進路に合わせて、適切なコースを選択できるようになる。 | |

成績評価の方法と基準

レポート（5回以上）を元に成績評価を行う。
出席回数が考慮される可能性もある。
ただし、単位認定のためには、「15回中10回以上の出席を必要」とする。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

第1回　経済・政策分析コース①
第2回　経済・政策分析コース②
第3回　経済・政策分析コース③
第4回　会計・ファイナンスコース①
第5回　会計・ファイナンスコース②
第6回　会計・ファイナンスコース③
第7回　経営・イノベーションコース①
第8回　経営・イノベーションコース②
第9回　経営・イノベーションコース③
第10回　観光・地域振興コース①
第11回　観光・地域振興コース②
第12回　観光・地域振興コース③
第13回　グローバル社会経済コース①
第14回　グローバル社会経済コース②
第15回　グローバル社会経済コース③

＜2021年度　担当教員　2022年度は未定＞（五十音順、敬称略）
経済・政策分析コース：　福村、持田、姚
会計・ファイナンスコース：　井上、長山、宮脇
経営・イノベーションコース：　塩谷、山口、渡邉
観光・地域振興コース：　西成、二ツ山、山崎
グローバル社会経済コース：　園部、髙橋（明）、水野

教科書・参考書等

必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：332131)<br>文化人類学<br>Culture Anthropology | 科目区分 | 時間割<br>後期木2 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3SCL | DP・提供部局<br>bceE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>L | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>緒方　宏海 | 関連授業科目　　社会調査法 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習(準備学習30時間＋事後学習30時間)

授業の概要

文化人類学とは、一言でいえば「他者」を理解する技法である。より具体的には「他者」の有する観念と行動を翻訳する技法である。それは、異文化に対する理解や異なる文化を持つ人々の生活様式を記述し、理解する技法とも言える。本講義では文化人類学の基礎的な理論と方法を習得し、且つ現代社会を理解する上で不可欠なテーマ、宗教、経済、観光、死の人類学などをサブテーマとする。

授業の目的

この授業の目的は、文化人類学で検討されてきた主要な理論と方法論をたどりながら、文化人類学的な視点・ 考え方を体系的に学ぶとともに、「他者」 を理解しようという文化人類学的視点から、自分自身がもっている思い込みや常識をいったん括弧に括って客観的に見つめ直す作業を行うことにある。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 1. 文化人類学の基本的な視点、考え方、理論を習得する。<br>2. 文化人類学の視点から具体的な事例を検討することによって、文化と社会の多様性を理解する。<br>3. 上記のことを通じて、異文化とともに自分の属する社会と文化について深く理解し分析する能力を身につける。 | |

成績評価の方法と基準

講義中に課すリアクション・ペーパーと学期末の筆記試験をもとに成績を総合評価する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

※この講義は基本的に対面で実施します。

第1週　イントロダクション―文化人類学の共通関心と基本作業
第2週　類人猿とヒトの違いは何か？―文化の進化・文化の伝播
第3週　衣服の起源は羞恥心からか？―経済の技術・生活の技術
第4週　「文化的他者」と社会の見方―イギリスの社会人類学の礎とアメリカの文化人類学
第5週　男になる女になる性をゆさぶる「第三の性」―ジェンダー・性別役割・セクシュアリティ

第6週　冥婚・事実婚・同性婚・一夫多妻婚―さまざまな婚姻のかたち
第7週　血のつながりと「親子の関係」、祖先のつくり方―世界の家族と親族
第8週　宗教とはなにか？呪いは効くのか？―宗教の形態、呪術、邪術、妖術
第9週　「異界」のつくりかた―死の表象と霊魂、憑依、シャーマニズム

第10週 なぜ人食いをするのか？―生と死、カニバリズム、死の人類学
第11週 人がなぜ人の首を狩るのか？―アジアにおける首狩りの社会史
第12週 なぜ「贈り物」と「お返し」をするのか？―贈与と交換、経済人類学

第13週　日本はどのように語られたか？―海外の文化人類学的・社会学的日本研究
第14週　「文化」の売り方と買い方―民族と観光、観光人類学、グローバリゼーション、アパデュライの理論
第15週　まとめ―伝統文化とは何か？「文化」再考、ポストモダン人類学

教科書・参考書等

ハンドアウトを配布する。
参考文献は講義時に適宜紹介する。

オフィスアワー　　水曜日14時から17時、南キャンパス2号館3階緒方宏海研究室。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業中にリアクション・ペーパーの執筆を課す回がある。
授業で紹介する参考文献をもとに自主的に研究するよう努めてください。

| ナンバリングコード　B3SCL-bcaE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：332041)<br>アジア文化論<br>Asian Culture<br>東アジアの伝統と現代 | 科目区分 | 時間割<br>後期金3 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3SCL | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>髙橋　明郎 | 関連授業科目 | アジア経済論、アジア社会論<br>外国語演習(中国語) | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分　X　　15回＋自学自習(準備学習１５時間＋事後学習４５時間)

授業の概要

この授業では、まず文化研究の様々な立場を紹介したうえで、東アジア、特に中国・台湾・日本の文化と社会についてについて、いくつかのトピックを切り口に、文化政策と関連させながら解説する。

なお、この授業は対面で行う予定である。

授業の目的

アジアは中東から日本にまでを含む非常に広大な地域である。この講義では日本を含む東アジアの文化と、それを生んだ背景について理解する。(DPの「知識・理解」に対応) 文化研究で用いられる手法を知ると同時に、東アジアにおける社会と文化の関係を知ることで、文化の継承の課題について考える。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １　文化研究の様々な姿勢について知り応用できる。<br>２　東アジアの文化の背景にある儒教・道教などの宗教と、文化とのつながりについて認識することができる。<br>３　中国・日本・台湾間の文化の影響関係について認識することができる。<br>４　文化政策が文化の発展や継承にどう影響するか、自分の身近な問題として捉えられる。 | |

成績評価の方法と基準

数回のレポートの得点（４０％）＋試験の成績（６０％）に出席率を乗した数値により判定する。欠席の回に対応する課題提出は認めない。

忌引・疾病による出席停止・交通機関の運休などにより欠席した場合、レポート提出上の配慮はする。ただし、これらの場合も含め欠席が5回を超えた学生は成績評価対象としない。(これ以内でも欠席が多かったりレポート不提出が多い場合は、自動的に合格可能性は低下する)

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

講義形式（対面）で行い、教科書は使用しない。

この講義は以下の内容で行うが、受講生の構成などを勘案し、順序などについては変更される場合がある。

第１回　文化研究の流れ（基本的な考え方を知る）
- 文化研究の発展
- 文化研究の手法
- 従来の学問分野と学際的考え方
- 西洋の文化理論の変遷と東洋での受容・応用

第２～４回　トピック１：東アジアの現在
- 戦後東アジアの動き
  - 終戦前後の連合国の動きと初期統治
  - 中国・朝鮮半島の内線
  - 冷戦状態の固定化
- 冷戦の崩壊
  - 中国の改革開放、台湾の民主化
  - 一つの中国の呪縛と離脱

第５～６回　トピック2：東アジアの宗教と習俗
1. 統治の道具としての儒教
2. 道教の神々・道教と日本文化
3. 地獄を描く

第７～８回　トピック３：日本文化の中に中国文化はどのように反映されたか

第９～１０回　トピック４：伝統芸能

第１１～１２回　アジアの音楽

第１４～１５回　トピック５：他者の目でアジア文化を見る
西洋文化の流入とその影響
ヨーロッパにとってアジアは何だったのか

なお、途中２，３回フィルムを使用することがある。(時間と回数は受講者の理解度による)
【自学自習のためのアドバイス】

各時間の前に、予告されたされたトピックに関し、概要を調べる（１５時間)
授業で示された事項について補充・整理する（３０時間)
小レポートの作成(3回程度)　　１５時間

教科書・参考書等
教科書：特に使用しない
参考書：tba

オフィスアワー　　金曜５時間目、研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
１　座席指定とする予定なので、最初の授業に必ず出席すること
２　30分以内の遅刻者は指定するエリアの座席に着席すること（他の座席にいた場合出席票や資料は交付しない）
３　文字化が難しいもの以外は資料配布はしないので、きちんとノートを取る事。カメラ（機能）での板書および映像資料の撮影は認めない。
４　講義中の出入りは慎むこと。・スマートフォンなどは電源を切ったうえ鞄の中等にしまうこと。机上　机の下などを問わず、使用している場合出席票を没収する。(留学生が日本語の理解のた　め電子辞書などを使用する場合はこの限りでない)
５　映像資料使用中の居眠りなどの場合も３と同じ処置を取る。
６　「高学年教養科目」として履修する場合、2年次以上の学生のみ受講できる。

| ナンバリングコード　B3SCL-bceE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：332230)<br>日本社会経済史<br>Economic History of Japanese Society | 科目区分 | 時間割<br>後期火1 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3SCL | DP・提供部局<br>bceE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>水野　敦洋 | 関連授業科目　　経済史入門、経営史 | | |
| | 履修推奨科目　　経済史入門、経営史 | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自主学習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

この授業では、「近世経済」の成立期から第二次世界大戦期に至るまでの日本経済の歴史を、全15回にわたって概説する。まず、はじめに、世界経済のあゆみの中における日本の位置を明らかにする。つぎに、日本経済の発展の様相を長期的視点から観察する。その上で、各時代における重要な日本経済史のトピックをとりあげて解説してゆく。

授業の目的

この授業の目的は、これまでの日本経済の発展過程とそのメカニズムについて、歴史上の事実にもとづいて理解することである（「知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。それを通じて、長期的な時間軸の中で現在を相対化する視点を養うとともに、今日の社会・経済における諸問題を考える際の歴史的な分析視角を身につける（「問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 1. 日本経済の発展過程とそのメカニズムについて、歴史上の事実にもとづいて説明できる。<br>2. 歴史的な分析視角から、今日の社会・経済における諸問題を考察することができる。 | |

成績評価の方法と基準

期末テスト100%で評価する。

なお、不定期に実施する授業アンケート時に、優れたコメントを提出した者については更に加点する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

(1)ガイダンス
(2)日本経済の長期的概観
(3)「近世経済」の成立と展開
(4)幕末開港と明治維新
(5)殖産興業政策の展開
(6)近代経済成長
(7)日本の産業革命Ⅰ
(8)日本の産業革命Ⅱ
(9)日清・日露戦後経営
(10)第一次世界大戦と日本経済
(11)1920年代の日本経済
(12)金解禁問題と昭和恐慌
(13)1930年代の日本経済
(14)戦時経済
(15)まとめ・戦後の展望

【授業及び学習の方法】

各回の授業計画は次のとおりであるが、受講者の理解度や進捗状況によっては変更する場合がある。また、受講者には各回につき自己学習（予習・復習）を行うことが求められる。とりわけ、授業後には復習をし、興味を持った箇所については授業中に紹介する文献を読むなどして理解を深めてもらいたい。

※この授業は原則対面形式で行う。

教科書・参考書等

特に指定しない。

オフィスアワー　　金曜2限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1.「経済史入門」を履修していることが望ましいが必須ではない。
2. 夜間の「日本社会経済史」との重複履修は認めない。
3. 他の科目で学ぶ経済学に関する知識とも関連させながら、積極的に授業内容の理解に努めてほしい。

| ナンバリングコード　B3BSN-bcdE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：323100)<br>グローバル経営論<br>Global Management<br>Global Management | 科目区分 | 時間割<br>後期金4 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>向　渝 | 関連授業科目 | 経営戦略論、経営組織論、マーケティング論、人的資源管理論 | |
| | 履修推奨科目 | 経営戦略論、経営組織論、マーケティング論、人的資源管理論 | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習15時間＋事後学習15時間）

授業の概要

国籍や業種を問わず､企業が国境を越えてまたは国境を跨いで生産･販売などの活動を行うのはもはや一般的である。このような国際化している企業（多国籍企業）の諸活動を研究対象とした学問は国際経営論である。本講義では、多国籍企業の諸活動について、理論と実態の両方から体系的に説明し、国際経営論の基礎を学んでもらう。

授業の目的

本講義の目的は、経営戦略論と経営組織論をベースとして、グローバル化する経営の諸問題を理解するための考え方を学ぶことである。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ①国際経営とは何かを理解すること（学士課程のDP「知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。<br>②国際経営に関する理論体系を理解すること（学士課程のDP「知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）<br>③ベーシックな戦略論や組織論の理論を用いて、国際経営に関する諸問題を分析し、その分析結果をアウトプットとして発表できること（学士課程のDP「問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。<br>④将来、国際ビジネスで活躍する時に必要な基礎知識と発想力を身に付けること（学士課程のDP「倫理観・社会的責任／市民としての責任感と倫理観」に対応)。 | |

成績評価の方法と基準

小テスト（40%）および期末試験（60%）により評価する。なお、記述・論述問題の場合、内容はもちろんのこと、誤字・脱字がなく、読みやすい文章を高く評価する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

授業は基本的にパワーポイントを使った講義形式で進める。また、ビデオなどの視聴覚教材も適宜使用する。
受講生は日頃から『日本経済新聞』や『日経ビジネス』『週刊ダイヤモンド』などのビジネス雑誌に目を通し、企業の経営動向について観察する習慣を付けてください。

第1回：　イントロダクション－国際経営の基礎知識
第2回：　多国籍企業の歴史
第3回：　海外直接投資論
第4回：　プロダクト・サイクル仮説と優位性の移転
第5回：　多国籍企業の組織デザイン
第6回：　トランスナショナル型組織
第7回：　国際的な活動の配置と調整
第8回：　海外子会社論
第9回：　グローバル・イノベーション論
第10回：　国際パートナシップ
第11回：　国際マーケティング
第12回：　国際生産
第13回：　国際研究開発
第14回：　国際的なサプライチェーン・マネジメント：調達と製販統合
第15回：　国際人的資源管理

＊この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を一部または全て遠隔へ変更する可能性があります。

＊進捗状況などに応じて、授業計画を変更する場合があります。

【自学自習に関するアドバイス】
講義前・講義後には、テキストの関連内容について各1時間程度予習・復習をしてください。

教科書・参考書等
教科書：
・大木清弘（2018)『コア・テキスト　国際経営』新世社。2,750円（教科書は、受講生が各自で入手すること。）

参考書：
・中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015)『はじめての国際経営』有斐閣。1,980円
・浅川和宏（2003)『グローバル経営入門』日本経済新聞社。3,080円
・江夏健一・桑名義晴編（2018)『理論とケースで学ぶ国際ビジネス（第4版)』同文館出版。3,300円
・吉原英樹（2021)『国際経営（第5版）』有斐閣。2,200円
・吉原英樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏編（2013)『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣。3,080円

オフィスアワー　　木曜日3時限目、事前にe-mail等でアポイントメントを取ること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
授業中の私語と携帯電話の使用を慎むこと。

| ナンバリングコード　B3SCL-abdE-3N-Ex2<br>授業科目名　　(時間割コード：332451)<br>外国語演習Ⅰ（英語）<br>Foreign Languages Ⅰ | 科目区分 | 時間割<br>後期月5 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3SCL | DP・提供部局<br>abdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>3N |
| | 授業形態<br>Ex | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>辻　梨花 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目　　アメリカ社会文化論 | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　事前学習３０時間+事後学習３０時間

授業の概要

英語は様々な場でコミュニケーションツールとして使われています。英語を話す人々と対話するときはもちろん、ソーシャルメディアなどのオンラインの場でも英語を日頃から使っている人は少なくないと思います。本講座では、英語を自分の表現ツールとして学ぶことを目標とし、そのために知っておくべきマナーや現在の英語圏などの社会・文化背景も学びます。例えば、近年多様化する社会で、カルチュラル・センシティビティの大切さは公私関係なく求められています。多様な異文化の人々と「コミュニケーション」をとるということは、お互いを尊重するマナーを知ることも大切です。

授業の目的

本講座では、様々なシーンで英語で考える、理解する、表現する、コミュニケーションをとることを目標にし、また多様な英語圏社会・文化慣習やマナーを身につける。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| (1)英語を用いて様々な形で自己表現することができる<br>(2)現在の英語圏の社会・文化慣習を理解し英語でのコミュニケーションマナーを習得することができる<br>(3)お互いを尊重し他者と英語で対話ができる | |

成績評価の方法と基準

ディスカッション　２０%，課題　５０%，プレゼンテーション　３０%

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

第1回 ガイダンス
第2回 多様な英語・多様な英語話者
第3回 カルチュラル・センシティビティ(1)
第4回 カルチュラル・センシティビティ(2)
第5回 ジェンダー・インクルーシブ・ランゲージ(1)
第6回 ジェンダー・インクルーシブ・ランゲージ(2)
第7回 プロフェッショナル・コミュニケーション(1)
第8回 プロフェッショナル・コミュニケーション(2)
第9回 クリエイティブ・ライティング (1)
第10回クリエイティブ・ライティング (2)
第11回 アカデミック・ライティング(1)
第12回 アカデミック・ライティング(2)
第13回 グループ発表　（１）
第14回 グループ発表　（２）
第15回 まとめ

【授業及び学習の方法】

本授業は基本的に対面で行います。また本授業は英語を使って表現するにあたって大切なマナーや習慣をニュース記事や映像などを使って学習し練習します。学んだことを元に英語でディスカッションをします。グループワークもあります。課題は予習と演習の両方になります。

教科書・参考書等

教科書はありません。適時資料をこちらで用意します。

オフィスアワー　　月曜日３時限目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

このクラスでは英語と日本語の両方で授業を行います。また適時、クラスのトピックに沿った課題を出します。正解を探そうとするのではなく、表現しようと試みることが大切です。

| ナンバリングコード　B3SCL-abxE-3N-Ex2<br>授業科目名　　(時間割コード：332452)<br>外国語演習Ⅰ（中国語）<br>Foreign Languages Ⅰ | 科目区分 | 時間割<br>後期月2 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3SCL | DP・提供部局<br>abxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>3N |
| | 授業形態<br>Ex | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>髙橋　明郎 | 関連授業科目 | 全学共通の中国語Ⅲ | |
| | 履修推奨科目 | アジア社会論、アジア経済論、アジア文化論、中国文化論 | |

学習時間　　授業90分×15回＋自学自習(準備学習４５時間＋事後学習１５時間)

授業の概要

中国語学習１年半以上のレベルを対象に、現代の様々な形式の中国語文を理解する。雑誌の簡単な記事を読むほか、ドラマ、バラエティ、ドキュメタリーなどの中国語文を題材とし、日本語との置き換えを念頭に、よく使用されるフレーズを学習する。

この授業は対面で行う。

授業の目的

既に学習した語法や語彙が、実際の場面でどのように使われているかを確認しながら、中国語の言い回しに慣れる。（DPの「言語運用能力」に対応」）

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| 1.日常使の文章に使われる中国語のうち頻出する表現に慣れる。<br>2.日本語でよく使うフレーズは中国語でどう表現されるかを理解する。<br>3.新聞、雑誌の表現に慣れる。<br>4.中国語の自然なスピードで文を読むことができる。<br>5.頻出する漢字の発音は辞書を頼らずに発音できる。 | |

成績評価の方法と基準

授業の予習状況と授業時間内の各種練習の成果による。最終試験の比率は４０％。平常のエクササイズと課題の得点は６０％で、その得点に出席率をかけて判定する。また5回欠席した学生は受講したものとみなさない。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

第1週　使用教材の配布と以後の準備方法の説明
第2週～第６週　　ドラマの中国語
第７週～第１０週　バラエティ番組の中国語
第１２～１５週　　アニメ。ドキュメンタリー番組などの中国語
また時間に余裕がある場合は随筆・読物による練習を行う。

学習の方法
指示された部分について音読できるようにし、訳文を書いておく。辞書を使う際、できるだけ手書き入力を利用せずに発音から引くよう心がけること

【自学自習のためのアドバイス】
担当回においては字幕を簡体字で筆写し、ピンインを付ける。なぜ字幕のような中国語になるかについて、既習の語法を復習して、説明できるよう準備する。（１５時間）

文章教材について、発音を調べ音読できるようにするとともに、訳文を作成する（３０時間）

指定された部分を字幕の速度で発音できるよう練習する(１５時間)

教科書・参考書等

教科書は不要だが、中日辞典（小学館）レベルの辞書は必要。電子辞書でも可。

オフィスアワー　　月曜　5時間目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

共通教育の中国語４単位以上修得している学生が履修できるが、中国語Ⅲb既修レベルの方が望ましい。(グローバル人材プログラムの学生は上記単位数の限りではない)

字幕の多くは繁体字で付いており、簡体字、繁体字双方に慣れてもらう。
「高学年教養科目」として履修する場合も、2年次以上で上記条件を満たした者に限る。
（中国語検定3級、HSK4級以上を既に取得している1年生は受講を認める場合があるので、直接担当教員に照会すること）

| ナンバリングコード　B3SCL-abxE-30-Ex2<br>授業科目名　　(時間割コード：332453)<br>外国語演習Ⅰ（ドイツ語）<br>Foreign Languages Ⅰ | 科目区分 | 時間割<br>後期未定 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3SCL | DP・提供部局<br>abxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Ex | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>最上　英明 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　授業90分　×　15回　＋　自学自習

授業の概要
ドイツ語の初級文法で１年次に学習した事項を復習し、学習しなかった事項も学びながら、ドイツ語の読解力を養成する。ドイツの文化や社会などを扱ったテキストを読み進めながら、ドイツ語圏の歴史や文化への理解も深める。

授業の目的
ドイツ語の文法の基礎を確実に修得し、初歩的なドイツ語の読解力を身につける。中級ドイツ語への橋渡しを目的とするが、ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）の文化的な背景についても理解を深める。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| 1. 平易なドイツ語の文章が読めるようになる。<br>2. ドイツ語検定試験３級に合格できるドイツ語能力を獲得することができる。<br>3. 異文化理解について開かれた態度をとれるようになる。 | |

成績評価の方法と基準
授業への参加状況が評価の中心になるが(85%)、期末試験の成績(15%)も含めて、総合的に評価する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ
※この講義は基本的に対面で実施します。

テキストを分担して読み進めていく。
(1)　オリエンテーション
(2)～(15)　テキストの読解
(16)　期末試験

【自学自習のためのアドバイス】
語学に王道はありません。単語や文を発音したり紙に書いたりして、地道に語彙をインプットしていってください。

教科書・参考書等
教科書：『メルケル首相のテレビ演説』 荻野（同学社） 1800円
参考書：『必携ドイツ文法総まとめ－改訂版－』中島・平尾・朝倉著（白水社）
　初中級の学習に耐える独和辞典（『アポロン』、『アクセス』など、１年次に使用した辞書で可）

オフィスアワー　　水曜１時限目、またはメール等での相談。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
予習と出席が必須であることは言うまでもない。

| ナンバリングコード　B3SCL-abxE-30-Eg2<br>授業科目名　　(時間割コード：332454)<br>外国語演習Ⅰ（フランス語）<br>Foreign Languages Ⅰ | 科目区分 | 時間割<br>後期水2 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3SCL | DP・提供部局<br>abxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Eg | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>湯浅　翔馬 | 関連授業科目 | 全学共通科目のフランス語I、II、III | |
| | 履修推奨科目 | 全学共通科目のフランス語I、II、III | |

学習時間　　講義９０分　×　１５回　＋　自学自習（準備学習３０時間＋事後学習３０時間）

授業の概要
これまでに習った基礎文法・語彙・表現・発音などを復習しながら、フランス語で書かれた時事的な文章を読みます。
フランス語能力を向上させるだけでなく、フランスの社会や文化に関する知識や理解を深めます。

授業の目的
フランス語を正確に読む能力を身につける（DPの「言語運用能力」に対応）。
実用フランス語技能検定３級合格程度のフランス語能力を定着させる（DPの「言語運用能力」に対応）。
時事的な文章を通じて、フランスの社会や文化を知る（DPの「知識・理解」に対応）。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| 平易なフランス語の文章を読むことができる。<br>身につけたフランス語能力を読む、書く、聞く、話すなどにおいて実践的に使える。<br>学んだフランスの社会や文化について説明できる。 | |

成績評価の方法と基準
平常点（３０％、出席と積極的な参加）、中間テスト（３０％）、期末テスト（４０％）

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業の方法】
教科書に沿って時事的文章を読んでいきます。受講者には担当範囲の文章を音読し、日本語訳を発表してもらいます。
また各課の練習問題を解いてもらいます。
受講者の理解度や希望によっては、教科書以外のフランス語の文章を読んだり、フランス（語圏）の文化に関わる映像資料を見たりする機会を設けます。

＊この科目は全回、対面授業を行います。なお状況に応じて授業形態を変更する可能性があります。

【授業計画】
1回につき１課を終わらせる予定ですが、受講者の理解度によって調整します。
初回授業で第１課を扱うので予習してきてください。

第１回：オリエンテーションと第１課
第２～７回：教科書に沿って時事フランス語を学ぶ
第８回：中間テスト
第９回～第１５回：教科書に沿って時事フランス語を学ぶ
期末テスト

【自学自習の方法】毎回予習・復習が必要です。
＊予習
1. 単語・表現の意味を辞書で調べて、訳文を考える。
2. 文章を見ながらフランス語の音源を聞き、繰り返し発音する。
＊復習
1. 習った語彙、表現や文法、発音を確認する。
2. 日本語訳を見なくても理解できるまで、繰り返し文章を読む。
3. 扱われたテーマに関わるニュース記事等がないかインターネット等で調べ、理解を深める。

教科書・参考書等
【教科書】
石井洋二郎、ミシェル・サガズ『À la page（時事フランス語2022年度版）』、朝日出版社、2022年、2,090円(本体1,900円+税)。
参考書は必要に応じて授業中に紹介します。

オフィスアワー　　まず授業後に相談してください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
予習・復習が毎回必須です。意欲のある学生を歓迎します。教科書と辞書はかならず持参してください。

# コース専門科目

(グローバル社会経済コース　３年次配当)

| ナンバリングコード　B3SCL-cbaE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：332200)<br>異文化間ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論<br>Intercultural Communication | 科目区分 | 時間割<br>後期金2 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3SCL | DP・提供部局<br>cbaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>水野　康一 | 関連授業科目 | グローバル社会概論，文化人類学，<br>グローバル経営論 | |
| | 履修推奨科目 | Communicative English I, II | |

学習時間　　講義90分 × 15回 ＋ 自学自習

授業の概要

急速にグローバル化する社会の中で異文化との接触やコンフリクトは避けられない。外国や異なる地域と人々との交流や情報の交換（受信，発信）には常に文化の違いという問題がつきまとうが，私たちは異文化についての不充分な認識により不要な誤解や失敗を経験することも多い。本講義では，個人間コミュニケーションにおいて，文化の違いが引き起こす諸問題について,その発生メカニズムと対応策を考察する。

授業の目的

個人間コミュニケーションにおいて，文化の違いが引き起こす諸問題について,その発生メカニズムと対応策を考察する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| １）異文化間コミュニケーションにおける誤解や摩擦の原因を理論的に理解できる。<br>２）異文化に対する適切な態度や実践的コミュニケーション能力を身につけている。 | |

成績評価の方法と基準

授業期間中に宿題，レポート課題を出す。また適宜出欠調査も行う。期末試験成績にこれらを加味して，総合的に評価を行う。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

基本的に対面の講義形式（口述＋パワーポイント）で行う。

(1) なぜ今，異文化間コミュニケーションか（ガイダンス）
(2) 文化とは何か：文化の定義
(3,4) コミュニケーションとは何か：コミュニケーションのメカニズム
(5-7) ことばによるコミュニケーション
(8-10) ことばのないメッセージ：非言語コミュニケーション
(11-13) 見えない文化：価値観と文化的特徴
(14) 異なる文化のとらえ方・接し方：異文化の理解
(15) 異文化との出会い：カルチャーショックと異文化適応

教科書・参考書等

【教科書】
講義資料（英文，スライド資料）を適宜配布する
【参考書】
Robert Gibson (2002) Intercultural Business Communication, OUP
Lustig M.W. & Koester J. (2006) Intercultural Competence (5th Ed.), Pearson.
八代京子ほか(2009)『異文化トレーニングーボーダレス社会を生きる（改訂版)』三修社

オフィスアワー

月曜４時限（幸町南２号館３階　水野研究室）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

英文資料を用いる。講義の使用言語は日本語。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：332072)<br>国際社会学<br>Global and Transnational Society | 科目区分 | 時間割<br>前期水2 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>cdeE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>園部　裕子 | 関連授業科目　　ヨーロッパ社会論　その他ヨーロッパ関連の科目 | | |
| | 履修推奨科目　　グローバル社会概論、ヨーロッパ社会論 | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習15時間+事後学習45時間）

授業の概要

現代社会では、グローバル化とともに人の移動が顕著となり、それによる社会変容への対応が求められている。国際移動を理解するには、移動そのものだけではなく、途上国社会の現状、その歴史的背景としての植民地化、労働市場と外国人労働者、家族の受け入れと社会統合、送出・受入社会における女性の地位など、さまざまな観点からの分析が求められる。この講義では、国際社会学の中心的なテーマをとりあげながら、多角的に分析する視点と方法を学ぶ。
＊フランスとその旧植民地・西アフリカの事例を中心とする。

【他の授業科目との関連】
・「ヨーロッパ社会論」：ナショナリズム概念の基礎知識と現代ヨーロッパの社会変動について広い視野で学ぶ。
・本講義：国際社会学のより専門的な知識を身に付けつつ、旧植民地アフリカからフランスへの移住者の位置づけについて考察する。

【旧カリキュラム（地域社会システム学科）専門科目「現代フランス研究」の読み替え】

授業の目的

国際社会学の視点・方法を用いて現代社会の諸課題を分析する。
植民地関係について客観的に考察できる。
国際移動の原因・移住先での課題・受け入れ社会の役割について説明できる。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| グローバル化による人の移動とその諸課題について説明できるようになる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)<br>現代社会について、途上社会を含めた多角的な視点から分析できるようになる。(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」「地域に関する関心と理解力」に対応) | |

成績評価の方法と基準

①毎回の小レポートによる授業の理解度と貢献度（30%）、②中間レポート（30%）、③期末試験（40%）などにより総合的に評価する。

①、②、③のいずれかの要素が不足していたり、そろっていても理解度、習熟度が極端に不十分な場合は、単位は認定されない。講義をもとに、自分で疑問をもち、問いを立ててそれについて調べたり読んだりし、議論を展開する訓練をどれだけ積んだかが評価される。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業および学習の方法】
・講義が中心になる。テーマに関連する映画や映像資料、また現地調査中に収集した写真や映像、資料などを使用することもある。
・毎回、感想や意見、質問などをミニレポートにまとめてもらう。次回の冒頭でいくつかの意見を紹介したり、質問に回答したりすることで、双方向的な議論ができるようにする。

【講義計画（予定、変更の可能性がある）】
1 「国際社会学」とは・基本用語
2　国際移動の理論―1
3　国際移動の理論―2
4　国際移動の理論―3
5 国際移動の理論―4
6 植民地関係と移住―1
7　植民地関係と移住―2
8 戦後の移民労働者動員と家族の受け入れ―1
9 戦後の移民労働者動員と家族の受け入れ―2
10　戦後の移民労働者動員と家族の受け入れ―3
12 国民国家とシティズンシップ―1
13　国民国家とシティズンシップ―2
14　国際移動とジェンダー―1
15　国際移動とジェンダー―2
まとめ

【自学自習の方法】
○新聞を読んだりニュースを見たりする習慣を付け、自分なりの疑問をもち、積極的に調べたり、読んだりしておくこと。
○各回の授業後：講義ノートをふり返り、配布された資料を読んで理解を深める。そこから学んだことをミニレポートにまとめ、自分の意見、質問なども書いて提出する。
○中間レポート：新書程度の本1冊または資料を読んで要約し、自分の意見をまとめる。じっくり読んで考察すること。
○試験に向けて：授業のキーワードについて説明できるように、まとめてみる。

教科書・参考書等
毎回、印刷物と資料を配布する。この講義用のファイルにまとめるなどして、自学自習に使うこと。

参考書：
カースルズ＆ミラー編2011（1993=
2006）『国際移民の時代』名古屋大学出版会
園部裕子、2014『フランスの西アフリカ出身移住女性の日常的実践―社会・文化的仲介による「自立」と「連帯」の位相』、明石書店
その他、講義中に紹介する。

オフィスアワー　　質問は講義後に随時受け付ける。
オフィスアワー：講義中に指示する。予め予約すること。連絡がある場合はMoodleからメッセージを送ること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
・最初の授業で講義の流れを把握すること。
・授業中の小レポートの提出が著しく少ない、中間レポートを提出しなかった場合、それ以降の受講・期末試験の受験資格はないものとする。
・映像資料を見る間に居眠りする者は、欠席扱いとする。
・講義中の出入り、携帯電話などの操作は慎むこと。受講態度が改善されない場合、学期中でも受講を断る場合がある。

| ナンバリングコード　B3SCL-abcE-3N-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：332042)<br>アジア社会論<br>Asian Society | 科目区分 | 時間割<br>前期金2 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3SCL | DP・提供部局<br>abcE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>3N |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>宮島　美花 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)

授業の概要

かつて（主に1930年代に）朝鮮半島から中国の東北地方へ移動した人々は、中国国籍をもつ中国の少数民族として生きてきた。彼らを中国朝鮮族ないし朝鮮族と呼ぶ。彼らの子孫が、1990年代以降、韓国・日本へ大量に再移動するようになっている。このことに注目し、今日の彼らの移動と生活について、（1）彼らの歴史、（2）国際関係論・国際政治学における国際移動を取り扱う理論研究、（3）アンケート調査（量的調査)、（4）質的調査（聞き取り調査）のなどの視点・方法から講義を行う。

授業の目的

第一に、社会科学の方法論をもってアジアに見られる移動現象を観察する視点を養う。
第二に、アジアにおける国際移動と歴史的・今日的諸問題について理解し、関心を持つ。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 1. 社会科学の方法論をもってアジアに見られる移動現象を観察する視点を養う。<br>2. アジアにおける国際移動と歴史的・今日的諸問題について理解し、関心を持つ。 | |

成績評価の方法と基準

授業では出席をとる。学生の理解度を確認するために授業時間中にテスト（含・中間テスト）を行い、定期試験期間中に期末テストを行う。テストは持ち込み不可である。以上を総合し成績評価を決定する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

毎回の授業は、テキスト（教科書）に沿って講義を行う。テキストは研究書であるため、基本的な事柄（地理や史実など）については説明記載がない。講義では、高校までに学んだ知識を確認・補完しながら、講義を理解するために必要な基礎事項について説明を行ったうえで、日本・中国・韓国の公的機関の発表する統計データ、アンケート調査（量的調査)・聞き取り調査（質的調査）の調査結果など、資料を多く掲載したの研究書をテキストとして、中国朝鮮族の国際移動と生活について講義する。また、資料として、東京大学教養学部教授や、立命館大学経済学部教授などの研究者が、テキスト（教科書）に対する書評を発表しているので、それらも使用する。

第1回　オリエンテーション
第2回～第4回　中国朝鮮族の歴史と現状（テキスト第１章）
第5回～第7回　国際関係論・国際政治学における人の移動を説明する諸理論（テキスト第２章）
第8回～第10回　中国朝鮮族に対するアンケート調査（量的調査）(テキスト第３章）
第11回～第15回　中国朝鮮族に対する生活史の聞き取り調査（質的調査）(テキスト第４・５章）

テキストは研究書であるため、中国の政治経済については、人民代表大会、計画経済、改革開放などのワードが、韓国の政治経済については、朴正熙政権、開発独裁、民主化などのワードが、前提として知っていることとして出てくる。講義では、高校時代までに体系的に学ぶことのなかったこれらの事柄については説明を加えながら講義をするが、各人でも授業内容を十分に理解できるように予復習で補うこと。

教科書・参考書等

宮島美花『中国朝鮮族のトランスナショナルな移動と生活』(国際書院、2017年）(3,400円＋税）をテキストとして使用する。使用部分の箇所をMOODLEに掲載するので（パスワードは授業中に案内する)、プリントアウトして利用してもよいし、タブレット端末等で見ながら受講してもよい。先輩等で持っている人がいれば譲ってもらって利用してもよい。

オフィスアワー　　毎授業時間後に質問を受け付ける。オフィスアワーはスケジュールが確定次第伝える。ただし、不定期の会議等で不在にする場合もあるので、事前に申し出て約束すること。MOODLEのメッセージ機能を利用して、随時、教員に相談したり、面談の申し込みを行うことができる。宮島研究室は5月に移転予定のため、面談は研究室以外の場所で行う。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

基本的な事柄（アジアの地理や史実など）についての知識があれば、授業内容を理解する難易度は下がりますが、授業でもきちんと説明し、前提となる事柄は必ず理解するように指導します。前提となる事柄とは、新聞の国際面が理解できるレベルを想定しています。

| ナンバリングコード　B3SCL-bcxE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：332030)<br>ヨーロッパ文化論<br>European Culture | 科目区分 | 時間割<br>前期金4 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3SCL | DP・提供部局<br>bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>湯浅　翔馬 | 関連授業科目　　ヨーロッパ社会論 | | |
| | 履修推奨科目　　外国語演習 | | |

学習時間　　講義９０分　×　１５回　＋　自習時間（準備学習３０時間＋事後学習３０時間）

授業の概要

ヨーロッパとはユーラシア大陸の西端を指す地理的枠組みであると同時に、長い年月をかけて構築されてきた歴史的・文化的枠組みです。本講義でヨーロッパの歴史を文化史・政治史・社会史を織り交ぜながら解説します。特に第６回までは、いわゆる近世までの時期を扱い、ヨーロッパが形成される歴史的過程を外観します。その後は、主に西ヨーロッパ近現代史を取り上げ、フランス革命、民主主義、工業化、二つの世界大戦、ファシズムなどのトピックを解説しつつ、そのなかに存在する論点や現代的な意義を考察します。

授業の目的

ヨーロッパ史に関する基礎的知識を身につける（DPの「知識・理解」に対応)。
ヨーロッパ史をめぐる重要な論点とその流れを理解する（DPの「知識・理解」に対応)。
現代的な問題意識を持ってヨーロッパ史を考察する（DPの「問題解決・課題探究能力」に対応)。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ヨーロッパ史における重要なトピックを説明することができる。<br>ヨーロッパ史における政治・社会・文化のつながりを具体的に述べることができる。<br>現代社会を歴史的視点から分析できる。 | |

成績評価の方法と基準

平常点４０％（毎回提出するリアクションペーパーの内容を評価します）
期末レポート６０％（テーマや分量・体裁は授業中に指示します）

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】（受講者の理解度によって一部変更する可能性があります）
(1)オリエンテーション（授業の進め方、前提知識の確認）
(2)ヨーロッパとはどこか①：古代ギリシア・ローマの世界
(3)ヨーロッパとはどこか②：中世キリスト教世界の成立
(4)ヨーロッパとはどこか③：ルネサンスと宗教改革
(5)ヨーロッパとはどこか④：新大陸の「発見」と近世ヨーロッパ文化
(6)フランス革命①：革命の政治文化
(7)フランス革命②：共和政の理念と現実
(8) フランス革命③「ナポレオン伝説」からみる文化・社会・政治
(9)１９世紀ヨーロッパ①：革命と反動
(10)１９世紀ヨーロッパ②：工業化と都市化
(11)１９世紀ヨーロッパ③：繁栄と退廃
(12)二つの世界大戦とヨーロッパ①：総力戦とヨーロッパ社会
(13)二つの世界大戦とヨーロッパ②：戦間期の社会と文化
(14) 二つの世界大戦とヨーロッパ③：ファシズム・ナチズムの経験
(15)まとめ

【授業の方法】
この授業は講義形式で行います。毎回質問や感想を記したリアクションペーパーを提出してもらいます。興味深い質問や感想に対して、授業の冒頭で取り上げ、解説します。

この科目は全回、対面授業を行います。なお状況に応じて授業形態を変更する可能性があります。

【自学自習の方法】
予定されているトピックについて調べ、概要を掴む。配布資料やノートを読みかえし、学んだ事柄を定着させる。各回で扱われるトピックの間のつながりを考える。毎回案内される参考文献から興味のあるものを読み、その論点をまとめる。授業で紹介された作品等を実際に読む、観る、聞くなどして理解を深める。

教科書・参考書等

指定しません。毎回ハンドアウト等を配布し、参考文献を案内します。

オフィスアワー　　まず授業後に相談してください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業中の私語や情報機器の使用は認めません。リアクションペーパーの内容で平常点を評価するので注意してください。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：332068)<br>アメリカ社会文化論<br>American Society and Culture | 科目区分 | 時間割<br>前期金3 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>cdeE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>辻　梨花 | 関連授業科目 | グローバル社会概論 | |
| | 履修推奨科目 | 異文化間コミュニケーション論 | |

学習時間　　講義９０分×１５回＋自学自習（準備学習３０時間＋事後学習３０時間）

授業の概要

現代アメリカ社会を「共生」という観点から再訪し、様々なアメリカ社会問題や文化現象を考察する。アメリカは多様な人々や文化で構成された多文化共生社会モデルとして世界から注視される。一方で、今日「分断社会アメリカ」と表現されるように、現代のアメリカ社会が経験する「共生」は「差別」や「格差」などの分析なしに理解することは難しい。よって本講座では、人種、ジェンダー、環境のテーマから概念的に分析する。

授業の目的

現代アメリカ社会が経験する様々な社会問題や文化現象を共生という観点から再訪し、人種、ジェンダー、環境の様々なテーマから概念的に考察する思考力を身につける。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 1) 現代アメリカの社会・文化現象に、文化・社会理論的概念を適切に当てはめて考えることができる（共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）<br>2) アメリカ社会や文化を通して倫理的に共生社会のあり方を考察することができる（共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応）<br>3) 現代アメリカ社会の様々な構造的問題を解釈することができる（共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」に対応） | |

成績評価の方法と基準

ディスカッション　１０%，小レポート/テスト　２０%，中間テスト ３０%，期末課題 ４０%

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

[授業計画]

第１回　ガイダンス
第２回　アメリカ政治思想 -共生社会を考える
第３回　セトラー・コロニアリズム (1)
第４回　セトラー・コロニアリズム (2)
第５回　システミック・レイシズム (1)
第６回　システミック・レイシズム (2)
第７回 ジェンダー & セクシュアリティ　（１）
第８回 : ジェンダー & セクシュアリティ　（２）
第９回: インターセクショナリティ
第１０回 : 中間テスト
第１１回　環境保護運動
第１２回　環境的レイシズム
第１３回　「食」からみたアメリカ　ー　Food Incを通して
第１４回　「エネルギー」からみたアメリカ　ー　フラッキンング(Fracking)を通して
第１５回 全体のまとめ　ー共生のための「自由」とは？

授業お及び学習の方法

本講座の授業形態は基本的に対面です。本授業は講義中心ですが、ディスカッションもします。よって、受身的な参加ではなく積極的な参加が求められます。その週ごとにリーディングの課題が出されるので、必ず授業までに読んでくること。リーディング課題に英文の資料も含まれます。また授業では時事ニュースやドキュメンタリーなどの資料も使用します。積極的に日頃からアメリカの時事ニュースに注視してください。

教科書・参考書等

指定の教科書はありません。Moodleを通して次回の授業のためのリーディング課題を配布します。

オフィスアワー　　木曜日３時限目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

リーディングなどの課題は授業をより深く理解するためにとても大切です。必ず読んでから参加するように。

| ナンバリングコード　B3ECN-bcaE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：313191)<br>国際経済学Ａ<br>International Economics Ａ | 科目区分 | 時間割<br>後期金4～5 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3ECN | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>持田　めぐみ，斉藤　宗之 | 関連授業科目 | ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、上級ミクロ経済学、経済数学入門、国際経済学、公共経済学 | |
| | 履修推奨科目 | ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、上級ミクロ経済学、経済数学入門、国際経済学 | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習　(準備学習30時間＋事後学習30時間)

授業の概要

国際経済学は、大きく分けて、モノ・サービスの国境を越えた取引を扱う「国際貿易論」とカネの国境を越えた取引を扱う「国際金融論」に分けられます。本講義では、国際貿易理論の初歩を講義し、初学者でもモノ・サービスの国際取引に関するさまざまな諸問題について、事例を踏まえながら経済学的見地から考察していくことができるように講義を行います。

授業の目的

国際貿易に関わる諸問題について、経済学的に考察していくことを目的としています。そのために、経済学の理論に関わる概念やそれに関連する知識についても学びます。この講義を受講することで、国際経済問題に関する広範な知識を習得すると同時に、抽象と具体を行き来する思考力を獲得することができます。(DPの知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識に対応)

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 1) 国際貿易理論の基礎を習得し、実際の経済現象を説明できる。<br>2) 現実の国際経済問題について、経済学的にどのように解釈できるのかを自発的に考えられ、論理的に自分の意見を述べることができる。 | |

成績評価の方法と基準

宿題10%、小テスト20%，期末テスト70%により評価します。
より詳細には、初回授業において指示します。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

授業は、スライドと板書による講義形式で行います。なお、授業についての学生の理解、授業の進捗状況によっては、計画が変更される場合があります。また、授業中に適宜問題演習・小テストを行います。

次回の講義該当部分を予習するようにしてください。講義内容でわからない点や、復習しているときに疑問点が生じた場合は、質問してわからないことをなくすようにすることや、宿題を解いて講義内容の理解を深めるように努めてください。

第１回：イントロダクション
第２回：ミクロ経済学の復習
第３回：自由貿易について
第４回：貿易制限の経済効果(1)－小国のケース
第５回：貿易制限の経済効果(2)－大国のケース
第６回：戦略的貿易政策
第７回：ダンピングとセーフガード
第８回：貿易政策の政治経済学
第９回： 地域貿易協定(1)－世界貿易体制における地域貿易協定
第１０回： 地域貿易協定(2)－地域貿易協定の経済効果
第１１回： 貿易と環境(1)－貿易による環境への効果
第１２回： 貿易と環境(2)－貿易政策と環境政策の効果
第１３回： リカード・モデルと自由貿易の利益
第１４回： 生産要素供給と貿易パターン
第１５回：まとめ

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等
『国際経済学をつかむ　第２版』、石川城太他、有斐閣、2013年、2200円＋税、を教科書として使用します。また、講義資料を配布します。また、講義の参考となる文献としては、以下の文献になります。
『自由貿易はなぜ必要なのか』、椋寛著、有斐閣、2020年、2300円＋税
『国際貿易-グローバル化と政策の経済分析-』、ジョン・マクラレン著、柳瀬明彦訳、文眞堂、2020年、3000円+税
『国際経済学』、秋葉弘哉編、ミネルヴァ書房、2010年、3800円＋税
『国際経済学』、阿部顕三・遠藤正寛、有斐閣、2012年、2400円＋税
『国際経済学　国際貿易編』、中西訓嗣、ミネルヴァ書房、2013年、3500円＋税

オフィスアワー　　講義終了後

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
履修上の注意事項は初回授業で説明します。

| ナンバリングコード　B3ECN-bcxE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：313192)<br>国際経済学Ｂ<br>International Economics Ｂ | 科目区分 | 時間割<br>後期月1 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3ECN | DP・提供部局<br>bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>山ノ内　健太 | 関連授業科目<br>A | マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、統計学入門、国際経済学 | |
| | 履修推奨科目<br>A | マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、統計学入門、国際経済学 | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

世界全体でも日本でもグローバル化は急速に進んでおり、外国を身近に感じる機会は少なくない。それでは、このグローバル化の進展は、我々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。本講義では国際経済学を学び、グローバル化が経済に及ぼす影響を体系的に理解することを目指す。国際経済学は国境を越えた取引を分析する学問であり、財・サービスの取引を扱う「貿易論」とカネの取引を扱う「国際金融論」に分けられる。この「国際経済学B」では「国際金融論」を中心に扱い、理論と実証の両面から国際金融と我々の生活の関係について考えていく。

授業の目的

本講義では標準的な国際金融論を体系的に習得することを目指す。具体的には、国際金融の実態と関係する制度・政策の把握（DPの「知識・理解」に対応）、国際金融の基礎的な理論の理解（DPの「知識・理解」に対応）、関連するデータ処理能力の獲得（DPの「問題解決・課題探求能力」に対応）の3点を重視し、最終的には理論とデータからグローバル化に関して自身の見解を養うことを目標とする。国際金融論はマクロ経済学の応用であり、基礎的なマクロ経済学の理解は前提とされるが、逆に国際金融論を学ぶことでマクロ経済学の知識が肉付けされる場合もある。同様に為替レートや国際収支統計などの処理を通して統計学の知識も深めてほしい。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| ・世界経済や日本経済において国際金融が果たす役割を知り、関連する制度や政策を把握する。<br>・国際金融の基礎的な理論を理解し、グローバル化が経済に与える影響を理論的に考察できるようになる。<br>・国際金融に関するデータを自身の手で適切に処理できるようになり、分析を通してグローバル化に関して自身の考えを持つ。 | |

成績評価の方法と基準

成績は小テスト（50%）とレポート（50%）で評価する。場合によっては授業態度を加味する可能性もある。小テストは講義内容の定着を確認するために毎回行い、選択問題と計算問題を中心とする。レポートではデータ分析を通して結論を自らの手で導くことを要求する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業の方法】

授業は配布スライドを用いた講義形式とする。補足説明の際には板書をする場合もある。また、2回程度のデータ処理演習を予定しており、パソコン室を利用して関連するデータの扱い方を説明する。なお、この科目は全回対面授業を予定している。ただし、状況によっては一部を遠隔授業に変更する可能性もある。

【授業計画】

第1回：イントロダクション
第2回：国民所得計算と国際収支
第3回：為替レートと外国為替市場
第4回：貨幣・金利・為替レート
第5回：物価水準と長期的な為替レート
第6回：短期的な産出と為替レート
第7回：為替レートに関する理論の復習と補足
第8回：固定為替レートと外国為替介入
第9回：国際通貨システム
第10回：国際金融に関わるデータの入手方法
第11回：金融のグローバル化
第12回：最適通貨圏
第13回：発展途上国
第14回：国際金融に関わるデータの分析方法
第15回：まとめ

【自学自習に関するアドバイス】
小テストの問題は事前に公開するので、予習の目安として解答を考えてから講義に臨んでほしい。また、講義でデータを扱った場合は、データの入手や加工を自身の手で行って復習することを推奨する。

教科書・参考書等
【教科書】
講義は原則としてMoodleで配布するスライドに基づいて行う。ただし、内容と構成は以下の教科書に従う。小テストの問題もこの教科書の内容をベースとするため、必須ではないが購入を推奨する。

P.R.クルーグマン・M.オブストフェルド・M.J.メリッツ著、山形浩生・守岡桜訳『クルーグマン国際経済学 理論と政策〔原書第10版〕下：金融編』、丸善出版、2017年、5,000円＋税。

【参考書】
飯島寛之、五百旗頭真吾、佐藤秀樹、菅原歩著『身近に感じる国際金融』、有斐閣ストゥディア、2017年、1,800円＋税。

オフィスアワー　　質問等は金曜5校時に南キャンパス3号館3階の山ノ内研究室で受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
国際金融論はマクロ経済学の重要な応用であり、本講義は広い視野と長期的な視点で経済全体を俯瞰する良い機会になると思われる。また、国際金融データの処理を通して得られた分析能力は、卒業論文の執筆や就職後の実務でも大いに役立つと期待される。意欲のある学生に履修してほしい。

| ナンバリングコード　B3SCL-abdE-3N-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：332462)<br>外国語演習Ⅱ（英語）<br>Foreign Languages Ⅱ<br>英語で紹介する日本文化 | 科目区分 | 時間割<br>前期木2 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3SCL | DP・提供部局<br>abdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>3N |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>水野　康一 | 関連授業科目 | 外国語演習Ⅰ，Ⅱ（英語） | |
| | 履修推奨科目 | 異文化間コミュニケーション論 | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習

授業の概要

NHKの日本紹介番組（Begin Japanology, Trad Japan），英文の観光ガイドブック（Lonely Planet, Michelin Guide），香川県観光広報DVD『瀬戸の美』などを教材として用い，外国人観光者に英語で観光スポットの見所や日本文化について案内をするための表現を学習する。

授業の目的

ボランティア通訳ガイドや国際交流活動がスムーズに行え，通訳案内士試験１次（英語）を受験できる程度の英語力の養成を目標とする。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| １．日本の歴史，文化についての深い知識を持ち，外国人に平易な英語でわかりやすく説明できる。<br>２．英語話者とのスムーズなコミュニケーションに必要な４技能（読み，書き，話し，聞き）身につけている。 | |

成績評価の方法と基準

授業への出席，ディクテーション課題，ライティング課題の提出（以上40%），期末試験（60%）により総合的に評価する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

テキストの講読(Reading)，ディクテーション活動(Listening)，ロールプレイ(Speaking)，観光地の紹介(Writing，レポート課題)。

(1)　ガイダンス
(2)　Katsura Rikyu
(3)　Green Tea
(4)　Potted Trees
(5)　Fish Country
(6)　中間テスト１
(7)　Lacquer Ware
(8)　Castles
(9)　Tatami
(10)　Yoshoku
(11)　中間テスト２
(12)　Tea Ceremony
(13)　Kaiseki
(14)　Soba Noodles
(15)　Shrines

上記テーマは変更される場合があります。

教科書・参考書等

授業内およびMoodleにおいて教材プリントを配布

The Green Guide to Japan, Michelin, 2009
Lonely Planet Japan, Lonely Planet, 2009
講談社インターナショナル「英語で話す」シリーズ
DVD『瀬戸の美』(岡山県・香川県観光協会)

オフィスアワー

月曜４時限（幸町南２号館３階　水野研究室）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ガイダンス時に，授業の進め方の説明と次回の教材（宿題）を渡しますので，必ず出席してください。

| ナンバリングコード　B3SCL-abxE-30-Ex2<br>授業科目名　　(時間割コード：332463)<br>外国語演習Ⅱ（ドイツ語）<br>Foreign Languages Ⅱ | 科目区分 | 時間割<br>前期月2 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3SCL | DP・提供部局<br>abxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Ex | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>最上　英明 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　授業90分　×　15回　＋　自学自習

授業の概要
ドイツ語の初級文法で１年次に学習した事項を復習し、学習しなかった事項も学びながら、ドイツ語の読解力を養成する。ドイツの文化や社会などを扱ったテキストを読み進めながら、ドイツ語圏の歴史や文化への理解も深める。

授業の目的
ドイツ語の文法の基礎を確実に修得し、初歩的なドイツ語の読解力を身につける。中級ドイツ語への橋渡しを目的とするが、ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）の文化的な背景についても理解を深める。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| 1. 平易なドイツ語の文章が読めるようになる。<br>2. ドイツ語検定試験３級に合格できるドイツ語能力を獲得することができる。<br>3. 異文化理解について開かれた態度をとれるようになる。 | |

成績評価の方法と基準
授業への参加状況が評価の中心になるが(85%)、期末試験の成績(15%)も含めて、総合的に評価する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ
※この講義は基本的に対面で実施します。

テキストを分担して読み進めていく。
(1)　オリエンテーション
(2)～(15)　テキストの読解
(16)　期末試験

【自学自習のためのアドバイス】
語学に王道はありません。単語や文を発音したり紙に書いたりして、地道に語彙をインプットしていってください。

教科書・参考書等
教科書：『歌と詩で考えるドイツ語』 奥田/細見（郁文堂） 2600円
参考書：『必携ドイツ文法総まとめ－改訂版－』中島・平尾・朝倉著（白水社）
初中級の学習に耐える独和辞典（『アポロン』、『アクセス』など、１年次に使用した辞書で可）

オフィスアワー　　水曜１時限目、またはメール等での相談。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
予習と出席が必須であることは言うまでもない。

# 自由科目(２年次配当)

| ナンバリングコード　B30TH-dbeE-20-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：302610)<br>現代経済社会事情<br>Issues about Modern Economics and Society | 科目区分 | 時間割<br>後期火4 | 対象年次及び学科<br>2～2経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B30TH | DP・提供部局<br>dbeE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>20 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>実施委員会 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（自主学習 60時間）

授業の概要

現代社会の第一線で活躍されている経済人を講師に迎え、社会が直面している様々な課題について講義していただく。さらに、大学での勉強が社会とどのようにつながっており、大学で何を学んでおくべきか、人生で重要なこと、就職事情等にも触れていただく予定である。

授業の目的

社会・経済の最前線で生起している課題について広く知り、受講生の経済・経営・社会に対する関心を高める。また社会の第一線の話を聞くなかで、大学卒業後の進路やキャリア等に対する指針を得る（学士課程のDP「倫理観・社会的責任」「知識・理解」に対応）。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| ・社会・経済全般への深い考察ができ、問題意識を持つことができるようになる。<br>・自身の進路やキャリアについての確認・見直しができるようになる。 | |

成績評価の方法と基準

出席（受講態度を含む）、及び毎回の講義レポートによって単位認定を行う。
単位認定には、少なくとも10回以上のレポート提出を要求する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

今年度の講師及び講義題目についての詳しい内容は、7月下旬までに掲示する予定である。

昨年度の講師、及び講義題目は、下記HPを参照のこと。（講義風景の写真も掲載）
https://www.ec.kagawa-u.ac.jp/~gendai/

教科書・参考書等

必要に応じて、資料を配布する。

オフィスアワー　　未定

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

今年度の講師・講義題目、受講要領、および、受講調整の方法については、別途、掲示を行うので必ず確認すること。
外部から講師を招いての講義になるので、講師に対して失礼のないような受講態度が求められる。学生の受講態度がそのまま香川大学経済学部の評価につながることを決して忘れないこと。注意を守る自信のない学生はこの科目を履修しないこと。
また、講義題目は変更されることがあるので、授業やレポート提出前にHPで確認すること。

| ナンバリングコード　B3SCL-abxE-30-Ex2<br>授業科目名　　(時間割コード：332497)<br>（特）ドイツ語会話Ⅰ<br>Special Lecture | 科目区分 | 時間割<br>後期月1 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3SCL | DP・提供部局<br>abxE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Ex | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>ノイマン　フロリアン | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　授業90分　×　15回　＋　自学自習

授業の概要
この授業は日常生活に必要な基礎的ドイツ語会話ができるようになることを目的にする。文法を中心に速く進むことより、学んだ文法を自然に使えるようになることを優先する。言語だけではなく、ドイツ事情（政治･文化･歴史）についても話し合う。
この授業は初級のクラスではないので､全学共通科目のドイツ語IIIまたはドイツ会話IIIを受講していることが必要です。

授業の目的
日常生活に必要な基礎的なドイツ語会話ができるようになる。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| ドイツ語会話の能力を身につけることができる。<br>ドイツ語の文章が読めるようになる。 | |

成績評価の方法と基準
評価は試験だけでは行わない。授業中に積極的に発表するなどの授業参加態度を重視する。50%は授業中の積極性、残りは口頭及び筆記試験により評価される。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

第１回　オリエンテーション

第２回～第15回　会話練習･短いテキストの読解･発表

第16回　期末試験

教科書・参考書等
基本的に印刷資料を用意する。

オフィスアワー　　初回の授業で説明する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
主に会話の授業なので、積極的な参加態度が求められる。

| ナンバリングコード　B3BSN-cbdE-30-Eg2<br>授業科目名　　(時間割コード：306041)<br>（特）労働模擬演習<br>Special Lecture | 科目区分 | 時間割<br>前期集中 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3BSN | DP・提供部局<br>cbdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Eg | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>青木　宏之 | 関連授業科目 | 社会政策A、人的資源管理論A、経済政策Ⅰ | |
| | 履修推奨科目 | 社会政策A、人的資源管理論A、経済政策Ⅰ | |

学習時間　　演習90分×12回＋自学自習（準備学習20時間、事後学習10時間）

授業の概要

香川労働局および連合香川との緊密な連携のもとに行われるインターンシップ形式の授業である。働くことに係わる労働行政および 労働組合という異なる立場からの見方・考え方・行動様式について学生が自らの能動的な体験を通じて広く深い理解を修得し、かつ 労働の現場で発生する諸問題について実践的な行動能力（コンピテンシー）を獲得することを目指している。

授業の目的

労働行政の組織、業務、関係法規、あるいは労働組合の役割や労使関係などについての理解を深め、現実の労働問題の解決力を身に付けること。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| 労働行政の組織、業務、関係法規について説明できる。<br>労働組合の役割と労使協議・交渉の具体的な進め方について説明できる。 | |

成績評価の方法と基準

所定の課程を修了した場合、その参加状況、振り返りの対話で確認された知識習得状況を総合的に判断して、単位を認定する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

授業日程は５～６月に発表する。

8月　13：00～14：30（香川大学香川大学南7号館７３３演習室）
打ち合わせ、概要説明

9月　13：00～16：10（香川大学香川大学南7号館７３３演習室）
日本の雇用政策

9月　8：30 ～ 12：00（香川労働局)、
労働局の組織と活動

9月　13：00 ～ 14：30（香川大学香川大学南7号館７３３演習室）
非正規雇用・女性雇用について

9月　8：30 ～ 12：00（香川労働局）
労働基準監督についての模擬演習

9月　9：30 ～ 12：00（しごとプラザ高松）
職業紹介についての模擬演習

9月　8：30 ～ 12：00（香川労働局）
労働相談についての模擬演習

9月　13：00 ～ 16：10（香川大学香川大学南7号館７３３演習室）
日本の労使関係、インタビュー調査票作成

10月　13：00～16：30（連合香川）
現代の労働問題、労働組合活動について

【自学学習のためのアドバイス】
・　　第１回　授業中に指定する文献を用いて、研修までに日本の労働問題と労使関係についての文献を読む。（10時間）
・　　第1～5回　授業中に指定する文献を用いて、次回の研修のための基礎知識を身に付ける。（10時間）
・　　第2～9回　研修で学んだことを整理し、労働問題の解決方法について考察する。（10時間）

教科書・参考書等
演習内で必要に応じて指示する。

オフィスアワー　　月曜日第３校時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
・2021年度の前期末に卒業する学生は、この演習を卒業要件上の単位とすることはできない。
・定員を8名とする。
・参加者の選抜に関しては、志望理由書を用いる。
・公務員を目指ざしている学生、労働問題に関心を持つ学生の参加を期待している。
・全ての日程に参加出来なければ応募できない。

| | | | |
|---|---|---|---|
| ナンバリングコード　B3ECN-cbdE-30-Ef1<br>授業科目名　　(時間割コード：306042)<br>（特）税務模擬演習<br>Special Lecture<br>（特）税務模擬演習 | 科目区分 | 時間割<br>後期集中 | 対象年次及び学科<br>2～3経済学部 |
| | 水準・分野<br>B3ECN | DP・提供部局<br>cbdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Ef | 単位数<br>1 | |
| 担当教員名<br>岡田　徹太郎，松岡　久美，青木　丈 | 関連授業科目 | 財政学Ａ，財政学Ｂ，経済政策（経済学部）<br>市民と税制，租税法（法学部） | |
| | 履修推奨科目 | 財政学Ａ，財政学Ｂ，経済政策（経済学部）<br>市民と税制，租税法（法学部） | |

学習時間　　講義約1000分＋各回４時間の準備学習及び４時間の事後学習

授業の概要

高松国税局との緊密な連携のもとに行われるインターンシップ形式の授業である。
税制に係わる見方・考え方、税務行政の行動様式について、学生が自らの能動的な模擬体験を通じて広く深い理解を目指す。そして、税務の現場で発生する諸問題について、実践的な行動能力（コンピテンシー）を修得する。

授業の目的

税制そのものや、税務行政の組織、業務、あるいは関係法規の役割などについての理解を深め、現実の税務行政の諸課題を実践的に理解し修得する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| １．税制について説明できる（DP「b.知識・理解」および「d.倫理観・社会的責任」に対応）。<br>２．税務行政について説明できる（DP「b.知識・理解」に対応）。<br>３．税制・税務行政の諸課題について説明できる（DP「c.問題解決・課題探求能力」に対応）。 | |

成績評価の方法と基準

所定の課程を修了した場合、その参加態度および参加内容から総合的に判断して、単位を認定する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

第１日　オリエンテーション・業務紹介，税務模擬演習①
1　オリエンテーション
2　国税専門官の業務紹介
3　酒税事務の概要
4　お酒の分析について

第２日　消費税の概要，法人課税事務
1　消費税の概要
2　法人課税事務の概要
3　調査事務の概要
4　国税専門官の業務紹介

※　第2日に、第3日の模擬演習のための課題が提示される。第2日と第3日の間を自学自習時間として確保すること。

第３日　税務模擬演習②
1　模擬「税務調査」
2　徴収事務の概要

第４日　税務模擬演習③
1　模擬「滞納処分」１
2　模擬「滞納処分」２
3　総評　４日間の総評

※この講義は対面での実施を基本とします。
※実習内容の一部を変更する場合があります。周知会の際にお知らせします。

教科書・参考書等　演習内で必要に応じて指示する。

オフィスアワー　　火曜午後２時から４時、南７号館３階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・履修申請は、2023年1月11日～1月24日にドリームキャンパス上で行うこと。
・期末に卒業する学生は、この演習を卒業要件上の単位とすることはできない。
・定員を12名程度とする。(応募者が上回る場合は選抜となる。)
・参加者の選抜に関しては、志望動機、これまでの学習内容などから総合的に判断する。
・公務員を目指している学生、税制・税務に関心を持つ学生の参加を期待している。
・全ての日程に参加出来なければ応募できない。
・周知会を、2月1日（水）13：00～14：00に予定している。この時間に合わせられない場合は、必ず、担当教員から個別に事前の注意点の説明を受けること。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：323703)<br>（特）金融模擬演習<br>Special Lecture | 科目区分 | 時間割<br>前期集中 | 対象年次及び学科<br>2～3経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>cbdE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Ef | 単位数<br>1 | |
| 担当教員名<br>海野　晋悟 | 関連授業科目 | ミクロ経済学、マクロ経済学、金融論I、II、などの経済学科目<br>マーケティング論、流通システム論、経営戦略論、流通マーケティング論などの経営学科目 | |
| | 履修推奨科目 | ミクロ経済学、マクロ経済学、金融論I、II、などの経済学科目<br>マーケティング論、流通システム論、経営戦略論、流通マーケティング論などの経営学科目 | |

学習時間　　演習90分×6回＋自学自習（準備学習20時間、事後学習10時間）

授業の概要

中国銀行（岡山県）との緊密な連携のもとに行われるインターンシップ形式の授業である。人々の経済活動と深く関わる金融業務および新しい業務という異なる場面から、金融機関の見方・考え方・行動様式について学生が自らの能動的な体験を通じて広く深い理解を修得し、かつ 金融機関の現場で発生する諸課題について実践的な行動能力（コンピテンシー）を獲得することを目指している。

授業の目的

金融そのものや、金融機関の基本的業務、あるいは今般注力される業務などについての理解を深め、現実の地域社会・経済の諸課題を解決するために必要な金融機関の業務の広範さを理解し、技術の基本を修得する。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| １．金融機関の仕事全般について説明できる。<br>２．ソリューション提案時に必要な所作について説明できる。<br>３．地域社会・地域経済の諸課題について説明できる。 | |

成績評価の方法と基準

所定の課程を修了した場合、その参加態度および参加内容から総合的に判断して、単位を認定する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

社会情勢の如何によっては、演習の実施自体や、実施方法を変更する場合があります。演習の情報を常に更新するようにしてください。

第１回：２０２２年８月３１日（水）
14:30～16:00 ＠香川大学
【趣旨説明】
・当行紹介
・業務内容
・事例紹介
・自己紹介（学生）
・今回の目標設定、発表

第２回：２０２２年９月７日（水）
13:00～16:10 ＠中国銀行高松支店
【講義・ワーク①】
・事業性評価
・SWOT分析
【ワーク②】
・事業承継株価算定ワーク
・戦略立案
【課題提示（単独・グループ）】

第３回：２０２２年９月１４日（水）
14:30～16:10 ＠中国銀行高松支店
【ワーク③】
・クロスＳＷＯＴ分析
・戦略立案
【見学＆座談会】
・高松支店内見学
・若手行員座談会
【課題提示（単独・グループ）】

第４回：２０２２年９月２１日（水）
14:30～17:20 ＠中国銀行本店
【ワーク④】
・ロープレ
・フィードバック
【座談会＆見学】
・人事部長質疑応答
・本店見学

【自学学習のためのアドバイス】
・ 第0回　授業中に指定する文献を用いて、演習までに金融・経済、また地域社会の現状に関する文献を読み、確認テストを合格（合格するまで受験可能）する。(10時間)
・ 第1,2,3回　授業中に指定する文献を用いて、次回の研修のための基礎知識を身に付ける。(10時間)
・ 第4,5,6回　研修で学んだことを整理し、地域社会・経済の課題の解決方法について考察する。(10時間)

教科書・参考書等
演習内で必要に応じて指示する。

オフィスアワー　　【https://shingo-umino.youcanbook.me】から予約を取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
・履修申請は、2022年7月13日（水）～7月26日（火）にドリームキャンパス上で行うこと。
・期末に卒業する学生は、この演習を卒業要件上の単位とすることはできない。
・定員を15名程度とする。(応募者が上回る場合は選抜となる。)
・参加者の選抜に関しては、志望動機、これまでの学習内容などから総合的に判断する。
・金融機関を目指している学生、コンサルタント業務に関心を持つ学生の参加を期待している。
・全ての日程に参加出来なければ応募できない。
・周知会を、8月3日（水）12：10～12：50に予定している。この時間に合わせられない場合は、必ず、担当教員から個別に事前の注意点の説明を受けること。

| ナンバリングコード<br>授業科目名　　(時間割コード：323704)<br>（特）日経新聞から学ぶCFO入門<br>Special Lecture | 科目区分 | 時間割<br>後期金3 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野 | DP・提供部局<br>cbeE | 対象学生・特定プログラムとの対応 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>藤原　敦志，溝渕　彰，三好　秀和 | 関連授業科目 | 金融論Ⅰ・Ⅱ、経営財務論（経済学部）、会社法Ⅰ・Ⅱ（法学部） | |
| | 履修推奨科目 | 金融論Ⅰ・Ⅱ、経営財務論（経済学部）、会社法Ⅰ・Ⅱ（法学部） | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

CFO（Chief Financial Officer）とは「最高財務責任者」などと訳され、CEOを財務戦略の面で支える重要人物である。ソニーやホンダなどの企業でも、必ずトップを支える「経営参謀」がいた。この授業はそのような、企業を財務や経営企画などの面から評価・改善することができる人材を養うことを目指す。

近年、金融のグローバル化に伴って、特に上場企業には透明性の高い経営が求められている。それが投資家の評価を通して、資金調達や企業の成長を左右している。また企業組織のあり方や企業文化も変革を迫られている。さらに法制度を正確に理解しておくことが、様々なリスクから企業を守ってくれる。

以上のような問題意識に基づきながら、ストーリー形式の教科書を用いて、実際にある会社で働く幹部候補社員の視点に立って、その主人公が直面する様々な会社の問題を一つ一つ克服していくプロセスを通して、受講生も企業が直面する様々な問題やそれへの対処方法を学んでいく。また日経新聞を活用しながら現実の企業の動きも同時にフォローしていく。

授業の目的

・企業の財務や経営企画を担うために必要な知識を身に付ける。
・企業が金融市場から資金を調達するときの実務上の問題点を知る。
・金融論や会社法で学んだ知識を企業経営にどう役立てるかを実践的に学ぶ。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| ・金融市場で企業が投資家から評価されるポイントを説明できる。<br>・財務諸表からその企業の課題を探し出すことができる。<br>・企業経営において遵守すべき法制度を説明できる。 | |

成績評価の方法と基準

期末レポートのみで評価する。字数は1000字程度（A4・１枚）とする。レポートのテーマは、３人の教員それぞれが1つずつ課すテーマの中から、1つを選択する。各教員は自分の担当の授業の最後の回にテーマを周知する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

授業形態は基本的に対面とする。

毎回のテーマに関連した日本経済新聞の記事を紹介しながら、教科書に沿って説明する。必要に応じてハンドアウト資料を配布したり、板書したりする。

第1回（藤原・三好・溝渕）　ガイダンス
第2回（藤原）　マーケットからどう資金を調達するか
（キーワード：株式、社債、証券会社、格付け、官製相場）
第3回（藤原）　銀行とどう付き合うか
（キーワード：銀行融資、メインバンク、株式の持ち合い、銀行再編）
第4回（藤原）　経営危機をどう乗り越えるか
（キーワード：返済猶予、私的整理、DES、信用不安）
第5回（藤原）　ファンドによる企業再生の仕組み
（キーワード：債務超過、プライベート・エクイティ・ファンド、IRR、エグジット）
第6回（藤原）　まとめ
第7回（三好）　経営改革のためにどう決算書を読むか
（キーワード：BS、PL、キッシュフロー計算書、ステークホルダー）
第8回（三好）　上場企業の内部統制の方法とは
（キーワード：経営会議、資本コスト、設備投資、正味現在価値法）
第9回（三好）　上場企業の株価はマーケットの評価か
（キーワード：EPS、PER、BPS、PBR、ROA、ROE）
第10回（三好）　企業にとってのM&Aの意義
（キーワード：DCF法、シナジー効果、WACC、バリューチェーン、SWOT分析）
第11回（三好）　まとめ

第12回（溝渕）　アクティビストって何？
（キーワード：アクティビスト、株主総会、総会招集請求権、株主提案、委任状争奪戦）
第13回（溝渕）　インサイダー取引にご用心
（キーワード：ステークホルダー、重要事実、公表、情報受領者、刑事罰、課徴金）
第14回（溝渕）　上場とコーポレートガバナンス
（キーワード：上場、東京証券取引所、市場区分見直し、コーポレートガバナンス・コード、独立社外取締役）
第15回（溝渕）　まとめ

【自学自習に関するアドバイス】（各回2時間）
毎回、予習として教科書の該当する章を読んでおく。復習として、教科書や配布した新聞記事・ハンドアウトを読み返しておく。

教科書・参考書等
（教科書）三好秀和・溝渕彰・藤原敦志（著）『タイトル未定』経済法令研究会、2022年9月刊行（予定）。生協にて販売（予定）。（注）出版が間に合わなかった場合は、ハンドアウトで授業を行う。

オフィスアワー　　最初の授業で周知する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
　民間企業を目指している学生はもちろん、公務員を目指している学生も、夕張市の財政破綻のケースに見られるように、これからは民間企業の経営センスが求められます。この授業では、財務と法務の両面から学生が組織の中でリーダーを支える人材になれるようにサポートします。
　また前期に金融実務の専門家を招いて行われる数回のセミナーは、この授業の前段階として開かれるものです。合わせて聞くことで、より理解が深まります。

# 自由科目(３年次配当)

| ナンバリングコード　B3OTH-abdE-3N-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：332510)<br>ビジネス英語Ⅰ<br>English for Business Ⅰ | 科目区分 | 時間割<br>前期火4 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3OTH | DP・提供部局<br>abdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>3N |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>水野　康一, WILLIAMS R T | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　15 classes. 90 minutes/week. Occasional homework, preparation and review time outside of class will be necessary.

授業の概要

The general aim of the class will be to learn English that will be required in a business environment. The approach will be mainly conversational and use an active learning model. Students will be required to do a pair project for each unit that will be graded.

授業の目的

Students will draw on the English that they have already studied, and expand on it to be able to use that English in business. Students will also learn how to write brief reports and develop techniques that they can apply when they need to state their opinions.

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| Students will learn the following outcomes from the course:<br>1. Be able to introduce themselves, their company, and their products in English.<br>2. Be able to state their opinions in a business setting.<br>3. Have a basic understanding of vocabulary and expressions used in a business environment.<br>4. Have a basic understanding of cultural norms as they relate to the language in an English-speaking office environment. | |

成績評価の方法と基準

Since this class will follow an active learning model, 25% of the grade will come from attendance and participation. 25% will be from written assignments. 50% will be from a comprehensive final exam.

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

1. Orientation and Instructor Introduction.
2. Introductions of students
3. Textbook Unit 1.Meeting people
4. Textbook Unit 1.Developing conversations
5. Pair project for unit 1
6. Textbook Unit 2.Office telephone etiquette
7. Textbook Unit 2.taking and leaving messages
8. Pair project for unit 2
9. Textbook Unit 3.Scheduling
10. Textbook Unit 3.Making appointments
11. Pair project for unit 3
12. Textbook Unit 4.Presenting figures
13. Textbook Unit 4.Numbers and graphs
14. Pair project for unit 4
15. Review for final Exam

教科書・参考書等

Business Venture 2 Pre-Intermediate Student Book. Roger Barnard & Jeff Cady. Oxford University Press. ISBN 978-0-19-457818-9

オフィスアワー　　Office hours are available by appointment with the Instructor.

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

Bring to every class: 1. Your textbook; 2. Paper and pencil/pen; 3. An electronic dictionary or a Japanese to English book dictionary.
受講希望者多数（50名以上）の場合，受講調整を行う場合があります。

| ナンバリングコード　B3OTH-abdE-3N-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：332520)<br>ビジネス英語Ⅱ<br>English for Business Ⅱ | 科目区分 | 時間割<br>後期火4 | 対象年次及び学科<br>3～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B3OTH | DP・提供部局<br>abdE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>3N |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>水野　康一, WILLIAMS R T | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　15 classes. 90 minutes/week. Occasional homework, preparation and review time outside of class will be necessary.

授業の概要

The general aim of the class will be to learn English that will be required in a business environment. The approach will be mainly conversational and use an active learning model. Students will be required to do a pair project for each unit that will be graded.

授業の目的

This course assumes that students have taken Business English I. Students will draw on the English that they have already studied, and expand on it to be able to use that English in business. Students will also learn how to write brief reports and develop techniques that they can apply when they need to state their opinions.

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| Students will learn the following outcomes from the course:<br>1. Be able to handle simple to more complex business conversations.<br>2. Be able to state their opinions in a business setting.<br>3. Be able to have confidence and handle themselves properly in English in any given business situation.<br>4. Have a more complete understanding of cultural norms as they relate to the language in an English-speaking office environment, beyond Business English I. | |

成績評価の方法と基準

Since this class will follow an active learning model, 25% of the grade will come from attendance and participation. 25% will be from written and verbal assignments. 50% will be from a comprehensive final exam.

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

1. Orientation and Instructor introduction.
2. Student business introductions
3. Textbook Unit 5.Product features
4. Textbook Unit 5.Talking about a company and its products
5. Pair project for unit 5
6. Textbook Unit 6.Business decisions.
7. Textbook Unit 6.Explaining rationales.
8. Pair project for unit 6
9. Textbook Unit 7.Dealing with complaints
10. Textbook Unit 7.Solutions and problems solving in the office
11. Pair project for unit 7
12. Textbook Unit 8.Business travel arrangements
13. Textbook Unit 8.Business trips
14. Pair project for unit 8
15. Review for final Exam

教科書・参考書等

Business Venture 2 Pre-Intermediate Student Book. Roger Barnard & Jeff Cady. Oxford University Press. ISBN 978-0-19-457818-9

オフィスアワー　　Office hours are available by appointment with the Instructor.

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

Bring to every class: 1. Your textbook; 2. Paper and pencil/pen; 3. An electronic dictionary or a Japanese to English book dictionary.
受講希望者多数（50名以上）の場合，履修制限を行う予定です。

| ナンバリングコード　B30TH-decE-30-Px2<br>授業科目名　　(時間割コード：303630)<br>インターンシップ<br>Internship<br>Internship | 科目区分 | 時間割<br>前期集中 | 対象年次及び学科<br>3～4経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B30TH | DP・提供部局<br>decE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Px | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実施委員会 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　授業12時間＋企業等での研修40時間＋自学自習（準備学習10時間＋事後学習30時間）

授業の概要

・　この授業は、大学の斡旋する「体験型」・「鍛えあげ」、及び学生自身がインターンシップ先を開拓する「独自開拓」の3種のインターンシップ研修によって職業体験を行い、そのための事前指導、研修報告会等を通じて、「働く」とはどのようなことかについて学ぶ授業である。

・　対象は、今年度３年次演習を履修中の者とする。インターンシップ参加にあたっては、志望理由に基づく事前の書類選考を実施する。また、希望者数が受入機関の定員を超える場合には抽選等による選考を実施する。

授業の目的

企業等の現場において仕事の現実を直に体験することによって、「働くということ」についての認識を深め、卒業後の職業選択を適切に行うことができるようにする。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １．地域の企業等の抱える課題について説明することができる。(DPコード　e地域理解に対応)<br>２．職場で求められる知識・能力を具体的に述べることができる。(DPコード　c問題解決・課題探求能力に対応)<br>３．社会におけるマナーを身につけることができる。(DPコード　d倫理観・社会的責任に対応) | |

成績評価の方法と基準

インターンシップ実施委員会が、研修受入機関からの実施状況報告書、説明会や事前指導への参加状況、インターンシップ実施報告書、研修報告会での発表などを総合的に評価し、単位の認定を判断する(認定された場合、成績は「合」と表記する。)。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

授業計画

「体験型」と「鍛えあげ」によるインターンシップを希望する者、及び「独自開拓」のうち単位認定を希望する者は、以下の合同説明会、事前指導１～３、直前指導及び研修報告会の全てに参加しなければならない。加えて、「独自開拓」により単位認定を希望する者は、事前にインターンシップ実施委員会に申し出て承認を受けなければならない。

インターンシップ研修以外は遠隔で実施する。

第１回　〈合同説明会〉授業の目的および概要説明（委員長）
第２回　〈事前指導１〉 インターンシップのための業界研究講座（キャリア支援センター）
第３回　〈事前指導２〉 インターンシップのためのエントリーシート講座（キャリア支援センター）
第４回　〈事前指導３〉インターンシップ・就職活動マナー講座（キャリア支援センター）
第５回　〈直前指導〉 大学におけるインターンシップとは（委員長)、インターンシップ参加にあたっての留意事項（キャリア支援センター）
インターンシップ研修（就業体験、振り返り、日誌作成）
・研修先の研修計画に基づく。
・研修期間は1週間（8時間/日×5日＝40時間）以上を原則とする（原則対面だが、受入先によっては遠隔の可能性もある）
・研修時期　原則として夏季休業中（8月１１日～9月30日）
インターンシップ実施報告書提出
第６回　研修報告会（パワーポイントによる発表とする。）

【自学自習のためのアドバイス】
希望企業等に関わる業界研究　10時間
実施報告書の作成　10時間
報告会の準備　20時間

教科書・参考書等

教科書の指定はない。必要な資料は配布する。キャリア支援室に配架している書籍や新聞は自由に閲覧できるので参考にすること（持出厳禁)。

オフィスアワー　　未定

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
１．研修は、原則として夏季休業期間中に5日間、民間企業、国の出先機関、地方自治体等で無報酬で行われる。
２．参加者は、学生教育研究災害傷害保険及び学生教育研究賠償責任保険に加入しなければならない。
３．研修受入機関や受入人数、実施スケジュール等については、５月に告知する予定である。
４．緊急時には、事務担当者、コーディネーター（鍛えあげのみ)、受入機関の担当者から、参加者の携帯電話や香川大学Mail(@kagawa-u)に対して連絡することがあるので、その際は必ず速やかに応答すること。
５．４月に開催される「インターンシップ入門ガイダンス」（キャリア支援センター主催）への参加を推奨する。

# 教職課程科目
## (教職課程履修予定者に限り履修可)

| ナンバリングコード　B30TH-bacE-50-Le2<br>授業科目名　　(時間割コード：303810)<br>商業教育法<br>Commercial Teaching Methods<br>教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　商業） | 科目区分 | 時間割<br>前期水3 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B30TH | DP・提供部局<br>bacE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>50 |
| | 授業形態<br>Le | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>福村　晃一，穴吹　忠義 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義９０分×１５回＋自学自習（準備学習３０時間＋事後学習３０時間）

授業の概要

商業（ビジネス）教育とは何か、その理念と内容を理解し指導方法について学ぶ。高等学校学習指導要領「商業」の解説を中心に、商業教育の歴史および商業に関する教科・科目の概要とその指導方法を学習し、高等学校における商業教育のこれからの展望を考える。

授業の目的

商業（ビジネス）教育の基本理念を理解し、商業に関する教育内容を体系的に分類・把握しそれぞれの科目の学習分野について基礎的・基本的知識と指導法を身につける。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １）商業（ビジネス）教育の基本理念を理解し、商業に関する教育内容を体系的に分類・把握する。<br>２）それぞれの学習分野について基礎的・基本的知識と指導法を身につける。 | |

成績評価の方法と基準

学習指導要領に示された当該教科の目標や内容および教育課程の理解度によって評価をし、筆記試験（７０％）、発表・レポートの提出（２０％）、教材作成（１０％）の割合で評価する。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

第１回：高等学校教育の現状と商業教育‥専門教科としての商業の意義を考える
第２回：学習指導要領「商業」の内容と変遷‥商業教育の歴史を調べる
第３回：教科・商業科の目標‥専門教科としての特色ある目標を暗唱する
第４回:教科の組織（商業科の科目編成、分野構成）‥分野別に20科目を体系的に考察する
第５回:商業の科目体系、基礎的科目としての「ビジネス基礎」「ﾋﾞｼﾞﾈｽ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ」の指導内容の要点‥指導法を把握する
第６回:総合的科目としての「課題研究」「総合実践」の指導内容の要点‥指導法を把握する
第７回：マーケティング分野３科目の指導内容の要点‥指導法を把握する
第８回：マネジメント分野３科目の指導内容の要点‥指導法を把握する
第９回：会計分野５科目の指導内容の要点‥指導法を把握する
第10回:ビジネス情報分野５科目の指導内容の要点‥指導法を把握する
第11回:教科・商業の全分野についての学習内容の要点と発展的学習について
‥商業教育の本質を考察する
第12回:学習評価と観点別評価基準について‥評価の重要性と評価方法を把握する
第13回:教材作成の基本とプレゼンテーション（ICT機器、教材の活用を含む）
‥自主教材を作成する
第14回:教育課程編成の事例研究 ‥理想のｶﾘｷｭﾗﾑ及び条件付きのｶﾘｷｭﾗﾑを試作する
第15回:これからの商業教育のあり方‥時代に対応した実学としての商業教育を考察する
定期試験（筆記試験）

【授業及び学習の方法】

授業は講義中心に進めますが、各セクションで小レポートを課し、それを発表することで講義で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理をします。
この科目は全回対面授業を行います。

【自学自習のためのアドバイス】

第 2回　過去の学習指導要領の資料を集め、商業教育の歴史を調べて発表できるように準備する。　　(3時間)
第 3回　「商業とは」についての小レポートを作成する。(3時間)
第4、5回　教科・商業科の目標を暗唱できるようにする。(4時間)
第5、6回　商業科の科目20科目を暗唱できるようにする。(4時間)
第 6回　「課題研究」の指導内容の具体例を調べて発表できるように準備する。(4時間)
第12回　第13回の教材作成についての教材研究及び準備をする。(4時間)
第13回　第14回の教育課程の事例研究について、理想の教育課程を編成して発表できるように準備する。(4時間)
第14回　第15回の「これからの商業教育のあり方」について小レポートを作成する。(4時間)

| |
|---|
| 教科書・参考書等<br>教科書：文部科学省『高等学校学習指導要領解説　商業編』（最新版　実教出版）<br>参考書・参考資料等：授業中に適宜紹介します。 |
| オフィスアワー　　水曜日午後２時３０分から午後３時 |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ<br>毎回出席をとります。１５分以上の遅刻は欠席として扱います。 |

| ナンバリングコード　B30TH-cbaE-50-Ee2<br>授業科目名　　(時間割コード：303820)<br>商業授業研究<br>Commercial Lesson Research<br>教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　商業） | 科目区分 | 時間割<br>後期水3 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B30TH | DP・提供部局<br>cbaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>50 |
| | 授業形態<br>Ee | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>福村　晃一，穴吹　忠義 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義９０分×１５回＋自学自習（準備学習３０時間＋事後学習３０時間）

授業の概要

授業での指導方法を習得する。授業の展開を計画し（PLAN)、学習指導案を作成した上で模擬授業を実践し（DO)、最後に評価し（CHECK)、次の授業計画に活かし向上する（ACTION)。

授業の目的

模擬授業を多く体験することで商業の主な科目の指導に必要な知識・技術・評価方法を身につけ、自信を持って授業できるようにする。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １）　　模擬授業を多く体験することで商業の主な科目で指導に必要な知識・技術・評価方法を身につける。<br>２）　　自信を持って授業できるようにする。 | |

成績評価の方法と基準

基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計をし、模擬授業の実施結果により評価し、発表・レポートの提出（２０％)、教材の作成（２０％)、授業実践（６０％）の割合で最終評価をする。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】
第１回：授業研究の目的と意義‥よい授業の条件を考察する
第２回：効果的な教材の作成および教材研究の要点‥プレゼンソフトで教材を作成する
第３回：作成した教材の発表（ICT機器、教材の活用を含む）‥自作教材をプレゼン発表する
第４回：プレゼンテーションの技法と授業（ICT機器、教材の活用を含む）‥教材を改善する
第５回：授業の組み立てと学習指導案の事例研究および学習指導案の作成‥指導案を試作する
第６回：授業研究＝高校現場での授業見学‥実際の授業を見学して指導法を参考にする
第７回：授業研究＝高校現場での授業見学‥実際の授業を見学して指導法を参考にする
第８回：模擬授業・批評による授業研究【経済のしくみ】(板書等利用）‥指導計画を実施する
第９回：模擬授業・批評による授業研究【経済活動と流通】(板書等利用）‥指導計画を実施する
第１０回：模擬授業・批評による授業研究【小売業者】(ICT利用）‥ﾌﾟﾚｾﾞﾝ利用の指導を実施する
第１１回：模擬授業・批評による授業研究【卸売業者】(ICT利用）‥ﾌﾟﾚｾﾞﾝ利用の指導を実施する
第１２回：模擬授業・批評による授業研究【企業と経営組織】(ICT利用）‥ﾌﾟﾚｾﾞﾝ利用の指導を実施する
第１３回：模擬授業・批評による授業研究【売買取引の手順】(ICT利用）‥ﾌﾟﾚｾﾞﾝ利用の指導を実施する
第１４回：模擬授業・批評による授業研究【売買計算】(板書等利用）‥指導計画を実施する
第１５回：授業研究のまとめと教育実習について‥模擬授業実施後の反省をする
定期試験（最終の模擬授業）

【授業及び学習の方法】
授業は実習中心で指定した単元の模擬授業をしてもらいます。そのための教材研究及び指導法の準備、学習指導案の作成等の準備が欠かせません。
この科目は全回対面授業を行います。

【自学自習のためのアドバイス】
第 1回　「よい授業とは」について小レポートを作成する。(3時間)
第 2回　プレゼンソフトで見本の教材を作成する。(5時間)
第 4回　作成教材の修正・改善をする。(5時間)
第 5回　指導案の見本を作成する。(5時間)
第 7回　高校現場での授業見学・観察をしての感想レポートを作成する。(2時間)
第 8回～15回　模擬授業の準備及び反省記録の評価票を作成する。(40時間)

教科書・参考書等

教科書：文部科学省『高等学校学習指導要領解説　商業編』(最新版　実教出版)
参考書・参考資料等：商業科目の文部科学省検定済みの高校の教科書

オフィスアワー　　水曜日午後２時３０分から午後３時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。１５分以上の遅刻は欠席として扱います。

| ナンバリングコード　B1ECN-bcaE-30-Lx2<br>授業科目名　　(時間割コード：310111)<br>経済学入門<br>Introduction to Economics | 科目区分 | 時間割<br>後期火1 | 対象年次及び学科<br>1～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B1ECN | DP・提供部局<br>bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>30 |
| | 授業形態<br>Lx | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>加藤　美穂子 | 関連授業科目 | ミクロ経済学、マクロ経済学 | |
| | 履修推奨科目 | ミクロ経済学、マクロ経済学 | |

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習　(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)

授業の概要

ニュース番組や新聞をみると、経済に関わる話題であふれています。それらは、日本経済全体に関する話もあれば、企業や産業に関する話、政府政策に関する話など様々です。

また私たち自身も、日々の生活の中で様々な経済的な意思決定を数多く行っています。たとえば、財布と相談しながら今日の昼ごはんに何を食べるかを考えたり、自由時間を勉学に励むかアルバイトに費やすかを選択することは、その一例です。

経済社会の事象や課題を理解・検討するには、経済学の知識や考え方、個人と企業の経済的意思決定や政府政策の影響に関する分析方法を理解しておくことが重要となります。

そこでこの授業では、経済学の初学者を対象として、経済学の基礎的な知識と考え方と分析ツールを学習します。

授業の目的

この授業では、経済学の基礎的な概念と用語を理解し、経済学的な思考方法に慣れ親しむことを目指します。そして、経済事象の背後にある基本的な経済メカニズムを理解し、経済学の基礎的な分析手法を習得していきます。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| (1)経済学の基礎的な概念と用語を説明できる。<br>(2)経済学の思考方法に慣れる。<br>(3)基本的な経済事象について、経済学の基礎的な分析手法を用いて説明できる。 | |

成績評価の方法と基準

小課題(40%)＋期末試験またはレポート(60%)によって評価します。
小課題は、Moodleを通じて提出してもらう予定です。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業方法】

・授業は、講義中心に進めますが、受講者数によっては、演習形式やグループワーク等を行います。
・予復習のための小課題を出題する予定です。受講者は、それらに解答し、期限までに提出してください。これらの小課題による予復習を前提として、次の回の授業を行います。
・授業形態は、遠隔方式で行います。

【授業計画】

第1回　ガイダンスとイントロダクション（遠隔）
　・経済学とは、経済学の基本問題
第2回　経済学の主要概念（遠隔）
第3回　市場と競争、市場の効率性と分配（遠隔）
第4回　機会集合とトレードオフ、機会費用（遠隔）
第5回　比較優位、サンクコスト、限界概念（遠隔）
第6回　需要曲線と供給曲線、曲線のシフト（遠隔）
第7回　市場均衡、需要と供給の法則、曲線のシフトと均衡点の変化（遠隔）
第8回　需要・供給分析の応用(1)　需要の価格弾力性、価格弾力性の決定要因（遠隔）
第9回　需要・供給分析の応用(2)　需要の価格弾力性と総収入、供給の価格弾力性（遠隔）
第10回　需要・供給分析の応用(3)　豊作貧乏、価格規制　など（遠隔）
第11回　市場と効率性：消費者余剰、生産者余剰（遠隔）
第12回　市場と効率性：社会的余剰、死荷重（遠隔）
第13回　マクロ経済学の基礎概念(1)：フローとストック、国内総生産(GDP)、三面等価（遠隔）
第14回　マクロ経済学の基礎概念(2)：失業、インフレーション、完全雇用など（遠隔）
第15回　まとめ（遠隔）

【自学自習のためのアドバイス】
・毎回、予習・復習として、配布資料や授業ノートをよく確認し、理解しておく。(30時間)
・第2回　経済学の主要概念について、身近な例を用いながら説明できるようにする。(2時間)
・第3回　基本的競争モデルについて、説明できるようにする。(2時間)
・第4・5回 授業で学んだ各種概念について、例を見つけ出して説明できるようにする。(4時間)
・第6回　需要曲線と供給曲線のシフト要因について整理し、図を用いながら説明できるようにする。(3時間)
・第7回　需要と供給の図を用いながら、様々な経済現象によって生じる市場均衡の変化を説明できるようにする。(3時間)
・第8・9回　価格弾力性の概念と決定要因を整理し、説明できるようにする。(4時間)
・第10回　豊作貧乏のメカニズムや、価格規制の影響を図を用いて説明できるようにする。(4時間)
・第11・12回　需要と供給の図を用いながら、余剰の概念を説明できるようにする。(4時間)
・第13・14回　マクロ経済学に関する基礎的な概念を説明できるようにする。(4時間)

教科書・参考書等
①主要参考文献
ジョセフ・E・スティグリッツ／カール・E・ウォルシュ著、『スティグリッツ　入門経済学(第4版)』、東洋経済新報社、2012年、3,024円

②補足説明のための資料を授業内に適宜配布します。

オフィスアワー　　木曜日　12：00-13：00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
・重要な連絡は、ドリームキャンパスを通じて連絡します。ドリームキャンパスからの連絡をすみやかに確認できるようにしておいてください。
・経済問題、社会問題に関する現実感覚を磨くために、普段から新聞やニュースに関心を持ち、見聞きしておいてください。

| ナンバリングコード　B30TH-cabE-50-Lf2<br>授業科目名　　(時間割コード：303830)<br>職業指導論（商業）<br>Career Guidance (commercial)<br>教科に関する科目（高等学校　商業） | 科目区分 | 時間割<br>前期集中 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B30TH | DP・提供部局<br>cabE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>50 |
| | 授業形態<br>Lf | 単位数<br>2 | |
| 担当教員名<br>松岡　久美，青木　宏之，穴吹　忠義 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義９０分×１２回＋インターンシップ３日間＋自学自習（準備学習３０時間＋事後学習３０時間）

授業の概要

本授業では，高等学校における職業指導を念頭に置いて，生徒の職業選択を指導・支援するために必要な知識を理論と実践の両面で習得することをねらいとする。

授業の目的

教員の免許状取得のための必修科目。生徒に勤労観・職業観を身につけさせ実際の職業選択にあたっての支援ができるようにする。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>(工学部JABEE基準) |
|---|---|
| １）進路・職業指導の場面において，生徒が自己開示できるコミュニケーションの場づくりの重要性を説明できる（学士課程のDP「a.言語運用能力」に対応)。<br>２）キャリアの形成とキャリア生活の概要について説明できる（学士課程のDP「b.知識・理解」に対応)。<br>３）学校現場における職業指導の課題についてインターンシップを体験することで理解し，職業指導の在り方を理論と実践の両面で考察することができる（学士課程のDP「c.問題解決・課題探求能力」に対応)。 | |

成績評価の方法と基準

成績は，中間レポート４０％（到達目標１・２に対応)，研修現場での取組及びグループ討議・発表４０％（到達目標３に対応)，最終レポート２０％とする（到達目標３に対応)。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

第１回：オリエンテーション／アイスブレーキング（担当：松岡久美）
第２回：働き方の変化とさまざまなキャリア（担当：松岡久美）
第３回：キャリア・デザイン（自分に合った職業とは何か）（担当：松岡久美）
第４回：求職・求人と就職活動（担当：松岡久美）
第５回：職業生活の実際①日本的雇用のもとでの働き方（担当：青木宏之）
第６回：職業生活の実際②多様な働き方（担当：青木宏之）
第７回：職業生活の実際③今後の働き方、中間レポートについて（担当：青木宏之）
第８回：高校における進路指導・職業指導の方法の実際について（担当：穴吹忠義）‥高校生のキャリア教育の把握

第９回：商業高等学校における職業体験（１）大型食品スーパーのインターンシップ事前指導（担当：穴吹忠義）‥高校生のインターンシップを実体験する意義を考える
第１０回：商業高等学校における職業体験（２）インターンシップ実習・第１日目：商品管理（担当：穴吹忠義）‥高校生のインターンシップを実体験する
第１１回：商業高等学校における職業体験（３）インターンシップ実習・第２日目：販売・接客（担当：穴吹忠義）‥高校生のインターンシップを実体験する
第１２回：商業高等学校における職業体験（４）インターンシップ実習・第３日目：売場業務全般（担当：穴吹忠義）‥高校生のインターンシップを実体験する
第１３回：商業高等学校における職業体験（５）大型食品スーパーのインターンシップ事後指導（担当：穴吹忠義）‥体験後の反省及び改善への提言
第１４回：産業現場および学校現場における職業指導の課題の探求（１）グループ討議（担当：穴吹忠義）‥ジョブカードを作成し職業指導のあり方を考える
第１５回：産業現場および学校現場における職業指導の課題の探求（２）発表と全体交流，最終レポートの課題と書き方について（担当：穴吹忠義）‥キャリア教育の本質を考察

※この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態の一部または全てを遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第 2回～ 7回　教科書・参考資料を精読する。授業内容などを踏まえて中間レポートの準備を行う（15時間）
第 8回～ 9回　出身高校のインターンシップの実施状況を調べて報告・発表をする。(4時間)
第10回～12回　インターンシップ実習日誌に記録し担当者の点検を受ける。(3時間)
第13回　「インターンシップを終えて学んだこと」についての小レポートを作成する、(4時間)
第15回　「キャリア教育をどう考えるか」についての小レポートを作成する。(4時間)

教科書・参考書等
教科書：
・阿部正浩・松繁寿和（編著）(2014)『キャリアのみかた 改訂版』有斐閣，2059円
・文部科学省：高等学校学習指導要領解説商業編（文科省ホームページ）
・文部科学省：高等学校キャリア教育の手引き
参考書・参考資料等：
・金井壽宏（2002)『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書，858円
・大久保幸夫（2016)『キャリア・デザイン入門[I]基礎力編 第2版』日経文庫、946円

オフィスアワー　　第１回～第７回については，授業終了後に対応する。
第８回～第１５回については，授業終了後１時間をオフィスアワーとする。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
学外での実習を伴うため，事前に学研災・学研賠または同等の保険に加入しておくこと。
毎回出席をとります。１５分以上の遅刻は欠席として扱います。

| ナンバリングコード　B40TH-cdbE-50-Lp1<br>授業科目名　　(時間割コード：303840)<br>（特）倫理と社会Ⅰ<br>Special Lecture<br>倫理と社会（Ethics and Society） | 科目区分 | 時間割<br>前期水2 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B40TH | DP・提供部局<br>cdbE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>50 |
| | 授業形態<br>Lp | 単位数<br>1 | |
| 担当教員名<br>長山　貴之 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分×8回＋自学自習（準備学習15時間＋事後学習15時間）

授業の概要

【キーワード】倫理

この授業では、社会における倫理的な問題について取り上げます。例えば、、安楽死は社会的な幸福を増大させるのでしょうか。また、社会的な幸福を増大させるとしたら、安楽死は良いことなのでしょうか。このような問題に対する現実的な解決策を提示します。但し、解決策がひとつだけとは限りません。そのような場合には、どの解決策を選択すべきかを学生の皆さんに考えてもらいます。

授業の目的

この授業では、動物実験、ギャンブル、ドラッグを例に、功利主義学派の主張とそれに対応する政策について、他学派と比較しながら考えていきます。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| 1. 現代社会の諸課題に関して、功利主義学派の主張とそれに対応する政策を説明できる。（DPの「問題解決・課題探求能力」に対応） | |

成績評価の方法と基準

期末課題によって評価します。評価の観点は、課題探求能力（50%）、倫理観（30%）、専門知識（20%）とします。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

第１回　オリエンテーション
第２回　動物実験に関する功利主義者の主張とそれに対応する政策
第３回　動物実験に関する他学派の主張とそれに対応する政策
第４回　ギャンブルに関する功利主義者の主張とそれに対応する政策
第５回　ギャンブルに関する他学派の主張とそれに対応する政策
第６回　ドラッグに関する功利主義者の主張とそれに対応する政策
第７回　ドラッグに関する他学派の主張とそれに対応する政策
第８回　まとめ（第１Ｑ末試験を含む）

【授業および学習の方法】

授業は原則として対面方式で実施する。必要な資料は配付する。

【準備学習および事後学習のためのアドバイス】

第２～７回　新聞や雑誌の記事を集め、授業内容の理解に役立てる。（１時間×６回）
参考書の該当箇所を読み、授業内容の理解に役立てる。（１時間×６回）
参考書を精読し、さまざまな政策の課題を考察する。(12時間)
さまざまな政策の課題に関するレポートを作成する。（６時間）

教科書・参考書等

【参考書】ジョナサン・ウルフ[著]／大澤律・原田健二朗[訳]『「正しい政策」がないならどうすべきか：政策のための哲学』勁草書房, 2016年.

【参考書】

マイケル・サンデル[著]／鬼澤忍[訳]『これからの「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学』早川書房, 2010年.

オフィスアワー　　月曜日３時限目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

参考書を購入する必要はありません。資料配布はムードルで実施します。

| ナンバリングコード　B40TH-cdbE-50-Lp1<br>授業科目名　　(時間割コード：303841)<br>（特）倫理と社会Ⅱ<br>Special Lecture<br>倫理と社会（Ethics and Society） | 科目区分 | 時間割<br>前期水2 | 対象年次及び学科<br>2～経済学部 |
|---|---|---|---|
| | 水準・分野<br>B40TH | DP・提供部局<br>cdbE | 対象学生・特定プログラムとの対応<br>50 |
| | 授業形態<br>Lp | 単位数<br>1 | |
| 担当教員名<br>長山　貴之 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |

学習時間　　講義90分×8回＋自学自習（準備学習15時間＋事後学習15時間）

授業の概要

【キーワード】倫理

この授業では、社会における倫理的な問題について取り上げます。例えば、安楽死は社会的な幸福を増大させるのでしょうか。また、社会的な幸福を増大させるとしたら、安楽死は良いことなのでしょうか。このような問題に対する現実的な解決策を提示します。但し、解決策がひとつだけとは限りません。そのような場合には、どの解決策を選択すべきかを学生の皆さんに考えてもらいます。

授業の目的

この授業では、健康、障碍、自由市場を例に、功利主義学派の主張とそれに対応する政策について、他学派と比較しながら考えていきます。

| 到達目標 | 学習・教育到達目標<br>（工学部JABEE基準） |
|---|---|
| 1. 現代社会の諸課題に関して、功利主義学派の主張とそれに対応する政策を説明できる（ＤＰの「問題解決・課題探求能力」に対応）。 | |

成績評価の方法と基準

期末課題によって評価します。評価の観点は、課題探求能力（50%）、倫理観（30%）、専門知識（20%）とします。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

第１回　オリエンテーション
第２回　健康に関する功利主義者の主張とそれに対応する政策
第３回　健康に関する他学派の主張とそれに対応する政策
第４回　障碍に関する功利主義者の主張とそれに対応する政策
第５回　障碍に関する他学派の主張とそれに対応する政策
第６回　自由市場に関する功利主義者の主張とそれに対応する政策
第７回　自由市場に関する他学派の主張とそれに対応する政策
第８回　まとめ（第２Ｑ末試験を含む）

【授業および学習の方法】

授業は原則として対面方式で実施する。必要な資料は配付する。

【準備学習および事後学習のためのアドバイス】

第２～７回　新聞や雑誌の記事を集め、授業内容の理解に役立てる。（１時間×６回）
参考書の該当箇所を読み、授業内容の理解に役立てる。（１時間×６回）
参考書を精読し、さまざまな政策の課題を考察する。(12時間)
さまざまな政策の課題に関するレポートを作成する。（６時間）

教科書・参考書等

【参考書】

ジョナサン・ウルフ[著]／大澤律・原田健二朗[訳]『「正しい政策」がないならどうすべきか：政策のための哲学』勁草書房，2016年.（購入不要）

【参考書】

マイケル・サンデル[著]／鬼澤忍[訳]『これからの「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学』早川書房，2010年.

オフィスアワー　　月曜日３時限目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

参考書を購入する必要はありません。資料配布はムードルで実施します。